



Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド 6.0(1)

Text Part Number: OL-12448-01-J

【注意】この文書はお客様の便宜のために作成された参考和訳であり、お客様とシスコシステムズとの間の契約を構成するものではありません。正式な契約条件は、弊社担当者、または弊社販売パートナーにご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP, CCVP, the Cisco Square Bridge logo, Follow Me Browsing, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0612R)

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド 6.0(1)
Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.



CONTENTS

このマニュアルについて	xix
目的	xix
対象読者	xix
マニュアルの構成	xx
関連マニュアル	xxi
表記法	xxii
技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン	xxiii
シスコ製品のセキュリティの概要	xxiii
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xxiii
テクニカル サポート	xxv
Cisco Support Web サイト	xxv
Japan TAC Web サイト	xxvi
サービス リクエストの発行	xxvi
サービス リクエストのシビラティの定義	xxvi
その他の資料および情報の入手方法	xxvii

PART 1

概要

CHAPTER 1

概要

一括管理のインストール	1-2
BAT データ入力ファイル	1-3
BAT 設定プロセス	1-4
BAT テンプレートの使用方法	1-5
マスター電話機テンプレート	1-5
CSV データ ファイルの処理	1-6
新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル	1-6
既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル	1-7
CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ	1-7
BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法	1-9
BAT データ入力ファイルの確認	1-11
BAT データ入力ファイルの挿入	1-12
BAT アプリケーションの使用方法	1-13

Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス	1-13
オンライン ヘルプの使用方法	1-13
Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示	1-13
関連項目	1-14

PART 2

ファイルのアップロードとダウンロード

CHAPTER 2

ファイルのアップロードとダウンロード 2-1

ファイルの検索	2-1
ファイルのダウンロード	2-3
ファイルのアップロード	2-4
ファイルの削除	2-5
関連項目	2-5

PART 3

電話機

CHAPTER 3

電話機テンプレート 3-1

電話機の追加	3-2
BAT 電話機テンプレートの使用方法	3-3
BAT 電話機テンプレートの検索	3-3
新しい BAT 電話機テンプレートの作成	3-4
BAT テンプレートにおける回線の追加または更新	3-5
BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新	3-6
BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新	3-7
BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールドの追加または更新	3-8
BAT 電話機テンプレートの変更	3-9
BAT 電話機テンプレートのコピー	3-9
テンプレートの削除	3-10
BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明	3-11
BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明	3-26
BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成	3-35
BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明	3-38
関連項目	3-51

CHAPTER 4

電話機のファイル形式 4-1

テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成	4-1
電話機のファイル形式の検索	4-2

	電話機のファイル形式の設定	4-3
	ファイル形式の作成	4-3
	ファイル形式のコピー	4-4
	ファイル形式の修正	4-5
	ファイル形式の削除	4-6
	ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け	4-7
	関連項目	4-7
CHAPTER 5	電話機レコードの確認	5-1
	CSV データ ファイルの電話機レコードの確認	5-2
	関連項目	5-2
CHAPTER 6	電話機の挿入	6-1
	電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入	6-2
	関連項目	6-3
CHAPTER 7	電話機の更新	7-1
	クエリーを使用した電話機の更新	7-1
	カスタム ファイルを使用した電話機の更新	7-3
	更新パラメータの選択	7-4
	電話機を更新する場合のフィールドの説明	7-5
	関連項目	7-13
CHAPTER 8	電話機の削除	8-1
	クエリーを使用した電話機の削除	8-1
	カスタム ファイルを使用した電話機の削除	8-3
	関連項目	8-4
CHAPTER 9	電話機のエクスポート	9-1
	電話機エクスポートの使用方法	9-2
	電話機レコードのエクスポート	9-4
	複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート	9-5
	関連項目	9-6
CHAPTER 10	電話回線の追加と更新	10-1
	クエリーを使用した回線の更新	10-2
	回線を更新する場合のフィールドの説明	10-4
	既存の電話機および UDP への回線の追加	10-10
	BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加	10-11

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明
10-12

関連項目 10-14

CHAPTER 11

電話機のリセットまたは再起動 11-1

クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 11-1

カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 11-3

関連項目 11-4

CHAPTER 12

電話機レポートの生成 12-1

電話機のレポートの生成 12-2

電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート 12-3

ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成 12-6

レポート ログ ファイルの表示 12-7

関連項目 12-7

CHAPTER 13

電話機の移行 13-1

電話機の移行 13-1

関連項目 13-3

CHAPTER 14

インターコムの追加と更新 14-1

インターコムの DN の更新 14-1

インターコムの DN の追加 14-3

インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明 14-4

関連項目 14-5

PART 4

ユーザ

CHAPTER 15

ユーザの追加 15-1

ユーザの追加 15-2

BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成 15-3

関連項目 15-7

CHAPTER 16

ユーザ テンプレート 16-1

BAT ユーザ テンプレートの検索方法 16-2

新しい BAT ユーザ テンプレートの作成 16-3

BAT ユーザ テンプレートの変更 16-4

BAT ユーザ テンプレートのコピー 16-4

テンプレートの削除 16-5

BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明 16-6

	関連項目	16-8
CHAPTER 17	ユーザの挿入	17-1
	Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入	17-1
	関連項目	17-2
CHAPTER 18	ユーザの更新	18-1
	ユーザの更新	18-1
	格納済みの値の保持	18-2
	BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成	18-2
	Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新	18-5
	関連項目	18-6
CHAPTER 19	ユーザの削除	19-1
	クエリーを使用したユーザの削除	19-1
	カスタム ファイルを使用したユーザの削除	19-3
	関連項目	19-4
CHAPTER 20	ユーザのエクスポート	20-1
	ユーザ レコードのエクスポート	20-1
	関連項目	20-3
CHAPTER 21	パスワードと PIN のリセット	21-1
	パスワードと PIN のリセット	21-1
	クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット	21-1
	カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット	21-3
	関連項目	21-4
CHAPTER 22	ユーザ レポートの生成	22-1
	ユーザ レポートの生成	22-1
	レポート ログ ファイルの表示	22-3
	関連項目	22-3
CHAPTER 23	ライン アピアランス	23-1
	ライン アピアランスのエクスポート	23-2
	ライン アピアランスの更新	23-4
	関連項目	23-5
PART 5	電話機とユーザ	

CHAPTER 24

電話機とユーザ 24-1

新しい電話機とユーザの追加 24-1

BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加 24-2

関連項目 24-2

CHAPTER 25

電話機とユーザのファイル形式 25-1

電話機とユーザのファイル形式の追加 25-2

関連項目 25-2

CHAPTER 26

電話機とユーザの検証 26-1

電話機レコードとユーザレコードの検証 26-2

関連項目 26-2

CHAPTER 27

電話機とユーザの挿入 27-1

電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入 27-1

関連項目 27-2

PART 6

マネージャとアシスタント

CHAPTER 28

Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法 28-1

Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要 28-2

プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 28-2

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値 28-3

マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定 28-4

プロキシ回線を使用した Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタント用の新しい電話機の設定 28-6

既存の電話機に対する Cisco Unified Communications Manager Assistant プロキシ回線の設定 28-7

シェアードライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 28-8

シェアードライン モードにおけるマネージャの電話機 28-8

シェアードライン モードにおけるアシスタントの電話機 28-8

マネージャとアシスタントのシェアードラインの設定 28-9

マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成 28-10

BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新 28-10

デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成 28-10

カスタムマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成
28-12

関連項目 28-13

CHAPTER 29

マネージャとアシスタントの挿入 29-1

Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 29-2

関連項目 29-3

CHAPTER 30

マネージャとアシスタントの削除 30-1

Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 30-1

関連項目 30-2

CHAPTER 31

マネージャの削除 31-1

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 31-1

クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除 31-1

カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除 31-3

関連項目 31-4

CHAPTER 32

アシスタントの削除 32-1

Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 32-1

クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除 32-1

カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除
32-3

関連項目 32-4

CHAPTER 33

マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 33-1

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 33-1

レポート ログ ファイルの表示 33-3

関連項目 33-3

PART 7

ユーザ デバイス プロファイル

CHAPTER 34

ユーザ デバイス プロファイル 34-1

ユーザ デバイス プロファイルの追加 34-2

BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ
ファイルの作成 34-3

BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明 34-5

関連項目 34-12

CHAPTER 35	<p>ユーザ デバイス プロファイル テンプレート 35-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索 35-1 ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) テンプレートの作成 35-3 テンプレートの修正 35-5 <ul style="list-style-type: none"> テンプレートのコピー 35-5 テンプレートの削除 35-6 関連項目 35-7
CHAPTER 36	<p>ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式 36-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定 36-2 <ul style="list-style-type: none"> UDP ファイル形式の検索 36-2 UDP ファイル形式の作成 36-3 ファイル形式のコピー 36-4 ファイル形式の修正 36-5 ファイル形式の削除 36-6 関連項目 36-6
CHAPTER 37	<p>ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の追加 37-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル形式の追加 37-1 関連項目 37-2
CHAPTER 38	<p>ユーザ デバイス プロファイルの確認 38-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ デバイス プロファイルの確認 38-2 関連項目 38-2
CHAPTER 39	<p>UDP の生成 39-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入 39-2 関連項目 39-4
CHAPTER 40	<p>ユーザ デバイス プロファイルの削除 40-1</p> <ul style="list-style-type: none"> クエリーを使用した UDP の削除 40-1 カスタム ファイルを使用した UDP の削除 40-3 関連項目 40-4
CHAPTER 41	<p>ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用法 41-1</p> <ul style="list-style-type: none"> All User Device Profile Details 形式 41-2 Specific User Device Profile 形式 41-3 ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート 41-4 関連項目 41-5

CHAPTER 42

ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新 42-1

ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新 42-1

クエリーを使用した回線の更新 42-2

回線を更新する場合のフィールドの説明 42-4

関連項目 42-11

CHAPTER 43

UDP の回線の追加 43-1

既存の UDP への回線の追加 43-2

BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加 43-3

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明
43-4

関連項目 43-6

CHAPTER 44

UDP のレポートの生成 44-1

ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 44-2

関連項目 44-4

CHAPTER 45

ゲートウェイ テンプレート 45-1

シスコのゲートウェイの追加 45-2

ゲートウェイ テンプレートの検索 45-4

ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 45-6

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 45-6

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのポートの追加 45-7

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 45-8

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 45-9

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS)
ポートの追加 45-10VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの
追加 45-10

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成 45-11

Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 45-12

VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 45-13

ゲートウェイの設定 45-15

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 45-15

VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 45-16

Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明
45-17

FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明 45-17

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランク
のフィールドの説明 45-23

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 45-26

ポートの設定 45-36

POTS ポートの設定 45-36

デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 45-38

関連項目 45-40

PART 8

ゲートウェイ

CHAPTER 46

ゲートウェイのファイル形式 46-1

ゲートウェイのファイル形式の検索 46-1

ゲートウェイのファイル形式の設定 46-3

ファイル形式の作成 46-3

ファイル形式のコピー 46-4

ファイル形式の修正 46-5

ファイル形式の削除 46-5

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け 46-6

関連項目 46-7

CHAPTER 47

シスコのゲートウェイの削除 47-1

シスコのゲートウェイの削除 47-1

関連項目 47-3

CHAPTER 48

ゲートウェイの挿入 48-1

Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 48-1

Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 48-1

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成 48-4

Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 48-5

Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用 48-5

Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 48-7

関連項目 48-8

CHAPTER 49

シスコのゲートウェイのレポートの生成 49-1

シスコのゲートウェイのレポートの生成 49-1

レポート ログ ファイルの表示 49-3

関連項目 49-3

PART 9

Forced Authorization Code と Client Matter Code

CHAPTER 50

Client Matter Code と Forced Authorization Code の一括処理 50-1

CMC および FAC の設定チェックリスト 50-2

BAT の重要な考慮事項 50-3

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 50-4

テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 50-5

既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 50-6

CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 50-7

BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 50-8

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 50-9

関連項目 50-9

CHAPTER 51

Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除 51-1

コードの設定の削除 51-1

Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除 51-3

関連項目 51-4

PART 10

コール ピックアップ グループ

CHAPTER 52

コール ピックアップ グループの使用方法 52-1

BAT の重要な考慮事項 52-2

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 52-3

テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 52-4

既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 52-4

コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 52-5

BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 52-6

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 52-7

関連項目 52-8

CHAPTER 53

コール ピックアップ グループの削除 53-1

コール ピックアップ グループの削除 53-1

関連項目 53-2

PART 11

モビリティ

CHAPTER 54

アクセス リスト	54-1
アクセス リストの挿入	54-2
アクセス リストの削除	54-3
アクセス リストのエクスポート	54-4
関連項目	54-5

CHAPTER 55

リモート接続先	55-1
リモート接続先の挿入	55-2
リモート接続先の削除	55-3
リモート接続先のエクスポート	55-4
関連項目	55-5

CHAPTER 56

リモート接続先プロファイル	56-1
リモート接続先プロファイル テンプレート	56-1
リモート接続先プロファイル テンプレートの検索	56-1
リモート接続先プロファイル テンプレートの作成	56-2
リモート接続先プロファイル テンプレートの回線の追加または更新	56-3
リモート接続先プロファイル テンプレートの削除	56-4
リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明	56-4
リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明	56-6
リモート接続先プロファイルのファイル形式	56-16
テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成	56-16
リモート接続先のファイル形式の検索	56-16
リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定	56-17
ファイル形式の作成	56-17
ファイル形式のコピー	56-18
ファイル形式の修正	56-19
ファイル形式の削除	56-20
ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け	56-21
リモート接続先プロファイルの挿入	56-22
Cisco Unified CallManager へのリモート接続先プロファイルの挿入	56-22
リモート接続先プロファイルの削除	56-24
カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除	56-24
リモート接続先プロファイルのエクスポート	56-26
リモート接続先プロファイルのエクスポートの使用	56-26
Default Remote Destination Profile ファイル形式	56-28
関連項目	56-28

PART 12

リージョン マトリクス

CHAPTER 57

リージョン マトリクスの更新 57-1

リージョン マトリクスの実装および実装解除 57-1

PART 13

インポートとエクスポート

CHAPTER 58

インポート/エクスポート 58-1

設定のエクスポート 58-2

ログ ファイル 58-4

.tar ファイルの編集 58-4

関連項目 58-6

CHAPTER 59

設定のインポート 59-1

ログ ファイル 59-2

関連項目 59-2

PART 14

CUP

CHAPTER 60

ライセンスの操作 60-1

CUP メニューの使用法 60-1

CUP/CUPC ユーザの更新 60-1

CUP/CUPC ユーザのエクスポート 60-2

PART 15

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool

CHAPTER 61

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法

61-1

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 61-2

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録
オプション 61-2新しい電話機での Cisco Unified Communications Manager Auto-Register
Phone Tool の使用方法 61-3設定をリロードするための Cisco Unified Communications Manager
Auto-Register Phone Tool の使用方法 61-3

電話番号の保護 61-4

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ユーザ用の
言語プロンプト 61-4Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のインストー
ル 61-5CRS アプリケーション サーバでの Cisco Unified Communications Manager
Auto-Register Phone Tool アプリケーションの設定 61-6

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のアンインストール	61-7
Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化	61-8
Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の起動 / 停止 / 再起動	61-9
Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のオプションの設定	61-10
Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプションの設定	61-10
電話番号の保護の設定	61-12
電話番号の保護の検索	61-12
電話番号の制限	61-12
電話番号に対する制限の解除	61-13
Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示	61-14
関連項目	61-14

CHAPTER 62

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケール

62-1	
Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定	62-2
Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の追加	62-2
Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の削除	62-3
エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報	62-4
関連項目	62-5

PART 16

ジョブのスケジュール

CHAPTER 63

ジョブのスケジュール 63-1

Bulk Provisioning Service のアクティブ化	63-2
BPS の起動 / 停止 / 再起動	63-3
BPS の非アクティブ化	63-4
ジョブの検索	63-5
ジョブのスケジュール	63-7
関連項目	63-8

PART 17

BAT および TAPS のトラブルシューティング

CHAPTER 64

BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング 64-1

- トレース設定ファイルの表示 64-2
- BAT ログ ファイル 64-4
- BAT のトラブルシューティング 64-5
- BAT パフォーマンスのトラブルシューティング 64-8
- BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング 64-9
 - Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示 64-9
 - Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のエラー メッセージ 64-9
- 関連項目 64-10

PART 18

付録

APPENDIX A

テキストベースの CSV ファイル A-1

- 電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 A-2
 - 電話機用の CSV データ ファイル形式 A-2
 - 電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 A-3
 - CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式 A-3
 - CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式 A-4
 - All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド A-5
 - 電話機 CSV ファイルの例 A-6
- ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 A-7
 - ユーザのファイル形式 A-8
 - ユーザのファイル形式の更新 A-9
 - ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 A-10
 - ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式 A-10
 - 2 回線と 2 短縮ダイヤルを持つユーザ デバイス プロファイル A-11
 - All Details オプションを使用するユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド A-12
- Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成 A-13
 - マネージャおよびアシスタントのファイル形式 A-13
 - デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエーション A-14
 - デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエーション A-14
 - カスタムのマネージャとアシスタントのアソシエーション A-14
- Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 A-15
 - FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式 A-15

T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式	
A-16	
Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-17
VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式	A-17
Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成	
A-18	
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートのファイル形式	A-19
Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成	A-20
CMC ファイル形式	A-21
CMC ファイル形式の更新	A-21
FAC ファイル形式	A-22
FAC ファイル形式の更新	A-22
コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-23
CPG ファイル形式	A-23
CPG ファイル形式の更新	A-24
リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-25
関連項目	A-25

APPENDIX B

BAT のパフォーマンス B-1

INDEX

索引



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルを入手する方法についても説明します。

次のトピックについて取り上げます。

- [目的 \(P.xix\)](#)
- [対象読者 \(P.xix\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xx\)](#)
- [関連マニュアル \(P.xxi\)](#)
- [表記法 \(P.xxii\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.xxiii\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.xxiii\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xxv\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xxvii\)](#)

目的

『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理] メニューの使用方法について説明します。

対象読者

本書は、Cisco Unified Communications Manager システムの管理を担当するネットワーク管理者または技術者を対象にしています。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の管理には、テレフォニーおよび IP ネットワーキング技術に関する知識が必要です。

マニュアルの構成

表 1 は、このマニュアルの構成を示しています。

表 1 BAT ガイドの構成

章番号	説明
Part 1	Cisco Unified Communications Manager 一括管理の概要 BAT の概要およびインストール手順を説明します。
Part 2	ファイルのアップロードとダウンロード ファイルのアップロードとダウンロードの方法を説明します。
Part 3	電話機 電話機、電話機とユーザ、CTI (computer telephony integration) ポート、および、CTI ポートとユーザを、個別に追加するのではなく、一括して追加する方法を説明します。また、回線や電話サービス、短縮ダイヤルを追加または更新する方法、電話機を更新および削除する方法についても説明します。
Part 4	ユーザ 複数のユーザを一括して追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 5	電話機とユーザ
Part 6	マネージャとアシスタント Manager Assistant Association を追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 7	ユーザ デバイス プロファイル ユーザ デバイス プロファイルを追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 8	ゲートウェイ Cisco VG200 ゲートウェイとポートを追加、更新、または削除する方法、Cisco Catalyst 6000 アナログ インターフェイス モジュール用の FXS (Foreign Exchange Station) ポートを追加または削除する方法を説明します。また、FXS ポートで使用するための Gateway Directory Number テンプレートを作成する方法も説明します。
Part 9	Forced Authorization Code と Client Matter Code Client Matter Code と Forced Authorization Code を追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 10	ピックアップグループ コール ピックアップグループを追加、更新、削除する方法を説明します。
Part 11	モビリティ アクセス リスト、リモート接続先、およびリモート接続先プロファイルを挿入、削除、エクスポートする方法を説明します。
Part 12	リージョン マトリクス リージョン マトリクスを実装および実装解除する方法を説明します。
Part 13	インポートとエクスポート Cisco Unified Communications Manager データベースを別のサーバに、あるいは変更を加えて同じサーバにインポートまたはエクスポートする方法を説明します。
Part 14	CUP BAT の [CUP] メニューと、それを使用して CUP ユーザと CUPC ユーザを更新およびエクスポートする方法を説明します。

表 1 BAT ガイドの構成 (続き)

Part 15	Cisco Unified Communications Manager Tool for Auto Registered Phones Support (TAPS) Unified CM Auto-Register Phone Tool のインストール方法や設定方法、使用方法を説明します。
Part 16	ジョブのスケジュール ジョブのスケジュールとアクティブ化の方法を説明します。
Part 17	BAT および Unified CM Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング バルク トランザクション用のログ ファイルの一般的なシナリオについて説明し、BAT または Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用時に表示される可能性がある各種エラーメッセージの説明と解決方法を記述します。 リモート接続先 リモート接続先の詳細を挿入、削除、エクスポートする方法を説明します。
Part 18	付録 バルク トランザクション用のデバイスやユーザについてテキストベースのファイルを作成する方法を説明します。また、さまざまなシナリオにおけるファイル形式の例も示します。

関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細は、次の資料を参照してください。

- *Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager リリース ノート*
- *Cisco Unified Communications Manager インストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*
- *Hardware Configuration Guide for the Cisco VG200*
- *Cisco VG200 ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド*
- *Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド*
- *Cisco Unified IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Communications Manager*
- *Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager トラブルシューティング ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザ ガイド*

表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	表記法
太字	コマンドおよびキーワードは、 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	端末セッションおよびシステム情報の表示出力には、screen フォントを使用します。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」を表しています。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「注意」が必要であることを意味します。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードへの登録方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合 : psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)

**ヒント**

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または GnuPG などの互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x を使用して暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Support Web サイト

Cisco Support Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

Cisco Support Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

オンラインまたは電話でサービス リクエストを発行する前に、**Cisco Product Identification Tool** を使用して製品のシリアル番号を確認してください。Cisco Support Web サイトでこのツールを使用するには、**Get Tools & Resources** リンクをクリックし、**All Tools (A-Z)** タブをクリックした後、アルファベット順のリストから **Cisco Product Identification Tool** を選択します。このツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。



ヒント

Cisco.com での表示および検索

ブラウザが Web ページをリフレッシュしていないと思われる場合は、Ctrl キーを押したまま F5 を押すことで強制的にブラウザに Web ページを更新させます。

技術情報を検索する場合は、Cisco.com の Web サイト全体ではなく、技術マニュアルに検索対象を絞り込みます。Cisco.com のホームページで Search ボックスを使用した後、表示されたページで Search ボックスの隣の **Advanced Search** リンクをクリックし、**Technical Support & Documentation** オプション ボタンをオンにします。

Cisco.com の Web サイトまたは特定の技術マニュアルに関するフィードバックを送るには、Cisco.com のすべての Web ページの下部にある **Contacts & Feedback** をクリックします。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): 既存のネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Online Subscription Center は、シスコのさまざまな E メール ニュースレターやその他の通信に登録できる Web サイトです。プロフィールを作成し、受信を希望する情報を選択してください。Cisco Online Subscription Center には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/offer/subscribe>

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコ チャネル製品の最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- 「What's New in Cisco Documentation」は、シスコ製品の最新のマニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン出版物です。このオンライン出版物は毎月更新され、製品カテゴリ別に編成されているため、製品のマニュアルを簡単に検索できます。次の URL で「What's New in Cisco Documentation」の最新リリースを見ることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/abtnucd/136957.htm>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



PART 1

概要



概要

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、Web ベースのアプリケーションで、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。同種の電話機、ユーザ、およびポートを多数一括で追加、更新、または削除できます。今まで、Cisco Unified Communications Manager の管理機能では、データベース トランザクションを個々に手作業で処理する必要がありましたが、BAT を使用すると、プロセスを自動化し、追加、更新、および削除の操作をはるかに高速に処理できるようになります。



(注) [一括管理]メニューは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードでのみ表示されます。

Bulk Provision Service (BPS) は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理] メニューを使用して送信されたすべてのジョブを管理および保守します。このサービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability から開始できます。

BPS Server サービス パラメータによって、このサービスを特定のサーバ上でアクティブにするかどうかが決まります。BPS は、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードでのみアクティブにする必要があります。

BAT で処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone(たとえば Voice Gateway (VG) 電話機、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、および H.323 クライアント) の追加、更新、削除、および Skinny Client Control Protocol (SCCP) から Session Initiation Protocol (SIP) への電話機の移行
- ユーザの追加、更新、および削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、および削除
- Cisco Unified Communications Manager のアシスタントとマネージャのアソシエーションの追加、更新、および削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上のポートの追加、更新、および削除
- Cisco VG200 および Cisco VG224 のアナログ ゲートウェイとポートの追加または削除
- Forced Authorization Code の追加および削除
- Client Matter Code の追加および削除
- コール ピックアップ グループの追加または削除
- CUP/CUPC ユーザの更新またはエクスポート
- リージョン マトリクスの実装または実装解除
- アクセス リストの挿入、削除、またはエクスポート

- 設定のエクスポートまたはインポート
- リモート接続先およびリモート接続先プロファイルの挿入、削除、またはエクスポート



(注)

Cisco Unified CallManager 一括管理でバルク トランザクションを実行するときは、レコード数の制限を最大の 12,000 レコードにすることをお勧めします。この制限数は、BAT を使用してレコードを挿入、更新、削除、またはクエリーを行う場合に適用されます。

デバイスは、ユーザ情報と組み合わせて処理することも可能です。たとえば、CTI ポートおよびユーザを追加する場合、BAT の「Enable CTI Application Use」を選択して、CTI ポートを必要とするアプリケーション（たとえば Cisco IP SoftPhone）を使用するユーザを短時間で追加できます。

BAT のオプション コンポーネントである Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool (TAPS) を使用すると、大型システムの管理に伴う時間と手間がさらに減少します。たとえば、新しい電話機を大量に追加する必要がある場合、BAT を使用すれば、ダミーのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを持つデバイスを追加することで、MAC アドレスを 1 つずつデータ入力ファイルに入力しなくて済みます。電話機をインストールしたら、電話機のユーザまたは管理者は、Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号にダイヤルしていくつかの音声プロンプトに従うだけで、電話機に適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、[第 61 章「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法」](#)を参照してください。

次のトピックでは、BAT の使用方法について説明します。

- [一括管理のインストール \(P.1-2\)](#)
- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT アプリケーションの使用方法 \(P.1-13\)](#)

一括管理のインストール

BAT は、Cisco Unified Communications Manager の管理機能の一部としてインストールされます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT データ入力ファイル

すべてのデバイスには、個々のアトリビュート、設定、および情報フィールドが数多くあり、それらの設定によってデバイスはネットワークで正しく動作し、テレフォニー機能を提供します。アトリビュートと設定には、多くのデバイスに共通しているものもあれば、電話番号のように特定のユーザやデバイスで固有の値をとるものもあります。BAT データ入力ファイルの内容をできるだけ圧縮するため、BAT は、共通のデバイス設定に対してテンプレートを使用します。

Cisco Unified Communications Manager データベースに対するバルク設定トランザクションでは、2つのコンポーネント、つまり、デバイスタイプに対するテンプレートと、カンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが BAT プロセスによって使用されます。CSV 形式のデータファイルには、新しいデバイスを設定するため、またはデータベース内の既存のレコードを更新するために使用する固有の値を定義します。CSV データファイルは、デバイステンプレートと連携して動作します。

たとえば、Cisco IP Phone グループ用のバルク トランザクションを作成する場合、各電話機に固有な情報 (たとえば電話番号や MAC アドレス) を記載した CSV データファイルを設定します。さらに、トランザクション内のすべての電話機に共通の設定を記載した BAT テンプレート (たとえば Cisco IP Phone 7960 テンプレート) を設定または選択します。

その他の項目

詳細については、[P.1-14](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 設定プロセス

BAT は、複数のステップから成るプロセスを使用して、バルク設定トランザクションを準備します。BAT が提供する [一括管理] メニュー オプションを使用して、設定タスクを順に処理できます。BAT プロセスには、次のタスクが含まれています。

1. データ入力用のテンプレートを設定する。
2. CSV データ ファイルの形式を定義する。
3. バルク トランザクションにおける各デバイス用データを収集する。
4. トランザクション用の該当ターゲットおよび機能を選択するデータ ファイルをアップロードする。
5. Cisco Unified Communications Manager データベースを使用してデータ入力ファイルを確認する。
6. 実行するためにジョブを送信する。
7. ジョブをスケジュールする。
8. Cisco Unified Communications Manager データベースにデバイスを挿入するためのジョブを実行する。

BAT メニューの使用方法

[一括管理] メニューから、次のデバイスまたは設定オプションのいずれかを選択します。

- [ファイルのアップロード / ダウンロード]
- [電話]
- [ユーザ]
- [電話とユーザ]
- [マネージャ / アシスタント]
- [ユーザデバイスプロファイル]
- [ゲートウェイ]
- [FAC]
- [CMC]
- [コールピックアップグループ]
- [モビリティ]
- [リージョンマトリクス]
- [インポート / エクスポート]
- [CUP]
- [TAPS]
- [ジョブスケジューラ]

オプションを選択すると、対応するメニュー項目が表示されます。たとえば、[電話] を選択すると、次のメニュー項目が表示されます。

- [電話の確認]: 電話機のレコードを検証します。
- [電話の挿入]: 新しい電話機を追加します。
- [電話の更新]: 既存の電話機を見つけて修正します。
- [電話の削除]: 電話機を見つけて削除します。
- [電話のエクスポート]: 特定の電話機レコードまたはすべての電話機レコードを見つけてエクスポートします。
- [回線の追加 / 更新]: 既存の電話機に新しい回線を追加します。また既存の電話機の回線を見つけて修正します。

- [電話のリセット / リスタート]: 電話機を見つけてリセットまたは再起動します。
- [電話レポートの作成]: 電話機に関するカスタマイズされたレポートを生成します。
- [電話の移行]: SCCP プロトコルから SIP プロトコルに電話機を移行します。

[一括管理] メニューからメニュー オプションを選択すると、対応するウィンドウ (たとえば [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウ) が表示されます。設定ウィンドウには、テンプレートを定義するための入力フィールドがあります。

その他の項目

詳細については、[P.1-14](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートの使用方法

BAT 設定プロセスの最初のタスクでは、設定するデバイス用のテンプレートを設定します。追加または修正する電話機またはデバイスのタイプを指定し、次に、バルク トランザクション内のすべての電話機またはデバイスに共通の機能を記載した BAT テンプレートを作成します。

BAT テンプレートを作成できるデバイス オプションのタイプは、次のとおりです。

- [電話]: すべての Cisco Unified IP Phone モデル、Cisco ATA 186、Cisco VGC 電話機、CTI ポート、および H.323 クライアント
- [ゲートウェイ]: Cisco VG200 および Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール
- [ユーザデバイスプロファイル]: Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズおよび Cisco SoftPhone

バルク トランザクションにおいてすべてのデバイスに共通のテンプレート フィールドに値を指定して、BAT テンプレートを定義します。BAT テンプレート フィールドに必要な値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスを追加するときに入力する値とほぼ同じです。

BAT テンプレートを作成する前に、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレートなどの設定値が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されていることを確認してください。

BAT テンプレートを作成したら、名前を付けて保存します。設定プロセスの後の部分で、このテンプレート名に CSV データ ファイルを関連付けます。テンプレートはシステムに保存されるので、今後のバルク トランザクションでこれらのテンプレートを再利用できます。たとえば、特定のボタン テンプレートとコーリング サーチ スペースを使用して Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定した後で、違うボタン テンプレートを使用してエクステンション モビリティ機能が有効になっている別の Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定できます。同じ設定を持つ多数の電話機を追加する必要があるときに、既存の BAT テンプレートを再利用できます。

マスター電話機テンプレート

複数の回線を持つ電話機のグループを追加する場合、複数の回線を備え、特定の電話機モデルに広く使用される値を持つマスター電話機テンプレートを作成します。マスター テンプレートを使用すると、マスター電話機テンプレートの回線数を上限として、異なる数の回線を持つ複数の電話機を追加できます。たとえば、8 回線を持つ Cisco Unified IP Phone 7960 用のマスター電話機テンプレートを作成するとします。このテンプレートを使用すると、1 回線または 2 回線から最大で 8 回線を持つ電話機を追加できます。

その他の項目

詳細については、[P.1-14](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

CSV データ ファイルの処理

CSV データ ファイルには、各デバイスに固有な設定や情報（たとえば、電話番号、MAC アドレス、および説明）が含まれています。CSV データ ファイル内のすべての電話機とデバイスが、同じ電話機モデルとデバイス モデルであることと、BAT テンプレートと一致していることを確認してください。CSV データ ファイルには、BAT テンプレートの値の一部を複写できます。CSV データ ファイル内で値を設定すると、BAT テンプレートで設定されている値は上書きされます。この上書き機能によって、特殊な設定が可能になります。

テンプレート値の上書きの例

バルク トランザクション内の大部分の電話機を、ボイス メッセージ システムにリダイレクトする場合、[話中転送 (Forward Busy Internal/External)](CFB) フィールドおよび[無応答時転送 (Forward No Answer nternal/External)](CFNA) フィールドにボイス メッセージ番号を設定します。しかし、バルク トランザクション内の一部の電話機を、ボイス メッセージ システムではなく秘書にリダイレクトする場合は、CSV データ ファイル内の CFB フィールドおよび CFNA フィールドに、秘書の電話番号を指定できます。このように設定することによって、大部分の電話機は、BAT 電話機テンプレートから CFB および CFNA の値を使用しますが、一部の電話機は、CSV データ ファイルに指定されている秘書の電話番号を使用します。

電話機用の CSV データ ファイルには、複数の電話番号が含まれる場合があります。CSV データ ファイルに入力する電話番号の数は、BAT 電話機テンプレートで設定されている回線数を超えることはできません。回線数が設定値を超えると、エラーが発生します。

次のトピックでは、CSV データ ファイルのタイプについて説明します。

- [新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル \(P.1-6\)](#)
- [既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル \(P.1-7\)](#)
- [CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ \(P.1-7\)](#)

新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル

システムに新しいデバイスを追加する場合、BAT 専用に設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。BAT スプレッドシートには、次に挙げる便利な機能があります。

- 異なるデバイス用のマクロを含むデータ ファイル テンプレート
- カスタマイズされたファイル形式定義
- 複数の電話回線のサポート
- エラー チェックの記録
- CSV 形式へのファイル変換

新しいレコードを作成する場合、BAT.xlt という名前の BAT スプレッドシートを使用します。このスプレッドシートを使用すると、CSV 形式にエクスポートするときにデータが自動的に確認されます。BAT スプレッドシートの使用方法の詳細については、[P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。



(注)

BAT.xlt は、有効な文字、データ型、および特定のフィールドのフィールド長についてのみデータを検証します。詳細については、[P.5-2 の「CSV データ ファイルの電話機レコードの確認」](#)を参照してください。

CSV 形式のファイルの処理に精通している BAT ユーザであれば、テキスト エディタを使用して、デバイス挿入タスク ウィンドウに用意されているサンプル テキスト ファイルに準じて CSV データ ファイルを作成できます。テキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、[付録 A 「テキストベースの CSV ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル

既存の電話機とデバイスを修正または更新するには、これらのデバイスのレコードを検索する必要があります。BAT では、2 つの方法で電話機、ゲートウェイ、およびデバイス プロファイルを検索できます。つまり、カスタマイズされたクエリーを使用する方法とカスタム ファイルを使用する方法です。

カスタマイズされたクエリー

BAT には、クエリー基準を定義するためのウィンドウがあります。特定のデバイス モデルを選択するか、デバイス詳細のリストと回線詳細のリストから検索条件を選択します。両方を選択することも可能です。特定のデバイス モデル（たとえば Cisco IP Phone 7912）のすべてのデバイスを検索する場合は、モデルは選択しますが、他の検索条件は追加しません。この処理によって、データベースに設定されている Cisco Unified IP Phone 7912 すべてのレコードを取得できます。

カスタム ファイル

クエリーで使用できる共通の属性がない場合は、BAT が提供するカスタム ファイル オプションを使用します。カスタム ファイルには、デバイス名または電話番号が記載されています。カスタム テキスト ファイルを作成するときは、それぞれのレコードを別々の行に記述します。検索を実行すると、条件に一致するレコードをすべて取得できます。

エクスポート ファイル

電話機のグループを移動する必要がある場合は、エクスポート ユーティリティを使用します。エクスポート ユーティリティを使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存レコードを抽出し、CSV データ ファイルに移動できます。電話機を移動するときは、[電話のエクスポート]の[すべての詳細]オプションを使用します。このオプションを使用すると、電話機に関連する情報（デバイス属性、回線属性、サービスなど）をすべて持つレコードを含むエクスポート ファイルが生成されます。同じような回線設定を持つ電話機が複数ある場合、テンプレートを使用すれば、特定の詳細情報を持つ電話機レコードをエクスポートすることもできます。エクスポート ユーティリティを使用したデバイスの更新の詳細については、[P.9-2 の「電話機エクスポートの使用法」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ

CSV データ ファイルには、デバイス属性を表す文字列と、カンマ区切り値（CSV）形式で記述された情報が格納されています。Cisco Unified Communications Manager データベースにデータレコードを挿入する場合は、各データ ファイルが CSV 形式であることを確認してください。以前のリリースの BAT では、CSV ファイルの形式は決まっておらず、次の 2 つのオプションがありました。

[**回線フィールド (Line Fields)**]: Directory number、Partition、Line Text Label (ファイル内では電話番号の後に移動)

[**ファイル形式 (File Format)**] には、短縮ダイヤルのコードは含まれません。[Include Speed Dials in the CSV Format] チェックボックスをオンにすると、短縮ダイヤルを選択することができます。

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,DEVICE POOL,CSS,DIRECTORY NUMBER,LINE TEXT LABEL,PARTITION,  
2234900AEF01,SEP2234900AEF01,DP_1,CSS_Restricted,  
9725098827,Lobby Phone,Part1
```

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合、最初に、カスタマイズされたファイル形式を作成し、そのファイル形式で指定した順序で値を入力することができます。カスタマイズされたファイル形式のテキストベースの CSV データ ファイルを挿入する前に、その CSV データ ファイルにファイル形式名を関連付ける必要があります。1 つの CSV データ ファイルに関連付けられるファイル形式は 1 つだけです。

[**ファイル形式の追加 (Add File Format)**] ウィンドウを使用して、[**ファイル名 (File Name)**] ドロップダウン リストで CSV データ ファイル <CSV ファイル名>.txt を選択します。次に、[**形式ファイルの名前 (Format File Name)**] ドロップダウン リストで、希望するファイル形式を選択します。CSV データ ファイル内のデータは、選択したカスタム ファイル形式と一致している必要があります。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法

BAT スプレッドシートを使用すると、CSV データ ファイルを簡単に作成できます。複数のデバイスを追加し、各デバイスのレコードをスプレッドシート形式で表示できます。スプレッドシート内のファイル形式はカスタマイズ可能です。確認とエラー チェックが自動的に行われるので、設定エラーを減少させることができます。BAT スプレッドシートの下部には複数のタブがあり、このタブを使用して、BAT 内のさまざまなデバイスとユーザの組み合わせに必要なデータ入力フィールドにアクセスできます。



(注) BAT.xlt は、有効な文字、データ型、および特定のフィールドのフィールド長についてのみデータを検証します。詳細については、[P.5-2 の「CSV データ ファイルの電話機レコードの確認」](#)を参照してください。

CSV データ ファイルは、BAT テンプレートと連携して動作します。たとえば、BAT スプレッドシートの [Phones] タブでは、[Location] [Forward Busy Destination] または [Call Pickup Group] の各フィールドを空白のままにすることができます。その場合、これらのフィールドには、BAT 電話機テンプレートからの値が使用されます。しかし、[Forward Busy Destination] フィールドまたは [Call Pickup Group] フィールドに値を指定すると、その値が BAT 電話機テンプレートでこれらのフィールドに対して設定されている値を上書きします。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、BAT スプレッドシート用の Microsoft Excel ファイルは最初のノードのデータベース サーバに置かれますが、通常、最初のノードのデータベース サーバは Microsoft Excel を実行していません。最初のノードのデータベースサーバから、作業用のローカル PC に BAT.xlt ファイルをダウンロードする必要があります。

ローカル マシンにダウンロードする手順については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。BAT.xlt ファイルを Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにダウンロードします。

BAT.xlt スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成するには、BAT.xlt ファイルを見つけてダブルクリックします。BAT スプレッドシートを開くときは [マクロを有効にする] を選択しておく必要があります。

スプレッドシートには、アトリビュート ヘッダーを持つカラムのセットが表示されます。ヘッダーは、BAT フィールドの名前、必須フィールドであるかオプション フィールドであるかの区別、およびフィールドに入力可能な最大文字数を示すためのものです。

スプレッドシートの下部には、すべてのデバイスに対応するタブが表示されています。処理をするデバイス タイプのタブをクリックすると、カラムが調整され、選択したデバイスに関連するフィールドがすべて表示されます。たとえば、電話機とユーザを同時に追加するには、[Phones-Users] のマークが付いたタブをクリックします。



ヒント

スプレッドシートを開くときに「マクロを有効にする」オプションが表示されない場合は、Excel のマクロ セキュリティが「高」に設定されている可能性があります。実行するマクロのマクロ セキュリティが「中」か「低」であることを確認してください。マクロのセキュリティを「中」に設定するには、Excel メニューから [ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] を選択します。[セキュリティ レベル] を [中] に設定します。Excel を閉じて、再度開きます。この操作により、次回にスプレッドシートを開くときに、「マクロを有効にする」オプションが表示されます。

次に、[Create File Title] ボタンをクリックして、CSV データ ファイルのファイル形式を定義します。[Field Selection] ダイアログボックスを使用して、CSV データ ファイルに含める項目と、項目の順序を選択します。[Create] をクリックすると、スプレッドシート内のカラムは、指定した新しいファイル形式に合わせて調整されます。

最初の行では、すべての必須フィールドおよび該当するオプション フィールドに、デバイスのデータを入力します。デバイスごとにデータを新しい行に入力してください。



(注)

スプレッドシート内に空白行がある場合、システムは「end of file」マーカーとして処理し、それ以降のレコードを廃棄します。

すべてのデバイス レコードの入力が完了したら、BAT スプレッドシート データを CSV ファイル形式でエクスポートします。BAT は、CSV ファイル形式を使用して、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードのデータベースに対してバルク トランザクションを実行します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

CSV 形式ファイルは、テキスト ファイルとして、ユーザが選択した別のフォルダに保存されます。ファイル名の形式は次のとおりです。

```
<tabname><timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成したデバイス入力ファイルのタイプ (電話、ユーザ デバイス プロファイル など) を表します。<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

次に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理] で、[ファイルのアップロード/ダウンロード] オプションを使用して、変換した CSV データ ファイル (CSV 形式バージョン) を Cisco Unified Communications Manager データベース サーバに戻します。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT データ入力ファイルの確認

次のタスクでは、ファイルの確認オプションを使用します。このタスクでは、CSV データ ファイルの名前およびデバイス用の BAT テンプレートを選択します。CSV データ ファイルにすべての詳細が記述されている場合は、モデルを選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

[固有の詳細]: デフォルト形式または Custom file 形式のレコードを確認します。

[すべての詳細]: エクスポートユーティリティで [すべての詳細] オプションを使用して生成したファイルのレコードを確認します。

確認オプションを選択すると、システムは、最初のノードのデータベースの情報と照合してエラーをチェックする確認ルーチンを実行します。チェックされる項目は、次のとおりです。

- データベース テーブルに依存しないフィールド (たとえば、説明、表示テキスト、および短縮ダイヤルラベル) に、有効な文字が使用されていること。
- Cisco Unified Communications Manager で、グループ、プール、パーティション、および他の参照アトリビュートが設定されていること。
- デバイスに設定されている回線数が、デバイス テンプレートと一致していること ([固有の詳細] の場合のみ)。

ここでは、ユーザが存在するかどうか、または BAT で定義した必須フィールドやオプション フィールド (たとえばダミーの MAC アドレス) についてはチェックされません。

トランザクションが完了したら、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウの [Log File Name] リンクをクリックして、正しいと確認できなかったデバイスと、エラー コードを示すログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[第 64 章「BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT データ入力ファイルの挿入

データ入力ファイルの確認が終了したら、挿入ウィンドウを使用して、デバイス レコードを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにあるデータベースに追加できます。このタスクでは、データ入力ファイルの名前、デバイス用の BAT テンプレート、およびモデル（必要に応じて）を選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

[**固有の詳細**]: カスタマイズされたファイル形式のレコードを挿入します。

[**すべての詳細**]: エクスポートユーティリティで [**すべての詳細**] オプションを使用して生成したファイルのレコードを挿入します。

[**ジョブ情報 (Job Information)**] にジョブ情報の詳細を入力して [**送信**] をクリックします。ジョブが作成され、[**一括管理**] メニューの [**ジョブスケジューラ**] オプションを使用してアクセスできるようになります。ステータスの表示、ジョブのスケジュールやアクティブ化には、[**ジョブスケジューラ (Job Scheduler)**] ウィンドウを使用します。



(注) 電話機レコードの回線情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その電話機レコードを挿入しません。

トランザクションが完了したら、[**ジョブスケジューラ (Job Scheduler)**] ウィンドウで [**Log File Name**] をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログファイル（エラーコードを含む）が表示されます。ログファイルの詳細については、[第 64 章「BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT アプリケーションの使用法

次のトピックでは、BAT アプリケーションの基本情報、起動方法、および使用方法について説明します。

- [Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス \(P.1-13\)](#)
- [オンライン ヘルプの使用法 \(P.1-13\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)

Web ブラウザはリソース消費型のアプリケーションであるため、システム メモリと CPU サイクルを大量に消費します。Cisco Unified Communications Manager が必要としているリソースを Web ブラウザが使用すると、コール処理に悪影響が及びます。Web サーバや Cisco Unified Communications Manager と同じマシンで Web ブラウザを使用すると、発信音の遅延やコールの中断が発生する可能性があります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス

BAT は、Web ベースのアプリケーションであるため Web ブラウザを使用します。詳細および仕様については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

オンライン ヘルプの使用法

BAT オンライン ヘルプにアクセスするには、[ヘルプ]メニューを選択します。[ヘルプ]メニューには、次の2つのヘルプ機能があります。

- [目次]と[インデックス]: BAT ヘルプ ファイルを表示し、情報の参照または索引の検索ができます。
- [このページ]: 現在表示しているウィンドウについてのヘルプを直接開きます。引き続き、ヘルプの残りの項目を参照したり、インデックスを使用したりすることができます。

オンライン ヘルプに備えられたマルチボリューム システムにより、同じウィンドウから複数の異なるヘルプシステムにアクセスできます。総合的な検索エンジンとインデックスにもアクセスできます。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示

Cisco Unified Communications Manager の現在のバージョンを確認するには、[ヘルプ]>[バージョン情報]の順に選択します。

その他の項目

詳細については、[P.1-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT テンプレートの使用方法 \(P.1-5\)](#)
- [CSV データ ファイルの処理 \(P.1-6\)](#)
- [新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル \(P.1-6\)](#)
- [既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル \(P.1-7\)](#)
- [CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ \(P.1-7\)](#)
- [BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法 \(P.1-9\)](#)
- [BAT データ入力ファイルの確認 \(P.1-11\)](#)
- [BAT データ入力ファイルの挿入 \(P.1-12\)](#)
- [BAT アプリケーションの使用方法 \(P.1-13\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび BAT へのアクセス \(P.1-13\)](#)
- [オンライン ヘルプの使用方法 \(P.1-13\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager のバージョンの表示 \(P.1-13\)](#)



PART 2

ファイルのアップロードとダウンロード



ファイルのアップロードとダウンロード

この章では、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにファイルをアップロードする手順、およびローカル マシンにファイルをダウンロードする手順について説明します。

次の手順を使用します。

- [ファイルの検索 \(P.2-1\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.2-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.2-5\)](#)

ファイルの検索

Cisco Unified Communications Manager サーバからダウンロード可能なファイルを検索する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理]>[ファイルのアップロード/ダウンロード]の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: ファイル、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - [名前]
 - [タイプ]
- ステップ 3** 2 番目の [検索対象: ジョブ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [ステップ 2](#) で [名前] を選択した場合は、次のオプションのいずれかを選択して、[ステップ 4](#) に進みます。
 - [が次の文字列で始まる]
 - [が次の文字列を含む]
 - [が次の文字列と等しい]
 - [が次の文字列で終わる]

■ ファイルの検索

- [が空である]
- [が空ではない]
- [ステップ 2](#) で [タイプ] を選択した場合は、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、[ステップ 2 ~ 4](#) を繰り返します。

ステップ 6 [ステップ 2](#) で [タイプ] を選択した場合は、[項目を選択するか、検索テキストを入力してください] ドロップダウン ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- [Insert Files]
- [Export Files]
- [Report Files]
- [Custom Files]
- [Log Files]
- [BAT Excel Template]

ステップ 7 [**検索**] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- [機能タイプ (Function Type)]

[ステップ 2](#) で [タイプ] を選択した場合は、検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- [起動日時 (Launch Date and Time)]

選択したファイルをダウンロードする手順については、[P.2-3](#) の「[ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.2-5](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイルのダウンロード

Cisco Unified Communications Manager サーバからファイルをダウンロードする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.2-1 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従って、ダウンロードするファイルを検索します。
- ステップ 2** ダウンロードするファイルのチェックボックスをオンにし、[[選択項目のダウンロード](#)] をクリックします。



- (注) すべてのファイルをダウンロードするには、[[すべてを選択](#)] をクリックして [[選択項目のダウンロード](#)] をクリックします。



- (注) 複数のファイルを同時に選択してダウンロードすると、ファイルは共通の zip ファイルにダウンロードされます。

-
- ステップ 3** [[ファイルのダウンロード](#)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[[保存](#)] をクリックします。
- ステップ 4** [[名前を付けて保存](#)] ポップアップ ウィンドウで、ファイルの保存場所を選択し、[[保存](#)] をクリックします。
- ステップ 5** [[ダウンロードの完了](#)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ダウンロードしたファイルをすぐに関開く場合は [[ファイルを開く](#)] を、後で開く場合は [[閉じる](#)] をクリックします。

その他の項目

詳細については、P.2-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイルのアップロード

Cisco Unified Communications Manager サーバにファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理]>[ファイルのアップロード/ダウンロード]の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [新規追加]をクリックします。[ファイルのアップロード (File Upload Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ファイル (File)] テキスト ボックスにアップロードするファイルのフルパスを入力するか、[参照 ...] をクリックしてファイルを探します。
 - ステップ 4** [ターゲットの選択 (Select The Target)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを使用する対象のターゲットを選択します。
 - ステップ 5** [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、そのファイルによって定義するトランザクション タイプを選択します。
 - ステップ 6** 既存のファイルを同じ名前で上書きする場合は、[ファイルが存在する場合は上書きする。(Overwrite File if it exists.)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 7** [保存] をクリックします。アップロードが正常に実行されていることを示すステータスが表示されます。
-

その他の項目

詳細については、[P.2-5](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイルの削除

ファイルを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.2-1 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従って、削除するファイルを検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルに対応したチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。



(注) [検索結果 (Search Results)] 領域に表示されているすべてのファイルを削除するには、[**すべてを選択**] をクリックしてから [**選択項目の削除**] をクリックします。

ステップ 4 次に進むには、[**OK**] をクリックします。

ステップ 5 これで、ファイルがサーバから削除されます。



(注) 削除対象として選択されたファイルがジョブの実行に使用中の場合、これらのファイルは削除されません。



(注) BAT.xlt ファイルは削除しないでください。

その他の項目

詳細については、[P.2-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ファイルの検索 \(P.2-1\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.2-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.2-5\)](#)



PART 3

電話機



電話機テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、多数の電話機を一括して追加、更新、または削除する高速で効率的な方法を管理者に提供します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新を行う必要はありません。BAT を使用して次のタイプの電話機を処理することができます。

- Cisco Unified IP Phone (全モデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

次のトピックでは、BAT を使用して電話機テンプレートと他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの使用方法 \(P.3-3\)](#)

電話機の追加

BAT を使用して、電話機と他の IP テレフォニー デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する場合は、各電話機に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加することができます。CTI ポートと H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機用の CSV データ ファイルを作成する方法としては、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザー向け)

電話機と IP テレフォニー デバイスを一括して追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話テンプレート] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、[P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

ステップ 2 BAT スプレッドシートを使用して、電話機テンプレートを挿入するための CSV データ ファイルを作成する手順は、[P.3-35](#) の「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合

a. [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。

[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、[P.4-2](#) の「[電話機のファイル形式の検索](#)」を参照してください。

b. テキスト エディタを使用して、使用するファイル形式に従った電話機用の CSV データ ファイルを作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、[P.A-2](#) の「[電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」を参照してください。

c. [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の追加] の順に選択します。

[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、[P.4-7](#) の「[ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

ステップ 3 [一括管理] > [電話] > [電話の確認] の順に選択します。

[電話の確認 (Validate Phones)] ウィンドウが表示されます。電話機レコードの確認の詳細については、[第 5 章](#)「[電話機レコードの確認](#)」を参照してください。

ステップ 4 [一括管理] > [電話] > [電話の挿入] の順に選択します。

[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager データベースへの電話機レコードの挿入の詳細については、[P.6-2](#) の「[電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの使用方法

BAT 電話機テンプレートを使用して、一連の新しい電話機を追加するために共通の電話機アトリビュートを定義します。テンプレートの作成前に、電話機設定値（たとえば、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート）が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されていることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT 電話機テンプレートに関する作業を行います。

- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(P.3-3\)](#)
- [新しいBAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-10\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話機テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定の電話機テンプレートを検出できます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話テンプレート] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話テンプレート、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]

- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]

2番目の [検索対象: 電話機テンプレート、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

選択した電話機テンプレートがウィンドウに表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

新しい BAT 電話機テンプレートの作成

電話機テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。電話機テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。電話機テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話機テンプレート] の順に選択します。

[電話機テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。[新規電話機テンプレートを追加] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスで、テンプレートを作成する対象の電話機のモデルを選択します。[次へ] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択]ドロップダウン リスト ボックスで、デバイス プロトコルを選択します。[次へ]をクリックします。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウに、選択したデバイス タイプに対応するフィールドとデフォルトのエントリが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7960。

ステップ 6 [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチに共通する電話機設定値を入力します。フィールドの説明については、表 3-1 を参照してください。電話機モデルとデバイス タイプによっては、表に記載されているアトリビュートすべてを備えていないものがあります。

ステップ 7 この BAT 電話機テンプレートの設定値をすべて入力した後、[保存]をクリックします。

ステップ 8 トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。

その他の情報

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタン テンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスター テンプレートを使用して、1 回線またはマスター テンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、P.1-5 の「マスター電話機テンプレート」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、回線を追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタン テンプレートによって決まります。

ステップ 3 表 3-2 で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。すべてのフィールドは、オプションです。

ステップ4 [保存] をクリックします。

BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。

ステップ5 その他の回線の設定値を追加するには、[ステップ2](#) ~ [ステップ4](#) を繰り返します。



(注) [回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウンリスト ボックスから [検索 / リストに戻る] を選択すると、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索] をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウで、[新規追加] をクリックします。

回線テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があります。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。



(注) 一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。詳細については、[P.3-6](#) の「[BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新](#)」および [P.3-7](#) の「[BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

各種の Cisco Unified IP Phone サービスが、この機能を備える Cisco Unified IP Phone モデルに登録できます。



(注) 固有のサービス パラメータを持つ IP サービスではなく共通のサービス パラメータを持つ IP サービスに、ユーザまたは電話機をまとめて登録できます。これは、電話テンプレートによって登録されているサービスでのみ有効です。固有のサービス パラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用して値を指定できます。

手順

ステップ1 [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、IP サービスを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加] をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、利用可能な Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。

ステップ 3 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスで、すべての電話機に登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスに、選択したサービスの詳細が表示されます。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

ステップ 5 必要に応じて、[サービス名 (Service Name)] フィールドでサービスの名前を変更します。

ステップ 6 [保存] をクリックして、これらの電話サービスを電話機テンプレートに関連付けます。

ステップ 7 他のサービスを追加するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。

ステップ 8 すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新] をクリックします。

ステップ 9 ポップアップ ウィンドウを閉じます。

ステップ 10 引き続き [P.3-7](#) の「[BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新](#)」に進むことで、短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新

BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加することも更新することもできます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone に短縮ダイヤルを指定できます。

手順

ステップ 1 [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 SD を追加] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [短縮ダイヤルの追加 / 更新] を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、短縮ダイヤル ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタン テンプレートによって、使用可能な短縮ダイヤル ボタンの数が決まります。

- ステップ 3** [短縮ダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [番号 (Number)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号の ASCII ラベルを入力します。
- ステップ 6** [固定短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、[ステップ 3](#) および [ステップ 5](#) を繰り返すと、該当する IP Phone モデルに省略短縮ダイヤルを設定することができます。
- ステップ 7** [保存] をクリックします。

BAT によってテンプレートに短縮ダイヤル設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールドの追加または更新

BAT テンプレートでビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルの追加と更新ができます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone にビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1** [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [**新規 BLF SD を追加**] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [[関連リンク](#)] ドロップダウン リスト ボックスで [**ビジーランプフィールド短縮ダイヤルの追加 / 更新**] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、ビジー ランプ フィールド短縮ダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタン テンプレートによって、使用可能な BLF SD ボタンの数が決まります。
- ステップ 3** [短縮ダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [着信先 (Destination)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから電話番号を選択します。[**検索**] をクリックすると、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応する ASCII ラベルを入力します。

ステップ7 [保存] をクリックします。

BAT によってテンプレートに BLF SD 設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの変更

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイル テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加または更新できます。

手順

ステップ1 P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、変更する電話機テンプレートを検索します。

ステップ2 [電話機テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、P.3-11 の「電話機テンプレートのフィールドの説明」を参照してください。

ステップ3 設定値を変更した後、[保存] をクリックしてテンプレートを更新します。

ステップ4 他のアトリビュートを更新する場合は、次の手順のいずれかを選択します。

- BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 (P.3-5)
- BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 (P.3-6)
- BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 (P.3-7)

その他の情報

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、電話機テンプレートのプロパティを新しい電話機テンプレートにコピーできます。



(注) 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP Phone Model 7960)。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、コピーする電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、[コピー] をクリックします。



- (注)** [電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウから、電話機テンプレートをコピーすることもできます。コピーする電話機テンプレートに対応した、[コピー (Copy)] カラムまたは [回線を含めたコピー] カラムのアイコンをクリックします。
-

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで [回線を含めたコピー] カラムをクリックした場合、テンプレートに関連付けられているすべての回線も一緒にコピーされます。

- ステップ 3** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7960。
- ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、P.3-11 の「電話機テンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の [電話テンプレート] カラムに表示されます。
- ステップ 6** 電話機テンプレートに回線を追加する手順については、P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」を参照してください。各種のサービスと短縮ダイヤル ボタンを定義することもできます。
-

その他の項目

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、削除する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除] をクリックします。



(注) [電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] で電話機テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウの電話機テンプレート リストのリストから、テンプレート名が消去されます。

**注意**

特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信し、その電話機テンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

その他の項目

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

表 3-1 では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	デバイス名を入力します。
[説明 (Description)]	作成する電話機テンプレートの説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートのデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど）を定義します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループリスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	このグループの IP Phone またはポートのネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオソースを特定します。
[ロケーション (Location)]	このグループの IP Phone またはポートの適切なロケーションを選択します。 ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし] に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[ユーザロケール (User Locale)]	このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを選択します。 ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するとき使用するトーンと断続周期を提供します。
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。  (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。 Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルに対応する『Cisco IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager 5.0』を参照してください。
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。 [Use System Default]: 電話機はエンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定された値を使用します。 [Non-secure]: 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。 [Authenticated]: Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 [Encrypted]: Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 このフィールドが表示されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします([On] [Off] または [Default] を選択します)。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとブライバシー」を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン] を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。つまり、ビデオ コールがビデオ コールとして接続できない場合に、このデバイスがビデオ コールをオーディオ コールとして即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールでは、オーディオ コールとしての接続確立が再試行されません。この場合、コールはコール制御を行えず、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) やルート リスト、ハントリストによってコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、コール表示の制限をコールごとに設定できます。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI で制御可能なすべてのデバイスを CTI から制御できます。</p> <p>このチェックボックスは、CTI で制御可能なデバイスタイプおよびデバイスプロトコルに基づいて、オンまたはオフにできます。たとえば、SIP プロトコルを使用する 7960 は CTI ではサポートされていないので、チェックボックスをオフにする必要があります。SCCP プロトコルを使用する 7960 は CTI でサポートされているので、チェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし]: モードを指定しない場合は [なし] を選択します。 • [Real-Time Mode]: リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • [バッチ処理モード]: 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤル ルールを選択します。SIP ダイヤル ルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待ったりしなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイヤル プランを提供します。</p> <p>ダイヤル ルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、[SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<None>] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP または SIP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディアターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、アウトオブダイアログ参照コーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバ アドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	<p>SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。</p>
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	<p>SCCP 電話機で、このチェックボックスをオンにすると、RFC2833 サポートのサポートが無効になります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[電話ボタンテンプレートの情報 (Phone Button Template Information)] と [拡張モジュールの情報 (Expansion Module Information)]	
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このグループ内の全電話機のボタン テンプレートを選択します。ボタン テンプレートによって、ボタンの識別 (回線、短縮ダイヤル) と電話機上のボタンの位置が決まります。ボタン テンプレートには、拡張モジュールが含まれます。
[ソフトキーテンプレート情報 (Softkey Template Information)]	
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1(Module 1)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[モジュール 2(Module 2)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)]	
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	最初の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし]: このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [インストール/アップグレード]: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [削除]: 証明書のオペレーションを削除します。 • [トラブルシューティング]: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、証明書 の 操作中に電話機を CAPF で 認証するために使用する認証モードを、次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Null ストリング]: ユーザの介入なしに、ローカルで有効な証明書をインストール / アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 < [なし] > <p> (注) このオプションは、認証モードの値を指定するプロンプトを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [認証ストリング]: ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール / アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 [既存の証明書 (LSC の優先)]: 製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機に存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール / アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 <p> (注) このオプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを確認してください。このオプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [既存の証明書 (MIC の優先)]: LSC または MIC が電話機に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール / アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 <p> (注) このオプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを確認してください。このオプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>セキュリティ プロファイルの [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで [認証ストリング] オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4 ~ 10 桁の数値を手動で入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
[キーサイズ (Key Size、ビット)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、証明書のキー サイズを次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1024 : デフォルトのオプションです。 < [なし] > <p> (注) このオプションは、証明書のキー サイズの値を指定するプロンプトを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2048 512 <p> (注) デフォルト設定値よりも大きなキー サイズを選択すると、電話機がキーの生成に必要なエントロピーを生成する時間が長くなります。キー生成が低い優先順位で設定されていると、このアクションの実行中に電話機が機能しません。電話機モデルによっては、キー生成が完了するのに 30 分以上かかる場合があります。</p>
[操作の完了 (Operation Completes By)]	このフィールドでは、[証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール / アップグレード] [削除] および [トラブルシューティング] オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドには、認証操作の経過が表示されます。たとえば、< 操作のタイプ > Pending、Failed、または Successful のように表示されます。操作のタイプには、[証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール / アップグレード] [削除] および [トラブルシューティング] オプションがあります。このフィールドに表示される情報は変更できません。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報 (Information)]	Cisco IP Phone の情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	Cisco IP Phone のディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ (Messages)]	Cisco IP Phone のボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	Cisco IP Phone のサービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカルホストアドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいるので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	エクステンション モビリティ機能を使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[-- 現在のデバイス設定を使用 --]: これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[-- ユーザデバイスプロファイルを選択 --]: これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいなくても、デバイスにロードされます。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP 表示設定値をデバイス プールから継承します。 • [オフ]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • [オン]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[H.323 デバイス情報 (H.323 Device Information)]	
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっており、送信側デバイスが、オーディオ コールとして接続していないビデオ コールを即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールはコール制御を行えません。この時点で、コール制御はそのコールをルート リスト内で再ルーティングします。Automatic Alternate Routing (AAR) が設定され使用可能になっている場合、コール制御はルート リスト間のコールも再ルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。これは、Cisco Unified Communications Manager がデバイスと機能の交換を開始するように指定していることを意味します。このチェックボックスは、Cisco Unified Communications Manager が、先に遠端の H.245 ターミナル機能セットを受信してから、その H.245 ターミナル機能セットを送信する必要があることを指定します。</p>
[プロトコル固有情報]	
[SRTP を許可]	<p>このチェックボックスをオンにすると、ネットワークで IPSec を設定してエンド ツー エンドのセキュリティを提供する必要があります。そのようにしないと、キーやその他の情報が公開されます。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディア ストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして MTP を要求し、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになると、コールはオーディオ専用として機能します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[H.323 情報]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	電話機への着信コールに対して、発信者 ID に使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	次のいずれかのオプションを選択して、送信される電話番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	セントラル オフィスが発信者 ID を送信するか、非通知にするかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスが発信者 ID を送信する場合は、[Allowed] を選択します。 • セントラル オフィスが発信者 ID を送信しない場合は、[Restricted] を選択します。 • デフォルトでは、発信者 ID をコール ストリーム内で上記のレベルによって [Restricted] にされていない限り、発信者 ID が表示されます。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) を通知するには、このチェックボックスをオンにします。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールの転送時に最初のリダイレクト番号とコールのリダイレクト理由を知らせるために、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージに最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイス メッセージ統合だけの場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。設定したボイス メッセージ システムが番号 IE のリダイレクトをサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)






フィールド	説明
[番号 IE 配信インバウンドのリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>番号 IE のリダイレクトをサポートするボイス メッセージ システムを統合する場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージで番号 IE のリダイレクトを受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に着信した SETUP メッセージから番号 IE のリダイレクトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートキーパー制御の H.323 デバイス用のゲートキーパーを選択します。</p> <p> (注) デバイスを選択しない場合、[E.164] [テクノロジープリフィックス (Technology Prefix)] および [ゾーン (Zone)] の各フィールドは無効になります。</p> <p> (注) デバイスに複数の電話番号が設定されている場合、そのデバイスをゲートキーパー制御の電話機に変更することはできません。</p>
[E.164]	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[テクノロジープリフィックス (Technology Prefix)]	<p>テクノロジー プレフィックスを入力して、gw-type-prefix コマンドの設定時に各 Cisco Unified Communications Manager システムの IP アドレスを入力する必要がないようにします。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合、このフィールドには次のように 1#* と入力することができます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[ゾーン (Zone)]	<p>ゲートキーパーで、Cisco Unified Communications Manager が登録を行う特定のゾーンを入力します。ゾーンには、このゾーンと別のゾーンの間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の電話機用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット、およびアンダースコアだけです。</p>
[Gatekeeper Controlled H.323 Client]	H.323 クライアント ゲートキーパーを制御対象のゲートキーパーとして設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [呼出音オフ]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [無効] • [フラッシュのみ] • [ビープ音のみ]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
デバイスの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>プロダクト固有の設定では、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「？」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するデバイスの資料を参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>



(注) BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、P.3-4 の「新しい BAT 電話機テンプレートの作成」に進みます。

BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

表 3-2 では、BAT 電話機テンプレート、ゲートウェイテンプレート、または UDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイスタイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明


フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[回線テンプレート名]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>電話番号が属するルートパーティションを選択します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
[説明 (Description)]	回線テンプレートの説明を入力します。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[アクティブ]	このチェックボックスを [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから未割り当ての電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。チェックボックスがオフの場合、DN は Cisco Unified Communications Manager で無視されます。
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、電話番号がプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャーが電話番号のステータスを要求すると、電話番号のステータスがリアルタイムにデバイスに表示されます。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、ウォッチャーのプレゼンス グループが、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを、[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおりに表示するよう許可されていることを確認します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが [保留] ボタンを押してコールを保留にするとときに再生される保留音オーディオソースを選択します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコール パークを開始する間) に再生される保留音オーディオ ソースを選択します。
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)]	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して、CFA 宛先を検証し、コールを転送します。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)






フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポート のみに適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポート が失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポート への外線コールの転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、[着信先別 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージ システムに転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [着信先別 (Destination)]	この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [着信先別 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、着信先)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[デバイスの回線 (Line on Device)]	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	<p>このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p>
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
[メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Policy](電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) • [Light and Prompt] • [Prompt Only] • [Light Only] • [None] <p>設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにして [選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピアランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring]
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only]
[複数コール / コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings)]	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device)]	
[発信者名 (Caller Name)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。



(注)

電話機と UDP の手順を完了するには、P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」に進みます。ゲートウェイに関するアップデートを完了するには、第 45 章「ゲートウェイテンプレート」を参照してください。



(注)

[割り当て済みのデバイス] リスト ボックスでデバイス名を選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] または [ラインアピランスの編集] をクリックして、デバイスまたは回線を編集することができます。

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

新しい電話機または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加する場合、BAT と共に使用するよう設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。このスプレッドシートは、選択されたデバイスのオプションを自動的に調整するマクロを備えています。スプレッドシート内でファイル形式を定義することができるので、BAT スプレッドシートはデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。

新しい電話機と他の IP テレフォニー デバイスを追加するために BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** 電話機オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Phones] タブをクリックします。

ステップ4 次のデバイス タイプのいずれかのオプション ボタンを選択します。

- [Phones]
- [CTI Port]
- [H.323 Client]
- [VGC Phone]
- [VGC Virtual Phone]

スプレッドシートには、選択されたデバイスで使用可能なオプションが表示されます。たとえば、[Phones] を選択すると、回線数と短縮ダイヤル数のフィールドが表示されます。



(注) 選択するデバイス タイプによって BAT スプレッドシート内のデータの検索条件が決まります。

ステップ5 電話機ごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、[Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ6 デバイス フィールドを選択するには、[Device Fields] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC Address/Device Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

ステップ7 [Line Fields] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。



ヒント [Selected Line Fields] ボックスと [Selected Device Fields] ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ8 [Create] をクリックして、CSV データ ファイル形式を修正します。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ステップ9 [OK] をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

ステップ10 [Maximum Number of Phone Lines] ボックスが表示されるまで、右にスクロールします。ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定した回線数を超えることはできません。



(注) CSV データ ファイルを挿入するとき、電話機の回線数は BAT 電話機テンプレートの回線数を超えることはできません。この数を超えると、エラーが発生します。

ステップ 11 電話機の [短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)] ボックスで短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。



(注) データレコードを挿入するときは、BAT テンプレートで設定した短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。超えた場合は、CSV データ ファイルと BAT 電話機テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

ステップ 12 スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを示しています。表 3-3 では、BAT スプレッドシートのすべての電話機フィールドを説明しています。

ステップ 13 電話機ごとに MAC アドレスを入力しなかった場合は、[Create Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにします。

ダミー MAC アドレス オプションを選択した場合、後で、正しい MAC アドレスを使用して電話機を更新できます。この更新を行うには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、Unified CM Auto-Register Phone Tool ツールを使用します。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、P.61-2 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要」を参照してください。



(注) CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。H.323 Client、VGC Phone、および VGC Virtual Phone には、ダミー MAC アドレスを使用しないでください。

ステップ 14 [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、指定したローカルワークステーション上で選択したフォルダに、次のファイル名で保存されます。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ (たとえば、phones) を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲われます。スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。



(注) カンマが入った CSV ファイル名 (abcd,e.txt) は、Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにあるデータベースサーバにアップロードして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明

表 3-3 では、CSV データ ファイルにデバイスと回線の詳細を追加する場合に使用可能な電話機フィールドについて説明します。関連する手順については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明

フィールド	説明
Device Fields	
MAC Address/Device Name	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの固有の ID (デバイス名) を入力します。[Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにすると、固有のデバイス ID を自動的に生成できます。
Description	電話機またはデバイスを特定する説明 (たとえば、「Conference Room A」や「John Smith」) を入力します。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
User Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオソースを入力します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
Network Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオソースを入力します。</p> <p>ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にするととき(たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき)に再生される音楽のオーディオソースを特定します。</p>
User Locale	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このグループの電話機に関連付けるネットワークロケールを入力します。</p> <p>ネットワークロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときを使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキーテンプレートを入力します。
Common Phone Profile	ドロップダウンリストボックスで、利用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。
Device Presence Group	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤルボタンとして電話機に設定されたプレゼンスエンティティに関するステータス(たとえば、電話番号)を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンスエンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンスグループを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』を参照してください。</p>
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。</p> <p>値は CTI ポートには適用されません。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
Security Profile	<p>デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを入力します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco Unified Communications Manager で設定が適用できません。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p>
Device Subscribe CSS	<p>プレゼンス機能で使用了した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p></p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p></p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字(0~9)と特殊文字の#および*だけです。</p>
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Media Resource Group List	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[Media Resource Group List]で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース(たとえば保留音サーバ)を選択します。
AAR CSS	デバイスが自動代替ルーティング(AAR)の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを入力します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
MLPP Domain	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: デバイスは MLPP 表示設定値をデバイス プールから継承します。 • [Off]: デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • [On]: デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。
MLPP Preemption	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [Forceful]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。
Signal Packet Capture Mode	<p>信号パケット キャプチャに設定するモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None]: モードを指定しない場合は [None] を選択します。 • [Real-Time Mode]: リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • [Batch Processing Mode]: 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
Packet Capture Duration	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。</p>
Authentication String	<p>4 ~ 10 桁の数値を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>
Ignore Presentation Indicator	<p>Yes または No を入力して、コール表示の制限をコールごとに設定します。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
SIP Profile	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Digest User	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンド ユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Log Out Profile	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを入力します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[-- 現在のデバイス設定を使用 --]: これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[-- ユーザデバイスプロファイルを選択 --]: これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>
SIPCodec_MTPPreferred OrigCodec	<p>SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。</p>
Dial Rules	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル ルールを入力します。SIP ダイアル ルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待ったりしなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイアル プランを提供します。</p> <p>ダイアル ルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、[SIP ダイアル ルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<None>] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイアル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
CSS Reroute	<p>再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
CSS Refer	<p>アウトオブダイアログ参照コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。</p>
Certificate Operation	<p>次のオプションから実行する認証操作を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Pending Operation]: このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [Install/Upgrade]: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [Delete]: 証明書のオペレーションを削除します。 • [Troubleshoot]: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
Certification Operation Completion Time	このフィールドでは、[Certificate Operation]の Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。
Secure Shell User	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
Secure Shell Password	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
Device Pool	<p>適切なデバイス プールを入力します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付 / 時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>
Built in Bridge	<p>Off、On、または Default を入力して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
CSS	適切なコーリングサーチスペースを入力します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。コーリングサーチスペースに関する設定情報については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Location	この電話機に対して、適切な場所を選択します。ロケーションを Hub_None に設定すると、ロケーション機能がこの電話機の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
Module 1	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 1 Load Name	適切な拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Module 2	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 2 Load Name	2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Phone Template	このタイプのバルク トランザクション用に作成した電話機テンプレートを入力します。
Authentication Server	電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。 デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。
Proxy Server	電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。 電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。
Idle	[Idle Timer] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。 たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
Idle Timer	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [Idle] フィールドに指定された URL を表示します。
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Line Fields (オプション)	
Directory Number	電話機の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Route Partition	電話番号が属するルートパーティションを入力します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Display	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Line Text Label	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[Call Pickup Group] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Line User Hold Audio Source	ユーザが保留ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオソースを入力します。
Line Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき) に再生される保留音オーディオソースを入力します。
Forward All CSS	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Secondary CSS for Forward All	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して、CFA 宛先を検証し、コールを転送します。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)







フィールド	説明
Forward Busy Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)







フィールド	説明
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward on Failure External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward on Failure Destination External/Internal	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。
Forward on CTI Failure Destination	この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [Destination] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [Destination] フィールドに別の値を入力する必要があります。
Forward on CTI Failure CSS	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。
Call Pickup Group	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
External Phone Number Mask	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
No Answer Ring Duration (CFNA)	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
MLPP CSS	代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを入力します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは [Busy Trigger] フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、[Maximum Number of Calls] および [Call Forward Busy] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[Maximum Number of Calls] が 50 に設定され、[Busy Trigger] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [Call Forward Busy] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [Maximum Number of Calls] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [Display] フィールドに入力された名前が使用されます。
Route Filter	<p>[Route Filter Name] フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.) ハイフン (-) およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルート プランで一意であることを確認します。</p> <p> (注) ルート フィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynameLocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルート フィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラス オフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのリート フィルタを示します。</p>
Dial Plan	たとえば、北米番号計画などのダイヤル プランを入力します。
Line User Hold Audio Source	ユーザが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオ ソースを入力します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Line Network Hold Audio Source	ネットワークが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオソースを入力します。
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>



(注) 手順を完了するには、P.3-35 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データファイルの作成」に進みます。

関連項目

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの使用方法 \(P.3-3\)](#)
- [新しい BAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
- [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-7\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの変更 \(P.3-9\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-10\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データファイルの作成 \(P.3-35\)](#)
- [BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明 \(P.3-38\)](#)



電話機のファイル形式

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- [テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 \(P.4-1\)](#)
- [電話機のファイル形式の検索 \(P.4-2\)](#)
- [電話機のファイル形式の設定 \(P.4-3\)](#)
- [ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け \(P.4-7\)](#)
- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-2\)](#)

テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。電話機用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、[P.A-2 の「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

次のファイル形式オプションのいずれかを使用して、CSV データ ファイル内のデバイスと回線のフィールドを識別します。

- Default Phone : 電話機のデバイス フィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。
- Simple Phone : 電話機の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドを含む。
- Custom : 独自に選択して順序付けしたデバイス フィールドと回線フィールドを含む。

Simple Phone または Default Phone のファイル形式は、修正することも削除することもできません。



(注)

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でファイル形式を作成することができます。テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、Simple または Default のファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されている順序と同じ順序で入力します。

その他の情報

詳細については、[P.4-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機のファイル形式の検索

電話機のファイル形式を検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。

[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象: 電話ファイル形式、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント すべての電話機の形式を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。

[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、P.4-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機のファイル形式の設定

次のトピックでは、電話機のファイル形式の作成、コピー、変更、または削除について説明します。

- [ファイル形式の作成 \(P.4-3\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.4-4\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.4-5\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.4-6\)](#)

ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各電話機に定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC Address/Device Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

- ステップ 5** [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
- ステップ 6** [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでインターコム DN フィールドの名前をクリックしてから矢印をクリックし、そのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。



ヒント

[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] および [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ7 [IP Phone サービスの最大値 (IP Phone Service Maximums)] 領域で、次のフィールドに最大値を入力します。

- [短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)]
- [IP Phone サービスの最大数 (Maximum Number of IP Phone Services)]
- [IP Phone サービスパラメータの最大数 (Maximum Number of IP Phone Service Parameters)]

ステップ8 カスタム ファイル形式を保存するには、[保存] をクリックします。ファイル形式の名前が、[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウの [名前 (Name)] リストに表示されます。

その他の項目

詳細については、P.4-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ1 P.4-2 の「[電話機のファイル形式の検索](#)」の手順に従って、コピーする電話機のファイル形式を検索します。

ステップ2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [コピー] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウで、対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

ステップ4 [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。

ステップ5 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ6 変更を加えたら、[保存] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

その他の項目

詳細については、P.4-7の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ1 P.4-2の「電話機のファイル形式の検索」の手順に従って、修正する電話機のファイル形式を検索します。

ステップ2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。



(注) [Number of lines] [MAC Address] および [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ4 変更を加えたら、[保存]をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

その他の項目

詳細については、P.4-7の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

手順

- ステップ1** P.4-2の「電話機のファイル形式の検索」の手順に従って、削除する電話機のファイル形式を検索します。
- ステップ2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認します。
- ステップ3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除]をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK]をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



(注) [選択項目の削除]をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

その他の項目

詳細については、P.4-7の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の追加] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** [送信] をクリックして、一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成します。
- ステップ 5** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.4-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 \(P.4-1\)](#)
- [電話機のファイル形式の検索 \(P.4-2\)](#)
- [電話機のファイル形式の設定 \(P.4-3\)](#)
- [ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け \(P.4-7\)](#)
- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-2\)](#)



電話機レコードの確認

[電話の確認] を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データ ファイルと Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) 電話機テンプレートが、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドを指定しているかどうかをチェックします。確認ではさらに、最初のノードのデータベースとの不一致がないかどうかをチェックします。

始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、[P.1-5](#) の「[マスター電話機テンプレート](#)」を参照してください。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。

CSV データ ファイルの電話機レコードの確認

CSV データ ファイルの電話機レコードを確認する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の確認] の順に選択します。

[電話の確認 (Validate Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話固有の詳細の確認 (Validate Phones Specific Details)] オプション ボタンをクリックし、カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを確認します。ステップ 4 と 5 に進みます。

ステップ 3 [電話すべての詳細の確認 (Validate Phones All Details)] オプション ボタンをクリックして、[すべての詳細] オプションを使用して生成したエクスポート電話機ファイルから電話機レコードを確認します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 5 [固有の詳細] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

ステップ 6 [送信] をクリックすると、選択した CSV データ ファイルと最初のノードのデータベースが検証されます。

ステップ 7 ジョブが即座に送信されて実行されます。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.5-2 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [CSV データ ファイルの電話機レコードの確認 \(P.5-2\)](#)
- [電話機テンプレート](#)
- [電話機のファイル形式](#)



電話機の挿入

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機、Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- 追加するデバイスには、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) 電話機テンプレートが必要です。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択するデータ ファイルをアップロードします。
- 電話機を挿入する前に、電話機レコードを確認します。

その他の項目

詳細については、[P.6-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入

電話機を Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の挿入] の順に選択します。

[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話固有の詳細の挿入 (Insert Phones Specific Details)] オプション ボタンをクリックし、カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを挿入します。ステップ 4 と 6 に進みます。

ステップ 3 [電話のすべての詳細の挿入 (Insert Phones All Details)] オプション ボタンをクリックして、[すべての詳細] オプションを使用して生成しエクスポートした電話機ファイルから電話機レコードを挿入します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。[カスタム CSV ファイルを使用した電話の更新の許可] チェックボックスをオンにして、選択したカスタム ファイルを使用して電話機を更新できるようにします。

ステップ 5 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話機の設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。

ステップ 6 [固有の詳細] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address、CTI ポートの場合は、ダミーデバイス名の作成)] チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、XXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスが分からない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、[P.61-2 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要」](#)を参照してください。ステップ 9 に進みます。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ9 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ10 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第63章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログファイルの詳細については、P.64-4の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.6-3の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [電話機テンプレート](#)
- [電話機のファイル形式](#)
- [ファイルのアップロードとダウンロード](#)
- [電話機レコードの確認](#)



電話機の更新

デバイス プールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリング サーチ スペースなど、電話機の設定値を更新するには、[電話の更新] オプションを使用します。次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.7-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.7-3\)](#)

クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の更新] > [クエリー] の順に選択します。

[電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずに [検索] をクリックすると、すべての電話機を更新できます。[P.7-4 の「更新パラメータの選択」](#)に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : 電話、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]
- [ロケーション]

- [電話ロード名]
- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]

2番目の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ2 ~ 3を繰り返します。

ステップ5 [検索] をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

電話機を更新する手順を完了するには、P.7-4の「更新パラメータの選択」に進みます。

カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
 - MAC アドレスおよびデバイス名
 - 電話番号



(注) 同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は別のカスタム ファイルに入れる必要があります。

3. テキスト ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の更新] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[電話の更新の検索と一覧表示 (カスタム) (Update Phones Custom Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [更新対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [デバイス名] (MAC アドレスを含む)
- [電話番号]
- [説明]

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタム ファイルの選択を変更することができます。

電話機を更新する手順を完了するには、P.7-4 の「[更新パラメータの選択](#)」に進みます。

更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [電話の更新のクエリー (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。選択したクエリーのタイプが、[電話の更新 (Update Phones)] に表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。
- ステップ 2** 更新する前にユーザをログアウトするには、[更新前にユーザをログアウト (Logout Users before Update)] チェックボックスをオンにします。フィールドを 1 つも選択しない場合、このオプションを使用してユーザを一括してログアウトすることもできます。
- ステップ 3** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、[P.7-5 の「電話機を更新する場合のフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 4** チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 5** [ログアウト / リセット / リスタート (Logout/Reset/Restart)] 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。
- [電話をリセット / リスタートしない (Don't Reset/Restart devices)]: 後でデバイスをリセットまたは再起動する。
 - [電話のリセット (Reset phones)]: 電話機をリセット (電源をオン / オフ) する。
 - [電話のリスタート (Restart phones)]: 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットする。
- ステップ 6** 必要な電話機パラメータを更新します。電話機を更新する場合のフィールドの説明については、[表 7-1](#) を参照してください。
- ステップ 7** [送信] をクリックして、レコードを更新するジョブを作成します。
- ステップ 8** Bulk Administration メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
- ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。
- ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。
-

その他の項目

詳細については、[P.7-13 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機を更新する場合のフィールドの説明

表 7-1 では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。関連する手順については、P.7-13 の「関連項目」を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートが属するデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど）を定義します。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。電話機ボタンテンプレートは、電話機に表示するボタンの設定を決定し、各ボタンをどの機能（回線、短縮ダイヤルなど）に使用するかを指定します。 Cisco Unified Communications Manager では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してこのフィールドを利用できません。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートが属するコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このグループの電話機またはポートが属するメディア リソースグループリスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。 ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオソースを選択します。 ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき) に音楽を再生します。
[ロケーション (Location)]	このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。 ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。
[ユーザロケール (User Locale)]	このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このユーザに関連付けるネットワークロケールを選択します。 ネットワークロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リストボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします ([オン] [オフ] または [デフォルト] を選択します)。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[プライバシー (Privacy)]	プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リストボックスで [On] を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。  (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco Unified IP Phone 用のカスタムソフトウェアを指定します。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[プレゼンテーションインジケータを無視(Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号がシェアラインを指定している場合、少なくとも1つの関連付けられたデバイスが、デバイス タイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。 [なし]: モードを指定しない場合は [なし] を選択します。 [Real-Time Mode]: リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 [バッチ処理モード]: 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。  ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP および SIP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プロファイルに設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定に関連します。製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理するには、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、CAPF 設定値を指定する必要があります。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報 (Information)]	情報ボタン用のヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ (Messages)]	ボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	サービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカルホストアドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいるので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone ウィンドウに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、ウィンドウにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]	<p>この機能を無効にする場合は 0 (オフ) を、有効にする場合は 1 (オン) を選択します。</p> <p>エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[IP サービス 1 (IP Services1)]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。
[IP サービス 2 (IP Services2)]	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、設定済みのサービスを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT) を使用して、1 つのトランザクションで更新できる IP サービスは最大 2 つです。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	ド롭ダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし]: このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [インストール/アップグレード]: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [削除]: 証明書のオペレーションを削除します。 • [トラブルシューティング]: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
[一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)]	このチェックボックスは、必要に応じてオンに設定します。
[認証文字列 (Authentication String)]	[認証モード (Authentication Mode)] が [認証ストリング] の場合は、認証文字列を入力します。または、システム生成の文字列を入力するために [文字列を生成] をクリックします。
[操作の完了 (Operation Completes By)]	証明書のオペレーションを完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 <p>ド롭ダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • [オン]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。  <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [呼出音オフ]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [無効] • [フラッシュのみ] • [ビープ音のみ]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[IP Phone サービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
[このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add all services from this template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話の更新に使用するサービスのリストが入ったテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集] リンクをクリックすると、テンプレート上の登録済み Cisco IP Phone サービスを更新できます。
[重複の削除 (Remove Duplicate)]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[プロダクト固有の情報]	
[Device Security Mode]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。 [Use System Default]: 電話機はエンタープライズパラメータの Device Security Mode に指定された値を使用します。 [Non-secure]: 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。 [Authenticated]: Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 [Encrypted]: Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
[Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles]	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムが、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[Disable Speakerphone]	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Disable Speakerphone and Headset]	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[Forwarding Delay]	このフィールドを使用して転送遅延を有効または無効にします。コールの転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。
[PC Port]	このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。
[Setting Access]	このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。[Enabled] および [Disable] を選択できます。

表 7-1 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[Gratuitous ARP]	Gratuitous ARP を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[PC Voice VLAN Access]	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Video Capabilities]	ビデオ機能アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Auto Line Select]	電話機での自動回線選択を制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。
[Web Access]	電話機での Web アクセスを制御するには、[Enabled] または [Disable] を選択します。



(注)

手順を完了するには、P.7-4 の「更新パラメータの選択」に進みます。

関連項目

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.7-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.7-3\)](#)
- [更新パラメータの選択 \(P.7-4\)](#)
- [電話機を更新する場合のフィールドの説明 \(P.7-5\)](#)



電話機の削除

一連の電話機およびその他の IP テレフォニー デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除するには、ここで説明する手順を実行します。

次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の削除 \(P.8-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の削除 \(P.8-3\)](#)

クエリーを使用した電話機の削除

電話機レコードを検索するためのクエリーを作成して電話機を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の削除] > [クエリー] の順に選択します。

[電話の削除 (Delete Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]
- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]
- [未定義の DN]

2 番目の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

■ クエリーを使用した電話機の削除

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

検索された電話機のリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして電話機レコードを後で削除します。

ステップ 8 [送信] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。



(注) ジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

ステップ 9 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

その他の項目

詳細については、[P.8-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用した電話機の削除

テキスト エディタを使用して、削除する電話機のカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。

始める前に

1. 削除する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名および MAC アドレス
 - 説明
 - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている電話機を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[電話の削除 (カスタム) (Delete Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [デバイス名] (MAC アドレスを含む)
- [電話番号]
- [説明]

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして電話機レコードを後で削除します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.8-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [クエリーを使用した電話機の削除 \(P.8-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の削除 \(P.8-3\)](#)



電話機のエクスポート

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco Unified Communications Manager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco Unified Communications Manager サーバにマージできます。Cisco Unified Communications Manager サーバから別の Cisco Unified Communications Manager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。エクスポートするのは、移動の対象となるレコードだけにしてください。次の手順を実行します。

- [電話機レコードのエクスポート \(P.9-4\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(P.20-1\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(P.41-4\)](#)
- (オプション) テキストエディタでの CSV ファイルの編集。レコード形式は、そのファイル形式に指定された形式に従っている必要があります。たとえば、電話機レコードは電話機ファイル形式に従っている必要があります。



注意

CSV ファイルを編集するときは、十分に注意してください。誤った形式でレコードを挿入すると、電話機が動作しない場合があります。

1. CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。



注意

レコードの挿入順序は、重要な意味を持っています。ユーザレコードを最初に挿入する必要があります。この方法によって、既存ユーザに対して、デバイスが適切に関連付けられます。

2. ユーザレコードを挿入します。
3. 電話機レコードを挿入します。
4. ユーザデバイスプロファイルレコードを挿入します。

その他の情報

詳細については、[P.9-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機エクスポートの使用方法

電話機レコードをエクスポートする場合、次の2つのファイル形式オプションから選択できます。

[**固有の詳細**]: 同様の設定の電話機の場合 (Default Phone ファイル形式)。

[**すべての詳細**]: パーティションやコーリング サーチ スペースが複数あるなど、回線設定の異なる電話機の場合 (All Phone Details ファイル形式)。

Default Phone ファイル形式

Default Phone ファイル形式を選択した場合は、定義済みクエリーを使用してレコードをエクスポートできます。

表 9-1 に、Default Phone ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 9-1 Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Location
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer Internal、Forward No Answer External、Forward No Coverage Internal、Forward No Coverage External、Call Pickup Group
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dials

All Phone Details ファイル形式

All Phone Details オプションを使用して電話機レコードをエクスポートする場合は、特定モデルの電話機の電話機レコードをエクスポートすることになります。すべてのデバイス フィールド情報、各種の回線アトリビュート、および電話機に関連付けられているサービスがエクスポートされます。またはすべての電話機モデルを1つのファイルにエクスポートすることができます。すべての電話機のタイプを1つのファイルにエクスポートするには、[デバイスタイプの選択 (Select the Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [All Phone Types] を選択します。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 9-2 に、All Phone Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。



(注)

All Phone Details ファイル形式を使用してエクスポートする場合は、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。

表 9-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	Device Name、 Description、 Owner User ID、 Device Pool、 CSS、 AAR CSS、 Media Resource Group List、 User Hold Audio Source、 Network Hold Audio Source、 Location、 User Locale、 Network Locale、 Phone Button Template、 Expansion Module type I、 Expansion Module type II、 Softkey Template、 Phone Load Name、 Module 1 Load Name、 Module 2 Load Name、 Login user ID、 Built in Bridge、 MLPP Indication、 MLPP Preemption、 MLPP Domain、 Retry Video call as Audio、 Privacy、 Security Mode、 Ignore Presentation Indicators、 Single Packet Capture mode、 Packet Capture Duration、 Certificate Operation、 Authentication Mode、 Authentication String、 Key Size (bits)、 Operation Completes By
モデル固有のデバイス フィールド	Information、 Directory、 Messages、 Services、 Authentication Server、 Proxy Server、 Idle、 Idle Timer、 Enable Extension Mobility、 Logout Profile、 Login User ID、 Login Time、 Logout Time、 Product Specific XML
回線フィールド	Directory Number、 Partition、 Voice Mail Profile、 Line CSS、 AAR Group、 Line User Hold Audio Source、 Line Network Hold Audio Source、 Auto Answer、 Forward All to Voice Mail、 Forward All Destination、 Forward All CSS、 Forward Busy External to Voice Mail、 Forward Busy External Destination、 Forward Busy External CSS、 Forward No Answer External to Voice Mail、 Forward No Answer External Destination、 Forward No Answer External CSS、 Forward On Failure to Voice Mail、 Forward On Failure Destination、 Forward on Failure CSS、 Call pickup group、 Forward Busy Internal to Voice Mail、 Forward Busy Internal Destination、 Forward Busy Internal CSS、 Forward No Answer Internal to Voice Mail、 Forward No Answer Internal Destination、 Forward No Answer Internal CSS、 Forward No Call Coverage External to Voice Mail、 Forward No Call Coverage External Destination、 Forward No Call Coverage External CSS、 Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、 Forward No Call Coverage Internal Destination、 Forward No Call Coverage Internal CSS、 Display、 External Phone Number Mask、 Message Waiting Lamp Policy、 Ring Setting When Idle、 Line Text Label、 Ring Setting When Active、 No Answer Ring Duration、 MLPP Target Destination、 MLPP Calling Search Space、 MLPP No Answer Ring Duration、 Max Num Calls、 Busy Trigger、 Call Info Display Mask、 Alerting Name
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、 Speed Dial Label
サービス	Service Name、 Subscribed Service Name、 Parameter Name、 Parameter Value

その他の情報

詳細については、[P.9-6](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機レコードのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager から電話機レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のオプションのいずれかを選択してください。

- [一括管理] > [電話] > [電話のエクスポート] > [固有の詳細] の順に選択します。[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- [一括管理] > [電話] > [電話のエクスポート] > [すべての詳細] の順に選択します。[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のオプションから値を選択します。

- [All Phone Details] オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイスのタイプが特定のモデルを選択します。この形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 9-1 を参照してください。ステップ 5 に進みます。
- [固有の詳細] オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイスのタイプが特定のモデルを選択します。Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 9-2 を参照してください。

ステップ 3 [固有の詳細] を選択した場合は、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [SIP] または [SCCP] を選択します。

ステップ 4 [固有の詳細] では、エクスポートする電話機セットを選択するとエクスポート ファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細は設定できません。

- a. 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [デバイス名]
 - [説明]
 - [電話番号]
 - [コーリングサーチスペース]
 - [デバイスプール]
 - [コールピックアップグループ]
 - [LSC ステータス]
 - [認証文字列]
 - [セキュリティプロファイル]
- b. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる]
 - [が次の文字列を含む]
 - [が次の文字列と等しい]
 - [が次の文字列で終わる]
 - [が空である]
 - [が空ではない]
- c. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値 (たとえば、デバイス名) を選択するか、入力します。

- d. 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ c. を繰り返します。
- e. [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。
- f. [次へ] をクリックします。[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- g. [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のファイル形式を選択します。

ステップ 5 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスにエクスポート ファイル名を入力します。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座にエクスポートするか、[後で実行] をクリックして後でエクスポートします。

ステップ 8 [送信] をクリックして、電話機レコードをエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

エクスポート ファイルは、[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、第 2 章「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.9-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート

電話機を制御する複数のユーザを持つ電話機レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティにより各ユーザについて一意の電話機レコードが生成されます。電話機情報は同じままですが、各レコードのユーザ ID は異なります。

エクスポート ファイル名には、タイムスタンプのサフィックスが付加されます。電話をエクスポートするジョブが反復的にスケジュールされている場合、情報は同じファイル名でエクスポートされますが、タイムスタンプが異なります。

複数ユーザを持つ電話機が含まれたエクスポート ファイルをインポートすると、すべてのユーザが同じレコードにエクスポートされます。

インポート トランザクションのログ ファイルには、電話機と関連付けられた最初のユーザ以外のすべてのユーザの電話機の挿入が失敗したことが示されます。

その他の情報

詳細については、P.9-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [電話機レコードのエクスポート \(P.9-4\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(P.20-1\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(P.41-4\)](#)



電話回線の追加と更新

特定のデバイス グループまたは特定のユーザ デバイス プロファイル グループ用の回線アトリビュートを更新するには、[回線の更新] オプションを使用します。クエリー結果に電話機用の回線とユーザ デバイス プロファイル用の回線の両方が含まれている場合は、両回線が同時に更新されます。



(注)

電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されても、電話番号はデータベース内に残っています。これらの孤立した電話番号を管理するには、[回線の更新] オプションを使用して割り当てられていない電話番号を検索し、これらの電話番号を削除または更新することができます。

Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存の電話機のグループ、またはユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加することができます。テンプレートを使用して新しい回線を追加すると、電話サービスまたは短縮ダイヤルを変更することはできません。既存の電話機に回線を追加する場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ではテンプレートのこれらのフィールドが無視されます。

回線のアトリビュートを更新し、回線を追加し、既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイルに回線を追加する手順は、次のとおりです。

- [クエリーを使用した回線の更新 \(P.10-2\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.10-10\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加 \(P.10-11\)](#)

クエリーを使用した回線の更新

回線を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [回線の追加 / 更新] > [回線の更新] の順に選択するか、[一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [回線の追加 / 更新] > [回線の更新] の順に選択します。

[回線の更新のクエリー (Update Lines Query)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定しなければ、すべての回線を更新できます。P.10-4 の「回線を更新する場合のフィールドの説明」に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : 回線、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [電話番号]
- [ルートパターン]
- [回線の説明]
- [CSS(電話)]
- [CSS(回線)]
- [デバイスプール]
- [デバイスの説明]
- [回線の位置]
- [未定義の DN]
- [コールピックアップグループ]



(注) 孤立した電話番号を検索して削除するには、「未定義の DN」を使用します。

2 番目の [検索対象 : 回線、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストから回線の位置を選択するか、電話番号の範囲を入力します。



ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

検索された回線のリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]

ステップ 6 [次へ] をクリックします。最上部で選択したクエリーのタイプが、[回線の更新 (Update Lines)] ウィンドウに表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 7 クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、P.10-4 の「[回線を更新する場合のフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 8 チェックマークが付いたパラメータの値フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして回線を即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 11 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 12 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.10-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線を更新する場合のフィールドの説明

表 10-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、P.10-14 の「関連項目」を参照してください。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明






フィールド	説明
[Line Partition]	<p>パーティションを選択します。パーティションは、電話番号が属するルートパーティションを指定します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space (Line)、回線)]	<p>この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。</p> <p> (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるコールピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)]	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>すべてのコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)






フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない外部番号からのコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない内部番号からのコールをボイスメッセージプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
[カバレッジなし転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [着信先別 (Destination)]	<p>(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>(CTI ポートのみ) 外部番号または内部番号からの失敗したコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[無応答時の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration、秒)]	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、[無応答時転送 (Forward No Answer)] の [着信先別 (Destination)] フィールドで入力された電話番号にコールを転送します。</p> <p> (注) Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータの [無応答時転送 (Forward No Answer Timer)] で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが保留ボタンまたはソフトキーを押してコールを保留にしたときに再生される保留音オーディオソースを選択します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコールパークを開始したとき) に再生される保留音オーディオソースを選択します。
[自動応答 (Auto Answer)]	ここで更新されるすべての回線で自動応答機能を使用する場合は、このパラメータを選択します。自動応答を使用すると、ヘッドセットが使用中であるときに、Cisco Unified Communications Manager が自動的にコールに応答します。着信コールが接続されていることをユーザに知らせるアラート音 (ジップトーン) が再生されます。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	電話機に着信コールがあった場合の呼び出し音のタイプを選択します。
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	この電話機に異なる回線で別のアクティブコールがあった場合に使用される、着信コールの呼び出し音のタイプを選択します。
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	コールピックアップグループ名を選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[転送先 (Target、着信先)]	<p>この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。</p> <p>値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。</p>
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リストボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。

表 10-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	<p>優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルートポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>



(注) 手順を完了するには、P.10-2 の「クエリーを使用した回線の更新」に進みます。

既存の電話機および UDP への回線の追加

既存の電話機および UDP に回線を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- このトランザクションには BAT テンプレートが必要です。詳細については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。
- このトランザクションには CSV データ ファイルが必要です。詳細については、[P.10-11 の「BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [回線の追加 / 更新] > [回線の追加] の順に選択します。

[電話回線の追加 (Phone Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ電話機情報も更新されます。

ステップ 4 テンプレートの選択領域で、次のオプションのいずれかを選択します。

- 電話機に回線を追加するには、[Phone Template] を選択します。
[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクションに使用する BAT 電話機テンプレートを選択します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、既存の電話機および UDP に回線を追加するジョブを作成します。

ステップ 8 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.10-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加

既存の電話機に回線を追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Add Lines] タブをクリックします。
- ステップ 4** スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。表 10-2 では、BAT スプレッドシートで回線を追加する場合のフィールドを説明しています。
- ステップ 5** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles\ に保存されます。あるいは [Browse] を使用してローカルワークステーション上の別の既存フォルダに保存することもできます。ファイル名は次のとおりです。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



- (注)** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。

ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。



- (注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウで [View Sample File] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.10-14 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

表 10-2 では、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、P.10-14 の「関連項目」を参照してください。

表 10-2 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明










フィールド	説明
MAC Address	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有の ID を入力します。
Line Index	電話機の回線インデックスに 1 ~ 34 までの数字を入力します。
Directory Number	この回線の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Display	<p>コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) このフィールドを空白にしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Line Text Label	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Forward Busy External	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 10-2 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer External	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Call Pickup Group	<p>コールピックアップグループ名を入力してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。</p>

関連項目

- [クエリーを使用した回線の更新 \(P.10-2\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.10-10\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加 \(P.10-11\)](#)



電話機のリセットまたは再起動

アトリビュートを更新しなくても、デバイスをリセットまたは再起動できます。問題が発生したために、複数の電話機をバルク トランザクションによってリセットまたは再起動する必要がある場合に、この手順を使用します。

次の 2 つの方法のいずれかを使用して、リセットまたは再起動する電話機を検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-3\)](#)

クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動

電話機を検索するためのクエリーを作成して電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話のリセット / リスタート] > [クエリー] の順に選択します。

[電話のリセット / リスタート (Reset/Restart Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]
- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]

■ クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動

2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 3 の手順を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

ステップ 7 次のオプションのいずれかをクリックします。

- [リセット]: 電話機をリセット (電源をオン / オフ) します。
- [リスタート]: 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 10 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 11 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.11-4 の「関連項目」を参照してください。

カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動

テキスト エディタを使用して、リセットまたは再起動する電話機のカスタム ファイルを作成できます。カスタム ファイルのデバイス名または電話番号のいずれかを使用できます。

始める前に

1. リセットまたは再起動する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 説明
 - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[電話]>[電話のリセット/リスタート]>[カスタムファイル]の順に選択します。

[電話のリセット/リスタート(カスタム)(Reset/Restart Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [更新対象:電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [デバイス名](MAC アドレスを含む)
- [電話番号]
- [説明]

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。



注意

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機がリセットまたは再起動されます。

ステップ 4 [検索]をクリックします。

ステップ 5 次のオプションのいずれかをクリックします。

- **[リセット]**: 電話機をリセット（電源をオン / オフ）します。
- **[リスタート]**: 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 8 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 9 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.11-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.11-3\)](#)



電話機レポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、最初のノード サーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

例

電話機モデル別に、転送宛先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco Unified IP Phone モデル 7960 の電話機レポートを生成して、クエリー詳細 ([Device Name]、[Directory Number]、[Forward Busy Destination]、[Forward No Answer Destination]、および [Label]) を選択できます。レポート フィールドを整理して、[Label] フィールドが [Directory Number] フィールドの後ろ、2 つの転送宛先番号の前に位置するように調整できます。

その他の情報

詳細については、[P.12-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機のレポートの生成

電話機および他の IP テレフォニー デバイスのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話レポートの作成] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索 : 電話、検索条件 :] ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド ([デバイス名] や [電話番号] など) を選択します。

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リストボックスで、[が次の文字列で始まる] [が次の文字列を含む] [が空である] などの検索条件を選択します。

ステップ 4 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値 (たとえば、リストからのモデル名または電話番号範囲) を選択するか、入力します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機についてレポートを生成するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索された電話機のリストが表示されます。

ステップ 8 [次へ] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 9 [レポートファイル名 (Report File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 10 使用可能な [デバイスフィールド (Device Fields)] ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイスフィールドおよび回線フィールドについては、P.12-3 の「電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート」を参照してください。

ステップ 11 このレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 12 使用可能な [回線フィールド (Line Fields)] ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

ステップ 13 このレポート リストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



(注) レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

ステップ 14 レポートに IP Phone サービスのフィールドを追加するには、[短縮ダイヤルサービス (Speed Dial Services)] チェックボックスまたは [IP Phone サービス (IP Phone Services)] チェックボックス (あるいはその両方) をオンにします。

ステップ 15 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 16 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

ステップ 17 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 18 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.12-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート

すべての電話機および IP テレフォニー デバイスの電話機レポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- [デバイス名]: フィルタまたは正確な名前を指定します。
- [説明]: フィルタまたは正確な説明を指定します。
- [デバイスプール]: クラスタに設定されているデバイス プールのリストから 1 つを選択します。
- [コーリングサーチスペース]: クラスタに設定されている CSS のリストから 1 つを選択します。
- [電話番号]: フィルタまたは正確な番号を指定します。

電話機レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- AAR Calling Search Space
- AAR Neighborhood
- Authentication String
- Built In Bridge
- Calling Search Space
- CSS Reroute
- Certificate Operation
- Certificate Status
- Common Profile
- Country
- Description
- Device Name
- Device Pool
- Device Profile
- Device Protocol
- Device_Default Profile
- Dial Rules
- LastLogin User ID
- Load Information
- Location
- Login Duration
- Login Time
- MLPP Domain
- MLPP Indication
- Media Resource List
- Model
- Network Hold MOH Audio Source ID
- Network Location
- Packet Capture Duration
- Packet Capture Mode
- Phone Template
- Preemption
- Privacy
- Product
- Public Key
- Qsig
- SIP Profile
- Secure Shell Password
- Secure Shell User ID
- Security Profile

- Softkey Template
- Upgrade Finish Time
- User ID

次の回線フィールドから選択できます。

- Alerting Name
- Auto Answer
- CSS_Device Failure
- CSS_mwi
- Call Forward duration
- Calling Line Presentation Bit
- Calling Name Presentation Bit
- Calling Party Prefix Digits
- Connected Line Presentation Bit
- Connected Name Presentation Bit
- Device Failure DN
- Directory Number
- Forward All CSS
- CSS (Forward Busy External)
- Forward Busy Internal CSS
- CSS (Forward No Answer External)
- Forward No Answer Internal CSS
- CSS (Forward On Failure)
- Forward No Coverage External CSS
- Forward No Coverage Internal CSS
- Forward All Destination
- Forward Busy External Destination
- Forward Busy Internal Destination
- Forward No Answer External Destination
- Forward No Answer Internal Destination
- Forward on Failure Destination
- Forward No Coverage External Destination
- Forward No Coverage Internal Destination
- Forward on CTI Failure CSS
- Line AAR Neighborhood
- Line Alerting Name ASCii
- Line Description
- Line Network Hold Audio Source
- MLPP No Answer Ring Duration (Seconds)
- Route Partition
- Secondary Call Forward All CSS
- Target CSS
- Target Destination
- User Hold MOH Audio Source

その他の情報

詳細については、[P.12-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成

ダミー MAC アドレスを使用している電話機のリストを生成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [電話] > [電話レポートの作成] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイス名] を選択します。
 - ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[が次の文字列で始まる] を選択します。
 - ステップ 4** テキスト フィールドに、BAT と入力します。ダミー MAC アドレスを使用して追加されたすべての電話機のデバイス名は、先頭が BAT で始まります。
 - ステップ 5** [検索] をクリックします。「BAT」で始まるテキストのデバイス名がクエリー テキストボックスに表示されます。
 - ステップ 6** [次へ] をクリックします。[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 7** 電話機のレポートの生成手順の[ステップ 9](#)に進んで、レポートを完成します。
-

その他の情報

詳細については、[P.12-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納されます。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.12-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [電話機のレポートの生成 \(P.12-2\)](#)
- [電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート \(P.12-3\)](#)
- [ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成 \(P.12-6\)](#)
- [レポート ログ ファイルの表示 \(P.12-7\)](#)



電話機の移行

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、一連の電話機を Skinny Client Control Protocol (SCCP) から Session Initiation Protocol (SIP) に移行することができます。

電話機の移行

電話機を移行する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話の移行] > [SCCP から SIP] の順に選択します。

[電話の移行—SCCP から SIP(Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウが表示されます。



(注) SIP への SCCP 電話機の移行では、移行時に電話機がリセットされるので、手動リセットは必要ありません。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]
- [ロケーション]
- [電話ロード名]
- [セキュリティプロファイル]

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : 電話、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント

データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリーを定義するには、[絞り込み 使用] ドロップダウン リスト ボックスに対応するチェックボックスをオンにします。[AND] または [OR] を選択して、複数のフィルタを追加できます。ステップ 2 ~ 4 の手順を繰り返します。

ステップ 6 [検索] をクリックします。

検索された電話機のリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから電話機テンプレートを選択します。



(注) SCCP から SIP への移行では、テンプレートにある SIP プロトコルに固有のデフォルト値のみが移行時に処理されます。テンプレートの他の値は処理されません。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に移行するか、[後で実行] をクリックして後で移行します。

ステップ 11 [送信] をクリックして、電話機レコードを移行するジョブを作成します。



(注) SSCP から SIP へ電話を移行するためのジョブを送信した後、必ずこれらの電話をリセットします。[一括管理]>[電話]>[電話のリセット / リスタート]>[クエリー]の順に選択します。詳細については、P.11-1 の「クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動」を参照してください。

ステップ 12 [一括管理]メインメニューの[ジョブスケジューラ]オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.13-3 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- 電話機の移行 (P.13-1)
- クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 (P.11-1)
- ジョブのスケジュール



インターコムの追加と更新

インターコム機能を使用すると、ユーザが別のユーザへコールしたときに、着信側がビジー状態かアイドル状態かにかかわらず、発信側から着信側への一方向メディアを使用して、そのコールに自動的に応答させることができます。

インターコムの追加 / 更新ユーティリティを使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバにインターコムを一括して追加または更新することができます。インターコムを追加または更新する手順は、次のとおりです。

- [インターコムの DN の更新 \(P.14-1\)](#)
- [インターコムの DN の追加 \(P.14-3\)](#)

インターコムの DN の更新

インターコムの DN を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [インターコムの DN の追加 / 更新] > [インターコムの DN の更新] の順に選択します。[インターコム電話番号の更新] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: インターコム電話番号、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [インターコム電話番号]
- [ルートパーティション]
- [説明]

ステップ 3 2 番目の [検索: インターコム電話番号の更新、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、テキスト フィールドに適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのインターコムの DN を検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義するには、**[AND]** または **[OR]** を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 3 の手順を繰り返します。

ステップ 6 **[検索]** をクリックします。

検索されたインターコムの DN のリストが、次の項目別に表示されます。

- [インターコムの DN/ パターン]
- [ルートパーティション]
- [説明 (Description)]

ステップ 7 **[次へ]** をクリックします。次の **[インターコム電話番号の更新]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、P.14-4 の「[インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

インターコムの DN の追加

インターコムの DN を Cisco Unified Communications Manager サーバに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択するデータ ファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [インターコムの DN の追加 / 更新] > [インターコムの DN の追加] の順に選択します。[インターコム DN の一括挿入 (Bulk Intercom DN Insert)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 [電話機テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウン リストボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

ステップ 4 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話機ボタン テンプレートの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。既存の設定の上書きはオプションです。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

このトランザクションのデフォルトのジョブの説明は、「Insert Intercom DNs」です。

ステップ 6 インターコムの DN を即座に追加するには [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。インターコムの DN を後で追加するには、[後で実行 (Run Later、このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックします。

ステップ 7 インターコムの DN を追加するジョブを作成するには、[送信] をクリックします。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用します。


ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明

表 14-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。

表 14-1 インターコムの DN の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを選択します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[説明 (Description)]	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[インターコム電話番号の設定 (Intercom Directory Number Settings)]	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートが属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。 プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.14-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [インターコムの DN の更新 \(P.14-1\)](#)
- [インターコムの DN の追加 \(P.14-3\)](#)
- [インターコムの DN を更新する場合のフィールドの説明 \(P.14-4\)](#)



PART 4

ユーザ



ユーザの追加

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースで新しいユーザのグループを追加し、ユーザを電話機や他の IP テレフォニーデバイスに関連付けることができます。



(注)

社内ディレクトリを使用しており、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 同期が有効である (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム] > [LDAP] > [LDAP システム] の順に選択) 場合は、BAT を使用してユーザを挿入 / 更新または削除することはできません。LDAP の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド 5.0』を参照してください。

この章では、ユーザの一括処理について説明します。

次のトピックでは、ユーザ レコードを管理する方法について説明します。また、電話機とユーザ、または CTI ポートとユーザ レコードなどの、Cisco Unified Communications Manager LDAP ディレクトリ内のユーザの組み合わせを一括管理する方法について説明します。

- [ユーザの追加 \(P.15-2\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート \(P.20-1\)](#)
- [ユーザ レポートの生成 \(P.22-1\)](#)

ユーザの追加

複数のユーザを Cisco Unified Communications Manager LDAP ディレクトリに一括して追加する手順は、次のとおりです。

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、追加するユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、[P.15-3 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
 - ユーザ用のテキストベース CSV データ ファイルの作成方法については、[P.A-7 の「ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。
2. BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリにユーザを挿入します。詳細については、[P.17-1 の「Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入」](#)を参照してください。



(注) 追加するユーザに Cisco IP SoftPhone などの CTI ポートを必要とするアプリケーションがある場合、BAT を使用して CTI ポートを既存のユーザに関連付けられます。

その他の項目

詳細については、[P.15-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリに新しいユーザを追加するために詳細を BAT スプレッドシートに記述したあと、それを CSV データ ファイルに変換できます。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

新しいユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを検索し、それをダブルクリックします。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** ユーザを追加するには、スプレッドシートの下部にある [Users] タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。

各行に、表 15-1 で説明されている情報を指定します。ユーザが複数のデバイスを持つ場合、デバイス名フィールドは各デバイスに 1 つずつ設定します。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明

フィールド	説明
First Name	電話機ユーザの名を 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Middle Name	電話機ユーザのミドルネームを 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Last Name	電話機ユーザの姓を 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
User ID	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ~ 30 文字で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Password	Cisco IP Phone 設定ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを、20 文字以内で入力します。 パスワードは、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データ ファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Manager User ID	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
Department	電話機ユーザの所属部門番号を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
PIN	<p>エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 20 桁以内の数値で入力します。</p> <p>PIN は、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザテンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データ ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。このフィールドには、数字しか指定できません。</p>
Default Profile	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイルを、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロファイルは、BAT に表示される Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の既存の UDP のリストから選択できます。
User Locale	このユーザに関連付ける言語と国 / 地域のセットを入力します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Controlled Device 1	<p>このユーザに関連付ける電話機またはデバイスの名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p> (注) スプレッドシートの右端の [Number of Controlled Devices] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[Controlled Device] フィールドが表示されます。</p>
Telephone Number	電話機のプライマリ内線 (通常は、回線 1) の電話番号を 50 桁以内で入力します。
Primary Extension	このフィールドは、ユーザが追加され、ユーザのプライマリ電話番号が設定された後に表示されます。デバイスをユーザに割り当てる場合は、プライマリ回線を選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。
Associated PC	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
IPCC Extension	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンドユーザの ICD 内線を選択します。
Mail ID	Release 5.0(2) の Cisco Unified Communications Manager の管理機能には、この説明があります。

表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Controlled Device 2	<p>このユーザに関連付ける追加の電話機の名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p> (注) スプレッドシートの右端の [Number of Controlled Devices] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[Controlled Device] フィールドが表示されます。</p> <p> (注) まず、Controlled Device 1 フィールドに値を入力してから Controlled Device エントリを追加する必要があります。</p>
Presence Group	<p>電話番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを入力します。</p> <p>プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンス登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、他のすべてのコーリングサーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース])。</p> <p>コーリングサーチ スペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。</p>
Digest Credentials	<p>SIP 電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。</p> <p>このフィールドには、英数字の文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
User Group	<p>ユーザが属するユーザ グループを入力します。</p> <p> (注) スプレッドシートの右端の [Number of User Groups] フィールドをゼロより大きい数に設定すると、[User Group] フィールドが表示されます。</p>

ステップ 5 新しいユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[**Add More Devices**] ボタンをクリックします。



(注) CTI ポート、ATA ポート、および H.323 クライアントなど、すべてのデバイスをユーザに関連付けることができます。



(注) BAT を使用して、自動生成されたデバイス プロファイルを新しいユーザに関連付けるために、BAT 管理者は、xlt の [User Device Profile] カラムに ADP 名を入力することができます。

ステップ 6 [**Export to BAT Format**] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。または、[**Browse**] を使用してファイルを別の既存フォルダに保存できます。ファイル名は次のとおりです。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager データベース サーバの最初のノードにアップロードして、BAT がデータ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [ユーザの挿入 (Insert Users Configuration)] ウィンドウで、[**View Sample File**] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、[P.15-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.15-2\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート \(P.20-1\)](#)
- [ユーザ レポートの生成 \(P.22-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



ユーザ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ユーザ テンプレートを使用すると、共通のユーザ アトリビュートを定義して、新しいユーザのグループを追加することができます。

次のトピックを使用して、BAT ユーザ テンプレートに関する作業を行います。

- [BAT ユーザ テンプレートの検索方法 \(P.16-2\)](#)
- [新しいBAT ユーザ テンプレートの作成 \(P.16-3\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートの変更 \(P.16-4\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのコピー \(P.16-4\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.16-5\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(P.16-6\)](#)

BAT ユーザテンプレートの検索方法

複数のユーザテンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の検索条件に基づいて特定のユーザテンプレートを探し出すことができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアントマシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザテンプレート] の順に選択します。

[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザテンプレート、検索条件] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザテンプレート名]
- [部署名]

2番目の [検索対象: ユーザテンプレート、検索条件] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザテンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザテンプレート (User Template)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するユーザテンプレートをクリックします。

選択したユーザテンプレートがウィンドウに表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.16-8の「関連項目」](#)を参照してください。

新しいBAT ユーザテンプレートの作成

新しいユーザテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ1 [一括管理]>[ユーザ]>[ユーザテンプレート]の順に選択します。

[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)]ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [新規追加]をクリックします。[ユーザテンプレート (User Template Configuration)]ウィンドウが表示されます。

ステップ3 このグループのユーザに共通するユーザ設定を入力します。詳細については、[P.16-6の「BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。

ステップ4 [保存]をクリックします。

ユーザテンプレートをデータベースに追加すると、トランザクションが完了したことを示すステータスが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.16-8の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT ユーザテンプレートの変更

既存のユーザテンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.16-2 の「BAT ユーザテンプレートの検索方法」の手順に従って、変更するユーザテンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [ユーザテンプレート (User Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、P.16-6 の「表 16-1BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
 - ステップ 3** 設定値を変更した後、[保存] をクリックしてテンプレートを更新します。
-

その他の情報

詳細については、P.16-8 の「関連項目」を参照してください。

BAT ユーザテンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、ユーザテンプレートのプロパティを新しいユーザテンプレートにコピーできます。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.16-2 の「BAT ユーザテンプレートの検索方法」の手順に従って、コピーするユーザテンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [ユーザテンプレート (User Template Configuration)] ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、[コピー] をクリックします。

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。
 - ステップ 3** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、P.16-6 の「表 16-1BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
 - ステップ 4** [保存] をクリックします。
-

その他の項目

詳細については、P.16-8 の「関連項目」を参照してください。

テンプレートの削除

BATテンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.16-2の「BAT ユーザテンプレートの検索方法」の手順に従って、削除するユーザテンプレートを検索します。

ステップ 2 [ユーザテンプレート (User Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除] をクリックします。



(注) [ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] でユーザテンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[ユーザテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウのユーザテンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。



(注) 特定のユーザテンプレートを使用するジョブを送信し、そのジョブが実行される前にユーザテンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。この場合、ユーザテンプレートを再作成し、もう一度ジョブを送信する必要があります。

その他の項目

詳細については、P.16-8の「関連項目」を参照してください。

BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明

表 16-1 では、BAT ユーザテンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。関連する手順については、P.16-8 の「関連項目」を参照してください。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 16-1 BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[ユーザテンプレート名]	ユーザテンプレートの一意的な名前を 30 文字以内の英数字で入力します。
[パスワード (Password、半角英数字のみ)]	<p>Cisco IP Phone 設定ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを、20 文字以内で入力します。</p> <p>パスワードは、CSV データファイルに指定する必要があります。または、ユーザテンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。このフィールドには、半角英数字しか指定できません。</p>
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	確認のためにパスワードを再入力します。
[ユーザ ID のデフォルトパスワード (Default Password to User ID)]	このチェックボックスをオンにすると、すべてのユーザで、ユーザ ID がデフォルトのパスワードとなります。
[PIN (PIN、半角数字のみ)]	<p>エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 20 桁以内の数値で入力します。</p> <p>PIN は、CSV データファイルに指定する必要があります。または、ユーザテンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。このフィールドには、数字しか指定できません。</p>
[PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)]	確認のために PIN を再入力します。
[電話番号のデフォルト PIN (Default PIN to Telephone Number)]	このチェックボックスをオンにすると、電話番号がデフォルトの PIN となります。
[プライマリ内線のデフォルト電話番号 (Default Telephone Number to Primary Extension)]	このチェックボックスをオンにすると、電話番号がプライマリ内線となります。
[ユーザ ID のデフォルトメール ID (Default Mail ID to User ID)]	このチェックボックスをオンにすると、ユーザ ID がデフォルトのメール ID となります。

表 16-1 BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[マネージャのユーザ ID(Manager User ID)]	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
[部署名 (Department)]	電話機ユーザの所属部門番号を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
[ユーザロケール (User Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
[割り当てられた PC(Associated PC)]	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	[デフォルトのプロファイル (Default Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、このユーザのデフォルトのプロファイルを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを入力します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンス登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリングサーチスペースを設定するには、他のすべてのコーリングサーチスペースと同様にコーリングサーチスペースを設定します ([コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース])。 コーリングサーチスペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

表 16-1 BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	SIP 電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェストユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。 このフィールドには、英数字の文字列を入力します。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	このチェックボックスをオンにすると、CTI がこのデバイスを制御、監視できます。 関連付けられた電話番号がシェアラインを指定している場合、少なくとも1つの関連付けられたデバイスが、デバイスタイプおよび CTI がサポートするプロトコルの組み合わせを指定している限り、チェックボックスをオンにする必要があります。
[ユーザグループ (User Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザが属するユーザグループを選択します。



(注)

BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、P.16-3 の「[新しいBAT ユーザテンプレートの作成](#)」に進みます。

関連項目

- [BAT ユーザテンプレートの検索方法 \(P.16-2\)](#)
- [新しいBAT ユーザテンプレートの作成 \(P.16-3\)](#)
- [BAT ユーザテンプレートの変更 \(P.16-4\)](#)
- [BAT ユーザテンプレートのコピー \(P.16-4\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.16-5\)](#)
- [BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明 \(P.16-6\)](#)



ユーザの挿入

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager ディレクトリに追加することができます。

Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入

ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager ディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ユーザ名、制御対象のデバイス名、および電話番号が格納されている CSV データ ファイルが必要です。この CSV データ ファイルは、次のいずれかの方法で作成できます。

- BAT スプレッドシートを CSV 形式に変換する。
- エクスポートユーティリティで、ユーザデータのエクスポートファイルを作成する。

エクスポートユーティリティを使用して生成したファイルを挿入する場合は、_MgrLevel# サフィックスに基づいて、降順でファイルを挿入します。ここで、# は 1 ~ 20 です。[マネージャのユーザ ID] フィールドでマネージャのユーザ ID が使用される前にマネージャのユーザレコードが配置されるようにするために、_user サフィックスを持つファイルは最後に挿入します。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザの挿入] の順に選択します。

[ユーザの挿入 (Insert Users Configuration)] ページが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 エクスポートユーティリティを使用して作成した CSV データ ファイルの場合は、[ユーザのエクスポートで作成したファイル (File created with Export Users)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、挿入に使用するユーザテンプレートを選択します。



(注) ユーザ デバイス プロファイル、コントロール デバイス名、および電話番号は、すでに Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している必要があります。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザ レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックしてユーザ レコードを後で挿入します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、ユーザ レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。



(注) ユーザを挿入するために CSV ファイルに入力したフィールド値によって、ユーザ テンプレートに設定された値が上書きされます。



(注) エクスポートした BAT ファイルを使用してユーザを挿入している場合、複数のファイルにエクスポートされたユーザについて、「ユーザ ID がすでに存在している」というエラーが表示されることがあります。たとえば、1 つ目の回線マネージャのリストとユーザのリストが、どちらも同じマネージャ ユーザ ID を含んでいることがあります。

その他の項目

詳細については、P.17-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [新しい BAT ユーザ テンプレートの作成 \(P.16-3\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(P.16-6\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのユーザの挿入 \(P.17-1\)](#)



ユーザの更新

データベースにある既存のユーザ情報を更新する手順は、次のとおりです。

- [ユーザの更新 \(P.18-1\)](#)
- [格納済みの値の保持 \(P.18-2\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成 \(P.18-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新 \(P.18-5\)](#)

ユーザの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースにある既存のユーザ情報を更新する手順は、次のとおりです。

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、更新するユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、[P.18-2 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-9 の「ユーザのファイル形式の更新」](#)を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する方法については、[P.18-2 の「格納済みの値の保持」](#)を参照してください。

2. Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースにある更新されたユーザ レコードを挿入します。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新 \(P.18-5\)](#) を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.18-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

格納済みの値の保持

ユーザレコードを更新する場合、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する必要があることがあります。この場合、値を保持する必要があるフィールドに対して、「#」などの記号を使用することができます。次の CSV データ ファイルの例では、# を入力することによって、すでに DC ディレクトリに入力されている [Manager] フィールドの値が保持されます。

```
userid,#,department,,,123456789012,
```

格納されている値を保持するために使用する値を識別する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザの更新] の順に選択します。

[ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] ボックスを確認します。更新されたユーザの値を CSV データ ファイルに挿入する場合は、その値を保持するための記号をこのボックスに入力する必要があります。

ステップ 3 値を保持するために使用する記号を決定します。

ステップ 4 [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] ボックスと同じ値を BAT スプレッドシート ボックスに入力します。

ステップ 5 この記号を BAT スプレッドシート フィールドで保持する必要がある値に対して使用します。

その他の項目

詳細については、[P.18-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成

既存のユーザのグループを更新するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 BAT.xlt ファイルをダウンロードして開きます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

ステップ 2 プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。

ステップ 3 ユーザ情報を追加するには、スプレッドシート下部の [Update Users] タブをクリックします。

ステップ 4 すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの説明については、表 18-1 を参照してください。

表 18-1 ユーザ更新用の BAT スプレッドシートのフィールドの説明

フィールド	説明
User ID	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ~ 30 文字で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Manager	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Department	電話機ユーザの所属部門番号を 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Default Profile	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイルを、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロファイルは、BAT に表示される Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の既存の UDP のリストから選択できます。
User Locale	このユーザに関連付ける言語と国 / 地域のセットを 50 文字以内で入力します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Password	Cisco IP Phone 設定ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを、20 文字以内で入力します。 パスワードは、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データ ファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
PIN	エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 20 桁以内の数値で入力します。 PIN は、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ユーザ テンプレートを追加するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データ ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。このフィールドには、数字しか指定できません。
Telephone Number	電話番号を入力します。
Primary Extension	このフィールドは、ユーザが追加され、ユーザのプライマリ電話番号が設定された後に表示されます。デバイスをユーザに割り当てる場合は、プライマリ回線を選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。 システムが Unity と統合するように設定されている場合、[Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクが表示されます。

表 18-1 ユーザ更新用の BAT スプレッドシートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Associated PC	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified Communications Manager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加されると表示されます。
IPCC Extension	このエンドユーザの ICD 内線を入力します。
Mail ID	電子メール ID を入力します。
Presence Group	電話番号、プレゼンス エンティティのステータスを監視するプレゼンス グループを入力します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
SUBSCRIBE Calling Search Space	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リストボックスに表示されます。 [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] は、エンドユーザからのプレゼンス登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。特にこの目的のためにコーリング サーチ スペースを設定するには、他のすべてのコーリングサーチ スペースと同様にコーリング サーチ スペースを設定します ([コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース])。 コーリング サーチ スペースの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Digest Credentials	SIP 電話機にダイジェスト認証を設定すると、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager が電話機の身元を確認します。このフィールドに入力されたダイジェスト信用証明書は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択したときに、電話機に関連付けられます。 このフィールドには、英数字の文字列を入力します。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

ステップ 5 DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] ボックスに入力します。保持するフィールドの値に同じ値を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[Export to BAT format] ボタンをクリックします。

このファイルは、デフォルトのファイル名が付けられて C:\XLSDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

Update_Users-timestamp.txt (または、別のファイル名を指定)



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の[ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウで、[View Sample File] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.18-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリでユーザ レコードのグループを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

更新されたユーザ情報がある CSV データ ファイルが必要です。手順については、P.18-2 の「[BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザの更新] の順に選択します。

[ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウン リストボックスで、このバルク トランザクション用に作成したユーザ テンプレートを選択します。

ステップ 4 DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を[無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] ボックスに入力します。詳細については、P.18-2 の「[格納済みの値の保持](#)」を参照してください。



(注) ユーザを更新するために CSV ファイルに入力した値によって、ユーザ テンプレートに設定された値が上書きされます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザ レコードを即座に更新するか、[後で実行] をクリックしてユーザ レコードを後で更新します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、ユーザ レコードを更新するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.18-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザの更新 \(P.18-1\)](#)
- [格納済みの値の保持 \(P.18-2\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成 \(P.18-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager 内のユーザの更新 \(P.18-5\)](#)
- [ファイルのアップロードとダウンロード](#)



ユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのユーザ グループは削除できます。既存のユーザ レコードは、次の 2 つの方法のいずれかによって検索できます。

- [クエリーを使用したユーザの削除 \(P.19-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザの削除 \(P.19-3\)](#)

クエリーを使用したユーザの削除

クエリー フィルタを作成してユーザ レコードを検索し、ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ユーザ レコードを検索するためのクエリーを作成してユーザを削除する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザの削除] > [クエリー] の順に選択します。

[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [マネージャ]
- [部署名]

2 番目の [検索対象: ユーザ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]

■ クエリーを使用したユーザの削除

- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]
- [LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザ レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックしてユーザ レコードを後で削除します。

ステップ 8 [送信] をクリックして、ユーザ レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.19-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用したユーザの削除

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索して削除できます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザの削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[ユーザの削除 (カスタム) (Delete Users Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象: ユーザ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [部署名]

ステップ 3 [カスタムファイル] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 クエリーに必要な情報が含まれていることを確認し、[検索] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザ レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックしてユーザ レコードを後で削除します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、ユーザ レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.19-4 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [クエリーを使用したユーザの削除 \(P.19-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザの削除 \(P.19-3\)](#)



ユーザのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用してユーザレコードをエクスポートすると、エクスポートユーティリティによりデータベース内の組織階層に基づいてユーザがソートされます。

[ユーザのエクスポート (Export Users Configuration)] ウィンドウで、[ファイル形式 (File Format)] ドロップダウンリストボックスから [Default User Format] を選択した場合、エクスポートユーティリティは、ユーザに関連付けられたデフォルトのユーザデバイスプロファイルのみをエクスポートします。そのユーザ用の他のユーザデバイスプロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して別途挿入する必要があります。

ユーザレコードのエクスポート

ユーザレコードが Cisco Unified Communications Manager 3.1 以前で作成されたために、ユーザレコードをエクスポートしてもユーザの PIN がブランクの場合があります。この場合は、デフォルトの PIN を指定してから、ユーザレコードを BAT ユーザインターフェイスに再挿入する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager からユーザレコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザのエクスポート] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ユーザ、検索条件] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションからクエリを行うフィールドを選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [マネージャ]
- [部署名]

■ ユーザレコードのエキスポート

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、特定の名前またはユーザ ID）を入力します。



(注) ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 5 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。



(注) データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスにエキスポート ユーザ ファイル名を入力します。

ステップ 9 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 11 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザレコードを即座にエキスポートするか、[後で実行] をクリックして後でエキスポートします。

ステップ 12 [送信] をクリックして、ユーザレコードをエキスポートするジョブを作成します。

ステップ 13 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

エクスポート ファイルは、[一括管理]メニューの[ファイルのアップロード / ダウンロード]オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、第 2 章「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.20-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)
- [ファイルのアップロードとダウンロード \(P.2-1\)](#)



パスワードと PIN のリセット

Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにログインするときにユーザが入力するパスワードはリセットできます。また、ユーザが Cisco Unified IP Phone にログインするときに使用するエクステンション モビリティ機能用の PIN もリセットできます。このリセット機能は、他のアトリビュートを更新せずに、ユーザのグループをデフォルトのパスワードやデフォルトの PIN にリセットする必要がある場合に使用します。

パスワードと PIN のリセット

パスワードと PIN をリセットするユーザの選択方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-3\)](#)

クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

クエリーを使用してユーザを検索し、パスワードと PIN をデフォルト値にリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [パスワード/PIN のリセット] > [クエリー] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 リセットするユーザを検索するために、クエリー フィルタを定義します。

ステップ 3 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [マネージャ]
- [部署名]

2 番目の [検索対象 : ユーザ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



(注) ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署をカンマで区切って入力します。たとえば、部署 12 と部署 14 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 14 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 3 ~ 4 の手順を繰り返します。

ステップ 6 [検索] をクリックします。

検索されたユーザのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]
- [LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する値を入力します。

- [パスワード (Password、半角英数字のみ)]: Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにログインするときにユーザが入力するデフォルトのパスワードを指定する。
- [パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数のみ)]: パスワードをもう一度指定する。
- [PIN (PIN、半角数字のみ)]: Cisco Unified IP Phone にログインするときにユーザが入力するエクステンション モビリティ機能用のデフォルトの PIN を指定する。
- [PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)]: PIN をもう一度指定する。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてパスワードまたは PIN を即座に変更するか、[後で実行] をクリックして後で変更します。

ステップ 11 [送信] をクリックして、パスワードまたは PIN をリセットするジョブを作成します。

ステップ 12 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.21-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索してパスワードと PIN をデフォルト値にリセットできます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、パスワードまたは PIN をリセットするユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してユーザのパスワードと PIN をリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [パスワード/PIN のリセット] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ユーザパスワード/PIN のリセット、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用したフィールドを次のオプションから選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [部署名]

ステップ 3 [カスタムファイル] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

■ 関連項目

ステップ 5 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてパスワードまたは PIN を即座に変更するか、[後で実行] をクリックして後で変更します。

ステップ 6 [送信] をクリックして、パスワードまたは PIN をリセットするジョブを作成します。

ステップ 7 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。ログ ファイルには、更新されたユーザ数と失敗したレコード数（エラー コードを含む）が示されます。

その他の項目

詳細については、P.21-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \(P.21-3\)](#)



ユーザ レポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

その他の情報

詳細については、[P.22-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザ レポートの生成

ユーザのレポートは固定形式です。クエリー オプションを指定せずにすべてのユーザのレポートを生成できます。また、限定されたクエリー オプション セットを指定できます。

ユーザのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ユーザレポートの作成] の順に選択します。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定せずにすべてのユーザについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のユーザのレポートを生成できます。

ステップ 2 [検索対象: ユーザ、検索条件] スクロール ボックスで、クエリー オプション ([ユーザ ID] [部署名] [名] [ミドルネーム] [姓] [マネージャ]) を選択します。

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リストボックスで、次の検索条件から選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]

- [が空ではない]

ステップ 4 検索フィールド ボックスに、検索対象の値（たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓）を入力します。

検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、カンマで区切ります（例：*JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*）。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザについてレポートを生成するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 [検索] をクリックします。検索されたユーザ レコードのリストが表示されます。

ステップ 6 [次へ] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

ステップ 8 [使用可能なフィールド (Available Fields)] ドロップダウン リストボックスで項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択されたフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

ステップ 9 このレポート リストの [選択されたフィールド (Selected Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 11 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックします。

ステップ 12 [送信] をクリックして、ユーザ レポートを生成するジョブを作成します。

ステップ 13 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.22-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納されます。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.22-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザレポートの生成 \(P.22-1\)](#)
- [レポート ログ ファイルの表示 \(P.22-3\)](#)



ライン アピアランス

ライン アピアランスとは、デバイスに対する回線のつながりを意味します。現在のエンド ユーザは、回線ではなくむしろライン アピアランスにリンクされていると言えます。

以前は、シェアドラインなどの関係について詳細なプレゼンス情報が CUP に提供されなかったため、プレゼンスの状態が不正確または不完全になっていました。ライン アピアランス機能を使うと、1人のユーザに複数のライン アピアランスが関連付けられている場合、詳細な情報を提供できます。

BAT の [ラインアピアランス] メニューを使用して、ライン アピアランスをエクスポートおよび更新できます。

- [ライン アピアランスのエクスポート](#)
- [ライン アピアランスの更新](#)

ライン アピアランスのエキスポート

複数のレコードに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定のレコードを探し出すことができます。レコードを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアントマシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

ライン アピアランスをエキスポートする手順は、次のとおりです。

始める前に

1. エクスポートするライン アピアランスの詳細が記載されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザ] > [ラインアピアランス] > [ラインアピアランスのエキスポート] の順に選択します。

[ユーザエキスポートのクエリー] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 他の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加した場合、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。各ページに表示される項目の数は、[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスで異なる値を選択して変更できます。



(注) 複数のレコードをデータベースから削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択内容の設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、リスト ヘッダーの上向き矢印または下向き矢印をクリックします (ある場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。[ラインアピアランスのエクスポートの設定 (Export Line Appearance Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [ファイル名 (File Name)] フィールドにカスタム ファイルのファイル名を入力します。

ステップ 7 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスでファイル形式を選択します。デフォルトでは、「Line Appearance Format」が選択されています。

ステップ 8 次のチェックボックスの 1 つ以上をオンにします。

- [CUP ユーザのラインアピアランスのみエクスポート (Export line appearances for CUP Users only)]: CUP ユーザに対してのみエクスポート操作を実行します。
- [すべてのプライマリ内線のラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for all the primary extensions)]: ユーザが関連付けられた回線を共有するすべてのデバイスのラインアピアランスをエクスポートします。
- [関連付けられているデバイスのラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for the devices associated)]: ユーザが関連付けられたデバイスを共有するすべての回線のラインアピアランスをエクスポートします。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてパスワードまたは PIN を即座に変更するか、[後で実行] をクリックして後で変更します。

ステップ 11 [送信] をクリックして、ラインアピアランスをエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 12 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ステップ 13 ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。ログ ファイルには、更新されたユーザ数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。

その他の項目

詳細については、[P.23-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

ライン アピアランスの更新

始める前に

1. 更新するライン アピアランスについて次の詳細を記載するテキスト ファイルを作成します。
 - ユーザ ID
 - デバイス
 - 電話番号
 - パーティション (オプション)
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルに記載されているライン アピアランスを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理]>[ユーザ]>[ラインアピアランス]>[ラインアピアランスの更新]の順に選択します。
[ラインアピアランスの更新の設定 (Update Line Appearance Configuration)]ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ファイル名] ドロップダウン リスト ボックスから、カスタム ファイル名を選択します。
 - ステップ 3** CUP ユーザのライン アピアランスのみを更新する場合は、[CUP ユーザのラインアピアランスのみ更新 (Update line appearance for CUP users only)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
 - ステップ 5** [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして電話機レコードを後で削除します。
 - ステップ 6** [送信] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。
 - ステップ 7** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.23-5 の「関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライン アピアランスのエクスポート \(P.23-2\)](#)
- [ライン アピアランスの更新 \(P.23-4\)](#)



PART 5

電話機とユーザ



電話機とユーザ

Cisco Unified Communications Manager 一括管理を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 回のバルク トランザクションで追加できます。電話機用の CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

[ユーザ付きの電話の挿入] オプションにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン メニューから [一括管理] > [電話とユーザ] を選択します。

新しい電話機とユーザの追加

ユーザと電話機を挿入する手順は、次のとおりです。

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、更新する電話機レコードおよびユーザレコードごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、[P.24-2 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加」](#)を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-3 の「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」](#)を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、[P.25-2 の「電話機とユーザのファイル形式の追加」](#)を参照してください。
3. 電話機とユーザレコードを検証します。
 - 詳細については、[P.26-2 の「電話機レコードとユーザレコードの検証」](#)を参照してください。
4. 電話機とユーザレコードを挿入します。
 - 詳細については、[P.27-1 の「電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加

電話機とユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索してダブルクリックし、BAT スプレッドシートを開きます。BAT.xlt ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** スプレッドシートの下部にある [Phones-Users] タブをクリックします。
- ステップ 4** P.3-35 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」のステップ 4 ~ 14 の作業を行います。

ユーザ情報フィールドの説明については、P.15-3 の「表 15-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.24-2 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- 新しい電話機とユーザの追加 (P.24-1)
- 電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 (P.A-3)
- 電話機とユーザのファイル形式の追加 (P.25-2)
- 電話機レコードとユーザレコードの検証 (P.26-2)
- 電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入



電話機とユーザのファイル形式

カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成するには、更新するユーザごとに個々の値を定義します。

- 詳細については、[P.24-2 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加」](#)を参照してください。
- テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-3 の「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」](#)を参照してください。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

電話機とユーザのファイル形式の追加

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [電話とユーザ] > [電話とユーザのファイル形式] > [ファイル形式の割り当て] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
 - ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
 - ステップ 4** [送信] をクリックして、一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成します。
 - ステップ 5** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.25-2 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加 \(P.24-2\)](#)
- [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



電話機とユーザの検証

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 回のバルク トランザクションで追加できます。電話機用の CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

[ユーザ付きの電話の挿入] オプションにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン メニューから [一括管理] > [電話とユーザ] を選択します。

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、検証する電話機およびユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、[P.26-2 の「電話機レコードとユーザレコードの検証」](#)を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-3 の「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」](#)を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、[P.4-7 の「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」](#)を参照してください。

電話機レコードとユーザレコードの検証

[電話 / ユーザの確認] を選択すると、システムが検証ルーチンを実行して、CSV データ ファイルおよび BAT 電話機テンプレートで、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドが指定されているかどうかをチェックします。この検証によってチェックされるのは、デバイス フィールドとそのデバイス フィールドが依存するフィールドだけです。ユーザ フィールドは検証されません。

始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、[P.1-5](#) の「[マスター電話機テンプレート](#)」を参照してください。
- 次のオプションのいずれかによって作成された CSV データ ファイルが必要です。
 - [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(P.26-2\)](#)
 - [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#) で、テキストベースの CSV ファイルを作成

CSV データ ファイルのレコードを検証する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [電話とユーザ] > [電話 / ユーザの確認] の順に選択します。[電話 / ユーザの確認 (Validate Phones/Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** [送信] をクリックして、ユーザと電話機を検証するジョブを作成します。
- ステップ 5** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4](#) の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.26-2](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#)
- [ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け \(P.4-7\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール](#)



電話機とユーザの挿入

電話機とユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

電話機とユーザの Cisco Unified Communications Manager への挿入

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、挿入する電話機およびユーザごとに個々の値を定義します。
 - 詳細については、[P.24-2 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加」](#)を参照してください。
 - テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-3 の「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」](#)を参照してください。
2. ファイル形式と CSV データ ファイルを関連付けます。
 - 詳細については、[P.25-2 の「電話機とユーザのファイル形式の追加」](#)を参照してください。
3. 電話機とユーザ レコードを検証します。
 - 詳細については、[P.26-2 の「電話機レコードとユーザ レコードの検証」](#)を参照してください。

電話機とユーザを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話とユーザ] > [ユーザ付きの電話の挿入] の順に選択します。

[電話 / ユーザの挿入 (Insert Phones/Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address、CTI ポートの場合は、ダミーデバイス名の作成)] チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、BATXXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスが分からない場合に、このオプションを使用します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、[P.61-2 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要」](#)を参照してください。

ステップ 4 [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した BAT ユーザテンプレートを選択します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機とユーザのレコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして電話機とユーザのレコードを後で挿入します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、ユーザレコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.27-2 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加 \(P.24-2\)](#)
- [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#)
- [電話機とユーザのファイル形式の追加 \(P.25-2\)](#)
- [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(P.26-2\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 \(P.61-2\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



PART 6

マネージャとアシスタント



Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理できます。BAT では、マネージャやアシスタントの IP Phone を追加できます。詳細については、次の項を参照してください。

- [プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-2\)](#)
- [シェアライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-8\)](#)

マネージャまたはアシスタントとそのアソシエーションをバルク トランザクションで追加、更新、および削除できます。詳細については、[P.28-10 の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

次のトピックでは、BAT を使用して Cisco Unified CM Assistant を管理するためのオプションについて説明します。

- [Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 \(P.29-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.30-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(P.31-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1\)](#)

Cisco Unified CM Assistant の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- [Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザ ガイド](#)

Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルとデバイス プロファイルに対して利用できます。Cisco Unified CM Assistant には、マネージャとアシスタントの回線で Cisco Unified CM Assistant 機能を利用するための設定モードとして、次の 2 つが用意されています。

- プロキシモード：マネージャのプライマリ回線は、アシスタントの電話機とは異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられる。詳細については、P.28-2 の「[プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」を参照してください。
- シェアードラインモード：マネージャとアシスタントの電話機がシェアードラインを持ち、同じ電話番号とパーティションを使用する。詳細については、P.28-8 の「[シェアードラインモードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定](#)」を参照してください。



(注)

ユーザをデバイスや電話機に関連付けられるのは、Unified CM Assistant がサポートされている場合のみです。

BAT を使用して、マネージャとアシスタントの電話機に、プロキシ回線またはシェアードラインを設定することができます。

プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機が Unified CM Assistant プロキシ回線をサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco IPMA 設定ウィザードを使用して、システムに Unified CM Assistant の要件を設定することをお勧めします。このウィザードは、Unified CM Assistant マネージャとアシスタント、ルートポイント、パーティション、トランスレーションパターン、および Cisco Unified CM Assistant サービスのコーリングサーチスペースについて、電話機テンプレートを自動的に作成します。Cisco IPMA 設定ウィザードを実行するには、BAT とウィザードが同じサーバにある必要があります。Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードの実行方法については、『[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド](#)』を参照してください。



(注)

Cisco IPMA 設定ウィザードは、システムの Unified CM Assistant 設定上の要件を設定するときに一度だけ使用できます。この設定ウィザードを実行した後は、設定内容をウィザードで表示できますが、変更はできません。

2. マネージャとアシスタント用に新しい電話機とユーザを追加するには、Cisco IPMA 設定ウィザードによって BAT サーバ上に作成される Unified CM Assistant マネージャと Unified CM Assistant アシスタントの電話機テンプレートを使用します。BAT テンプレートは、プロキシモードの電話機を設定する場合にだけ使用します。テンプレートの詳細については、P.28-3 の「[Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値](#)」を参照してください。
3. 既存のマネージャとアシスタントの電話機については、次のいずれかの方法を使用して、Unified CM Assistant 電話機テンプレートに対応するように変更できます。
 - BAT の回線の追加機能を使用して、既存の電話機を Unified CM Assistant 電話機テンプレートに類似した形式に変更できます。詳細については、P.10-10 の「[既存の電話機および UDP への回線の追加](#)」を参照してください。

- マネージャとアシスタントの Unified CM Assistant 電話機テンプレートを使用し、元の電話機を削除して、新しい電話機を追加できます。P.3-2 の「電話機の追加」の新しい電話機の設定手順に従ってください。
4. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて Unified CM Assistant で制御できるようにします。Unified CM Assistant の回線設定については、P.28-4 の「マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値

表 28-1 に、Unified CM Assistant マネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 28-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
Softkey Template	Softkey Template Standard Manager
Phone Button Template	Standard Cisco Unified IP Phone model 7960 (2 lines)
Line 1	プライマリ回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Managers
Line 2	着信インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Everyone • ヘッドセットでの自動応答のオプションも設定します。
Services	Assistant Primary Service

表 28-2 に、Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 28-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
Softkey Template	Softkey Assistant
Phone Button Template	Standard Cisco Unified IP Phone 7960 Assistant
Expansion Module 1	14 ボタンの拡張モジュール
One line on base phone and five lines on expansion module	プロキシ回線では、基本の電話機に 1 回線、拡張モジュールに 5 回線が、デフォルトで次のように構成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_M_E • Partition = Generated_Everyone
Line 7 (拡張モジュール上)	インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • Partition = Generated_Everyone • ヘッドセットでの自動応答のオプションも設定します。

マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定

BAT は、マネージャの電話機のプライマリ回線をアシスタントの電話機のプロキシ回線にマッピングすることで、Unified CM Assistant 回線設定を割り当てます。Unified CM Assistant ウィザードで作成した Unified CM Assistant マネージャと Unified CM Assistant アシスタントのデフォルトのテンプレートを使用すると、1 ~ 5 回線のマネージャ回線を 1 人のアシスタントの電話機に関連付けることができます。Unified CM Assistant テンプレートによって設定された電話機について、次の例では、2 つのマネージャの電話機を 1 つのアシスタントの電話機に関連付ける場合の回線設定を示します。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線
- 回線 2 : インターコム回線

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線
- 回線 2 : インターコム回線

アシスタントの電話機

- 回線 1 : プライマリ回線
- 回線 2 : マネージャ 1 用のプロキシ回線
- 回線 3 : マネージャ 2 用のプロキシ回線
- 回線 4 ~ 6 は未割り当て
- 回線 7 : インターコム回線

回線 4 ~ 6 は他のマネージャとのアソシエーションに使用できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャを関連付ける場合、プロキシ回線は、CSV データファイル内での順序に基づいて作成されます。マネージャとアシスタントの最初の回線は、マネージャのすべてのプライマリ回線を、アシスタントの電話機上の未割り当て回線にプロキシ回線として割り当てることで作成されます。アシスタントの電話機の全回線が割り当て済みになるか、CSV レコード内のすべてのマネージャが割り当てられるまで、CSV レコードの順序に基づいて、マネージャとアシスタントのプロキシ回線が 1 つずつ作成されていきます。

複数のアシスタントを 1 人のマネージャのプライマリ回線に関連付ける場合、BAT は CSV データファイル内での順序に基づいて、アシスタントをマネージャに割り当てます。BAT によって割り当てられるマネージャのプライマリ回線は、1 番目のアシスタントで利用可能な回線数に基づきます。たとえば、マネージャの電話機に 2 つの回線があるとします。CSV データファイルにある 1 番目のアシスタントが使用できるのは、1 回線だけです。結果として、BAT によって、マネージャの 1 つのプライマリ回線だけが、CSV レコードに含まれているすべてのアシスタントの電話機にある 1 つのプロキシ回線に関連付けられます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャの電話機の設定

表 28-3 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションを使用する場合に、BAT がマネージャの電話機に対して設定できるすべての回線設定を示します。

表 28-3 マネージャの電話機の手線設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1: プライマリ回線 (Unified CM Assistant 制御) インターコム回線 (なし)
2 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant マネージャ電話機テンプレート)	回線 1: プライマリ回線 (Unified CM Assistant 制御) 回線 2: インターコム回線 (オプション)
3 回線以上	最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 プロキシ回線に関連付けられるマネージャの手線数は、アシスタントの電話機で利用できる回線数によって決定され ます。

Unified Communications Manager Assistant アシスタントの電話機の設定

表 28-4 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションの作成中に、BAT がアシスタントの電話機に対して設定するデフォルトの手線設定を示します。

表 28-4 アシスタントの電話機の手線設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1: プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
2 回線	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
3 回線	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 回線 3: インターコム回線
4 回線以上	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 他の回線は、すべてプロキシ回線として設定されます。
7 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレート)	回線 1: プライマリ回線 回線 2 ~ 6 は、5 人以下のマネージャをサポートするプロキ シ回線として設定できます。 回線 7: インターコム回線

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントの電話機用のプロキシ回線の例

ここでは、それぞれ 3 つの既存回線を持つ 2 人のマネージャを、6 つの未割り当て回線を持つ 1 人のアシスタントに関連付けます。BAT は、マネージャとアシスタントの電話機に、次の回線設定を行います。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2355）
- 回線 2：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2366）
- 回線 3：マネージャのインターコム回線

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2656）
- 回線 2：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2666）
- 回線 3：マネージャのインターコム回線

アシスタントの電話機

- 回線 1：アシスタントのプライマリ回線（電話番号は 3333）
- 回線 2：マネージャ 1 のプロキシ回線 1（電話番号は 3455）
- 回線 3：マネージャ 2 のプロキシ回線 1（電話番号は 3656）
- 回線 4：マネージャ 1 のプロキシ回線 2（電話番号は 3366）
- 回線 5：マネージャ 2 のプロキシ回線 2（電話番号は 3666）
- 回線 6：利用可能
- 回線 7：アシスタントのインターコム回線

すでにプライマリ回線を持つマネージャ電話機を関連付けるときは、アシスタントの電話機の未割り当て回線数が、マネージャの電話機のプライマリ回線数以上である必要があります。たとえば、4 つのプライマリ回線が設定済みの電話機を持つマネージャと、3 回線だけ利用可能なアシスタントとのアソシエーションは、BAT では作成できません。

プロキシ回線を使用した Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタント用の新しい電話機の設定

プロキシ回線を使用する Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのために新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

1. IPMA 設定ウィザードを実行して、IPMA 用テンプレート、パーティション、およびコーリングサーチスペースを作成します。
2. 1 人のアシスタントに 6 人以上のマネージャを関連付ける場合、Unified CM Assistant 用テンプレートにアクセスして、新しい名前で作成する必要があります。マネージャの追加に対応するには、テンプレートに行を追加します。

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話テンプレート] の順に選択し、対象のテンプレートを開きます。[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) BAT Unified CM Assistant テンプレートは書き込み禁止なので、これらのテンプレートを変更する場合は、テンプレートのコピーを作成してから編集してください。

マネージャ電話機テンプレートのフィールドの説明は、P.28-3 の「プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値」を参照してください。

アシスタント電話機テンプレートのフィールドの説明は、P.28-3 の「プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値」を参照してください。

ステップ 2 次のオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データ ファイルを作成します。

- BAT スプレッドシートを使用して、[Phones] タブを選択する。
- テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして参照する。

ステップ 3 新しい電話機を挿入する手順は、P.3-2 の「電話機の追加」を参照してください。

既存の電話機に対する Cisco Unified Communications Manager Assistant プロキシ回線の設定

既存の電話機に、マネージャとアシスタント用の回線を設定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [回線の追加] の順に選択します。[電話回線の追加 (Phone Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 BAT 用に Unified CM Assistant テンプレートのコピーや変更が必要な場合は、次のトピックを参照してください。

- 表 28-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値 (P.28-3)
- 表 28-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値 (P.28-3)



(注) Cisco IPMA 設定ウィザードの実行時に、設定情報 (たとえば、パーティション名) を変更した場合は、テンプレートの編集時にもそのフィールドで同じ設定情報を使用する必要があります。

ステップ 3 次のいずれかのオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データ ファイルを作成します。

- BAT スプレッドシートを使用して、[Add Lines] タブを選択する。
- テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして使用する。

ステップ 4 P.10-10 の「既存の電話機および UDP への回線の追加」の手順を参照し、既存の電話機にマネージャとアシスタントの回線を設定します。

その他の項目

詳細については、P.28-13 の「関連項目」を参照してください。

シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機がシェアドラインをサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco Unified Communications Manager でシェアドラインをサポートするための Unified CM Assistant サービス パラメータを設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
2. Cisco Unified IP Phone モデル 7960 で 5 回線以上を使用する場合は、電話機ボタン テンプレートが必要です。
3. 次のガイドラインを使用してマネージャとアシスタントの電話機を設定します。

シェアドライン モードにおけるマネージャの電話機

P.3-2 の「電話機の追加」で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、マネージャの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てる：Standard Shared Mode Manager。
- 必要に応じて、アシスタントと共有するプライマリ回線を追加する。
- プライマリ回線に、ボイス メッセージ プロファイルを設定する。
- 着信インターコム回線を追加する（オプション）。
- 発信インターコムのターゲットに対して、短縮ダイヤル ボタンを追加する（オプション）。
- ユーザ ロケールを設定する。

シェアドライン モードにおけるアシスタントの電話機

P.3-2 の「電話機の追加」で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定の手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、アシスタントの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てる：Standard Assistant
- 追加の回線に Cisco 14 ボタン拡張モジュール (7914) を使用している場合、BAT テンプレートで拡張モジュールのタイプを指定する。



(注) Cisco Unified IP Phone モデル 7960 の電話機ボタン テンプレートには、拡張モジュール回線が含まれています。

- 個人用のプライマリ回線を追加する。
- 関連付けられたマネージャに、シェアドラインを追加する。同じ電話番号とパーティションを、マネージャの電話機のプライマリ回線として使用する。
- 着信インターコム回線を追加する（オプション）。
- マネージャのインターコム回線に、短縮ダイヤルを追加する（オプション）。
- ユーザ ロケールを設定する。

1. 既存のマネージャまたはアシスタントの電話機に回線を追加する方法については、[P.10-10](#) の「既存の電話機および UDP への回線の追加」を参照してください。回線の設定については、次に示す項を参照してください。
 - [シェアドライン モードにおけるマネージャの電話機 \(P.28-8\)](#)
 - [シェアドライン モードにおけるアシスタントの電話機 \(P.28-8\)](#)
2. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて Unified CM Assistant で制御できるようにします。[P.28-10](#) の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」の手順に従ってください。

マネージャとアシスタントのシェアドラインの設定

BAT は、Cisco Unified CM Assistant の回線設定を、マネージャとアシスタントの電話機に割り当てたシェアドラインに関連付けます。シェアドライン モードは、アシスタントに関連付けるときにマネージャの設定で指定します。

シェアドライン モードでは、マネージャの回線が、アシスタントの電話機のシェアドラインに対応します。たとえば、2 人のマネージャを 1 人のアシスタントに関連付けるためには、マネージャの電話機のプライマリ回線と同じ電話番号とパーティションを持つアシスタントの電話機に、2 つの回線を追加します。

マネージャ 1 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線 (電話番号は 2355)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

マネージャ 2 の電話機

- 回線 1 : プライマリ回線 (電話番号は 2875)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

アシスタントの電話機

- 回線 1 : アシスタントのプライマリ回線 (電話番号は 3356)
- 回線 2 : マネージャ 1 のシェアドライン (電話番号は 2355)
- 回線 3 : マネージャ 2 のシェアドライン (電話番号は 2875)
- 回線 4 ~ 6 は利用可能
- 回線 7 : インターコム回線 (オプション)

回線 4 ~ 6 は、他のマネージャ用のシェアドラインとして追加できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャの回線を追加する場合は、アシスタントの電話機にあるすべての回線でシェアドライン モードを使用する必要があります。アシスタントの電話機では、プロキシ回線とシェアドラインは共存できません。同様に、1 人のマネージャに複数のアシスタントがいる場合、すべてのアソシエーションでシェアドライン モードを使用する必要があります。

複数のアシスタントをシェアドライン モードの 1 人のマネージャに関連付けると、BAT は、シェアドライン モードを使用しているアシスタントにだけ Unified CM Assistant アソシエーションを割り当てます。

その他の項目

詳細については、[P.28-13](#) の「関連項目」を参照してください。

マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入する場合、新しいアソシエーションを追加することも、既存のアソシエーションを更新することもできます。

マネージャとアシスタントのアソシエーション用に CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- [BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新 \(P.28-10\)](#)
- テキスト エディタを使用した CSV 形式のテキスト ファイルの作成。詳細については、[P.A-13 の「マネージャおよびアシスタントのファイル形式」](#)を参照してください。

新しいマネージャ用のアソシエーションを作成する場合は、デバイス名を入力する必要があります。既存の Unified CM Assistant レコードでマネージャを更新する場合、これらのフィールドはオプションです。マネージャとアシスタントの電話機に BAT がどのように回線設定を割り当てるかについては、[P.28-4 の「マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定」](#)を参照してください。マネージャ用の回線が 3 回線以上の場合、BAT では、アシスタント用のプロキシ回線にマネージャのインターコム回線を割り当てることができません。

BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新

BAT スプレッドシートにはマクロを持つデータ ファイル テンプレートがあり、マネージャとアシスタントのアソシエーションを容易に追加、更新、または削除できます。BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して新しい Unified CM Assistant アソシエーションを追加する手順は、次のとおりです。マネージャとアシスタントの設定には、次の 2 つの方法を使用できます。

- デフォルトの回線設定を使用してマネージャとアシスタントのアソシエーションを作成する方法については、[P.28-10 の「デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
[表 28-3](#) と [表 28-4](#) は、マネージャとアシスタントの電話機のデフォルトの回線設定を示しています。
- デフォルトの回線設定に従わないプロキシ回線を割り当てる場合、カスタムのマネージャとアシスタント用のファイルを作成するための手順は、[P.28-12 の「カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

デフォルトの設定を使用して、プロキシ モードとシェアドライン モードの両方でマネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新するために CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルをダウンロードして開き、BAT スプレッドシートを開きます。詳細については、[P.2-3 の「ファイルのダウンロード」](#)を参照してください。

- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Default Managers-Assistants] タブをクリックします。
- ステップ 4** テンプレートを右側にスクロールしてオプション ボタンを表示し、このトランザクションのアソシエーションのタイプを次のうちから選択します。

- [One manager, multiple assistants]
- [One assistant, multiple managers]

- ステップ 5** すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。

[One manager, multiple assistants] オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。

- [Manager ID]: マネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。
- [Assistant ID#]: このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。
記号は、マネージャに割り当てるアシスタントの数を表します。



(注) 別のアシスタントをさらに追加するには、[Add more Assistants] をクリックします。

[One assistant, multiple managers] オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。

- [Assistant ID]: アシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。
- [Manager ID#]: このアシスタントに割り当てるマネージャのユーザ ID を、30 文字以内で入力する。
記号は、アシスタントに割り当てるマネージャの数を表します。



(注) 別のマネージャをさらに追加するには、[Add more Managers] をクリックします。

- ステップ 6** 次のうちから、実行する操作を選択します。

- [Insert] をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションを作成します。
- [Delete] をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除します。

- ステップ 7** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

<type of operation>ManagerAssistants-timestamp.txt

<type of operation> には、ステップ 6 で選択した操作の種類が入力されます。「timestamp」は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで、[[サンプルファイルの表示 \(View Sample File\)](#)] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.28-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

既存の電話機にマネージャとアシスタントのアソシエーションを設定する場合は、BAT スプレッドシートの [Custom Managers-Assistants] タブを使用できます。CSV データ ファイルを作成することによって、アシスタントの電話機のプロキシ回線で、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから BAT.xlt ファイルをダウンロードします。詳細については、P.2-3 の「[ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。
- ステップ 2** BAT.xlt ファイルを開きます。プロンプトが表示されたら、[[マクロを有効にする](#)] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Custom Managers-Assistants] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Number of Proxy Lines] ボックスが表示されるまで、テンプレートを右側にスクロールします。このボックスで、アシスタントに割り当てるプロキシ回線の数を入力します。スプレッドシートは、入力した数値に基づいて、[Proxy Line DN] と [Manager Line DN] の列を追加します。

すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。

- [Manager ID]: マネージャのユーザ ID を入力する。
- [Device Name]: マネージャの電話機に割り当てられたデバイス名を入力する。
- [Intercom DN]: マネージャのインターコム回線の電話番号を入力する (オプション)。
- [Assistant ID]: このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を入力する。
- [Device Name]: アシスタントの電話機に割り当てられたデバイス名を入力する。
- [Intercom DN]: アシスタントのインターコム回線の電話番号を入力する (オプション)。
- [Proxy Line DN#]: アシスタントのプロキシ回線の電話番号を入力する。
- [Manager Line DN#]: マネージャのプライマリ回線の電話番号を入力する。
記号は、マネージャに関連付けるプロキシ回線の数を表します。

ステップ 5 [**Export to BAT Format**] ボタンをクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は、Custom Managers-Assistants-timestamp.txt です。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードして、BAT からアクセスできるようにします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで、[[サンプルファイルの表示 \(View Sample File\)](#)] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.28-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant で使用する電話機と回線の概要 \(P.28-2 \)](#)
- [マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成 \(P.28-10 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 \(P.29-2 \)](#)
- [プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-2 \)](#)
- [シェアードライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-8 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.30-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(P.31-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1 \)](#)

Cisco Unified CM Assistant の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- [Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザ ガイド](#)



マネージャとアシスタントの挿入

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理できます。BAT では、マネージャやアシスタントの IP Phone を追加できます。

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルとデバイス プロファイルに対して利用できます。Cisco Unified CM Assistant には、マネージャとアシスタントの回線で Cisco Unified CM Assistant 機能を利用するための設定モードとして、次の 2 つが用意されています。

- プロキシ モード: マネージャのプライマリ回線は、アシスタントの電話機とは異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられる。詳細については、[P.28-2 の「プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」](#)を参照してください。
- シェアドライン モード: マネージャとアシスタントの電話機がシェアドラインを持ち、同じ電話番号とパーティションを使用する。詳細については、[P.28-8 の「シェアドラインモードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定」](#)を参照してください。

BAT を使用して、マネージャとアシスタントの電話機に、プロキシ回線またはシェアドラインを設定することができます。

Cisco Unified Communications Manager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入

マネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを挿入したり、既存のアソシエーションを更新したりするには、CSV データ ファイルが必要です。詳細については、P.28-10 の「[マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

BAT がマネージャとアシスタントのアソシエーションを更新するときは、インターコムの電話番号や関連付けられているデバイスについて、既存の Cisco Unified CM Assistant 回線設定は変更されません。



注意

Cisco Unified CM Assistant の最小構成をサポートするために必要な数の回線をアシスタントの電話機が持っていない場合、マネージャとアシスタントのアソシエーション作成は失敗します。

始める前に

次の 2 つの手順のいずれかを使用して、マネージャとアシスタント用の電話機が設定されていることを確認してください。

- [プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-2\)](#)
- [シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-8\)](#)

Cisco Unified Communications Manager データベースにマネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [IPMA マネージャ / アシスタントの挿入] の順に選択します。[IPMA マネージャ / アシスタントの挿入 (Insert IPMA Managers/Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** マネージャがエクステンション モビリティを使用してログインする場合は、[マネージャがエクステンションモビリティを使用するように設定 (Configure Managers as mobile managers)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** すべての電話機にシェアドラインがある場合は、[シェアドラインの使用 (Uses Shared Lines)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [オプションの挿入] 領域で、作成した CSV データ ファイルのタイプを次のうちから選択します。
 - [デフォルト (Default)]: 標準の CSV データ ファイルを作成した場合は、CSV ファイルのデータに基づいて、このトランザクションのアソシエーションのタイプを選択する。
 - [1 人のマネージャに 1 人以上のアシスタントを割り当て (Associate one or more assistants to one manager)]
 - [1 人のアシスタントに 1 人以上のマネージャを割り当て (Associate one or more managers to one assistant)]

- [**カスタム (Custom)**]: プロキシ モードのためのカスタム CSV データ ファイルを作成した場合には選択する。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 マネージャとアシスタントを即座に挿入するには、[**今すぐ実行**] オプション ボタンをクリックします。後で挿入するには、[**後で実行**] をクリックします。

ステップ 8 [**送信**] をクリックして、マネージャとアシスタントのレコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。



(注) ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。アシスタントまたはマネージャの設定の更新を BAT で実行しているとき、利用可能回線数の不足が原因で変更が一部しか完了しなかった場合は、トランザクション レコード全体が失敗します。

ステップ 10 変更内容を有効にするには、Cisco Unified CM Assistant サービスを再起動する必要があります。

その他の項目

詳細については、[P.29-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [プロキシ回線モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-2\)](#)
- [シェアドライン モードでの Cisco Unified Communications Manager Assistant 用の電話機の設定 \(P.28-8\)](#)
- [マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



マネージャとアシスタントの削除

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースにある、マネージャとアシスタントの特定のアソシエーションを削除できます。たとえば、*jmorgan* というユーザ ID のアシスタントが、*rcraig* と *dbaker* というユーザ ID を持つ 2 人のマネージャに割り当てられているとします。このマネージャとアシスタントのアソシエーションを変更する場合、たとえば、アシスタント *jmorgan* を *rcraig* だけに割り当てる場合は、次のようなエントリを持つ CSV データ ファイルを作成して、*jmorgan* と *dbaker* のアソシエーションを削除します。

例

jmorgan, dbaker

Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除

マネージャとアシスタントのすべてのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除する場合は、次の項を参照してください。

- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(P.31-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1\)](#)

Cisco Unified Communications Manager 内にあるマネージャとアシスタントの特定のアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

削除する特定のマネージャとアシスタントのアソシエーションのユーザ ID が含まれた CSV データ ファイルが必要です。詳細については、[第 28 章「Cisco Unified Communications Manager Assistant の使用方法」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [マネージャ/アシスタント] > [IPMA マネージャ/アシスタントの削除] の順に選択します。[IPMA マネージャ/アシスタントの削除 (Delete IPMA Managers/Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した CSV ファイルを選択します。

ステップ 3 削除のタイプとして、次のいずれかを選択します。

- [1 人のマネージャに割り当てられたアシスタントの削除 (Delete associated assistants for one manager)]
- [1 人のアシスタントに割り当てられたマネージャの削除 (Delete associated managers for one assistant)]

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 マネージャとアシスタントを即座に削除するには、[**今すぐ実行**] オプション ボタンをクリックします。後で削除するには、[**後で実行**] をクリックします。

ステップ 6 [**送信**] をクリックして、必須のマネージャとアシスタントのアソシエーションを削除するジョブを作成します。

ステップ 7 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[**一括管理**] メイン メニューの [**ジョブスケジューラ**] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.30-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(P.31-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1 \)](#)



マネージャの削除

Unified CM Assistant のマネージャを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのマネージャをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、*rmartinez* というユーザ ID を持つマネージャに 2 人のアシスタントがいて、それぞれ *dbell* と *jkent* というユーザ ID を持つ場合、マネージャとしての *rmartinez* を Cisco Unified Communications Manager データベースで削除すれば、*rmartinez* と両方のアシスタントとの関連付けを解除できます。削除した後も、ディレクトリには *rmartinez* がユーザとして残ります。

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから、マネージャと、そのマネージャとアシスタントのアソシエーションをすべて削除できます。[マネージャの削除] オプションにアクセスするには、[一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] を選択します。

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.31-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.31-3\)](#)

クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるアシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] > [クエリー] の順に選択します。[マネージャの削除 (Delete Managers Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : マネージャ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [部署名]

2 番目の [検索対象 : マネージャ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのマネージャを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。



(注) マネージャを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに 12, 24 と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

検索されたマネージャのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行] をクリックします。

ステップ 8 [送信] をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジュール] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.31-4 の「関連項目」を参照してください。

カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のマネージャのアソシエーションを検索できます。

始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を指定したテキスト ファイルを作成します。
2. ユーザ ID は、1 行に 1 つずつ指定します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してマネージャのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャの削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。[マネージャの削除 (カスタム) (Delete Managers Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除対象: マネージャ、検索条件] フィールドで、識別子 [ユーザ ID] を選択します。

ステップ 3 2 番目のフィールドである [カスタムファイル] ドロップダウン リストボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検索されたマネージャのリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 マネージャを即座に削除するには、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。マネージャを後で削除するには、[後で実行] をクリックします。

ステップ 7 [送信] をクリックして、選択したマネージャを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.30-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1 \)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4 \)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4 \)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1 \)](#)



アシスタントの削除

Unified CM Assistant のアシスタントを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのアシスタントをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、アシスタント *thudson* が、*hart* と *dstewart* という 2 人のマネージャに割り当てられているとします。*thudson* と 2 人のマネージャとのアソシエーションを削除するには、アシスタントとしての *thudson* を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。削除した後も、ディレクトリには *thudson* がユーザとして残ります。

Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.32-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.32-3\)](#)

クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるマネージャとのアソシエーションからアシスタントを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[マネージャ/アシスタント]>[アシスタントの削除]>[クエリー]の順に選択します。[アシスタントの削除 (Delete Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: アシスタント、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID]
- [名]
- [ミドルネーム]
- [姓]
- [部署名]

2 番目の [検索対象: アシスタント、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]

- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのアシスタントを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。



(注) アシスタントを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに 12, 24 と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから **[AND]** または **[OR]** を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 **[検索]** をクリックします。

検索されたアシスタントのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてアシスタントを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後でアシスタントを削除します。

ステップ 8 **[送信]** をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.32-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のアシスタントのアソシエーションを検索できます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するアシスタントのユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してアシスタントのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [アシスタントの削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。[アシスタントの削除 (カスタム) (Delete Assistants Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除対象: アシスタント、検索条件] フィールドで、識別子 [ユーザ ID] を選択します。

ステップ 3 2 番目のフィールドである [カスタムファイル] ドロップダウン リストボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検索されたアシスタントのリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてアシスタントを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後でアシスタントを削除します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.32-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(P.32-1\)](#)



マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートは固定形式です。マネージャまたはアシスタントのクエリー オプション セットを指定してレポートを生成できます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

マネージャおよびアシスタントのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを選択してください。

- [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [マネージャレポートの作成] の順に選択します。[マネージャの検索と一覧表示 (Find and List Managers)] ウィンドウが表示されます。
- [一括管理] > [マネージャ / アシスタント] > [アシスタントレポートの作成] の順に選択します。[アシスタントの検索と一覧表示 (Find and List Assistants)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 クエリーを指定せずにすべてのマネージャまたはアシスタントについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のマネージャまたはアシスタントのレポートを生成できます。

- a. [検索対象 : マネージャ、検索条件] (または [検索対象 : アシスタント、検索条件]) ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのクエリー オプションを選択します。
 - [ユーザ ID]
 - [名]
 - [ミドルネーム]
 - [姓]
 - [部署名]
- b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる]
 - [が次の文字列を含む]
 - [が次の文字列と等しい]
 - [が次の文字列で終わる]
 - [が空である]

- [が空ではない]
- c. 検索フィールド ボックスに、検索対象の値（たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓）を入力します。
検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、カンマで区切ります（例：JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ）。
- d. [検索] をクリックします。



(注) 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ a ~ d を繰り返します。

ステップ 3 [次へ] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 4 [ファイル名] フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

ステップ 5 [ファイル形式] フィールドで、ドロップダウン リスト ボックスからファイル形式を選択します。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてマネージャとアシスタントのレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

ステップ 8 [送信] をクリックして、レポートを生成するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにレポート ファイルを保存します。

その他の情報

詳細については、[P.33-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

BAT は、レポート トランザクションごとにログ ファイルを生成し、データベース サーバの最初のノードに格納します。また [一括管理] メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用してジョブを検索できます。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、ログファイルを表示するジョブに対応する [Log File Name] カラムへのリンクをクリックします。ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.33-3 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 (P.33-1)
- レポート ログ ファイルの表示 (P.33-3)
- BAT ログ ファイル (P.64-4)
- ジョブのスケジュール (P.63-1)



PART 7

ユーザ デバイス プロファイル



ユーザ デバイス プロファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の [ユーザデバイスプロファイル (UDP)] オプションを使用すると、多数のユーザ デバイス プロファイルを追加または削除できます。さらに、ユーザ デバイス プロファイルの回線を追加または更新できます。システムはエクステンション モビリティ機能と一緒に UDP を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルの管理用オプションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.34-2\)](#)
- [ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(P.39-2\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.40-1\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.41-4\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新 \(P.42-1\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.10-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.44-2\)](#)

ユーザデバイスプロファイルの追加

BAT を使用すると Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザデバイスプロファイルを追加するときに、複数の回線と他の機能を追加できます。

ユーザデバイスプロファイル用の CSV データファイルを作成するには次の2つのオプションから選択します。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザデバイスプロファイルを一括で追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP テンプレート] の順に選択します。

[UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。UDP テンプレートの設定の詳細については、P.35-3 の「[ユーザデバイスプロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成](#)」を参照してください。

ステップ 2 次のオプションのどちらかの手順に従って CSV データファイルを作成します。

a. BAT スプレッドシート オプション

BAT スプレッドシートを開き、CSV データファイルを作成します。詳細については、P.34-3 の「[BAT スプレッドシートを使用したユーザデバイスプロファイル CSV データファイルの作成](#)」を参照してください。

b. テキスト エディタ オプション

- [UDP ファイル形式の作成] を選択します。

[UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。CSV データファイル用のファイル形式設定の詳細については、P.36-2 の「[ユーザデバイスプロファイルのファイル形式の設定](#)」を参照してください。

- テキスト エディタを使用して、ユーザデバイスプロファイル用の CSV データファイルを作成するファイル形式に合うように作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、P.A-10 の「[ユーザデバイスプロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」を参照してください。

- [ファイル形式の追加] を選択します。

[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。ファイル形式の詳細については、P.37-1 の「[ファイル形式の追加](#)」を参照してください。

ステップ 3 [UDP の検証] を選択します。

[ユーザデバイスプロファイルの確認 (Validate User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。ユーザデバイスプロファイルレコードの確認の詳細については、P.38-2 の「[ユーザデバイスプロファイルの確認](#)」を参照してください。

ステップ 4 [UDP の挿入] を選択します。

[ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager データベースへのユーザ デバイス プロファイル レコードの挿入の詳細については、P.39-2 の「ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.34-12 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成

新しいユーザ デバイス プロファイルを追加する場合、BAT スプレッドシートが使用できます。スプレッドシート内でファイル形式を定義することで、スプレッドシートにそのデータ ファイル形式を適用し、CSV データ ファイル用のフィールドを表示させることができます。

BAT スプレッドシートの場所の確認と使用方法の詳細については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。詳細については、P.2-3 の「ファイルのダウンロード」を参照してください。
- ステップ 2** BAT スプレッドシートを開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイル] オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [User Device Profiles] タブをクリックします。
- ステップ 4** ユーザ デバイス プロファイルごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、[Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス フィールドを選択するには、[Device Fields] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[Device Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

■ ユーザデバイスプロフィールの追加

ステップ 6 [Line Fields] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。



ヒント [Selected Line Fields] ボックスと [Selected Device Fields] ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ 7 CSV データ ファイル形式を修正するには、[Create] をクリックします。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

ステップ 9 [Number of Phone Lines] ボックスを探すために、右にスクロールします。ここで指定する回線の数は、BAT テンプレートで設定された回線の数を超えることはできません。この数を超えると CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

ステップ 10 [Number of Speed Dials] ボックスで短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。



(注) User Device Profile テンプレートに設定した短縮ダイヤルの数を超えることはできません。その数を超えると CSV データ ファイルおよび UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

ステップ 11 スプレッドシートの回線ごとに、個々のユーザ デバイス プロファイルのデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの詳細については、[表 34-1](#) を参照してください。

ステップ 12 [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した別の既存フォルダに保存されます。ファイル名は次のとおりです。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)の手順に従って、CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法の詳細については、BAT 内の [ユーザデバイスプロフィールの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウで、[サンプルファイルの表示] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.34-12 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明

表 34-1 では、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザ デバイス プロファイル フィールドについて説明します。関連する手順については、P.34-12 の「関連項目」を参照してください。

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Device Fields (必須フィールド)	
Device Profile Name	デバイス プロファイル名に固有の識別名を入力します。
Description	電話機またはデバイスの特定に役立つ説明(たとえば、「Conference Room A」や「John Smith」)を入力します。
Device Fields (オプションフィールド)	
User Locale	このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Login User ID	デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力します。 ユーザ デバイス プロファイルがログアウト プロファイルとして使用されている場合は、電話機に関連付けるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、電話機は自動的にこのログイン ユーザ ID にログインします。
User Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオソースを入力します。 ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。
Phone Template	このユーザ デバイス プロファイルと関連付ける電話機テンプレート名を入力します。
MLPP Indication	優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。
MLPP Preemption	(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。
MLPP Domain	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
Line Fields (オプションフィールド)	
Directory Number	電話機の電話番号を入力します。

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)








フィールド	説明
Route Partition	電話番号が属するルートパーティションを選択します。 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Display	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。  (注) このフィールドを空白にしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Forward All CSS	コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。  (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Forward All Destination	すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。  (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Forward Busy External CSS	外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。  (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Forward Busy Internal CSS	内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。  (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Forward Busy External Destination	回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。  (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
Forward No Coverage Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward on Failure External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p></p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward on Failure Destination External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>
Call Forward No Answer Ring Duration	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、[Forward No Answer Destination] フィールドで入力された電話番号にコールを転送します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サービスパラメータの Forward No Answer Timer で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
Route Filter	<p>[Route Filter Name] フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルート プランで一意であることを確認します。</p> <p>ルート フィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynamelocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルート フィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラス オフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのルート フィルタを示します。</p>
E164	常に一意の E.164 数値を使用します。ヌル値は使用しないでください。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	<p>この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに変更を加えると、コール ピックアップ グループ フィールドのリストに表示されるコール ピックアップ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Line User Hold Audio Source	ユーザが保留ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
Line Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき) に再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
Auto Answer	<p>次のいずれかの値を入力して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Auto Answer Off < デフォルト > Auto Answer with Headset Auto Answer with Speakerphone (インターコム) <p> (注) Auto Answer with Headset または Auto Answer with Speakerphone を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。</p>

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
No Answer Ring Duration (CFNA)	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間(秒数)を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
Call Pickup Group	ピックアップグループ名を入力してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。 BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ(#)、およびアスタリスク(*)を含めることができます。
Target CSS (MLPP)	ドロップダウンリストボックスから、代替パーティターゲット(宛先)番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間(4 ~ 30 秒)を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
Line Text Label	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。  (注) デフォルトのテキストは英語です。
External Phone Number Mask	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号(またはマスク)を入力します。 最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。

表 34-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは [Busy Trigger] フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、[Maximum Number of Calls] および [Call Forward Busy] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。</p> <p>[Maximum Number of Calls] が 50 に設定され、[Busy Trigger] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [Call Forward Busy] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [Maximum Number of Calls] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Policy] (電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) • [Light and Prompt] • [Prompt Only] • [Light Only] • [None]
Ring Setting (Phone Idle)	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピアランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring]
Ring Setting (Phone Active)	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only]

関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.34-2\)](#)
- [ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(P.39-2\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.40-1\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.41-4\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新 \(P.42-1\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.10-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.44-2\)](#)



ユーザ デバイス プロファイル テンプレート

この章では、ユーザ デバイス プロファイルの作成と変更の手順を説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索 \(P.35-1\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成 \(P.35-3\)](#)
- [テンプレートの修正 \(P.35-5\)](#)
- [関連項目 \(P.35-7\)](#)

ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索

複数のユーザ デバイス プロファイル (UDP) テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定のテンプレートを探し出すことができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアントマシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP テンプレート] の順に選択します。

[UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : UDP テンプレート、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [プロファイル名]
- [プロファイルの説明]

■ ユーザデバイス プロファイル テンプレートの検索

- [デバイスタイプ]

2 番目の [検索対象 : UDP テンプレート、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するテンプレート名をクリックします。

[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.35-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) テンプレートの作成

ユーザ デバイス プロファイルを一括して追加するためのテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP テンプレート] の順に選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 [デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザ デバイス プロファイルのモデルを選択します。[次へ] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profile Template Name)] フィールドに、50 文字以下で固有の名前を入力します。

デバイスのモデルによっては、次のフィールドの一部が表示されない場合があります。

- [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]: ユーザがコールを保留にしたときに再生されるオーディオソースを選択する。
- [ユーザロケール (User Locale)]: このプロファイル用の国と言語の組み合わせを選択する。
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]: このプロファイル用の電話機ボタン テンプレートを選択する。
- [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]: このプロファイルに適切なソフトキー テンプレートを選択する。
- [MLPP 表示 (MLPP Indication)]: MLPP 優先コールを行うときにデバイスが優先トーンを再生できるかどうかを指定するには次のいずれかを選択する。
 - [デフォルト]: MLPP 表示をデバイス プールから継承する。
 - [オフ]: MLPP 表示トーンを送信しない。
 - [オン]: MLPP 優先コールの表示を送信する。
- [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]: MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをデバイスがプリエンプション処理できるかどうかを指定するには、次のいずれかを選択する。
 - [デフォルト]: MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承する。
 - [無効]: MLPP 優先コールを行うときにコールをプリエンプション処理しない。
 - [強制]: MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理する。



(注) デバイスの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [Forceful] に設定されているときは、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] に設定しないでください。

- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]: このデバイスに関連した MLPP ドメインの 16 進数を入力する。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
- [拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]: 電話機に拡張モジュールが取り付けられている場合はそのタイプを選択し、[モジュール 1(Module 1)] と [モジュール 2(Module 2)] に対しては [<None>] を選択する。

- [ログインユーザ ID(Login User Id)]: デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力する。ユーザがユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、ユーザ デバイス プロファイルは自動的にこのログイン ユーザ ID にログインしてデフォルト プロファイルを使用します。

ステップ 5 必要に応じて [**プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)**] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 DND 機能を有効にする場合は、[**サイレント (Do Not Disturb)**] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [**保存**] をクリックします。[**UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 選択した電話機ボタン テンプレートによって、表示されるリンクが異なります。たとえば、回線の追加、短縮ダイヤル設定、登録済み Cisco IP Phone サービス設定、およびビジー ランプ フィールド短縮ダイヤル設定などのリンクが表示されます。

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加できます。BAT テンプレートの回線、IP サービス、短縮ダイヤルの追加の詳細については、[第 3 章「電話機テンプレート」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.35-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

テンプレートの修正

同じデバイスの一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを修正できます。

既存の BAT テンプレートの詳細を修正または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.35-1 の「[ユーザデバイス プロファイル テンプレートの検索](#)」の手順に従って、変更する UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、変更するテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。
- ステップ 3** それが修正するテンプレートであることを確認します。
- ステップ 4** 必要に応じてテンプレート フィールドで詳細を修正します。
- ステップ 5** [保存] をクリックして既存のテンプレートに変更内容を保存します。

その他の項目

詳細については、P.35-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを新しいテンプレートにコピーできます。



- (注) 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP User Device Profile Model 7960)。

既存の BAT テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.35-1 の「[ユーザデバイス プロファイル テンプレートの検索](#)」の手順に従って、コピーする UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、コピーするテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。



- (注) コピーするテンプレートに対応する[コピー (Copy)]カラムのアイコンをクリックして、テンプレートをコピーすることもできます。

■ テンプレートの修正

- ステップ 3** これが、コピーするテンプレートであることを確認してから、[**コピー**] をクリックします。テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。
- ステップ 4** [**ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profile Template Name)**] フィールドに、新しいテンプレート名を 50 文字以下の英数字で入力します。
- ステップ 5** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。
- ステップ 6** [**保存**] をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の [**Templates**] カラムに表示されます。

その他の項目

詳細については、[P.35-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.35-1 の「ユーザデバイスプロファイルテンプレートの検索」](#)の手順に従って、削除する UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 表示されたテンプレートのリストから、削除するテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が、[**UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)**] ウィンドウに表示されます。



(注) テンプレート名の横のチェックボックスをオンにし、[**選択項目の削除**] をクリックしても、テンプレートを削除できます。

- ステップ 3** これが、削除するテンプレートであることを確認してから、[**削除**] をクリックします。削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4** [**OK**] をクリックして、レコードを削除します。[**UDP テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List UDP Templates)**] ウィンドウのテンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。

その他の項目

詳細については、[P.35-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索 \(P.35-1 \)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 \(BAT \) テンプレートの作成 \(P.35-3 \)](#)
- [テンプレートの修正 \(P.35-5 \)](#)



ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

CSV データ ファイルの作成にテキスト エディタを使用する場合、デバイス フィールドと回線 フィールドを CSV データ ファイル内で識別するファイル形式を使用する必要があります。このファイル形式には次のオプションがあります。

- Default User Device Profile : ユーザ デバイス プロファイルのデバイス フィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。
- Simple User Device Profile : ユーザ デバイス プロファイル用の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドを含む。
- カスタマイズ : 独自に選択して順序付けしたデバイス フィールドと回線フィールドを含む。

テキスト エディタで CSV ファイルを作成する前に、既存のファイル形式を選択するか新規のファイル形式を作成する必要があります。次にテキストベースの CSV データ ファイルのファイル形式で指定されたように値を入力します。

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- [UDP ファイル形式の検索 \(P.36-2\)](#)
- [UDP ファイル形式の作成 \(P.36-3\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.36-4\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.36-5\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.36-6\)](#)

UDP ファイル形式の検索

ユーザ デバイス プロファイル ファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP ファイル形式] > [UDP ファイル形式の作成] の順に選択します。

[UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象: UDP ファイル形式、検索条件: 形式名] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、ファイル形式の名前別に表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。

[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.36-6](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

UDP ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用の UDP ファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP ファイル形式の作成] の順に選択します。
[UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [UDP のファイル形式名 (UDP File Format Name)] フィールドに、このカスタマイズされた形式の名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各ユーザ デバイス プロファイルに定義するデバイスフィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスでデバイスフィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[Device Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

- ステップ 5** [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。



(注) ファイル形式で回線フィールドを選択した場合は、[Directory Number] が必須のフィールドです。



ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスおよび [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してフィールドをリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してリストの後方に移動させます。

- ステップ 6** [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでインターコム DN フィールドの名前をクリックしてから矢印をクリックし、そのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- ステップ 7** CSV ファイルに含める回線、短縮ダイヤル、IP Phone サービス、IP Phone サービス パラメータの最大数に対応するテキスト ボックスに入力します。



(注) 短縮ダイヤル、IP Phone サービス、IP Phone サービス パラメータを CSV ファイルに含めない場合は、最大数にゼロを入力してください。ただし、ファイル形式で回線フィールドを選択した場合は、最大回線数にゼロを指定できません。

ステップ 8 カスタマイズしたファイル形式を保存するには、[保存] をクリックします。ファイル形式の名前が [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウに表示されます。

その他の項目

詳細については、P.36-6 の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.36-2 の「UDP ファイル形式の検索」の手順に従って、コピーする UDP ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [コピー] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [UDP ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウで、コピーする形式に対応する [コピー (Copy)] カラムのアイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

ステップ 4 [UDP のファイル形式名 (UDP File Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。

ステップ 5 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスで削除するフィールドを選択してから、矢印をクリックしてその選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 6 変更を加えたら、[保存] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

その他の項目

詳細については、P.36-6 の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存の形式を修正する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.36-2 の「UDP ファイル形式の検索」の手順に従って、更新する UDP ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更するファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスからフィールドを選択し、次に矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
 - フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] または [選択済みのインターコム DN フィールド (Selected Intercom DN Fields)] の [ソート順] ボックスで削除するフィールドを選択してから、矢印をクリックしてその選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックス、[回線フィールド (Line Fields)] ボックス、または [インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。
 - フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスまたは [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。
- ステップ 4** 変更を加えたら、[保存] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

その他の項目

詳細については、P.36-6 の「関連項目」を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [P.36-2 の「UDP ファイル形式の検索」](#)の手順に従って、削除する UDP ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイル形式名をクリックします。[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。このファイルを削除することを確認します。
- ステップ 3** ファイル形式名リストからファイル形式を削除するには、[削除] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。リストからファイル形式名が削除されます。



(注) 対応するチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックして、ファイル形式を削除することもできます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、すべてのファイルを削除できます。

その他の項目

詳細については、[P.36-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定 \(P.36-2\)](#)
- [ファイル形式の追加 \(P.37-1\)](#)



ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の追加

ファイル形式が指定した順序でテキストベースの CSV データ ファイルにすべての値を入力したら、そのテキストベースの CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードする必要があります。ファイルのアップロードの詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。次にファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。

ファイル形式の追加

テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP ファイル形式] > [ファイル形式の追加] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに追加するには、[送信] をクリックします。

ジョブが、[一括管理] メニューの [ジョブスケジューラ] オプションに作成されます。ジョブ スケジュールを変更するには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

関連項目

- [ファイル形式の追加 \(P.37-1\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



ユーザ デバイス プロファイルの確認

[UDP の検証] を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データ ファイルが要求されたフィールド (たとえば、デバイス プロファイル名、および電話番号) をすべて読み込んでいるかどうかをチェックし、最初のノード データベースとの不一致がないかを確認します。

始める前に

- 追加するデバイス用のデバイス プロファイル テンプレートを用意します。1 回線のユーザ デバイス プロファイルの追加には、複数回線のユーザ デバイス プロファイル テンプレートが使用できます。詳細については、[P.35-3 の「ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- ユーザ デバイス プロファイルに固有の詳細情報を含む CSV データ ファイルを用意します。次のオプションを参照してください。
 - [P.34-3 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成」](#)
 - [P.38-2 の「ユーザ デバイス プロファイルの確認」](#)

ユーザ デバイス プロファイルの確認

CSV データ ファイルのユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP の検証] の順に選択します。

[ユーザデバイスプロファイルの確認 (Validate User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CSV データ ファイルに対応する挿入オプションを選択します。

- [UDP 固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)]: ファイル形式を使用するユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する場合。
- [UDP すべての詳細の確認 (Validate UDP All Details)]: [すべての詳細] オプションを使用して生成されたエクスポート ファイルからのユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する場合。

ステップ 3 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 4 [UDP 固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)] オプションを選択する場合は、[UDP テンプレート名 (UDP Template Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ユーザ デバイス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 5 [送信] をクリックすると、選択した CSV データ ファイルとデータベースが検証されます。

ジョブが、[一括管理] メニューの [ジョブスケジューラ] オプションに作成されます。ジョブ スケジュールを変更するには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイル用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 \(BAT\) テンプレートの作成 \(P.35-3\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 \(P.34-3\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



UDP の生成

すべての IP Phone ユーザに対するプロファイルを生成して挿入することによって、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用してエクステンション モビリティを迅速にセットアップできます。BAT は、ユーザが制御するデバイス数に関係なく、すべての電話機に対してユーザ デバイス プロファイルを生成します。たとえば、ユーザが 2 つのデバイスを制御している場合、BAT は 2 つの異なるユーザ デバイス プロファイル (各デバイスに対して 1 つずつ) を生成し、それらのユーザ デバイス プロファイルを同じユーザに関連付けます。BAT は生成されたユーザ デバイス プロファイルの 1 つをユーザのデフォルト ユーザ デバイス プロファイルとして設定します。BAT は各電話機モデル用の電話機ボタン テンプレートに基づいて、すべての IP Phone 用のユーザ デバイス プロファイルを生成します。



(注)

このアクションの実行には、ユーザ デバイス プロファイル テンプレートも CSV データ ファイルも使用しません。これらのユーザ デバイス プロファイルは、BAT によって生成されたとき、ユーザに関連付けられます。

ユーザデバイス用のユーザデバイスプロファイルの挿入

すべてのユーザ用のユーザデバイスプロファイルを生成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP の挿入] の順に選択します。[ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)] オプション ボタンをクリックし、カスタマイズされたファイル形式を使用する UDP レコードを挿入します。ステップ 4 と 5 に進みます。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイルのすべての詳細の挿入 (Insert User Device Profiles All Details)] オプション ボタンをクリックし、[すべての詳細] オプションを使用して作成したエクスポート済み UDP ファイルの UDP レコードを挿入します。
- ステップ 4** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 5** [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)] オプションを選択する場合は、[ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profiles Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。



- (注)** エクスポートユーティリティを使用して生成したファイルを挿入する場合は、ファイルに付加されているサフィックスを参照すると、適切な回線設定とともに電話機テンプレートを選択できます。エクスポートユーティリティは、電話機に対して設定される回線ごとに、数字のサフィックス `_n` を付加します。たとえば、「sales_7960_1_3.txt」という名前のエクスポートファイルは、このファイル内のすべての電話機レコードに対して、回線 1 と回線 3 が設定されることを示しています。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、**[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address、CTI ポートの場合は、ダミーデバイス名の作成)]** チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、XXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスが分からない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、または、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、[P.61-2 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要」](#)を参照してください。**ステップ 8** に進みます。



(注) テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[**既存の設定の上書き (Override the existing configuration)**] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。



(注) ユーザの現在の IP Phone に基づいて、すべての電話機に対してユーザ デバイス プロファイル レコードを生成して挿入するには、[**ユーザが制御するデバイスを使用 (Based on devices controlled by users)**] オプション ボタンを選択します。



(注) 生成済みのユーザ デバイス プロファイル デバイスのログアウト プロファイルとして使用する場合は、[**ユーザ デバイス プロファイルをデバイスのログアウト プロファイルとして設定 (Set User Device Profile as Log Out Profile for the device)**] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 [**今すぐ実行**] オプション ボタンをクリックして UDP レコードを即座に挿入するか、[**後で実行**] をクリックして後で挿入します。

ステップ 8 [**送信**] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 9 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。



(注) レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入しません。

その他の項目

詳細については、[P.39-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(P.39-2 \)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 \(P.61-2 \)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4 \)](#)



ユーザ デバイス プロファイルの削除

ここでは、ユーザ デバイス プロファイル(UDP)のグループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する手順を説明します。

次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した UDP の削除 \(P.40-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した UDP の削除 \(P.40-3\)](#)

クエリーを使用した UDP の削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified Communications Manager から UDP を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP の削除] > [クエリー] の順に選択します。

[ユーザデバイスプロファイルの削除 (Delete User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [ユーザ]
- [自動生成]
- [すべて]

ステップ 3 最初の [デバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [プロファイル名]
- [説明]
- [デバイスタイプ]

ステップ 4 2 番目の [デバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]

■ クエリーを使用した UDP の削除

- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして UDP レコードを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後で削除します。

ステップ 10 [送信] をクリックして、電話機レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 11 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

**注意**

クエリー テキスト ボックスに情報を何も入力しないと、すべての UDP レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

その他の項目

詳細については、P.40-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

カスタム ファイルを使用した UDP の削除

テキスト エディタを使用して、削除する UDP のカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、デバイス プロファイル名、デバイス プロファイルの説明、電話番号を含めることができますが、複数の電話番号を同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。



(注) シェアドラインを持つ UDP は、カスタム ファイルを使用して削除することはできません。

始める前に

1. 削除する UDP について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - プロファイル名
 - プロファイルの説明
 - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている UDP を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP の削除] > [カスタムファイル] の順に選択します。

[ユーザデバイスプロファイルの削除 (カスタム)] (Delete User Device Profiles Custom Configuration) ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除対象] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [ユーザ]
- [自動生成]
- [すべて]

ステップ 3 [デバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [プロファイル名]
- [プロファイルの説明]
- [電話番号]

ステップ 4 カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

ステップ 6 検索条件に一致する UDP のリストが表示されます。

ステップ 7 [送信] をクリックして、UDP を削除するジョブを作成します。

[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.40-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [クエリーを使用した UDP の削除 \(P.40-1\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した UDP の削除 \(P.40-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 \(P.61-2\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用方法

ユーザ デバイス プロファイル レコードをエクスポートする場合、次の2つのファイル形式名から選択できます。

- All User Device Profile Details (All Phone Details ファイル形式): ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた回線アトリビュート、サービス、およびユーザ ID をすべてエクスポートします。
- Specific User Device Profile Details (Default Phone ファイル形式): ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートします。

All User Device Profile Details 形式

複数パーティションやコーリングサーチスペースなどの、回線設定の異なる電話機の場合、All User Device Profile Details 形式を使用します。

表 41-1 に、All User Device Profile Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 41-1 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	User Device Profile Name、Description、Device Pool、Calling Search Space、AAR Calling Search Space、Media Resource Group List、User Hold Audio Service、Network Hold Audio Source、Login User ID、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module Type I、Expansion Module Type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

Specific User Device Profile 形式

ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、Default User Device Profile 形式を使用します。特定のクエリー オプションを選択してエクスポート ファイルをカスタマイズできます。

表 41-2 に、Default User Device Profile 形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。関連する手順については、P.41-5 の「関連項目」を参照してください。

表 41-2 Default User Device Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Login User ID
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer External、Forward No Answer Internal、Forward No Coverage External、Forward No Coverage Internal、Call pickup group
短縮ダイヤル	Speed Dials

その他の情報

詳細については、P.41-5 の「関連項目」を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート

ユーザ デバイス プロファイル を Cisco Unified Communications Manager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のオプションのいずれかを選択してください。

- [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP のエクスポート] > [固有の詳細]。[ユーザデバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List User Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP のエクスポート] > [すべての詳細]。[ユーザデバイスプロファイルのエクスポート (Export User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [すべての詳細] オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスからデバイスの種類または特定のモデルを選択します。ステップ 4 に進みます。

ステップ 3 [固有の詳細] オプションを選択した場合は、エクスポート ファイルをカスタマイズし、以下の詳細なオプションを設定することができます。

- a. ドロップダウン リスト ボックスで、デバイスの種類とデバイス プロトコルを選択します。
- b. 最初の [検索対象 : ユーザデバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [プロファイル名]
 - [プロファイルの説明]
- c. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる]
 - [が次の文字列を含む]
 - [が次の文字列と等しい]
 - [が次の文字列で終わる]
 - [が空である]
 - [が空ではない]
- d. 検索フィールド ボックスに、検索する値 (たとえば、特定のプロファイル名またはプロファイルの説明) を入力します。
- e. 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み] チェックボックスをクリックして [AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、b. ~ d. を繰り返します。
- f. [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。
- g. [次へ] をクリックします。
- h. [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、使用するファイル名を入力します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてユーザ データ プロファイル を即座にエクスポートするか、[後で実行] をクリックして後でエクスポートします。

ステップ 7 [送信] をクリックして、ユーザ デバイス プロファイル をエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.41-5 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [Specific User Device Profile 形式 \(P.41-3\)](#)
- [All User Device Profile Details 形式 \(P.41-2\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.41-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新

特定のデバイス グループまたは特定のユーザ デバイス プロファイル グループ用の回線アトリビュートを更新するには、[回線の更新] オプションを使用します。クエリー結果に電話機用の回線とユーザ デバイス プロファイル用の回線の両方が含まれている場合は、両回線が同時に更新されます。



(注)

電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除しても、電話番号はデータベース内に残っています。これらの孤立した電話番号を管理するには、[回線の更新] オプションを使用して割り当てられていない電話番号を検索し、これらの電話番号を削除または更新することができます。

ユーザ デバイス プロファイル用の回線の更新

ユーザ デバイス プロファイル用の回線を更新する手順は、次のとおりです。

- [クエリーを使用した回線の更新 \(P.42-2\)](#)
- [回線を更新する場合のフィールドの説明 \(P.42-4\)](#)

クエリーを使用した回線の更新

回線を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] [ユーザデバイスプロファイル] [回線の追加/更新] [回線の更新]の順に選択します。

[回線の更新のクエリー] ウィンドウが表示されます。



(注) クエリーを指定しなければ、すべての回線を更新できます。P.42-4 の「回線を更新する場合のフィールドの説明」に進みます。

ステップ 2 最初の [検索対象: 回線、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [電話番号]
- [ルートパターン]
- [回線の説明]
- [CSS(電話)]
- [CSS(回線)]
- [デバイスプール]
- [デバイスの説明]
- [回線の位置]
- [未定義の DN]
- [コールピックアップグループ]



(注) 孤立した電話番号を検索して削除するには、「未定義の DN」を使用します。

ステップ 3 2 番目の [検索対象: 回線、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストから回線の位置を選択するか、電話番号の範囲を入力します。



ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。

ステップ 6 [検索] をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

検索された回線のリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]

ステップ 7 [次へ] をクリックします。最上部で選択したクエリーのタイプが、[回線の更新 (Update Lines)] ウィンドウに表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 8 クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、P.42-4 の「[回線を更新する場合のフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして回線を即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 11 [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。

ステップ 12 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。



(注) 回線レコードの情報に何らかの問題がある場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、その回線レコードを更新しません。

その他の項目

詳細については、P.42-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線を更新する場合のフィールドの説明

表 42-1 では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。

一部のフィールドに示される値は、Cisco Unified Communications Manager から表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定する必要があります。関連する手順については、P.42-11 の「関連項目」を参照してください。

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明



フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを選択します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示する必要のある名前を入力します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。このパラメータを選択すると、この電話機に対してボイス メッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space、回線)]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるコールピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが保留ボタンまたはソフトキーを押してコールを保留にしたときに再生される保留音オーディオソースを選択します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコールパークを開始したとき) に再生される保留音オーディオソースを選択します。

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)






フィールド	説明
[自動応答 (Auto Answer)]	ここで更新されるすべての回線で自動応答機能を使用する場合は、このパラメータを選択します。自動応答を使用すると、ヘッドセットを使用中であっても、Cisco Unified Communications Manager が自動的にコールに应答します。着信コールが接続されていることをユーザに知らせるアラート音 (ジップ トーン) が再生されます。
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)]	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>すべてのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)





フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)






フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)]の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)]の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>応答されない内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイス メール (Voice Mail)]	電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイス メール (Voice Mail)]	電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。  (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [着信先別 (Destination)]	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイス メール (Voice Mail)]	(CTI ポートのみ) 外部番号または内部番号からの失敗したコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[無応答時の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration、秒)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、[無応答時転送 (Forward No Answer)] の [着信先別 (Destination)] フィールドで入力された電話番号にコールを転送します。  (注) Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータの Forward No Answer Timer で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	ピックアップグループを選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、着信先)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リストボックスから、代替パーティ ターゲット(宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチ スペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間(4 ~ 30 秒)を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
[デバイス null の回線 null(Line null on Device null)]	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。  (注) デフォルトの言語は英語です。
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Use System Policy](電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) [Light and Prompt] [Prompt Only] [Light Only] [None] <p>設定は、右にあるチェックボックス(「共有デバイス設定の更新」)をオンにして [選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます(右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
[呼出音設定(Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	電話機に着信コールがあった場合の呼び出し音のタイプを選択します。
[呼出音設定(Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される、着信コールの呼び出し音のタイプを選択します。
[複数コール / コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings)]	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの1つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます(さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
[転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display)]	
[発信者名 (Caller Name)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

表 42-1 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発信者番号 (Caller Number)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。



(注)

手順を完了するには、P.42-2 の「[クエリーを使用した回線の更新](#)」に進みます。

関連項目

- [クエリーを使用した回線の更新 \(P.42-2\)](#)
- [回線を更新する場合のフィールドの説明 \(P.42-4\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



UDP の回線の追加

既存のユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加することができます。テンプレートを使用して新しい回線を追加すると、電話サービスまたは短縮ダイヤルを変更することはできません。既存の電話機に回線を追加する場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ではテンプレートのこれらのフィールドが無視されます。

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイルに回線を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- このトランザクションには BAT テンプレートが必要です。詳細については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。
- このトランザクションには CSV データ ファイルが必要です。詳細については、[P.34-3 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

既存の UDP への回線の追加

既存のユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] [ユーザデバイスプロファイル] [回線の追加/更新] [回線の追加] の順に選択します。
- [UDP 回線の追加 (UDP Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。
- ステップ 4** [UDP テンプレート名 (UDP Template Name)] フィールドで、このバルク トランザクションに使用するユーザ デバイス プロファイル テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 7** [送信] をクリックして、電話機レコードを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 8** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.43-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加

既存の UDP に回線を追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Add Lines] タブをクリックします。
- ステップ 4** スプレッドシートの回線ごとに、個々のデバイス プロファイルのデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。表 43-1 では、BAT スプレッドシートで回線を追加する場合のフィールドを説明しています。
- ステップ 5** [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。あるいは [Browse] を使用してローカル ワークステーション上の別の既存フォルダに保存することもできます。ファイル名は次のとおりです。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、UDP）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



- (注)** いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。



- (注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の [電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウで [View Sample File] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.43-6 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

表 43-1 では、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドについて説明します。関連する手順については、P.43-6 の「関連項目」を参照してください。

表 43-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明










フィールド	説明
MAC Address/Device Name	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有の ID を入力します。UDP のデバイス名を入力します。
Line Index	電話機の手回線インデックスに 1 ~ 34 までの数字を入力します。
Directory Number	この手回線の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Display	<p>コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します（たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など）。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Line Text Label	<p>手回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Forward Busy External	<p>手回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 43-1 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward No Answer External	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Call Pickup Group	<p>コールピックアップグループ名を入力してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。</p>

関連項目

- [既存の UDP への回線の追加 \(P.43-2 \)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加 \(P.43-3 \)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明 \(P.43-4 \)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5 \)](#)



UDP のレポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、最初のノード サーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

例

電話機モデル別に、転送宛先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco Unified IP Phone モデル 7960 の電話機レポートを生成して、クエリー詳細 ([Device Name]、[Directory Number]、[Forward Busy Destination]、[Forward No Answer Destination]、および [Label]) を選択できます。レポート フィールドを整理して、[Label] フィールドが [Directory Number] フィールドの後ろ、2 つの転送宛先番号の前に位置するように調整できます。

その他の情報

詳細については、[P.44-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

ユーザ デバイス プロファイル (UDP) のレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ユーザデバイスプロファイル] > [UDP レポートの作成] の順に選択します。

[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [ユーザ]
- [自動生成]
- [すべて]

ステップ 3 最初の [デバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [プロファイル名]
- [説明]
- [デバイスタイプ]

ステップ 4 2 番目の [デバイスプロファイル、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]

- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 8 [次へ] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。[ユーザデバイスプロフィールレポートの作成 (Generate User Device Profiles Report Configuration)] ウィンドウに、選択したクエリーが表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 9 [レポートファイル名] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 10 使用可能な [デバイスフィールド (Device Fields)] ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイスフィールドおよび回線フィールドについては、P.12-3 の「[電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート](#)」を参照してください。

ステップ 11 このレポート リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 12 使用可能な [回線フィールド (Line Fields)] ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。

ステップ 13 このレポート リストの [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



(注) レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

ステップ 14 [追加の IP サービスフィールド (Additional IP Services Fields)] 領域で、必要に応じて [短縮ダイヤルサービス (Speed Dial Services)] チェックボックスと [IP Phone サービス (IP Phone Services)] チェックボックスのいずれかまたは両方をオンにします。

ステップ 15 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 16 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして即座に UDP のレポートを生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

ステップ 17 [送信] をクリックして UDP のレポートを生成するジョブを作成します。

ステップ 18 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.44-4](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.44-2\)](#)
- [電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート \(P.12-3\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



ゲートウェイ テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、複数のシスコのゲートウェイとそのポートを、Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して設定できます。各ゲートウェイとポートを個々に追加する必要はありません。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [シスコのゲートウェイの追加 \(P.45-2\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(P.45-4\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(P.45-6\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.45-15\)](#)
- [ポートの設定 \(P.45-36\)](#)
- [シスコのゲートウェイの削除 \(P.47-1\)](#)
- [シスコのゲートウェイのレポートの生成 \(P.49-1\)](#)

シスコのゲートウェイの追加

BATを使用してシスコのゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加できます。

VG200 ゲートウェイの追加

VG200 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート
- ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- 北米における ISDN サービス用の T1 PRI (Primary Rate Interface; 1 次群速度インターフェイス) トランク：現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。
- ヨーロッパにおける ISDN サービス用の E1 PRI トランク：現在は Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用できます。
- デジタル アクセス T1 プロトコル トランク

Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG200 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義する。詳細については、[P.45-6 の「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」](#)を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義する。詳細については、[P.48-1 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する。詳細については、[P.48-7 の「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入」](#)を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に挿入する手順は、次のとおりです。

1. Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートを作成する。詳細については、[P.45-11 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成」](#)を参照してください。
2. FXS ポートのセットに共通の値を定義するために、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する。詳細については、[P.45-17 の「FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明」](#)を参照してください。
3. 追加する FXS ポート用に個々の値を定義するために、CSV データ ファイルを作成する。詳細については、[P.48-4 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
4. FXS ポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する。[P.48-7 の「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入」](#)を参照してください。

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュール用に FXS ポートを追加する前に、次のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールする必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用して、ゲートウェイを設定する。設定方法については、ゲートウェイに付属しているマニュアルを参照してください。

2. Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加するには Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway とデバイス プロトコルを選択して、[次へ] をクリックします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

BAT を使用して、アナログ デバイス用に、FXS ポートを Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュールに追加できます。Gateway Directory Number テンプレートを設定して、これらの FXS ポートおよび Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートに関連付けしてから、これらのポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する必要があります。

VG224 ゲートウェイの追加

VG224 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco VG224 ゲートウェイを追加するときに、次のタイプのトランクまたはポートを設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート

Cisco VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco VG224 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義する。詳細については、P.45-12 の「Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成」を参照してください。
2. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義する。詳細については、P.48-5 の「Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。
3. ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する。詳細については、P.48-7 の「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.45-40 の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイテンプレートの検索

複数のゲートウェイテンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアントマシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイテンプレート] の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前]
- [説明]
- [DN/ ルートパターン]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [ルートグループ名]
- [デバイスタイプ]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ゲートウェイ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、[表示] を選択してゲートウェイに関連付けられたエンド ポイントを表示し、[検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名]
- [説明]
- [デバイスプール]
- [ステータス]
- [IP アドレス]

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.45-40 の「関連項目」](#)を参照してください。

ゲートウェイテンプレートの追加または編集

新しい VG200、VG224、または Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[ゲートウェイ]>[ゲートウェイテンプレート]の順に選択します。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

- 既存のゲートウェイテンプレートを編集する場合は、P.45-4 の「ゲートウェイテンプレートの検索」を参照し、編集するゲートウェイを選択します。

P.45-15 の「VG200 ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明」、P.45-16 の「VG224 ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明」、および P.45-17 の「Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明」を参照してください。

- 新しいゲートウェイを追加するには、[新規追加]をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの手順を完了します。

- VG200 テンプレートを作成する場合は、P.45-6 の「Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成」を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートテンプレートを作成する場合は、P.45-11 の「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイテンプレートの作成」を参照してください。
- VG224 テンプレートを作成する場合は、P.45-12 の「Cisco VG224 ゲートウェイテンプレートの作成」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成してから、ネットワークモジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート
- FXO トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

VG200 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[ゲートウェイ]>[ゲートウェイテンプレート]の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [**新規追加**] をクリックします。[**新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)**] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [**ゲートウェイタイプ (Gateway Type)**] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG200 を選択し、[**次へ**] をクリックします。[**ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)**] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、[P.45-15 の「VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 5** [**保存**] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。
- ステップ 6** [**Subunit**] フィールドで、次の各サブユニット フィールドに適切なタイプを選択します。
- [**VIC-2FXS**]: FXS 音声インターフェイス カード
 - [**VIC-2FXO**]: FXO 音声インターフェイス カード
 - [**VWIC-1MFT-T1**]: T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [**VWIC-2MFT-T1**]: T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [**VWIC-1MFT-E1**]: E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
 - [**VWIC-2MFT-E1**]: E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- ステップ 7** [**保存**] をクリックします。更新が完了したことが [**ステータス**] によって示されると、[**Subunit**] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。
- ステップ 8** エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。
- 詳細な手順については、次の項を参照してください。
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(P.45-8\)](#)
 - [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(P.45-9\)](#)
 - [VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(P.45-10\)](#)
 - [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加 \(P.45-10\)](#)
- ステップ 9** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[**リセット**] をクリックします。
- ステップ 10** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのポートの追加

VG200 ゲートウェイに関して設定できるデバイス プロトコルおよびポート タイプは、インストールされた音声インターフェイスによって異なります。この項では、次の手順について説明します。

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(P.45-8\)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(P.45-9\)](#)

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1\(T1-CAS \)ポートの追加 \(P.45-10 \)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加 \(P.45-10 \)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG200 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、[P.45-6 の「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、[P.45-4 の「ゲートウェイ テンプレートの検索」](#)を参照します。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。

ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。

ステップ 3 適切な [**デバイス情報 (Device Information)**] と [**ポート情報 (Port Information)**] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。

- [FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明 \(P.45-17 \)](#)
- [POTS ポートの設定 \(P.45-36 \)](#)

ステップ 4 [**保存**] をクリックします。



(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [**電話番号情報 (Directory Number Information)**] 領域に、[**新規 DN を追加**] リンクが表示されます。

ステップ 5 [**新規 DN を追加**] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、[ステップ 7](#) に進んで別のポート タイプを設定します。



(注) DN の追加と設定の詳細については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。

ステップ 6 ポートを追加する VG200 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[**関連リンク**] ドロップダウン リスト ボックスで [**MGCP 設定に戻る**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

ステップ 7 ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[**リセット**] をクリックします。

ステップ 8 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。

その他の情報

詳細については、[P.45-40](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加

FXO (Foreign Exchange Office) ポートを使用すると、セントラル オフィスまたは PBX に接続できません。VG200 ゲートウェイ テンプレートにループスタートまたはグラウンドスタート用の FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループスタート トランクには確実な接続解除監視がないと想定しています。確実な接続解除監視を伴うトランクをグラウンドスタートとして設定し、Cisco Unified Communications Manager サーバがフェールオーバー中にアクティブなコールを保持できるようにします。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、[P.45-6](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 FXO ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、[P.45-4](#) の「[ゲートウェイ テンプレートの検索](#)」を参照します。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

ステップ 3 [ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] または [Loop Start] のいずれかを選択します。



(注)

VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント識別子として同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

ステップ 4 [P.45-17](#) の「[FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明](#)」に示す適切な[[ゲートウェイの設定 \(Gateway Configuration\)](#)] と [[ポート情報 \(Port Information\)](#)] の設定値を入力します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ステップ 6 ポートを追加するゲートウェイ用の VG200 ゲートウェイ設定のメイン ウィンドウに戻るには、[[関連リンク](#)] ドロップダウン リスト ボックスで [[MGCP 設定に戻る](#)] を選択し、[[移動](#)] をクリックします。

ステップ 7 ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット] をクリックします。

ステップ 8 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。

その他の情報

詳細については、[P.45-40](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイテンプレートへのデジタルアクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加

VG200 ゲートウェイにデジタルアクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加するゲートウェイテンプレートを検索するには、[P.45-4](#) の「[ゲートウェイテンプレートの検索](#)」を参照します。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタルアクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

表示される [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Digital Access T1] を選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 3 適切なゲートウェイ設定を入力します。詳細については、[P.45-23](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレート上のデジタルアクセス T1 トランクのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット] をクリックします。

ステップ 6 選択したポート タイプの適切な設定値については、[P.45-36](#) の「[ポートの設定](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.45-40](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイテンプレートへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加

ステップ 1 T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートを追加するゲートウェイテンプレートを検索するには、[P.45-4](#) の「[ゲートウェイテンプレートの検索](#)」を参照します。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

ステップ 3 T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。詳細なフィールドの説明は、[P.45-26](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット]をクリックします。

その他の情報

詳細については、P.45-40 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイ テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイテンプレート] の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] を選択します。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [テンプレート名 (Template name)] フィールドに、このテンプレートの固有の名前を入力します。

ステップ 5 フィールドに設定値を入力します。詳細については、P.45-17 の「[Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

ステップ 7 [新規ポートを追加] をクリックします。

別のウィンドウに、ポート設定のダイアログが開きます。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、設定するゲートウェイ モデルに基づくポート タイプとして [POTS] を選択します。

ステップ 9 P.45-36 の「[POTS ポートの設定](#)」の説明に従って、適切なポート設定を入力します。

ステップ 10 [保存] をクリックします。

POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの左側のリストに POTS ポート情報が表示されます。新しいポートの右に、[DN の追加] リンクが表示されます。

ステップ 11 FXS ポートに電話番号を追加するには、[DN の追加] をクリックします。

電話番号の追加と設定については、P.3-5 の「[BAT テンプレートにおける回線の追加または更新](#)」を参照してください。

ステップ 12 [保存] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス] に示されると、[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウにテンプレートが表示されます。[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、[検索 / リストに戻る] を選択します。

Cisco VG224 ゲートウェイテンプレートの作成

Cisco VG224 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

始める前に

VG224 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイテンプレート] の順に選択します。

[ゲートウェイテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。[新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG224 を選択し、[次へ] をクリックします。次の [新規ゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、MGCP または SCCP を選択し、[次へ] をクリックします。[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 すべてのフィールドに値を入力します。詳細については、[P.45-16 の「VG224 ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。

ステップ 6 [保存] をクリックします。挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。

ステップ 7 [Subunit 0] フィールドで、サブユニット フィールドに適切なタイプをドロップダウン リスト ボックスから選択します。

- [VIC-2FXS]: FXS 音声インターフェイス カード

ステップ 8 [保存] をクリックします。更新が完了したことが [ステータス] によって示されると、[Subunit 0] ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。

ステップ 9 エンドポイント識別子 (たとえば、1/0/0) をクリックし、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールした VIC タイプのポートを追加します。

詳細な手順については、次の項を参照してください。

- [VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(P.45-13\)](#)

ステップ 10 ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット] をクリックします。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

VG224 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

FXS (Foreign Exchange Station) ポートを使用すると、POTS デバイスに接続できます。VG224 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定する前に、VG224 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、[P.45-12](#) の「Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成」を参照してください。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを検索するには、[P.45-4](#) の「ゲートウェイ テンプレートの検索」を参照します。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。

ウィンドウが更新され、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウにエンドポイントのアイコンが表示されます。

ステップ 3 適切な [デバイス情報 (Device Information)] と [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。該当するフィールドの詳細については、次の項を参照してください。

- [FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明 \(P.45-17\)](#)
- [POTS ポートの設定 \(P.45-36\)](#)

ステップ 4 [保存] をクリックします。



(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に、[新規 DN を追加] リンクが表示されます。

ステップ 5 [新規 DN を追加] をクリックして POTS ポートに電話番号を追加するか、[ステップ 7](#) に進んで別のポート タイプを設定します。



(注) DN の追加と設定の詳細については、P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」を参照してください。

- ステップ 6** ポートを追加する VG224 ゲートウェイの [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メイン ウィンドウに戻るには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットし、変更を適用するには、[リセット] をクリックします。
- ステップ 8** その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
-

その他の情報

詳細については、[P.45-40](#) の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイの設定

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.45-15 \)](#)
- [VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.45-16 \)](#)
- [Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(P.45-17 \)](#)
- [FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明 \(P.45-17 \)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明 \(P.45-23 \)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(P.45-26 \)](#)

ポート設定の詳細については、[P.45-36 の「ポートの設定」](#)を参照してください。

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

[表 45-1](#) に、VG200 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、[P.45-40 の「関連項目」](#)を参照してください。

表 45-1 VG200 ゲートウェイの設定

フィールド	説明
[テンプレート名 (Template name)]	Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。

[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]



(注) 一部の VIC の開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 で開始される 2 つのポート (0 と 1) がある場合は、Subunit 1 の VIC は 1 より大きなポート番号 (2 と 3 または 4 と 5) で開始する必要があります。



(注) VG200 ゲートウェイにはスロットが 1 つだけあります。

表 45-1 VG200 ゲートウェイの設定 (続き)

フィールド	説明
Module in Slot 1	<p>VG200 ゲートウェイで使用可能なスロットの場合は、次のモジュールタイプから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V]: Network Module-1Voice には、Sub-Unit 0 に、FXS または FXO 用の 1 枚の音声インターフェイスカード (VIC) がある。 • [NM-2V]: Network Module-2Voice には、FXS または FXO 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚、Sub-Unit 1 に 1 枚、合計 2 枚の VIC がある。 • [NM-HDV]: Network Module-High Density Voice には、T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚の VIC がある。 • [None]: ネットワーク モジュールが取り付けられていない。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>


VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 45-2 に、VG224 ゲートウェイ テンプレート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、P.45-40 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 45-2 VG224 ゲートウェイの設定

フィールド	説明
[テンプレート名 (Template name)]	Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、優先順位が指定された最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager のリストが含まれます。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager の役割を果たします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合または失敗する場合は、ゲートウェイがリスト内の次の Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。</p>

表 45-2 VG224 ゲートウェイの設定 (続き)

フィールド	説明
[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
Module in Slot 2	VG224 ゲートウェイで使用可能なスロットに対し、ドロップダウン リスト ボックスから [ANALOG] を選択します。
[Subunit 0]	VG224 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 に対し、ドロップダウン リスト ボックスから [24FXS] を選択します。
	 (注) VG224 ゲートウェイの場合は、[Module in Slot 2] と [Subunit 0] だけが使用可能です。

Cisco Catalyst 24 Port FXS Gateway テンプレートのフィールドの説明

表 45-3 に、Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway テンプレートの設定を示します。関連する手順については、P.45-40 の「関連項目」を参照してください。

FXS/FXO ポート設定のフィールドの説明

表 45-3 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定


フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスの目的を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付 / 時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、パーティションの集合を指定するものです。パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。 このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して設定できます。
	 (注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。

表 45-3 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)


フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[ロケーション (Location)]	このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [None] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを [None] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p> (注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとはかぎりません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、[Top Down] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Top Down]: ポート 1 からポート 8 まで、降順にポートを選択します。 • [Bottom Up]: ポート 8 からポート 1 まで、昇順にポートを選択します。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

表 45-3 Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway の設定 (続き)


フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を <None> のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定値がありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	この設定値には、このデバイス タイプがありません。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

表 45-4 に、FXS/FXO ポート設定の詳細な説明があります。関連する手順については、P.45-40 の「関連項目」を参照してください。

VG200 ゲートウェイでは、すべてのスイッチ エミュレーション タイプがネットワーク側をサポートするとはかぎりません。ゲートウェイ スイッチ タイプを設定する方法によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 45-4 FXS/FXO ポートの設定


フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 アナログ インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合（たとえば、Communications Manager グループ、日付 / 時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース）を指定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース（たとえば保留音サーバ）を選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合で構成されます。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。 このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数は、Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して設定できます。  (注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択し、さらに [Unified CMAAdmin Parameters] ペインに [Max List Box Items] の値を入力します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[ロケーション (Location)]	このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [None] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。

表 45-4 FXS/FXO ポートの設定 (続き)



フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを [None] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。</p> <p> (注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートするネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとはかぎりません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を <None> のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。</p>

表 45-4 FXS/FXO ポートの設定 (続き)


フィールド	説明
[ポート情報 (Port Information) (POTS)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound]: 着信コールだけに使用。 [Outbound]: 発信コールに使用。 [Bothways]: 着信コールと発信コールに使用(デフォルト)。
[プレフィックスDN(Prefix DN)] (FXS ポート用)	着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
[数値桁 (Num Digits)] (FXS ポート用)	収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。 Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右(最後の桁)から有意な数字をカウントします。 このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN(Prefix DN)」を参照してください。
[期待文字 (Expected Digits)] (FXS ポート用)	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値(ゼロ)をそのまま使用してください。
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログアクセス ポート用に使用します。 [SMDI ポート番号 (0-4096)] は、アナログアクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。  (注) ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[ポート情報 (Port Information)] (Loop Start および Ground Start) (FXO ポート用)	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound]: 着信コールだけに使用。 [Outbound]: 発信コールに使用。 [Both Ways]: 着信コールと発信コールに使用。
[アテンダント DN(Attendant DN)]	着信コールを転送する先の電話番号を入力します。たとえば、0 は、オペレータの電話番号です。

表 45-4 FXS/FXO ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上のデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明

表 45-5 に Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用の値を追加または更新するためのフィールドについて、詳細に説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもありません。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、P.45-40 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 45-5 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定

フィールド	説明
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	<p>VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager で生成された VG200 デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が表示されます。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 テンプレート名を表します。</p>
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明らかにする説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付 / 時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>

表 45-5 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)


フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用する着信コールをネットワーク上にない (OffNet) とみなすか、ネットワーク上にある (OnNet) とみなすかを決定します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用] に設定されている場合は、Cisco Unified Communications Manager Clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定によってゲートウェイが OnNet か OffNet が決まります。</p> <p>このフィールドには、コールがそれぞれ OnNet または OffNet の場合の OnNet または OffNet の警告音を指定します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリングサーチスペースの数は、Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目数を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、さらに Unified CMAAdmin Parameters を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [None] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを [None] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>

表 45-5 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)


フィールド	説明
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインを選択します。この値を <None> のままにすると、このデバイスはデバイスのデバイス プールに設定された値から MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインが設定されていない場合に、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値からその MLPP ドメインを継承します。
[DTMF 優先シグナルを処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	このゲートウェイで特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルと解釈できるようにするには、このボックスをオンにします。
[ロード情報 (Load Information)]	ゲートウェイ用の該当するファームウェア ロード情報を入力します。 ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。 有効な入力値は、[Top Down] (最初から最後) または [Bottom Up] (最後から最初) です。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、[Top Down] を選択してください
[送信番号 (Digit Sending)]	ダイヤルアウト方式に、次の数字送信タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [DTMF]: デュアル トーン多重周波数。通常のプッシュフォンのダイヤル方式。 [MF]: 多重周波数。 [PULSE]: パルス (ロータリー) ダイヤル方式。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートウェイに関連付けられたロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定のロケーションのハードウェアをサポートする詳細な情報のセットを識別します。ネットワーク ロケールには、デバイスが特定の地域で使用するトーンと断続周期の定義が含まれます。  (注) すでにインストールされ、関連のデバイスでサポートされているネットワーク ロケールのみを選択します。リストには、この設定に使用できるすべてのネットワーク ロケールが含まれますが、すべてがインストールされているとはかぎりません。ファームウェアでサポートしないネットワーク ロケールにデバイスが関連付けられている場合、デバイスは起動しません。
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。 このパラメータをゼロでない値に設定し、このゲートウェイが不明なルート リスト タイプ、ルート グループ、またはルート リストに属する場合は、このスパンを過ぎるとハンティングは継続されません。

表 45-5 デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の設定 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

その他の項目

詳細については、[P.45-40](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

[表 45-6](#) に、Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクの値を追加または更新するためのフィールドについて説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

関連する手順については、[P.45-40](#) の「**関連項目**」を参照してください。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	<p>VG200 ゲートウェイの場合、ここは表示専用フィールドです。Cisco Unified Communications Manager が生成する、VG200 エンドポイントを一意に識別する文字列が表示されます。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を表し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを表し、@VG200-2 は VG200 ドメイン名を表します。</p>
[説明 (Description)]	設定するエンドポイントの説明を入力します。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど) を定義します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、[OnNet]、[OffNet]、または [システムデフォルトの使用] の中からデバイスの設定オプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで [システムデフォルトの使用] を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (OnNet) か外部 (OffNet) かが決定されます。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときを使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを [None] に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p> <p>デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信デバイスでは、このチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケール設定に一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信デバイスは、送信デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールに一致する場合は、電話機に文字が表示されます。</p> <p>トランクの両端が同じ言語グループに属さないユーザ ロケールを設定している場合は、電話機に判読不可能な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [PRI AUSTRALIAN]: Australian ISDN [PRI EURO]: European ISDN [PRI ISO QSIG E1]: European PBX 間シグナリング プロトコル <p>T1 PRI スパンには、通信事業者または交換機に応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [PRI 4ESS]: AT&T 長距離通信事業者、Lucent Definity 交換機 [PRI 5E8 Custom]: Cisco Unified IP Phone、Nortel Meridian 交換機、Lucent Definity 交換機 [PRI 5E8 Teleos]: Madge Teleos ボックス [PRI 5E8 Intecom]: Intecom PBX [PRI 5E9]: AT&T 系の地域通信事業者または交換機 [PRI NI2]: Sprint 地域通信事業者または交換機 [PRI DMS-100]: Sprint 地域通信事業者または交換機 [PRI DMS-250]: MCI および Sprint 地域通信事業者または交換機 [PRI ETSI SC]: T1 ベースの欧州地域通信事業者、および日本の地域電話局 [PRI ISO QSIG T1]: PBX 間シグナリング プロトコル

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル側 (Protocol Side)]	適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続するか、User デバイスに接続するかを指定します。 PRI 接続の両端が、逆の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときに、PBX がプロトコル側として User を使用する場合、このデバイスには Network を選択します。一般に、Central Office (CO) 接続には User を使用します。
[チャネル選択順序 (Channel Selection Order)]	チャネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり最初 (最小番号のポート) から最後 (最大番号のポート) の順か、最後から最初の順かを選択します。 有効な入力値は、[Top Down] (最後から最初) または [Bottom Up] (最初から最後) です。どちらのポート順序を使用すべきかわからない場合は、[Top Down] を選択してください (デフォルトは [Bottom Up])。
[チャネル IE タイプ (Channel IE Type)]	次の値のいずれかを選択して、チャネル選択がチャネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> [Number]: B チャネルの使用は、常にチャネル マップ形式です。 [Slotmap]: B チャネルの使用は、常にスロットマップ形式です。 [Use Number when 1B]: チャネルの使用は、1 つの B チャネルにはチャネル マップですが、複数の B チャネルが存在する場合は、スロットマップです (デフォルト)。
[PCM タイプ (PCM Type)]	デジタル符号化フォーマットを指定します。次の形式のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [a-law]: ヨーロッパおよび下記以外の国で使用します。 [mu-law]: 北米、香港、台湾、および日本で使用します。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	(オプション) スパンが開始するレートを、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、システム上で多数の PRI スパンが使用可能になっているときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合です (デフォルト値は 32)。 たとえば、最初の 5 つのカードを 0 に設定し、次の 5 つのカードを 16 に設定します (カードが使用開始になるまで 2 秒待ちます)。
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	再起動間の間隔を、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合に、PRI RESTART が送信されるときです (デフォルト値は 4)。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	再起動メッセージによって、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートが使用中であると想定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。 D チャネルは、別の PRI トランクの D チャネルと正常に接続されると、このチェックボックスがオフの場合は、Restart を送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	Cisco Unified Communications Manager 拡張サービス パラメータである Change B-Channel Maintenance Status を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このサービス パラメータによって B チャネルがアクティブのときに個別の B チャネルをサービスから除外できます。 Change B-Channel Maintenance Status サービス パラメータを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。 デフォルトではこのチェックボックスはオフになっています。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	このフィールドは、PRI スパンが着信コールで保持しなければならない末尾の桁数を表します。有意な数字が有効になっているトランクは、着信コールで提供されるアドレスの最後の数桁以外をすべて切り捨てます。 有意な数字を収集するかどうかに応じて、このチェックボックスをオンまたはオフにします。 <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。 このチェックボックスをオンにする場合、収集する有意な数字の桁数も選択する必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックスDN(Prefix DN)]	<p>(オプション)着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール (Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が発信者電話番号を送信するか、ブロックするかを選択します。</p> <p>発信者回線番号の表示を変更しない場合は [<i>Default</i>] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、[<i>許可 (Allowed)</i>] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Calling Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、[<i>非許可 (Restricted)</i>] を選択します。</p>
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [<i>Originator</i>]: コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。この番号がデフォルト値です。 [<i>First Redirect Number</i>]: リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 [<i>Last Redirect Number</i>]: コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [<i>Communications Manager</i>]: Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。 [<i>International</i>]: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 [<i>National</i>]: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 [<i>Unknown</i>]: (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco Unified Communications Manager が、着信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager]: Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。 • [International]: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • [National]: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • [Unknown]: (オプション) ダイヤル計画が不明です。
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、着信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager]: Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します (デフォルト)。 • [ISDN]: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • [National Standard]: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • [Private]: プライベートネットワーク内でダイヤルするときに使用します。 • [Unknown]: (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、発信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager]: Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します(デフォルト)。 • [ISDN]: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。 • [National Standard]: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。 • [Private]: プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。 • [Unknown]: (オプション) ダイヤル計画が不明です。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コールに関して除去する桁数を、0 ~ 32 で選択します (デフォルト値は 0)。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルし、除去する桁数が 3 であるとします。この例では Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を除去します。</p>
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 • 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。
[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	(オプション) 発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) の通知を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>(オプション) コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>(オプション) コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。</p>
[IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]	<p>DisplayIE フィールドに特殊先頭文字バイト (非 ASCII 文字、表示不能) を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルだけに適用します。</p> <p>デフォルトでは、このフィールドは無効(オフ)になっています。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>(オプション) 一部の PBX 上でリングバックを強制するには、このフィールドに値を指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。ユーザが発信コールでリングバック音を受信しない場合だけ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> <p>この設定値が使用可能である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Q.931 セットアップ メッセージを、[Progress Indicator] フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスが帯域内呼び出し音を再生しなければならないことを、宛先デバイスに知らせます。</p> <p>通常、この問題は、デジタル ゲートウェイを介して PBX に接続する Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
[MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>
[ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。</p>

表 45-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
[インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation、QSIG インバウンドコール)]	Cisco Unified Communications Manager が着信側電話番号の表示を許可するか、ブロックするかを選択します。 着信回線番号の表示を変更しない場合は [<i>Default</i>] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Connected Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、[<i>許可 (Allowed)</i>] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「Connected Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、[<i>非許可 (Restricted)</i>] を選択します。
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	PRI 4ESS UUIE フィールドを使用した MLPP 情報の受け渡しを可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチの操作に使用されます。 このチェックボックスは、このゲートウェイで PRI プロトコルタイプの値に PRI 4ESS が指定されている場合にだけ使用可能になります。 デフォルト値では、このチェックボックスはオフになっています。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。このフィールドは、[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用可能になります (デフォルト値は 2)。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。	

ポートの設定

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細な説明を示す表は、次の項を参照してください。

- [POTS ポートの設定 \(P.45-36\)](#)
- [デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 \(P.45-38\)](#)

ゲートウェイ設定の詳細については、[P.45-15](#) の「[ゲートウェイの設定](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.45-40](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

POTS ポートの設定

[表 45-7](#) に、POTS ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、[P.45-40](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 45-7 POTS ポートの設定




フィールド	説明
[ポートタイプ]	[ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスで、[POTS] を選択します。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 • 単一のポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドで同じ値を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] の両方のフィールドに [All Ports] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound]: 着信コールだけに使用。 • [Outbound]: 発信コールに使用。 • [Bothways]: 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。
[Audio Signal Adjustment into IP Network]	このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して受信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。  (注) ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。
[Audio Signal Adjustment from IP Network]	このフィールドには、ポート アプリケーション タイプに対して送信した音声信号に適用するゲインまたは損失を指定します。  (注) ゲインの設定値が不適切な場合は、音声エコーが発生することがあります。この設定値を調整する場合は注意してください。

表 45-7 POTS ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[数値桁 (Num Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右(最後の桁)から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。「プレフィックス DN(Prefix DN)」を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値(ゼロ)をそのまま使用してください。</p>
[Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)]	<p>Call Restart Timer (1000 ~ 5000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]	<p>Offhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)]	<p>Onhook Validation Timer (100 ~ 1000 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)]	<p>Hookflash Timer (100 ~ 1500 ms)。ms はミリ秒単位の時間を表します。</p>
[SMDIポート番号(SMDI Port Number、0-4096)]	<p>このフィールドはボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポート用に使用します。</p> <p>[SMDI ポート番号 (0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。</p> <p> (注) ボイス メッセージ システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
<p>ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド</p>	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

その他の情報

詳細については、P.45-40 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デジタル アクセス T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 45-8 に、E & M ポートの設定に関する説明があります。関連する手順については、P.45-40 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 45-8 E & M ポートの設定

フィールド	説明
[ポートタイプ]	[ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	追加および設定するのが、使用可能なすべてのポートか、単一のポートか、特定の範囲のポートかを、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの設定値によって選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 特定の範囲のポートを指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 単一のポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドで同じ値を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] の両方のフィールドに [All Ports] を選択します。
[ポートの詳細]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound]: 着信コールだけに使用。 [Outbound]: 発信コールに使用。 [Both Ways]: 着信コールと発信コールに使用。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できません。どの電話番号が送信されるかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> [Originator]: コールの発信側デバイスの電話番号を送信しません。 [First Redirect Number]: リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirect Number]: コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 [First Redirect Number (External)]: 最初にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirect Number (External)]: 最後にリダイレクトする外部電話マスク適用済みデバイスの電話番号を送信します。

表 45-8 E & M ポートの設定 (続き)

フィールド	説明
[発信者 ID タイプ]	この説明は、Release 5.0(2) の Cisco Unified Communications Manager の管理機能で提供されます。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者回線番号に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 55XXXX = 可変発信者回線番号。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 5555000 = 固定発信者回線番号。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	<p>着信コールで着信側番号に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[数値桁 (Num Digits)]	<p>収集する有効数字の桁数を 0 ~ 32 から選択します。Cisco Unified Communications Manager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有意な数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、[Sig Digits] チェックボックスをオンにした場合に使用します。このフィールドは、着信コールを処理し、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信側番号の最後の桁から始まる桁数を指定します。[プレフィックス DN (Prefix DN)] と [Sig Digits] を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)]	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。ほとんど使用しません。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) をそのまま使用してください。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
ゲートウェイの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] ではモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある ? 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

関連項目

- [シスコのゲートウェイの追加 \(P.45-2 \)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(P.45-4 \)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(P.45-6 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.45-15 \)](#)
- [ポートの設定 \(P.45-36 \)](#)
- [シスコのゲートウェイの削除 \(P.47-1 \)](#)
- [シスコのゲートウェイのレポートの生成 \(P.49-1 \)](#)



PART 8

ゲートウェイ



ゲートウェイのファイル形式

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用すると、シスコのゲートウェイのファイル形式を Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して設定できます。次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [ゲートウェイのファイル形式の検索](#)
- [ゲートウェイのファイル形式の設定](#)

ゲートウェイのファイル形式の検索

ゲートウェイのファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。

[ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) その他の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加した場合は、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加した検索条件をすべて削除します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。各ページに表示される項目の数は、[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスで異なる値を選択して変更できます。



(注) 複数のレコードをデータベースから削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択内容の設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、リスト ヘッダーの上向き矢印または下向き矢印をクリックします (ある場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.46-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイのファイル形式の設定

次のトピックでは、ゲートウェイのファイル形式の作成、コピー、変更、または削除について説明します。

- [ファイル形式の作成 \(P.46-3\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.46-4\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.46-5\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.46-5\)](#)

ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。[ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。
- ステップ 4** [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各ゲートウェイに定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

[Gateway Name] と [Description] は常に選択されています。



ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

- ステップ 5** [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。



(注) ファイル形式に [回線] を選択した場合は、必ず [電話番号 (Directory Number)] を選択してください。



ヒント

[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] および [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] の [ソート順] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

■ ゲートウェイのファイル形式の設定

- ステップ 6** [IP Phone 回線の最大数 (IP Phone Lines Maximums)] 領域で、[回線の最大数 (Maximum Number of Lines)] フィールドの最大値を入力します。
- ステップ 7** カスタム ファイル形式を保存するには、[保存] をクリックします。ファイル形式の名前が、[ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウの [名前 (Name)] リストに表示されます。

その他の項目

詳細については、[P.46-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

ファイル形式のコピー

既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.46-1 の「ゲートウェイのファイル形式の検索」](#)の手順に従って、コピーするゲートウェイ ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[ゲートウェイファイル形式の作成 (Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [コピー] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [ゲートウェイファイル形式の検索と一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウで、対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

- ステップ 4** [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。



(注) コピーしたファイルは、[P.46-5 の「ファイル形式の修正」](#)の手順で修正できます。

- ステップ 5** 変更を加えたら、[保存] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

その他の項目

詳細については、[P.46-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

ファイル形式の修正

既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 P.46-1 の「[ゲートウェイのファイル形式の検索](#)」の手順に従って、修正するゲートウェイ ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[ゲートウェイファイル形式の作成 (Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次の方式のいずれかを使用して、形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックし、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックし、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。



(注) [Gateway Name] と [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 4 変更を加えたら、[保存] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

その他の項目

詳細については、[P.46-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 P.46-1 の「[ゲートウェイのファイル形式の検索](#)」の手順に従って、削除するゲートウェイ ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認します。

- ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[**選択項目の削除**] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[**OK**] をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



(注) [**選択項目の削除**] をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [**一括管理**] > [**ゲートウェイ**] > [**ゲートウェイファイル形式**] > [**ファイル形式の追加**] の順に選択します。[**ゲートウェイファイル形式の追加 (Add Gateway File Format)**] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [**ファイル名 (File Name)**] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [**形式ファイル名 (Format File Name)**] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** [**送信**] をクリックして、一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成します。
- ステップ 5** [**一括管理**] メイン メニューの [**ジョブスケジューラ**] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.46-7 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [ゲートウェイのファイル形式の検索 \(P.46-1\)](#)
- [ゲートウェイのファイル形式の設定 \(P.46-3\)](#)



シスコのゲートウェイの削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified Communications Manager データベースからゲートウェイのグループを削除する手順は、次のとおりです。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウでは、Cisco VG200 ゲートウェイと Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイのみを削除できます。

シスコのゲートウェイの削除

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイの削除] の順に選択します。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [DN/ ルートパターン]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]

ステップ 3 2 番目の [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

■ シスコのゲートウェイの削除

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、**[表示]** を選択して関連のエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

ステップ 6 複数のフィルタを追加するには、**[AND]** または **[OR]** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 **[検索]** をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後で削除します。

ステップ 10 **[送信]** をクリックして、ゲートウェイ レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 11 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのゲートウェイ レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

その他の項目

詳細については、P.47-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [シスコのゲートウェイの削除 \(P.47-1 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.48-7 \)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1 \)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4 \)](#)



ゲートウェイの挿入

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイを挿入する方法について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-1\)](#)
- [Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-5\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-4\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.48-7\)](#)

Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.48-1\)](#)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-15\)](#)

Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ポートの詳細情報（たとえば、ドメイン名、MGCP 説明、およびポート識別子）を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-16 の「T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式」](#)の情報と例を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-15 の「FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式」](#)の情報と例を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [VG200 T1-Pri T1-CAS E1-Pri FXSFXO] タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、[Number of Port Identifiers] フィールドが表示されるまで右にスクロールします。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。1 つのポート識別子だけを使用する場合は、このステップをスキップしてください。
- ステップ 5** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。

- [Domain Name]: ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力します。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が vg200-1 に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、vg200-1）。ホスト名が vg200-1 としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が cisco.com としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには vg200-1.cisco.com と入力します。

- [Description]: ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力します。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- [Port Description]: ポートの説明を 50 文字以下で入力します。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Description] フィールドに入力する場合にも当てはまります。
- [Port Directory Number]: このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Directory Number] フィールドに入力する場合にも当てはまります。



(注) [Port 1 Directory Number] フィールドと [Port 1 Partition] フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドはブランクのままにします。

- [Slot]: 設定を試みているスロット番号を入力します。VG200 の場合は、常に 1 です。
- [Subunit]: サブユニットの値を表す整数を入力します。
- [Port Number]: ポート番号を表す整数を入力します。



(注) T1 CAS の場合に限り、ここで指定するポートは、VG200 テンプレートに指定されているポートと同じでなければなりません。CSV データ ファイルでは、テンプレートで設定されているポートは、「none」、「some」、または「all ports」と指定できます。テンプレートで設定されていないポートを CSV データ ファイルに設定しないでください。設定した場合、BAT VG200 テンプレートと CSV ファイルを挿入しようとするとエラーが発生します。

たとえば、テンプレートでポート 1、2、3、および 4 を設定した場合、これらのポートをどれも設定しないか、ポート 1、2、3、4、またはポート 1、2 などを CSV ファイルに設定すれば、挿入は受け入れられます。ただし、CSV ファイルでポート 5 および 6 を設定した場合、それらがテンプレートで設定されていないと、BAT で挿入エラーが発生します。

ステップ 6 [**Export to BAT Format**] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles (または、指定した別の既存フォルダ) に保存されます。

VG200Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。ブランク行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、P.2-1 の「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の[**ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)**] ウィンドウで、[**View Sample File**] へのリンクをクリックしてください。

その他の情報

詳細については、P.48-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成

個々の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートそれぞれの詳細情報（たとえば、電話番号、ポート説明）を含む CSV データ ファイルを作成するには、BAT スプレッドシートを使用します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

Catalyst 6000 (FXS) ポート用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、P.A-18 の「Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [Catalyst 6000 (FXS) Ports] タブをクリックします。
- ステップ 4** ポート レコードそれぞれの情報を 1 行に入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各欄の見出しは、フィールドの長さを指定しています。
- [MAC Address]: ゲートウェイの MAC アドレスを 12 文字で入力する。
 - [Port Number]: ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24) を数値で入力する。
 - [Directory Number]: このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力する。
[Partition] を指定した場合は、この値を必ず入力してください (オプション)。
 - [Partition]: このポートが属するルート パーティションを 50 文字以下で入力する。電話番号を指定している場合以外は、この値を指定しないでください (オプション)。



注意

スプレッドシート内のブランク行は End of File (ファイルの終わり) として扱われ、それ以降のレコードは廃棄されます。

- ステップ 5** [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles\ (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。

CSV データ ファイルは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、P.2-1 の「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



- (注)** エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[View Sample File] へのリンクをクリックしてください。

Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS、または FXO ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.48-1\)](#)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-15\)](#)

Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルの BAT スプレッドシートの使用

BAT スプレッドシートを使用して、個々の FXS ポートの詳細情報(ドメイン名、MGCP 説明、ポート識別子など)を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

VG224 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-17 の「VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式」](#)の情報と例を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** [VG224] タブをクリックします。
- ステップ 4** MGCP プロトコルの場合は [MGCP Gateway] オプション ボタンを、SCCP プロトコルの場合は [SCCP Gateway] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 5** MGCP を選択した場合は、[ステップ 6](#) に進みます。SCCP を選択した場合は、[Create File Format] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 - [Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ウィンドウが表示されます。
 - [Device Fields] ボックスから必要なデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。
 - [Line Fields] ボックスから回線フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックして、選択したフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。
 - 選択済みのフィールドの順序を変更するには、[Up] ボタンおよび [Down] ボタンを使用します。
 - [<<] ボタンをクリックすると、選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除できます。
 - 必要なフィールドの選択が終わったら、[Create] をクリックして、選択済みのフィールドを VG224 シートに追加します。

ステップ 6 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。

- **[Domain Name]**: ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力します。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が vg224-1 に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、vg224-1）。ホスト名が vg224-1 としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が cisco.com としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには vg224-1.cisco.com と入力します。

- **[Description]**: ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力します。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- **[Port Description]**: ポートの説明を 50 文字以下で入力します。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Description] フィールドに入力する場合にも当てはまります。
- **[Port Directory Number]**: このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の [Directory Number] フィールドに入力する場合にも当てはまります。



(注) [Port 1 Directory Number] フィールドと [Port 1 Partition] フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドはブランクのままにします。

- **[Slot 2]**: 設定を試みているスロット番号を入力します。VG224 の場合、スロットは常に 2 です。
- **[Subunit]**: サブユニットの値を表す整数を入力します。VG224 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- **[Port Number]**: ポート番号を表す整数を入力します。

ステップ 7 [Export to BAT Format] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

VG224Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。ブランク行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。詳細については、P.2-1 の「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウで、[View Sample File] へのリンクをクリックしてください。

その他の情報

詳細については、P.48-8 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入

シスコのゲートウェイおよびポートを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- Cisco VG200 ゲートウェイを挿入する場合は、トランクまたはポートの Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートと VG200 ゲートウェイ ポートの CSV データ ファイルが必要です。詳細については、P.45-6 の「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」と P.48-1 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 Ports を挿入する場合は、Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートと、このバルク トランザクションに関するポートの詳細を含む CSV データ ファイルが必要です。詳細については、P.45-11 の「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成」と P.48-4 の「Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。
- Cisco VG224 ゲートウェイを挿入する場合は、トランクまたはポートの Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートと VG224 ゲートウェイ ポートの CSV データ ファイルが必要です。詳細については、P.45-6 の「Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成」と P.48-1 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイの挿入] の順に選択します。[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ゲートウェイタイプ] ドロップダウン リストボックスから、挿入するゲートウェイの種類を選択します。[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ファイル名 (File Name)] フィールドのドロップダウン リスト ボックスで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報が格納されている CSV データ ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [ゲートウェイテンプレート名 (Gateway Template Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した VG200 または FXS ゲートウェイ テンプレートの名前を選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 7** [送信] をクリックして、ゲートウェイを挿入するジョブを作成します。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.48-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-1\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-4\)](#)
- [Cisco VG224 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(P.48-5\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.48-7\)](#)



シスコのゲートウェイのレポートの生成

VG200 ゲートウェイのレポートは固定形式です。すべての VG200 ゲートウェイの、または限定されたゲートウェイのセットのレポートを生成できます。



(注) Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイのレポートは利用できません。

シスコのゲートウェイのレポートの生成

VG200 ゲートウェイのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイレポートの生成] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [DN/ ルートパターン]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]

ステップ 3 2 番目の [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]

- [が空ではない]

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[表示] を選択して関連のエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 8 [次へ] をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。[ゲートウェイレポートの作成 (Generate Gateway Report Configuration)] ウィンドウに、選択したクエリーが表示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、[戻る] をクリックします。

ステップ 9 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 10 ドロップダウン リスト ボックスから、ファイル形式を選択します。

ステップ 11 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 12 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

ステップ 13 [送信] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

レポート ファイルは、[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用して検索またはダウンロードできます。詳細については、第 2 章「[ファイルのアップロードとダウンロード](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.49-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、レポート トランザクションごとにログ ファイルを生成し、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに格納します。このジョブのログ ファイルへのリンクは、このジョブの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウにあります。詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.49-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [シスコのゲートウェイのレポートの生成 \(P.49-1\)](#)
- [レポート ログ ファイルの表示 \(P.49-3\)](#)
- [ファイルのアップロードとダウンロード \(P.2-1\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)



PART 9

Forced Authorization Code と Client Matter Code



Client Matter Code と Forced Authorization Code の一括処理

Forced Authorization Code (FAC) と Client Matter Code (CMC) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントングを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントングと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

CMC を使用すると、コールが特定のクライアント マターに関連していることを示すコードを入力するように強制されます。CMC は、コール アカウントングや課金を目的として、顧客や学生、またはその他の個人に対して割り当てることができます。FAC 機能を使用すると、コールを完了する前に有効な認証コードを入力するように強制されます。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルートパターンを変更し、各ルートパターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映するようにダイヤル プラン ドキュメントを更新する必要があります。

この章は、次の項で構成されています。

- [CMC および FAC の設定チェックリスト \(P.50-2\)](#)
- [BAT の重要な考慮事項 \(P.50-3\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.50-4\)](#)
- [テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 \(P.50-5\)](#)
- [既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 \(P.50-6\)](#)
- [コードの設定の削除 \(P.51-1\)](#)
- [CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 \(P.50-7\)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.50-8\)](#)

CMC および FAC の設定チェックリスト

表 50-1 は、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して CMC と FAC を実装する手順を示しています。関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順とトピック
ステップ 1	<p>BAT に関する重要情報、および CMC 機能と FAC 機能の概要を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> BAT の重要な考慮事項 (P.50-3) Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド
ステップ 2	<p>CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC と FAC の設定情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4) テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 (P.50-5) CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.50-7)
ステップ 3	<p>Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するために CSV ファイルを BAT に挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 (P.50-8) Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 (P.50-9)
ステップ 4	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページでルート パターンを追加または更新して、FAC または CMC を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド
ステップ 5	<p>ダイヤル プラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイヤル プラン ドキュメントとともに保管します。</p> <p>ダイヤル プラン ドキュメントを参照</p>
ステップ 6	<p>ユーザに対して、コードなどの必要な情報をすべて提供し、機能の内容を説明します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド</p>

BAT の重要な考慮事項

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認します。

- CMC と FAC で別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルにこの 2 つの機能を混在させないでください。
- CMC または FAC の設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- CMC または FAC の設定を更新、削除、または追加する（初めての追加ではない）場合は、既存の CSV ファイルを編集するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のコード（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各コード（およびそれに対応する設定値）に 1 行を指定します。たとえば、FAC 用のコードを入力する場合は、次の形式になります。

(FAC, 認証コード名, 認証レベル)

1234,John Smith,20

1235,Lisa Mendez,10

5551,Debbie Dunn,30

- ファイルから情報を削除してブランクにしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、ブランクの値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- 該当する CSV ファイルを、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードしたことを確認します。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、[P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用して CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノード上にありますが、通常、このサーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、最初のノードからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** サーバから BAT.xlt ファイルをダウンロードします。Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンについては、[P.2-3 の「ファイルのダウンロード」](#)を参照してください。
- ステップ 3** Microsoft Excel で BAT.xlt を開きます。プロンプトが表示されたら、[**マクロを有効にする**] をクリックします。



ヒント 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

- ステップ 4** 次のタブのいずれかをクリックします。
- [**Insert CMC**]: CMC 用の CSV ファイルを作成する場合
 - [**Insert FAC**]: FAC 用の CSV ファイルを作成する場合
- ステップ 5** [表 50-2](#) に従って、各カラムに CMC または FAC の設定値を入力します。
- ステップ 6** [ステップ 5](#) を繰り返し、すべてのコードを入力します。
- ステップ 7** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、[**Export to BAT Format**] をクリックします。
- CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。別のロケーションを選択するには、[**Browse**] をクリックします。
- ステップ 8** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- ステップ 9** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)を参照してください。
-

その他の項目

詳細については、[P.50-9 の「関連項目」](#)を参照してください。

テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、[P.A-20 の「Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.50-9 の「関連項目」](#)を参照してください。

既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、Notepad で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、または Notepad で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 以前にコードを挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- ステップ 2** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集します。[表 50-2](#) のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コードの追加、または既存の設定の更新を行います。

CMC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は必須の Client Matter Code、Acme Toys は説明にそれぞれ相当します。

FAC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は FAC、John Smith は認証コード名、20 は認証レベルにそれぞれ相当します。



注意

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な FAC や CMC などは必ず含めなければなりません。情報を削除したり空白にしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、空白の値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.50-9 の「関連項目」](#)を参照してください。


CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値

次の各項と表 50-2 を併せて参照してください。

- BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4)
- テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データファイルの作成 (P.50-5)
- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.50-6)
- コードの設定の削除 (P.51-1)

関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-2 CMC および FAC の設定値

設定 / カラム	説明
For CMC CSV file (CMC 用 CSV ファイル)	
Client Matter Code	ユーザがコールを発信するときに入力する 16 桁以内の固有のコードを入力します。CMC は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
Description	50 文字以内の名前を入力します。このオプションのフィールドは、クライアントコードとクライアントの関連付けに役立ちます。
For FAC CSV File (FAC 用 CSV ファイル)	
Forced Authorization Code	16 桁以内の固有の認証コードを入力します。ユーザは FAC 対応のルートパターンでコールを発信するときこのコードを入力します。
Authorization Code Name	50 文字以内の固有の名前を入力します。この認証コード名は、認証コードを特定のユーザまたはユーザのグループに結び付けます。この名前は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
	 <p>ヒント システム内のすべてのユーザに認証コードを割り当てる場合は、コード名にユーザの識別情報を含めるようにしてください。この識別情報には、ユーザ名やその他の機密性のない固有の識別情報（たとえば、電子メールのエイリアス、社員番号、学生番号）などを使用してください。認証コード名は CDR に書き込まれ、安全でないため、社会保障番号などの識別情報は使用しないでください。</p>
Authorization Level	0 ~ 255 の範囲内の 3 桁の認証レベルを入力します（デフォルトは 0）。認証コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルートパターンでコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザの認証レベルがそのコールのルートパターンに指定された認証レベル以上である必要があります。

BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT に CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

手順

ステップ 1 CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。

- CMC の場合 : [一括管理] > [CMC] > [CMC の挿入]
- FAC の場合 : [一括管理] > [FAC] > [FAC の挿入]

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたコードが含まれる CSV ファイルを選択します。



ヒント 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

ステップ 3 既存のコードのリストを更新する場合は、表 50-3 で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

ステップ 6 [送信] をクリックして、FAC と CMC を挿入するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」と表 50-3 を併せて参照してください。関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-3 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
[ファイル名 (File Name)]	ドロップダウン リスト ボックスから、挿入する CMC ファイルまたは FAC ファイルを選択します。
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。 このチェックボックスをオンにすると、既存の認証コード名 (FAC)、認証レベル (FAC)、または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の認証コードと CMC は変更されません)。このチェックボックスをオンにしないと、該当の認証コードまたは CMC がすでに存在することを示すエラーがログ ファイルに書き込まれ、更新は行われません。

関連項目

- CMC および FAC の設定チェックリスト (P.50-2)
- BAT の重要な考慮事項 (P.50-3)
- BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4)
- テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 (P.50-5)
- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.50-6)
- コードの設定の削除 (P.51-1)
- CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.50-7)
- BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 (P.50-8)
- Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 (P.50-9)
- P.A-20 の「Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」



Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除

システムからコードを削除するには、削除対象のコードが含まれるカスタム ファイルを使用します。以前に認証コードを挿入または更新したカスタム ファイルを編集するか、または、新規の CSV ファイルを作成して削除対象のコードを手動で入力することができます。

Forced Authorization Code と Client Matter Code を削除する手順は、次のとおりです。

- [コードの設定の削除 \(P.51-1\)](#)
- [Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除 \(P.51-3\)](#)

コードの設定の削除

既存の CSV ファイルを編集する場合は、削除対象のコードが含まれる行だけを残すようにファイルを更新する必要があります。

CMC の例 (既存の CSV ファイル)

次の情報が含まれるファイルを取得し、CMC 5550、5551、および 5555 を削除するとします。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5552,Happy Pharmaceuticals
- 5553,Weddings by Joyce
- 5554,Peterson Plumbing
- 5555,Acme Toys
- 5556,Chicago Paralegals

エントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5555,Acme Toys

CMC の例 (新規の CSV ファイル)

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

5550

5551

5555

FAC の例 (既存の CSV ファイル)

次の情報が含まれるファイルを取得し、John、Dave、および Bill に割り当てられている認証コードを削除するとします。

- 1233,Sandy Brown,30
- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1236,John David,20
- 1237,Alex Anderson,30
- 1238,Bill Jones,20
- 1239,Jennifer Summers,20

John、Dave、および Bill のエントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1238,Bill Jones,20

FAC の例 (新規の CSV ファイル)

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

1234

1235

1238

複数のコードを一括して削除する場合は、[P.51-3 の「Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.51-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

Forced Authorization Code と Client Matter Code の削除

始める前に

- 次のタスクのいずれかを実行します。
- 削除対象のコード用に新規ファイルを作成する場合は、P.51-2 の「CMC の例 (新規の CSV ファイル)」および P.51-2 の「FAC の例 (既存の CSV ファイル)」を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager サーバで、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから該当する CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。
- Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集し、エントリを削除します。
- 変更された CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

手順

ステップ 1 Client Matter Code (CMC) と Forced Authorization Code (FAC) のどちらを削除するかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。

- CMC の場合 : [一括管理] > [CMC] > [CMC の削除]
- FAC の場合 : [一括管理] > [FAC] > [FAC の削除]

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスからカスタム ファイルを選択して、[検索] をクリックします。

ステップ 3 [CMC の削除 (カスタム) (Delete Client Matter Codes Custom Configuration)] ウィンドウまたは [FAC の削除 (カスタム) (Delete Forced Authorization Codes Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックして CMC または FAC を即座に削除するか、[後で実行] をクリックして CMC または FAC を後で削除します。

ステップ 6 [送信] をクリックして、FAC と CMC を削除するジョブを作成します。



(注) 削除のジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

ステップ 7 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.51-4 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [CMC および FAC の設定チェックリスト \(P.50-2\)](#)
- [BAT の重要な考慮事項 \(P.50-3\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.50-4\)](#)
- [テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 \(P.50-5\)](#)
- [既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 \(P.50-6\)](#)
- [CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 \(P.50-7\)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.50-8\)](#)
- [コードの設定の削除 \(P.51-1\)](#)



PART 10

コールピックアップグループ



コール ピックアップ グループの使用 方法

コール ピックアップ グループを使用すると、該当するピックアップ グループ番号をダイヤルしたときに、自分のグループ内またはその他のグループ内の着信コールを受けることができます。

この章は、次の項で構成されています。

- [BAT の重要な考慮事項 \(P.52-2 \)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.52-3 \)](#)
- [テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 \(P.52-4 \)](#)
- [既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 \(P.52-4 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 \(P.52-5 \)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.52-6 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 \(P.52-7 \)](#)

BAT の重要な考慮事項

BAT を使用してコール ピックアップ グループを設定する前に、次の情報を確認します。

- コール ピックアップ グループの設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- コール ピックアップ グループの設定を更新するには、既存の CSV ファイルを編集するか、テキストベースのカスタム CSV ファイルを作成します。
- 各ピックアップ グループ名（およびそれに対応する設定値）を 1 行に指定します。たとえば、ピックアップ グループの情報を入力する場合は、次の形式になります。
 - (Pickup Group Name, Pickup Group Number, Partition, Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10)
 - Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
- 新規ピックアップ グループを追加する場合は、ピックアップ グループ名、ピックアップ グループ番号など、必要なすべてのフィールドに入力する必要があります。手順で特定のエントリが必須として指定されている場合は、ファイルにその情報を指定する必要があります。
- ファイルから情報を削除してブランクにしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、ブランクの値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- 該当する CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスターの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、P.52-6 の「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

その他の情報

詳細については、P.52-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用してコールピックアップグループ用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバ上にありますが、通常、Cisco Unified Communications Manager サーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** [一括管理]>[ファイルのアップロード/ダウンロード]の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [検索]をクリックして、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。ファイルのアップロードまたはダウンロードの詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。
- ステップ 4** BAT.xlt を Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンにコピーします。
- ステップ 5** Microsoft Excel で BAT.xlt を開きます。
- ステップ 6** [Call Pickup Group] タブをクリックします。
- ステップ 7** 表 52-1 に従って、各カラムにコールピックアップグループの設定値を入力します。
- ステップ 8** ステップ 7 を繰り返し、すべてのピックアップグループを入力します。
- ステップ 9** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、[Export to BAT Format] をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。CSV ファイルの保存場所として別のロケーションを選択する場合は、[Browse] をクリックして希望のロケーションを選択します。
- ステップ 10** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。
- ステップ 11** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、P.52-6 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」を参照してください。

その他の情報

詳細については、P.52-8 の「関連項目」を参照してください。

テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、[P.A-23 の「コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.52-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、Notepad で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、または Notepad で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 以前にコール ピックアップ グループ情報を挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから、該当する CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、[P.2-3 の「ファイルのダウンロード」](#)を参照してください。
- ステップ 2** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集します。[表 52-1](#) のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コール ピックアップ グループの追加、または既存の設定の更新を行います。

たとえば、コール ピックアップ グループの CSV ファイルを更新するには、Marketing,,Marketing,Managers,Training と入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップ グループ名です。Marketing、Managers、および Training はピックアップ グループ Marketing に関連するその他のピックアップ グループ名です。



注意

既存のレコードのどの部分でも変更できますが、ピックアップ グループ名を含める必要があります。ピックアップ グループを更新すると、既存の他のピックアップ グループとの関連付けが解除されます。[Other Pickup Group] フィールドは、空白にしないでください。ピックアップ グループに関連付ける他のすべてのピックアップ グループを続けて入力します。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスターの最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.52-6 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.52-8 の「関連項目」](#)を参照してください。



コールピックアップグループ CSV ファイルの設定値

次の各項と表 52-1 を併せて参照してください。

- [BAT.xlt](#) を使用した CSV ファイルの作成 (P.52-3)
- テキスト エディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データ ファイルの作成 (P.52-4)
- 既存のコールピックアップグループ CSV ファイルの編集 (P.52-4)
- コールピックアップグループの削除 (P.53-1)

関連する手順については、[P.52-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 52-1 コールピックアップグループの設定値

設定 / カラム	説明
For CPG CSV file (CPG 用 CSV ファイル)	
Pickup Group Name	この必須フィールドには、50 文字以内のコールピックアップグループ名を入力します。
Pickup Group Number	この必須フィールドには、ユーザが着信コールを受ける際に入力する、24 桁以内のピックアップグループ番号を入力します。
Partition	電話番号 (ピックアップグループ番号) が属するルートパーティションを選択します。  <p>(注) 電話番号 (ピックアップグループ番号) は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>  <p>(注) [Pickup Group Number] と [Partition] の組み合わせは固有である必要があります。</p> このフィールドはオプションです。
Other Pickup Group Name(x)	新規ピックアップグループに関連付けるその他のピックアップグループの名前を入力します。このオプション フィールドでは、各ピックアップグループをその他の最大 10 のピックアップグループと関連付けることができます。

BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT にコール ピックアップ グループ用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、コール ピックアップ グループ用の CSV ファイルを作成または編集し、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードする必要があります。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

詳細については、次の項を参照してください。

- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.52-3\)](#)
- [テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 \(P.52-4\)](#)
- [既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 \(P.52-4\)](#)
- [コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 \(P.52-5\)](#)

手順

ステップ 1 BAT で、[一括管理] > [コールピックアップグループ] > [コールピックアップグループの挿入] の順に選択します。

[ピックアップグループの挿入 (Insert Pickup Groups Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたピックアップ グループが含まれる CSV ファイルを選択します。



ヒント 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

ステップ 3 既存のピックアップ グループのリストを更新した場合は、[表 52-2](#) で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてピックアップ グループを即座に挿入するか、[後で実行] をクリックして後で挿入します。

ステップ 6 [送信] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。



その他の情報

詳細については、[P.52-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

P.52-6 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」と表 52-2 を併せて参照してください。関連する手順については、P.52-8 の「関連項目」を参照してください。

表 52-2 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
[ファイル名 (File Name)]	ドロップダウン リスト ボックスから、挿入するコール ピックアップ ファイルを選択します。
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	<p>このチェックボックスは、既存の設定のピックアップグループを更新する場合に適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、挿入するファイルに含まれている情報が [Other Pickup Group Name-Member] に上書きされます。このチェックボックスをオンにしないと、該当するその他のピックアップグループ名がすでに存在することを示すエラーが、ログファイルに書き込まれ更新されません。</p> <p> (注) ピックアップグループごとに、[Pickup Group Number] と [Partition] の組み合わせが固有であることを確認します。</p> <p> (注) ピックアップグループを更新する際、[Pickup Group Number] と [Partition] の値は無視され、既存の [Other Pickup Groups] は関連付けを解除されます。</p>

その他の情報

詳細については、P.52-8 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [BAT の重要な考慮事項 \(P.52-2 \)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.52-3 \)](#)
- [テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 \(P.52-4 \)](#)
- [既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 \(P.52-4 \)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(P.53-1 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 \(P.52-5 \)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.52-6 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 \(P.52-7 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-23 \)](#)



コール ピックアップ グループの削除

コール ピックアップ グループを削除するには、クエリーを作成して、削除するピックアップ グループ レコードを見つけます。

コール ピックアップ グループの削除

コール ピックアップ グループを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 BAT で、[一括管理]>[コールピックアップグループ]>[コールピックアップグループの削除]の順に選択します。

[ピックアップグループの削除 (Delete Pickup Groups Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: コールピックアップグループ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [コールピックアップグループ番号]
- [コールピックアップグループ名]
- [パーティション]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: コールピックアップグループ、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ステップ 5 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索] をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてピックアップ グループを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後で削除します。

ステップ 9 [送信] をクリックして、ピックアップ グループを削除するジョブを作成します。



(注)

クエリー テキスト ボックスに情報を何も入力しないと、すべてのピックアップ グループ レコードを削除するジョブが作成されます。



注意

コール ピックアップ グループを削除するジョブを送信する前に、結果のセット全体を参照し、結果セットに表示されるすべてのピックアップ グループを削除することを確認します。

ステップ 10 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

関連項目

- [BAT の重要な考慮事項 \(P.52-2 \)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.52-3 \)](#)
- [テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 \(P.52-4 \)](#)
- [既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 \(P.52-4 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 \(P.52-5 \)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.52-6 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 \(P.52-7 \)](#)



PART 11

モビリティ



アクセス リスト

アクセス リストとは、1 つ以上の許可ステートメントから構成されるシーケンシャル リストです。1 つ以上の拒否ステートメントを含むこともあります。これらのステートメントは、IP アドレスと場合によっては上位層 IP プロトコルに適用されます。アクセス リストには名前が付けられ、その名前で参照されます。多くのソフトウェア コマンドは、アクセス リストを構文の一部として受け入れます。

アクセス リストは、[一括管理]メニューを使用して挿入、削除、エクスポートできます。BAT の [アクセスリスト]メニューを使用して、次の作業を実行できます。

- [アクセス リストの挿入 \(P.54-2\)](#)
- [アクセス リストの削除 \(P.54-3\)](#)
- [アクセス リストのエクスポート \(P.54-4\)](#)

アクセスリストの挿入

BAT を使用してアクセスリストを挿入する手順は、次のとおりです。

始める前に

- アクセスリストには固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。
- [P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータファイルをアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [モビリティ] > [アクセスリスト] > [アクセスリストの挿入] の順に選択します。[アクセスリストの挿入 (Insert Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** 既存の設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Insert Access List」です。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できません。
- ステップ 6** [送信] をクリックして、アクセスリストを挿入するジョブを作成します。
- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メインメニューの [ジョブスケジュール] オプションを使用します。
-

その他の項目

詳細については、[P.54-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

アクセスリストの削除

BAT を使用してアクセスリストを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

- アクセスリスト名が含まれたデータファイルが必要です。
- P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータファイルをアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [モビリティ] > [アクセスリスト] > [アクセスリストの削除] の順に選択します。
[アクセスリストの削除 (Delete Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除 アクセスリスト、検索条件 ; 名前 カスタムファイル内] ドロップダウン リスト ボックスで、アクセスリストを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索] をクリックします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したアクセスリストが示されます。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 6** [送信] をクリックして、アクセスリストを削除するジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
-

その他の項目

詳細については、P.54-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アクセスリストのエクスポート

BAT を使用してアクセスリストをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[モビリティ]>[アクセスリスト]>[アクセスリストのエクスポート]の順に選択します。[アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索 アクセスリスト、検索条件;] ドロップダウン リストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前]
- [説明]
- [オーナー]

ステップ 3 2 番目の [検索 アクセスリスト、検索条件;] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義するには、次のようにします。

- ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。
- [+] ボタンをクリックすると複数のフィルタを追加でき、[-] ボタンをクリックするとフィルタを削除できます。
- [フィルタのクリア] ボタンをクリックすると、すべてのフィルタを一度に削除できます。

ステップ 6 [検索] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [許可]
- [オーナー (Owner)]

ステップ 7 [次へ] をクリックします。次の [アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [アクセスリストのエクスポート] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。

ステップ 9 [Bulk Access List Export Format] ドロップダウン リスト ボックスで、[Access List Format] を選択します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

ステップ 11 [送信] をクリックして、アクセス リストをエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 12 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用します。

その他の項目

詳細については、P.54-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [アクセス リストの挿入 \(P.54-2\)](#)
- [アクセス リストの削除 \(P.54-3\)](#)
- [アクセス リストのエクスポート \(P.54-4\)](#)



リモート接続先

BAT を使用して、リモート接続先の詳細を挿入、削除、エクスポートできます。次のトピックでは、BAT でのリモート接続先の操作について説明します。

- [リモート接続先の挿入 \(P.55-2\)](#)
- [リモート接続先の削除 \(P.55-3\)](#)
- [リモート接続先のエクスポート \(P.55-4\)](#)

リモート接続先の挿入

BAT を使用してリモート接続先の詳細を挿入する手順は、次のとおりです。

始める前に

- リモート接続先に固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- [P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)の手順に従って、該当ターゲットとトランザクションのための機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先] > [リモート接続先の挿入] の順に選択します。
[リモート接続先の挿入 (Insert Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
 - ステップ 3** 既存の設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェック ボックスをオンにします。
 - ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Insert Remote Destination」です。
 - ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できません。
 - ステップ 6** [送信] をクリックして、リモート接続先を挿入するジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
 - ステップ 7** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
-

その他の項目

詳細については、[P.55-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先の削除

始める前に

- リモート接続先に固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- [P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先] > [リモート接続先の削除] の順に選択します。
[リモート接続先の削除 (Delete Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除 リモート接続先、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [名前]
- [接続先]
- [リモート接続先プロファイル]
- [デュアルモードフォン]

ステップ 3 カスタム ファイル ドロップダウン リスト ボックスで、リモート接続先を削除するためにアップロードしたファイルを選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択したリモート接続先が示されます。

ステップ 6 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

ステップ 7 [送信] をクリックして、リモート接続先を削除するジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 8 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

その他の項目

詳細については、[P.55-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先のエクスポート

BAT を使用してリモート接続先をエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[モビリティ]>[リモート接続先]>[リモート接続先のエクスポート]の順に選択します。[リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索 リモート接続先、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。

- [名前]
- [接続先]
- [リモート接続先プロファイル]
- [デュアルモードフォン]

ステップ 3 2 番目の [検索 リモート接続先、検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを表示するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義するには、次のようにします。

- a. ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。
- b. [+] ボタンをクリックすると複数のフィルタを追加でき、[-] ボタンをクリックするとフィルタを削除できます。
- c. [フィルタのクリア] ボタンをクリックすると、すべてのフィルタを一度に削除できます。

ステップ 6 [検索] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前]
- [接続先]
- [リモート接続先プロファイル]

- [デュアルモードフォン]

ステップ 7 [次へ] をクリックします。次の [リモート接続先のエクスポート] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [リモート接続先のエクスポート] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。

ステップ 9 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、[Remote Destination Format] を選択します。

ステップ 10 [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

ステップ 11 [送信] をクリックして、リモート接続先をエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 12 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジューリングやアクティブ化を行います。

その他の項目

詳細については、[P.55-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [リモート接続先の挿入 \(P.55-2\)](#)
- [リモート接続先の削除 \(P.55-3\)](#)
- [リモート接続先のエクスポート \(P.55-4\)](#)
- [リモート接続先プロファイル テンプレート \(P.56-1\)](#)
- Cisco Unified Mobility Administration Guide



リモート接続先プロファイル

[一括管理]メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル)を一括してフォーマット、挿入、削除、エクスポートできます。Cisco Unified Communications Managerの管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

リモート接続先プロファイル テンプレート

リモート接続先プロファイル テンプレートを使用して、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、プレゼンス グループ、プライバシー情報など、リモート接続先に共通のアトリビュートを定義できます。

次のトピックを使用して、BAT リモート接続先プロファイル テンプレートに関する作業を行います。

- [リモート接続先プロファイル テンプレートの検索 \(P.56-1\)](#)
- [リモート接続先プロファイル テンプレートの作成 \(P.56-2\)](#)
- [リモート接続先プロファイル テンプレートの回線の追加または更新 \(P.56-3\)](#)
- [リモート接続先プロファイル テンプレートの削除 \(P.56-4\)](#)

リモート接続先プロファイル テンプレートの検索

複数の Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて特定のテンプレートを見つけることができます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[モビリティ]>[リモート接続先プロファイル]>[リモート接続先プロファイルテンプレート]の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)]ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索 リモート接続先プロファイル、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前]

■ リモート接続先プロファイル テンプレート

- [説明]
- [デバイスプール]
- [コーリングサーチスペース]

2 番目の [検索 リモート接続先プロファイル 、 検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべてのリモート接続先テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [テンプレート名 (Template name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件に一致するテンプレート名をクリックします。

[リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先プロファイル テンプレートの作成

リモート接続先プロファイルを一括して追加するためのテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先プロファイル] > [リモート接続先プロファイルテンプレート] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。[リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 表示されたフィールドに設定の詳細を入力します。詳細については、P.56-4 の「リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- ステップ 5** トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。

その他の情報

詳細については、P.56-28 の「関連項目」を参照してください。

リモート接続先プロファイルテンプレートの回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。

手順

- ステップ 1** P.56-1 の「リモート接続先プロファイル テンプレートの検索」の手順に従って、回線を追加する RDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加] をクリックします。
- ステップ 3** 表 56-2 で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての RDP で使用されます。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。
- ステップ 5** その他の回線の設定値を追加するには、ステップ 2 ~ ステップ 4 を繰り返します。



(注) [回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [検索 / リストに戻る] を選択すると、[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索] をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウで、[新規追加] をクリックします。

回線テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。

その他の情報

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

リモート接続先プロファイル テンプレートの削除

RDP テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.56-1 の「[リモート接続先プロファイル テンプレートの検索](#)」の手順に従って、削除する RDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [リモート接続先プロファイルテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウで、削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、**[選択項目の削除]** をクリックします。
- 削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウのテンプレートのリストから、テンプレート名が消去されます。

**注意**

特定の RDP テンプレートを使用するジョブを送信し、そのテンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

その他の情報

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明

表 56-1 では、リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドについて説明します。

**(注)**

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 56-1 リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[テンプレート名 (Template name)]	テンプレート名を入力します。
[説明 (Description)]	作成する RDP テンプレートの説明を入力します。

表 56-1 リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
[ユーザ ID(User ID)]	Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの RDP 用のデバイス プールを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	このグループの RDP のコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[AAR のコーリングサーチスペース (Calling Search Space AAR)]	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
[メディアリソースリスト (Media Resource List)]	このグループの RDP 用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	このグループの RDP のユーザ保留オーディオ ソースを選択します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
[ロケーション (Location)]	このグループの RDP の適切なロケーションを選択します。 ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [None] に設定すると、ロケーション機能がこのデバイスの消費する帯域幅を管理しないことを示します。
[プライバシ (Privacy)]	[プライバシ (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで、[On] [Off] または [Default] を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	RDP によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。  ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

表 56-1 リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
コーリング検索スペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング検索スペースを選択します。 参照側の再ルーティング用コーリング検索スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。コーリング検索スペースの再ルーティングが原因で参照操作に失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。 リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング検索スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示が無視されます。

その他の情報

詳細については、P.56-28 の「関連項目」を参照してください。

リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

表 56-2 では、BAT RDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。



(注)

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明


フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[回線テンプレート名]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを選択します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
[説明 (Description)]	回線テンプレートの説明を入力します。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [Display] フィールドに入力された名前が使用されます。

表 56-2 リモート接続先プロファイルテンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)


[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[アクティブ]	このチェックボックスを [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから未割り当ての電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。チェックボックスがオフの場合、DN は Cisco Unified Communications Manager で無視されます。
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、電話番号がプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャーが電話番号のステータスを要求すると、電話番号のステータスがリアルタイムにデバイスに表示されます。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、ウォッチャーのプレゼンス グループが、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを、[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおりに表示するよう許可されていることを確認します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが [保留] ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオソースを選択します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコール パークを開始する間) に再生される保留音オーディオソースを選択します。

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)




[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)]	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager は、この組み合わせを使用して、CFA の宛先を検証し、コールを転送します。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)






[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p>  <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)





[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイルテンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)



<p>[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [着信先別 (Destination)]</p>	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
<p>[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</p>	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]</p>	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルートポイントおよび CTI ポートのみにも適用されます。この行の設定は、CTI ルートポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルートポイントまたは CTI ポートへの外線コールの転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、[着信先別 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [着信先別 (Destination)]</p>	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。</p> <p>内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [着信先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</p>	<p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p>内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)




[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>この行の設定は、登録済みのデバイスがない電話番号にルーティングされた内線コールの転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定を使用するには、[ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、Cisco Communications Manager では、[カバレッジ (Coverage)] / [着信先別 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)] の [着信先別 (Destination)]	<p>外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内線コールのカバレッジまたは宛先の値を入力すると、外線コールの [カバレッジ (Coverage)] / [着信先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [カバレッジ (Coverage)] [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)] の [CSS]	<p>ドロップダウン リスト メニューからコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、上記のフィールドで選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイルテンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)




[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>この行の設定は、登録済みのデバイスがない電話番号にルーティングされた外線コールの転送をどのように扱うかを指定します。次の値を指定します。</p> <p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定を使用するには、[ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、Cisco Communications Manager では、[カバレッジ (Coverage)] / [着信先別 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)] の [着信先別 (Destination)]	<p>外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内線コールのカバレッジまたは宛先の値を入力すると、外線コールの [カバレッジ (Coverage)] / [着信先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [カバレッジ (Coverage)] [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)] の [CCS]	<p>ドロップダウン リスト ボックスからコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、上記のフィールドで選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。</p>
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、着信先)]	<p>この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに回答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。</p> <p>値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。</p>
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)



[MLPP無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	<p>優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。</p>
[デバイスの回線 (Line on Device)]	
[保留復帰の呼び出し時間(Hold Reversion Ring Duration、秒)]	<p>保留復帰の呼び出し時間を秒単位で入力します。</p> <p> (注) [保留復帰の呼び出し時間(Hold Reversion Ring Duration、秒)] をゼロに設定すると、この機能は無効になります。</p>
[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval)]	<p>保留復帰の通知間隔を入力します。</p> <p> (注) [保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval)] をゼロに設定すると、この機能は無効になります。</p>
[デバイス < デバイス名 > の複数コール / コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device < デバイス名 >)]	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>

表 56-2 リモート接続先プロファイル テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明(続き)

[デバイス < デバイス名 > における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device < デバイス名 >)]	
[発信者名 (Caller Name)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。

その他の情報

詳細については、[P.56-28](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

リモート接続先プロファイルのファイル形式

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- [テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成 \(P.56-16\)](#)
- [リモート接続先のファイル形式の検索 \(P.56-16\)](#)
- [リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定 \(P.56-17\)](#)
- [ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け \(P.56-21\)](#)
- [リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-25\)](#)

テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。リモート接続用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、[P.A-25 の「リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

デフォルトのリモート接続先のファイル形式は、修正することも削除することもできません。



(注)

Cisco Unified CallManager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でファイル形式を作成することができます。テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、デフォルトのファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されている順序と同じ順序で入力します。

その他の情報

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先のファイル形式の検索

リモート接続先のファイル形式を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先プロファイル] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで、[検索 / リストに戻る] をクリックし、[移動] をクリックします。

ステップ 3 [検索 リモート接続先プロファイルのファイル形式、検索条件 : 形式名] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]

- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。



ヒント すべてのリモート接続先プロファイルの形式を検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

ステップ 5 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[**絞り込み**] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [**AND**] または [**OR**] を選択して、ステップ 3 ~ 4 を繰り返します。

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件に一致するファイル形式名をクリックします。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定

次のトピックでは、リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成、コピー、変更、または削除について説明します。

- [ファイル形式の作成 \(P.56-17\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.56-18\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.56-19\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.56-20\)](#)

ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [**一括管理**] > [**モビリティ**] > [**リモート接続先プロファイル**] > [**リモート接続先プロファイルのファイル形式**] > [**ファイル形式の作成**] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [**形式名 (Format Name)**] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

■ リモート接続先プロファイルのファイル形式

ステップ 3 [デバイスフィールド (Device Fields)] で、各リモート接続先プロファイルに定義するデバイスフィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスで、デバイスフィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[Remote Destination Profile Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。

**ヒント**

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

ステップ 4 [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

**ヒント**

[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] および [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] の [ソート順] ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ 5 [IP Phone サービスの最大値 (IP Phone Service Maximums)] 領域の [回線の最大数 (Maximum Number of Lines)] フィールドに最大値を入力します。

ステップ 6 カスタム ファイル形式を保存するには、[保存] をクリックします。ファイル形式の名前が、[リモート接続先プロファイルのファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウの [名前 (Name)] リストに表示されます。

その他の項目

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [P.56-16 の「リモート接続先のファイル形式の検索」](#)の手順に従って、コピーするリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [コピー] をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。



(注) [リモート接続先プロファイルのファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウで、対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックして、ファイル形式をコピーすることもできます。

ステップ 4 [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。

ステップ 5 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。
- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 6 変更を加えたら、[保存] をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

その他の項目

詳細については、[P.56-28](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 [P.56-16](#) の「[リモート接続先のファイル形式の検索](#)」の手順に従って、コピーするリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、修正するファイル形式を選択します。[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] ボックスまたは [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。



(注) [Remote Destination Profile Name] および [Description] の必須フィールドは削除できません。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] の [ソート順] ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

ステップ 4 変更を加えたら、[保存] をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

その他の項目

詳細については、[P.56-28](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 [P.56-16](#) の「[リモート接続先のファイル形式の検索](#)」の手順に従って、コピーするリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルが正しいことを確認し、チェックボックスをオンにして形式を選択します。

ステップ 3 リストからファイル形式を削除するには、[[選択項目の削除](#)] をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。



(注) [[選択項目の削除](#)] をクリックする前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

その他の項目

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先プロファイル] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式] > [ファイル形式の追加] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [形式ファイル名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** [送信] をクリックして、一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるジョブを作成します。
- ステップ 5** [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

リモート接続先プロファイルの挿入

[一括管理]メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル)を一括して挿入できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

始める前に

- 追加するデバイスには、Cisco Unified CallManager 一括管理 (BAT) リモート接続先プロファイル テンプレートが必要です。
- リモート接続先プロファイルに固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

その他の項目

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager へのリモート接続先プロファイルの挿入

次の手順を使用して、リモート接続先プロファイルを Cisco Unified CallManager に挿入します。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先プロファイル] > [リモート接続先プロファイルの挿入] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルの挿入 (Insert Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、この固有のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 3 [リモート接続先プロファイルテンプレート (Remote Destination Profile Template)] ドロップダウン リスト ボックスで、このバルク トランザクション用に作成した BAT リモート接続先プロファイル テンプレートを選択します。



(注) リモート接続先プロファイルを挿入する場合は、リモート接続先プロファイル テンプレートはオプションです。リモート接続先プロファイル テンプレートを選択しない場合は、CSV データ ファイルに「Desk Phone Name」が含まれていることを確認してください。

ステップ 4 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のリモート接続先プロファイルの設定が、挿入するファイルに含まれている情報によって上書きされます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてリモート接続先プロファイルのレコードを即座に挿入するか、[後で実行 (Run Later、このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックして後で挿入します。
- ステップ 7** [送信] をクリックして、リモート接続先プロファイルのレコードを挿入するジョブを作成します。
- ステップ 8** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先プロファイルの削除

[一括管理]メニューを使用すると、Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル)を一括して削除およびエクスポートできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新する必要はありません。

カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除

テキスト エディタを使用して、削除するリモート接続先プロファイルのカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。

始める前に

- 削除する RDP について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
 - [名前 (Name)]
 - [説明 (Description)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified CallManager サーバにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

カスタム ファイルに記載されている RDP を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [モビリティ] > [リモート接続先プロファイル] > [リモート接続先プロファイルの削除] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルの削除 (Delete Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除 リモート接続先プロファイル、検索条件;] ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを次のいずれかの条件から選択します。

- [名前]
- [説明]
- [デバイスプール]
- [コーリングサーチスペース]

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。検索条件に一致する RDP のリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

- ステップ 6** [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックして RDP レコードを即座に削除するか、[後で実行 (Run Later、このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックして RDP レコードを後で削除します。
- ステップ 7** [送信] をクリックして、RDP レコードを削除するジョブを作成します。
- ステップ 8** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。
-

その他の項目

詳細については、[P.56-28 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先プロファイルのエクスポート

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco Unified CallManager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco Unified CallManager サーバにマージできます。Cisco Unified CallManager サーバから別の Cisco Unified CallManager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。

リモート接続先プロファイルのエクスポートの使用

リモート接続先プロファイルの詳細をエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理]>[モビリティ]>[リモート接続先プロファイル]>[リモート接続先プロファイルのエクスポート]の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)]ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索 リモート接続先プロファイル、検索条件;] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前]
- [説明]
- [デバイスプール]
- [コーリングサーチスペース]

2 番目の [検索 リモート接続先プロファイル、検索条件;] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのリモート接続先プロファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

検索されたリモート接続先プロファイルが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]



(注) ジョブを送信する前に、表示された結果のリストを全部確認してください。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

次の [リモート接続先プロファイルのエクスポート] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] フィールドにエクスポート ファイル名を入力します。

ステップ 8 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Delete Remote Destination Profiles」です。

ステップ 10 [今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックしてリモート接続先プロファイルのレコードを即座にエクスポートするか、[後で実行 (Run Later、このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックして後でエクスポートします。

ステップ 11 [送信] をクリックして、リモート接続先プロファイルのレコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 12 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

Default Remote Destination Profile ファイル形式

Default Remote Destination Profile ファイル形式オプションを使用してリモート接続先プロファイルのレコードをエクスポートする場合は、そのリモート接続先プロファイルに関連付けられた各種の回線アトリビュートとともにレコードをエクスポートします。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 56-3 に、Default Remote Destination Profile Format ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 56-3 Default Remote Destination Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	Remote Destination Profile Name、Description、User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource List、User Hold Audio Source、Location、Privacy、Device Presence Group、Rerouting CSS
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group(Line)、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward No Coverage Internal Destination、Forward No Coverage Internal CSS、Forward No Coverage External Destination、Forward No Coverage External CSS、Forward No Answer Ring Duration、Call Pickup Group、MLPP Target、MLPP CSS、MLPP No Answer Ring Duration、External Phone Number Mask、Maximum Number Of Calls、Busy Trigger、Alerting Name、Alerting Name ASCII、Display、Line Description、Line Presence Group、Secondary CSS For Forward All、ASCII Display、Forward On CTI Failure Destination、Forward On CTI Failure CSS、AAR Destination Mask、Forward Unregistered Internal Destination、Forward Unregistered Internal CSS、Forward Unregistered External Destination、Forward Unregistered External CSS、Hold Reversion Ring Duration、Hold Reversion Notification Interval

その他の情報

詳細については、P.56-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [リモート接続先プロファイル テンプレート \(P.56-1\)](#)
- [リモート接続先プロファイルのファイル形式 \(P.56-16\)](#)
- [リモート接続先プロファイルの挿入 \(P.56-22\)](#)
- [リモート接続先プロファイルの削除 \(P.56-24\)](#)
- [リモート接続先プロファイルのエクスポート \(P.56-26\)](#)



PART 12

リージョンマトリクス



リージョン マトリクスの更新

リージョン テーブルが物理ロケーションを定義するのに対し、リージョン マトリクス テーブルはリージョン内で使用可能な帯域幅とリージョン間で使用可能な帯域幅を定義します。BAT の[リージョンマトリクス]メニューを使用して、リージョン マトリクスを実装または実装解除します。

リージョン マトリクスの実装および実装解除

リージョン マトリクスを実装または実装解除する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理]>[リージョンマトリクス]>[リージョンマトリクスの実装 / 実装解除]の順に選択します。[リージョンマトリクス設定 (Region Matrix Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション (Region Matrix Options)] セクションで、[リージョンマトリクスの実装 (Populate Region Matrix)] または [リージョンマトリクスの実装解除 (Depopulate Region Matrix)] のいずれかを必要に応じて選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの名前を入力します。この情報により、ジョブが識別しやすくなります。
- ステップ 4** ジョブをいつ実行するかに応じて、[今すぐ実行 (Run Immediately)] または [後で実行 (Run Later、このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] を選択します。
- ステップ 5** [送信] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。必要に応じて、このウィンドウを使用してジョブを再スケジュールすることができます。



(注)

他の BAT プロセスと異なり、リージョン マトリクスを実装または実装解除するジョブの進行は、渡されたレコードの数、失敗したレコードの数、または処理されたレコードの数で測定することはできません。結果は、プロセス全体が完了しないと確認できません。



(注) レコード数の作成は、このトランザクションには適用されません。

管理者はリージョン帯域幅のデフォルトを変更できますが、BAT メニューを使用して変更することはできません。



(注) リージョン帯域幅のデフォルトにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager で [システム] > [サービスパラメータ] を選択します。パラメータタイプは Cisco CallManager で、目的の 4 つのパラメータは [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] セクションの一部を構成しています。



(注) その他の BAT 機能の詳細については、『Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド 5.0(4)』を参照してください。



PART 13

インポートとエクスポート



インポート / エクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) の [インポート / エクスポート] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースの一部を別のサーバに、または変更を加えて同じサーバにエクスポートまたはインポートできます。この方法で、事前に設定したデータベースをインストール済みの Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすることによって設定に要する時間が短縮されます。



(注)

現時点では、[インポート / エクスポート] は CallManager データベースのすべての項目には対応していません。すべての項目に対応した機能は、まもなく提供される予定です。

次のトピックでは、これらのタスクを行う手順について説明します。

- [設定のエクスポート \(P.58-2\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(P.58-4\)](#)
- [設定のインポート \(P.59-1\)](#)

設定のエクスポート

Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [インポート/エクスポート] > [エクスポート] の順に選択します。

[データのエクスポート (Export Data)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ジョブ情報 (Job Information)] セクションの [Tar ファイル名 (Tar File Name)] フィールドに、.tar ファイル名を拡張子なしで入力します。

BPS は、このファイル名を使用して設定の詳細をエクスポートします。



(注) 一度にエクスポートされたすべてのファイルは、1 つ (.tar) にまとめられ、サーバからダウンロードできます。

ステップ 3 [エクスポートする項目の選択 (Select items to Export)] セクションの [システムデータ (System Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [Cisco Unified CM]
- [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]
- [電話用 NTP (Phone NTP Reference)]
- [日時グループ (Date/Time Group)]
- [リージョン (Region)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスマビリティグループ (Device Mobility group)]
- [ロケーション (Location)]
- [物理ロケーション (Physical Location)]
- [SRST]
- [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)]
- [サービスパラメータ (Service Parameter)]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile、電話および SIP トランク)]

ステップ 4 [コールルーティングデータ (Call Routing Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [AAR グループ (AAR Group)]
- [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [ルートグループ (Route Group)]
- [ルートリスト (Route List)]
- [ルートパターン (Route Pattern)]
- [回線グループ (Line Group)]
- [ハントリスト (Hunt List)]

- [時間帯 (Time Period、コントロールのクラス)]
- [スケジュール (Time Schedule、コントロールのクラス)]
- [パーティション (Partitions、コントロールのクラス)]
- [CSS (コントロールのクラス)]
- [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]

ステップ 5 [メディアリソース (Media Resources)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [アナウンシエータ]
- [会議ブリッジ (Conference Bridge)]
- [メディアリソースグループ (Media Resource Group)]
- [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]
- [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)]
- [トランスコーダ (Transcoder)]

ステップ 6 [すべてを選択] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスを一度にオンにでき、[すべてをクリア] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスをオフにできます。

ステップ 7 [ジョブ説明 (Job Description)] フィールドに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Export Configuration」です。

ステップ 8 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

ステップ 9 関連レコードもエクスポートするために、テーブルの相互依存関係を確認するには、[依存関係の確認] をクリックします。



(注) 依存関係を確認した後、任意のチェックボックスをオフにできます。依存関係の確認を省略することもできます。

ステップ 10 [送信] をクリックして、選択したデータをエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 11 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイル

1 つのエクスポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、エクスポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。これらのログ ファイルでは、項目ごとに別個の結果が示されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

その他の項目

詳細については、[P.58-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

.tar ファイルの編集

tar ファイルは、CSV ファイルのリストとヘッダー ファイルで構成されます。ヘッダー ファイルは、エクスポート元のサーバの詳細とエクスポートが実行された時刻を参照するために使用できます。ヘッダー ファイルには、パッケージ内のファイルの詳細も記述されています。

必要なデータをエクスポートした後に設定に変更を加える場合は、エクスポートした .tar ファイルを次の手順で編集することで変更できます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ファイルのアップロード/ダウンロード] の順に選択します。

[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ページが表示されます。

ステップ 2 [P.2-3 の「ファイルのダウンロード」](#)の手順に従って、更新する .tar ファイルをダウンロードします。

ステップ 3 `tar-xvzf` コマンドを使用して、マシン上の任意の場所に .tar ファイルを展開します。

指定した場所に .csv ファイルが展開されます。



(注) 「tar-xvzf」コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。



(注) .csv ファイルの名前は、常に項目名と同じです。

ステップ 4 MS Excel を使用して .csv ファイルを編集し、変更内容を保存します。



(注) Notepad または Wordpad を使用しても .csv ファイルを編集できますが、.csv ファイルの編集には MS Excel を使用することをお勧めします。

.csv ファイルは、同じファイル名およびファイル形式を常に維持する必要があります。tar パッケージに新しいファイルを追加する場合は、そのファイルの名前とファイル形式が、Cisco Unified Communications Manager からエクスポートした場合と同じになるようにします。新しいファイル名がヘッダー ファイルに追加されたことも確認してください。



ヒント 新規項目を追加する場合は、その項目のレコードがなくても、その項目を必ず Cisco Unified Communications Manager からエクスポートするようにしてください。それによって、正しい名前とファイル形式を持つ .csv ファイルが作成されます。

ステップ 5 `tar-cvf` コマンドを使用してファイルを再圧縮し、新しい .tar ファイルがデフォルトの共通の場所に保存されたことを確認します。



(注) 「tar-xvf」コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。



注意 BPS が .tar ファイルを検索するのはデフォルトの場所だけなので、ファイルを再圧縮するとき、.tar ファイルは元のディレクトリ構造を保持している必要があります。

ステップ 6 P.2-4 の「[ファイルのアップロード](#)」の手順に従って、インポートする .tar ファイルをアップロードします。



(注) 必ず、ターゲットに [インポート / エクスポート] を選択し、トランザクション タイプに [インポート] を選択してください。



(注) Notepad または Wordpad を使用して編集する場合は、ファイル形式内のすべての新規エントリに必ずカンマを追加してください。

関連項目

- [設定のエクスポート \(P.58-2\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(P.58-4\)](#)
- [ファイルの検索 \(P.2-1\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.2-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.2-5\)](#)
- [設定のインポート \(P.59-1\)](#)



設定のインポート

[一括管理]メニューを使用して Cisco Unified Communications Manager に設定データをインポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [インポート / エクスポート] > [インポート] の順に選択します。

[設定ツールのインポート (Config Tool Import Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ] をクリックします。



(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスに、アップロードした .tar ファイルがすべて表示されます。.tar ファイルのアップロードについては、[第 2 章「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

ステップ 3 [インポート設定 (Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 項目が存在する場合にその項目が BPS によって更新されるようにするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。既存の設定の上書きは、オプションです。



(注) ファイルに変更を加えた場合は、更新中にファイル名とファイル形式を変更しないでください。

ステップ 5 [すべてを選択] をクリックすると、すべてのオプションを一度に選択でき、[すべてをクリア] をクリックするとすべての選択を解除できます。

ステップ 6 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、選択したデータをインポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メインメニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用します。



(注) jon-run が失敗した場合、修正した同じ tar ファイルを実行すると上書きできます。

ログ ファイル

1 つのインポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、インポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

関連項目

- [設定のエクスポート \(P.58-2\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(P.58-4\)](#)
- [ファイルの検索 \(P.2-1\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.2-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.2-5\)](#)



PART 14

CUP



ライセンスの操作

Cisco Unified Presence (CUP) は、Cisco Unified Communications 環境の全体的な価値を実現するために不可欠なコンポーネントで、ユーザの在席状況に関する情報を収集します。Cisco Unified Personal Communicator (CUPC) や Cisco Unified Communications Manager などのアプリケーションは、この情報を使用してコラボレーティブに通信するための最も効果的な方法を決定することで、生産性を高めることができます。

BAT の [CUP] メニューを使用して、すべての CUP ユーザと CUPC ユーザのライセンスを更新およびエクスポートできます。

CUP メニューの使用法

この項では、BAT の [CUP] メニューと、それを使用して CUP ユーザと CUPC ユーザを更新およびエクスポートする方法について説明します。

[一括管理] メニューの [CUP] の下に新しく追加された項目には、次の 2 つがあります。

- [CUP/CUPC ユーザの更新]: [一括管理] > [CUP] > [CUP/CUPC ユーザの更新]
- [CUP/CUPC ユーザのエクスポート]: [一括管理] > [CUP] > [CUP/CUPC ユーザのエクスポート]

CUP/CUPC ユーザの更新

ライセンスを追加または変更する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [ファイルのアップロード/ダウンロード] ウィンドウを使用して、csv ファイルをアップロードします。



(注) csv ファイルのアップロードでは、必ず、正しい BAT ターゲットとトランザクションタイプを選択する必要があります。

ステップ 2 [CUP/CUPC ユーザの更新 (CUP/CUPC User Update Configuration)] ウィンドウに移動し、アップロードする csv ファイルを選択してジョブを送信します。



(注) ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかは、対応するオプション ボタンをクリックして選択できます。[後で実行] を選択した場合は、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールし、アクティブ化する必要があります。

ステップ 3 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信した BAT ジョブの進行状況を監視します。

CUP/CUPC ユーザのエクスポート

[ユーザエクスポートのクエリー] ウィンドウを使用すると、すべての CUP ユーザと CUPC ユーザの現在のライセンス情報を取得できます。



(注) 現時点では、一部の CUP ユーザを選択するオプションはありません。システム内のすべての CUP ユーザがファイルにエクスポートされます。

ライセンスをエクスポートする手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [ユーザエクスポートのクエリー] ウィンドウに移動します。

ステップ 2 [検索] をクリックして、基本的なユーザ情報とユーザのライセンス ステータスを確認します。

ステップ 3 [次へ] をクリックして、[CUP/CUPC ユーザのエクスポート (Export CUP/CUPC Users Configuration)] ウィンドウを表示します。

ステップ 4 エクスポートするファイルの名前を指定し、[送信] をクリックして BAT ジョブを開始します。

ステップ 5 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、送信した BAT ジョブの進行状況を確認します。



(注) ジョブが完了したら、[ファイルのアップロード / ダウンロード] ウィンドウに移動して、エクスポートした .csv をダウンロードできます。



(注) その他の BAT 機能の詳細については、『Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド 5.0(4)』を参照してください。



P A R T 1 5

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool



Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool (TAPS) を使用すると、電話機ユーザが Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号をコールして、ユーザの電話番号に関して事前に設定した電話機設定をダウンロードできます。Unified CM Auto-Register Phone Tool は、Cisco Unified Communications Manager の管理機能と連動して次の機能を提供します。

Unified CM Auto-Register Phone Tool の設定：自動登録機能を使用するすべての電話機について Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用できるようにしたり、ダミー MAC アドレスを持つ、BAT を使用して追加される電話機にだけ Unified CM Auto-Register Phone Tool を限定したりできます。詳細については、[P.61-10 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプションの設定」](#)を参照してください。

Unified CM Auto-Register Phone Tool の保護：一部の電話番号を Unified CM Auto-Register Phone Tool でアップデートできないように保護できます。詳細については、[P.61-12 の「電話番号の保護の設定」](#)を参照してください。

Unified CM Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケール：Unified CM Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語を選択できます。詳細については、[P.62-2 の「Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定」](#)を参照してください。

次のトピックでは、Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用方法、インストール方法、および設定方法について説明しています。

- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 \(P.61-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のインストール \(P.61-5\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のアンインストール \(P.61-7\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化 \(P.61-8\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の起動 / 停止 / 再起動 \(P.61-9\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のオプションの設定 \(P.61-10\)](#)
- [電話番号の保護の設定 \(P.61-12\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示 \(P.61-14\)](#)
- [エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報 \(P.62-4\)](#)

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要

Unified CM Auto-Register Phone Tool のコンポーネントは、Cisco Unified Communications Manager のインストールの一部として Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにインストールされます。Unified CM Auto-Register Phone Tool が動作するためには、Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティで、自動登録機能を有効にする必要があります。



(注)

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新したら、電話機の自動登録済み電話番号 (DN) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

Unified CM Auto-Register Phone Tool アプリケーションは、Cisco Customer Response Solution (Cisco CRS) サーバにインストールする必要があります。Unified CM Auto-Register Phone Tool には、ユーザ インターフェイスおよびプロンプトについて Cisco CRS サーバ上で稼働する Cisco IP Interactive Voice Response (IP IVR) アプリケーションが必要です。

管理者は、新規電話機を設定するための Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用方法について、エンド ユーザに手順を示す必要があります。エンド ユーザの手順については、[P.62-4 の「エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報」](#)を参照してください。



(注)

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加しないときは、Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスを停止することをお勧めします。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプション

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して自動登録電話機を更新するためには、次のオプションを設定できます。

- MAC アドレスを更新し、事前定義済みの新しい電話機用の設定をダウンロードする。
- 既存の電話機と交換した新しい電話機に設定をリロードする。

以下の項目を参照してください。

- [新しい電話機での Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法 \(P.61-3\)](#)
- [設定をリロードするための Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法 \(P.61-3\)](#)

新しい電話機での Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法

ダミー MAC アドレスを持つ新しい電話機設定が Cisco Unified Communications Manager の管理機能に追加されると、電話機をネットワークに接続できます。システム管理者または電話機のユーザが、Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号をダイヤルすると、電話機にその設定がダウンロードされます。同時に、その電話機の情報も、正しい MAC アドレスを使用して、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内で更新されます。Unified CM Auto-Register Phone Tool が正しく動作するためには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、自動登録機能が使用可能になっていることを確認する必要があります。



(注)

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新したら、電話機の自動登録済み電話番号 (DN) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

例

100 名の新入社員が月曜日から入社するとします。これらのユーザとその新しい電話機を Cisco Unified Communications Manager の管理機能に追加する必要があります。BAT を使用すると、その 100 台の電話機の電話機テンプレート、および電話機とユーザ用の CSV データ ファイルを作成できます。CSV データ ファイルでダミー MAC アドレス オプションを使用すると、新しい電話機に個々に MAC アドレスを追加する必要がありません。自動登録機能が Cisco Unified Communications Manager で有効になっていると、電話機をネットワークに直接接続できます。システム管理者または新入社員は、Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号をダイヤルし、ボイス プロンプトの指示に従って設定をロードできます。

設定をリロードするための Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の使用方法

機能していない既存の電話機を交換する必要がある場合、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して既存の電話機設定を新しい電話機にダウンロードできます。ユーザは新しい電話機を受け取ってネットワークに接続すると、Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号をダイヤルして以前の電話機の設定をダウンロードできます。この処理中、ユーザは設定を変更できません。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、自動登録機能を有効にする必要があります。すべての電話機に対して Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用するよう設定して、ユーザが既存の電話機設定をダウンロードできるようにする必要があります。詳細については、[P.61-10 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプションの設定」](#)を参照してください。



(注)

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新したら、電話機の自動登録済み電話番号 (DN) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

例

John の Cisco Unified IP Phone モデル 7940 に、雷雨で回路短絡が発生したとします。彼は、新しい Cisco Unified IP Phone モデル 7940 を受け取り、ネットワークに接続します。John が Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号をダイヤルすると、損傷した電話機で以前に使用していた設定が新しい電話機にダウンロードされます。Unified CM Auto-Register Phone Tool により、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内のデバイス情報が自動的に更新されます。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話番号の保護

Unified CM Auto-Register Phone Tool では電話番号を置き換えることができるため、管理者は特定の電話番号が上書きされないように保護できます。重要な電話番号を保護するには、Unified CM Auto-Register Phone Tool の保護オプションを使用します。詳細については、[P.61-12 の「電話番号の保護の設定」](#)を参照してください。

例

電話番号 5000 には、システム用のボイス メッセージ アクセスが用意されています。このような場合、新しいユーザが誤って新しい電話機上で 5000 を設定しないようにします。Unified CM Auto-Register Phone Tool の保護オプションを使用すると、Unified CM Auto-Register Phone Tool が電話番号「5000」にアクセスできないように指定できます。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ユーザ用の言語プロンプト

Unified CM Auto-Register Phone Tool のユーザ プロンプトを複数の言語で再生できるように設定できます。管理者は、ユーザが使用できる言語を選択できます。詳細については、[P.62-2 の「Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定」](#)を参照してください。

英語以外の言語プロンプトを使用する必要がある場合は、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager および Cisco CRS サーバに Cisco Unified Communications Manager Locale Installer がインストールされていることを確認してから、Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストール、アップグレード、または設定します。Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国 / 地域固有の電話トーン、および各国 / 地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できます。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のインストール

この項では、Unified CM Auto-Register Phone Tool のインストール、再インストール、およびアンインストールについて説明しています。Unified CM Auto-Register Phone Tool は、Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco Customer Response Solution (CRS) 4.5 サーバの両方と連動します。このインストール手順では、Unified CM Auto-Register Phone Tool を CRS サーバにインストールします。

Windows Terminal Services を使用して Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストールすることはできません。Unified CM Auto-Register Phone Tool を Cisco Unified Communications Manager の最初のノードサーバおよび Cisco CRS サーバから直接インストールする必要があります。

始める前に

BAT Release 5.2(1) 用の Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストールするには、次の前提条件が必要です。

- Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースが設定され、実行されている。
- Cisco Unified Communications Manager の最初のノードサーバの IP アドレスがわかっている。
- Cisco CRS サーバが設定されている。Cisco CRS 4.5 アプリケーションを独自の専用サーバ上に配置できる。
- 各国 / 地域に合わせて Unified CM Auto-Register Phone Tool プロンプトを作成する場合は、必ず Locale Installer を使用する。

Unified CM Auto-Register Phone Tool を CRS アプリケーション サーバにインストールする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 管理者特権を使用して、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているシステムにログオンします。
- ステップ 2** [アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択します。[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager TAPS for Windows を検索し、[ダウンロード] をクリックして、CRS アプリケーション サーバがインストールされている Windows サーバにプラグインを保存します。
- ステップ 4** インストール ウィザードの Welcome ウィンドウが開きます。このインストール プログラムでは、Unified CM Auto-Register Phone Tool が CRS アプリケーション サーバにインストールされます。[次へ] をクリックします。



- (注)** 専用 CRS サーバが接続されたネットワークで Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストールする場合は、CRS サーバで Unified CM Auto-Register Phone Tool インストール プログラムを再実行する必要があります。インストールおよび設定の詳細については、CRS オンライン ヘルプを参照してください。

- ステップ 5** IP アドレス フィールドに CRS アプリケーション サーバの IP アドレスを入力して、[次へ] をクリックします。
- ステップ 6** Unified CM Auto-Register Phone Tool on Apps Server のインストール ウィンドウに進行状況バーが表示されて、インストールの状況を示します。[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
- ステップ 7** インストールが終了すると、インストール完了ウィンドウが表示されます。[終了] をクリックします。
-

その他の項目

詳細については、P.61-14 の「関連項目」を参照してください。

CRS アプリケーション サーバでの Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool アプリケーションの設定

Cisco CRS 4.5 アプリケーション サーバのマニュアルを参照するには、<http://www.cisco.com> の Cisco Voice Applications and Tools にアクセスしてください。アプリケーションの設定方法については、『Cisco Customer Response Administration Guide』を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.61-14 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のアンインストール

このアンインストール プログラムでは、Unified CM Auto-Register Phone Tool アプリケーションが Cisco CRS サーバから削除されます。

[コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Unified CM Auto-Register Phone Tool をアンインストールする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CRS サーバで、[スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[アプリケーションの追加と削除] の順に選択します。
 - ステップ 2** Unified CM Auto-Register Phone Tool を選択し、[変更]または[削除] ボタンをクリックします。アンインストール操作を確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 3** Unified CM Auto-Register Phone Tool をアンインストールするには、[はい] をクリックします。取り消すには [いいえ] をクリックします。[はい] をクリックした場合、Unified CM Auto-Register Phone Tool アプリケーションは Cisco CRS サーバからアンインストールされます。
 - ステップ 4** [OK] をクリックして、アンインストールを終了します。
-


その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化

Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスは、Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティを使用してアクティブ化および非アクティブ化できます。それにはまず、適切な URL を使用してこのページにアクセスします。サービスをアクティブ化する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティにアクセスします。
- ステップ 2** [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
- [Service Activation] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスから、適切なサーバを選択します。[次へ] をクリックします。
- ステップ 4** Unified CM Services リストの [Database and Admin Services] から [Cisco Unified CM Auto-Register Phone Tool Service] を選択し、[Save] をクリックします。
-  **(注)** サービスがすでにアクティブ化されている場合は、[Activation Status] に [Activated] と表示されます。
-
- ステップ 5** サービスが有効になり、[Activation Status] カラムに [Activated] と表示されます。
-

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の起動 / 停止 / 再起動

Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスは、Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティを使用してアクティブ化されると、自動的に起動します。この項では、Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスを停止またはリスタートする手順を説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティ] で、[Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

[Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

Cisco Unified CM Auto-Register Phone Tool Service が Unified CM Services の [Database and Admin Services] カラムの下のリストに表示されます。



(注) Unified CM Auto-Register Phone Tool が [P.61-8](#) の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化」の手順でアクティブ化されている場合、[Status] に [Activated] と表示されます。

ステップ 3 Cisco Unified CM Auto-Register Phone Tool Service に対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスを停止する場合は、[Stop] をクリックします。

サービスが停止し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止している Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスを起動する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のオプションの設定

管理者は、Cisco Unified Communications Manager システムでの Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用方法を選択できます。次に示す Unified CM Auto-Register Phone Tool 機能オプションによって、電話機の更新や電話機プロファイルのダウンロードをユーザがより柔軟に行えるようになります。Unified CM Auto-Register Phone Tool のオプションには、次のものがあります。

- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプションの設定 \(P.61-10\)](#)
- [電話番号の保護の設定 \(P.61-12\)](#)
- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定 \(P.62-2\)](#)

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプションの設定

Unified CM Auto-Register Phone Tool の設定オプションを使用すると、Cisco Unified Communications Manager データベースに自動登録する電話機を Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新できます。次の 2 つの方法が用意されています。

- BAT を使用して追加され、ダミー MAC アドレスを持つ電話機用
- Cisco Unified Communications Manager の管理機能の既存の電話機用

デフォルト設定の場合、Unified CM Auto-Register Phone Tool が使用する電話機は、プレフィックス「BAT」で始まるデバイス名で、ダミー MAC アドレスを持つものに限定されます。

Unified CM Auto-Register Phone Tool の設定オプションを使用すると、標準 MAC アドレスを持つ電話機も含め、すべての電話機を Cisco Unified Communications Manager システムに自動登録できます。



(注)

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新したら、電話機の自動登録済み電話番号 (DN) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

Unified CM Auto-Register Phone Tool の設定オプションを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager の管理] ウィンドウで、[システム] > [サービスパラメータ] の順に選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストボックスから、適切なサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リストから [Cisco TAPS Service] を選択します。

ステップ 4 [パラメータ値 (Parameter Value)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の 2 つのオプションのいずれかを選択します。

- [Allow Auto-Registered phones to reset with a profile with a dummy MAC address]

Unified CM Auto-Register Phone Tool は、ダミー MAC アドレスがあるプロファイルを持つ自動登録済み電話機だけを更新します。

- [Allow Auto-Registered phones to reset with any profile]

Unified CM Auto-Register Phone Tool は、プロファイルにかかわらず、自動登録済み電話機を更新します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。

ステップ 6 [Unified CM Auto-Register Phone Tool Options] ウィンドウに戻るには、[戻る] をクリックします。

その他の項目

詳細については、[P.61-14](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号の保護の設定

Unified CM Auto-Register Phone Tool の保護オプションを使用すると、Unified CM Auto-Register Phone Tool でアクセスできない電話番号を指定できます。この機能は、電話番号が誤って別の電話機に割り当てられないように保護する場合に使用します。



(注) Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用すると、Cisco Unified Communications Manager 上の自動登録範囲は減少します。Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して更新したら、電話機の自動登録済み電話番号 (DN) が未割り当ての DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除し、自動登録範囲を解放する必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

制限された電話番号を表示したり、制限された電話番号をさらに追加したりする場合は、以下の項を参照してください。

- [電話番号の保護の検索 \(P.61-12\)](#)
- [電話番号の制限 \(P.61-12\)](#)
- [電話番号に対する制限の解除 \(P.61-13\)](#)

電話番号の保護の検索

制限された電話番号を検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理]>[TAPS]>[セキュア TAPS] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 適切な検索条件を入力し、[検索] をクリックします。制限された電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 4** 電話番号をさらに制限する場合は、[P.61-12 の「電話番号の制限」](#)を参照してください。電話番号の制限を解除する場合は、[P.61-13 の「電話番号に対する制限の解除」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話番号の制限

Unified CM Auto-Register Phone Tool で使用できないように電話番号を指定する手順は、次のとおりです。Unified CM Auto-Register Phone Tool は、保護対象の電話番号のリストに含まれる電話番号を使用できません。

手順

- ステップ 1** [一括管理]>[TAPS]>[セキュア TAPS] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [電話番号 (Directory Numbers)] フィールドに、Unified CM Auto-Register Phone Tool から保護する電話番号を入力します。複数の電話番号を入力するには、電話番号のエントリごとに 1 回線を使用してください。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- ステップ 5** [セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [検索 / リストに戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

Unified CM Auto-Register Phone Tool は、このリストに示されている電話番号を使用できません。ユーザが、このリスト内の電話番号のいずれかを入力して、デバイス プロファイルの更新を試みると、Unified CM Auto-Register Phone Tool は、その要求を拒否します。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話番号に対する制限の解除

Unified CM Auto-Register Phone Tool で使用できない電話番号のリストから、電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理]>[TAPS]>[セキュア TAPS] の順に選択します。[セキュア電話番号 (Secure Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 削除する電話番号を検索する場合は、[P.61-12 の「電話番号の保護の検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 保護された電話番号のリストから削除する電話番号を選択し、[削除] をクリックします。



(注)

複数の電話回線で制限のない電話番号が共有され、そのような電話機を更新しようとしている場合は、電話機の外部電話マスクを入力するように求められます。

その他の項目

詳細については、[P.61-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示

Unified CM Auto-Register Phone Tool ログ ファイルを表示する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** [一括管理] > [TAPS] > [TAPS ログファイルの表示] の順に選択します。
- ステップ 2** [TAPS ログファイルの表示 (View TAPS Log File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ログ ファイルの各行に、Unified CM Auto-Register Phone Tool のトランザクションが示されます。
-

その他の項目

詳細については、P.61-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要 \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のインストール \(P.61-5 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のアンインストール \(P.61-7 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化 \(P.61-8 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の起動 / 停止 / 再起動 \(P.61-9 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のオプションの設定 \(P.61-10 \)](#)
- [電話番号の保護の設定 \(P.61-12 \) Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の自動登録オプション \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示 \(P.61-14 \)](#)
- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定 \(P.62-2 \)](#)
- [エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報 \(P.62-4 \)](#)



Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケール

管理者は、Unified CM Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケール オプションを使用して TAPS ボイス プロンプトの言語を指定できます。Unified CM Auto-Register Phone Tool のユーザ プロンプトを複数の言語で設定できます。クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco CRS サーバに Cisco Unified Communications Manager Locale Installer がインストールされていることを確認してください。

Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国 / 地域固有の電話トーン、および各国 / 地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できます。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。

**(注)**

Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用するには、少なくとも 1 つのユーザ ロケールを選択する必要があります。

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザロケールの設定

Unified CM Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語を追加または削除するには、次の手順を参照してください。

- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の追加 \(P.62-2\)](#)
- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の削除 \(P.62-3\)](#)

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の追加

Unified CM Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理] ウィンドウで、[一括管理] > [TAPS] > [TAPS のユーザロケール] の順に選択します。[ユーザロケール (User Locales Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager にインストールされている言語のリストである [ユーザロケール (User Locales)] リストボックスで、ユーザ プロンプトに使用する言語を選択します。矢印をクリックして、選択した言語を [選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リストボックスに移動します。

必要に応じて、ユーザ プロンプト用に複数の言語を選択して、[選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リストボックスに移動できます。

ステップ 3 ユーザ プロンプトの言語を選択したら、ジョブを作成するには [保存] をクリックします。

ステップ 4 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 63 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.64-4 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.62-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語の削除

Unified CM Auto-Register Phone Tool プロンプトの言語を削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理] > [TAPS] > [TAPS のユーザロケール] の順に選択します。[ユーザロケール (User Locales Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ユーザ プロンプト用に選択された言語のリストである [選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リストボックスで、削除する言語を選択します。
- ステップ 3** 矢印をクリックして、選択した言語を[ユーザロケール(User Locales)]リストボックスに移動します。
- 必要に応じて、ユーザ プロンプトから複数の言語を選択して、[ユーザロケール (User Locales)] リストボックスに移動できます。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。
- ステップ 5** [Unified CM Auto-Register Phone Tool Options] ウィンドウに戻るには、[戻る] をクリックします。
-

その他の項目

詳細については、[P.62-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報

新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 電話機をポートに差し込みます。

電話機の番号が自動的に登録され、表示されます。



(注) 電話機のプロフィールをダウンロードし、最初のノードとディレクトリに必要な更新を行うには、約 20 ~ 25 秒かかります。

ステップ 2 システム管理者から提供された CTI ルート ポイント番号をダイヤルし、プロンプトに従います。

ステップ 3 システム管理者によって指定された Unified CM Auto-Register Phone Tool 内線番号をダイヤルします。

ステップ 4 使用言語を選択するように求める音声の流れます。適切な言語を選択します。

ステップ 5 システム管理者によって指定された個人用内線番号とその後に続けて # をダイヤルします。



(注) 市外局番を含む完全な電話番号を入力するように求められる場合があります。

ステップ 6 確認のために、もう一度、個人用内線番号とその後に続けて # をダイヤルします。確認プロンプトが聞こえます。

ステップ 7 電話を切ります。

電話機がリセットされ、ユーザの内線番号が表示されます。

問題が発生した場合は、システム管理者にお問い合わせください。

その他の項目

詳細については、[P.62-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のユーザ ロケールの設定 \(P.62-2 \)](#)
- [エンド ユーザ用の Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool 情報 \(P.62-4 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のインストール \(P.61-5 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のアンインストール \(P.61-7 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスのアクティブ化\(P.61-8 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の起動 / 停止 / 再起動 \(P.61-9 \)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のオプションの設定 \(P.61-10 \)](#)
- [電話番号の保護の設定 \(P.61-12 \)](#)



PART 16

ジョブのスケジュール



ジョブのスケジュール

バルク トランザクションをスケジュールし、これらのトランザクションを開始する必要がある時刻を指定できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理] メニューを使用して送信されたすべてのジョブは、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入ります。ジョブに対して指定された開始時刻に従って、トランザクションが実行を開始します。開始時刻を指定しない場合、トランザクションは、受信した順に実行されます。

次のトピックでは、BPS のアクティブ化とジョブのスケジュールについて説明します。

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.63-2\)](#)
- [BPS の起動 / 停止 / 再起動 \(P.63-3\)](#)
- [BPS の非アクティブ化 \(P.63-4\)](#)
- [ジョブの検索 \(P.63-5\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-7\)](#)

Bulk Provisioning Service のアクティブ化

実行のジョブを送信する前に、BPS をアクティブ化する必要があります。

BPS をアクティブ化する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウから、[Tools]>[Service Activation] の順に選択します。

[Service Activation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager を実行するサーバを選択します。

ステップ 3 [Database and Admin Services] 領域で、Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオンにします。



(注) サービスがすでにアクティブ化されている場合は、[Activation Status] に [Activated] と表示されます。

ステップ 4 [Update] をクリックします。

ステップ 5 ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する [Activation Status] に [Activated] と表示されます。



(注) アクティブ化されると、BPS は自動的に起動します。このサービスの停止、起動、再起動については、[P.63-3 の「BPS の起動 / 停止 / 再起動」](#)を参照してください。



(注) サービスを起動するたびに、BPS は Cisco Unified Communications Manager データベースと同期されます。

BPS の起動 / 停止 / 再起動

Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化されると、BPS は自動的に起動します。この項では、BPS を停止または再起動する手順について説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Serviceability]で、[Tools] [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

[Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

[Database and Admin Services]領域のリストの[Service Name]カラムの下に、[Cisco Bulk Provisioning Service]が表示されます。



(注) P.63-2 の「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」を使用して BPS をアクティブ化した場合は、[Status] に [Activated] と表示されます。

ステップ 3 BPS に対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 BPS を再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 BPS を停止する場合は、[Stop] をクリックします。

サービスが停止し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止した BPS を起動する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

BPS の非アクティブ化

必要ない場合は、BPS を非アクティブ化できます。この項では、BPS サービスを非アクティブ化し、ツールからログアウトする手順を説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。

[Service Activation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

[Database and Admin Services] 領域のリストの [Service Name] カラムの下に、[Cisco Bulk Provisioning Service] が表示されます。

ステップ 3 Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにし、[Update] をクリックします。

サービスが非アクティブになり、[Status] カラムに [Deactivated] と表示されます。

ジョブの検索

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの[一括管理]メニューを使用して、すでに BPS に送信されたジョブを検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ジョブスケジューラ] の順に選択します。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ジョブ、検索条件] ドロップダウン リストボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ]
- [ステータス]
- [ジョブ ID]
- [説明]
- [スケジュール日時]

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ジョブ、検索条件] ドロップダウン リストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リストボックスで、[表示] を選択して完了したジョブを表示します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのジョブを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 6 複数のフィルタを追加するには、[AND] または [OR] をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 [検索] をクリックします。

検索されたジョブのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ジョブ ID(Job Id)]
- [スケジュール日時 (Scheduled Date Time)]
- [送信日時 (Submit Date Time)]
- [順序 (Sequence)]

- [説明 (Description)]
- [ステータス (Status)]
- [最後のユーザ (Last User)]



(注) [後で実行] オプション ボタンが選択されている場合は、ジョブをスケジュールしている間、[ステータス (Status)] に「Hold」と表示されます。[今すぐ実行] オプション ボタンが選択されている場合は、[ステータス (Status)] に「Pending」と表示されます。完了したジョブの場合、[ステータス (Status)] に「Completed」と表示され、エラーで完了しなかったジョブの場合、[ステータス (Status)] に「Incomplete」と表示されます。

ステップ 8 スケジュールまたはアクティブ化する、処理中または保留のジョブの[ジョブ ID(Job Id)]をクリックします。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウが表示されます。

その他の項目

詳細については、[P.63-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

ジョブのスケジュール


送信されたジョブをスケジュールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.63-5 の「[ジョブの検索](#)」の手順に従って、スケジュールするジョブを表示します。

ステップ 2 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、[表 63-1](#) の手順に従ってジョブのスケジュールまたはアクティブ化の設定を入力します。

表 63-1 ジョブの設定

フィールド	説明
[ジョブ ID(Job Id)]	ジョブが送信されるときに作成されるジョブ ID が表示されます。
[ジョブのステータス (Job Status)]	ジョブのステータスとして、次のいずれかのオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Hold] • [Pending] • [Completed] • [Incomplete]
[スケジュール日時 (Scheduled Date Time)]	ドロップダウン リストボックスから、月、日、年を選択します。ジョブをスケジュールする時刻を入力します。
[送信日時 (Submit Date Time)]	ジョブが送信される日時が表示されます。
[順序 (Sequence)]	ドロップダウン リストボックスで、ジョブを実行する順序を選択します。1 から 20 までの数を選択できます。  (注) 2 つ以上のジョブについてスケジュール済みの日時が同じ場合、この順序に従ってこれらのジョブが BPS のキューに入れられます。スケジュール済みの日時と順序が同じ場合、ジョブは送信日時に従ってキューに入れられます。
[ジョブ説明 (Job Description)]	ジョブを作成したときに入力した説明が表示されます。
[頻度 (Frequency)]	次のオプションからトランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Once] • [Monthly] • [Weekly] • [Daily] • [Hourly] <p>たとえば [Daily] を選択すると、[スケジュール日時 (Scheduled Date Time)] フィールドに入力した時刻にトランザクションが毎日繰り返されます。</p>
[ジョブの終了時刻 (Job End Time)]	反復 (定期) ジョブの終了時刻が表示されます。
[最終変更者 (Last Modified By)]	このジョブを最後に変更した管理者の ID が表示されます。

ステップ 3 [**ジョブのアクティブ化**] をクリックして、スケジュールされた時刻にジョブをアクティブ化するが、[**保存**] をクリックして設定を保存し、ジョブを後でアクティブ化します。

[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。



(注) ジョブを保存するが、アクティブ化しない場合は、ジョブの状態が [Hold] と表示されま
ず。これらのジョブは、アクティブ化されるまで BPS では処理されません。

ステップ 4 アクティブ化したジョブの ID をクリックします。[**ジョブスケジューラ (Job Scheduler)**] ウィンドウの [**Job Results**] 領域に、完了、未完了、停止要求中、処理中のすべてのジョブについて、以下の情報が表示されます。

- [Job Launched Date]
- [Job Result Status]
- [Number of records Processed]
- [Number of Records Failed]
- [Total Number of Records]
- [Log File Name]



(注) [**Log File Name**] カラムのリンクをクリックすると、このトランザクションのログ ファイル
が表示されます。

ステップ 5 ジョブのリストに戻るには、[**関連リンク**] ドロップダウン リストボックスから [**検索 / リストに戻る**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

関連項目

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.63-2 \)](#)
- [BPS の起動 / 停止 / 再起動 \(P.63-3 \)](#)
- [BPS の非アクティブ化 \(P.63-4 \)](#)
- [ジョブの検索 \(P.63-5 \)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.63-7 \)](#)



PART 17

BAT および TAPS のトラブルシューティング



BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) または Unified CM Auto-Register Phone Tool の使用時に発生する問題およびメッセージの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)
- [トレース設定ファイルの表示 \(P.64-2\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(P.64-5\)](#)
- [BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング \(P.64-9\)](#)
- [Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のエラー メッセージ \(P.64-9\)](#)

トレース設定ファイルの表示

トレース ファイルを使用すると、ツールの機能上の問題を追跡することができます。システムは、BAT および Unified CM Auto-Register Phone Tool のトレース ファイルを、BAT および Unified CM Auto-Register Phone Tool がインストールされているサーバに書き込みます。Cisco Unified Communications Manager Serviceability の [Service Control] ウィンドウでは、トレース ファイル機能の書き込みの有効化または無効化を選択できます。

この項では、トレース ファイルの書き込みを有効化および無効化する手順を説明します。

機能を有効化する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Trace] > [Configuration] の順に選択します。

[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

ステップ 3 [Configured Services] ドロップダウン リスト ボックスから次のサービスのいずれかを選択します。

- BAT トレース ファイルの設定の場合は、[Cisco Bulk Provisioning Service] を選択します。
- Unified CM Auto-Register Phone Tool トレース ファイルの設定の場合は、[Cisco Unified CM Auto-Register Phone Tool Service] を選択します。

ステップ 4 トレース機能をアクティブ化するには、[Trace On] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [Trace Filter Settings] で、設定するトレース レベルを [Debug Trace Level] ドロップダウン リスト ボックスから選択します。表 64-1 の手順に従って、適切なデバッグトレース レベルをクリックします。

表 64-1 デバッグトレース レベル

レベル	説明
Fatal	アプリケーションの中止を引き起こす可能性がある非常に重大なエラー イベントをトレースします。
Error	アラームの状態とイベントをトレースします。異常なパスで生成されるすべてのトレースに使用します。CPU サイクルの最小数を使用します。
Warn	有害な可能性のある状況をトレースします。
Info	多くのサブレットの問題をトレースします。システム パフォーマンスへの影響は最小です。
Debug	通常の操作で発生するすべての State Transition 状態とメディア レイヤ イベントをトレースします。 すべてのロギングをオンにするトレース レベルです。

ステップ 6 必要に応じて、[Cisco Bulk Provisioning Service Trace Fields] チェックボックスと [Device Name Based Trace Monitoring] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [Trace Output Settings] で、最大ファイル数、ファイルあたりの最大行数、ファイルあたりの最大行数の値を入力します。

ステップ 8 [Update] をクリックします。

機能が有効になり、トレース ファイルがサーバ上の次に示すロケーションに書き込まれます。

- BAT トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/bps/log4j
- Unified CM Auto-Register Phone Tool トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/taps/log4j

BAT トレース ファイルは、次の形式で表示されます。

bps< インデックス番号 >.log

Unified CM Auto-Register Phone Tool トレース ファイルは、次の形式で表示されます。

taps< インデックス番号 >.log

ここで、< インデックス番号 > の範囲は、1 ~ 250 です。

トレース ファイルに記載する情報を設定すると、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の trace and log central オプションを使用してトレース ファイルを収集し、表示することができます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability システム ガイド』を参照してください。

トレース ファイルの書き込み機能を無効化する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] で、[Trace] > [Configuration] の順に選択します。

[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

ステップ 3 [Configured Services] ドロップダウン リストボックスから、[Cisco Bulk Provisioning Service] を選択します。

ステップ 4 トレース機能を非アクティブ化するには、[Trace On] チェックボックスをオフにします。

ステップ 5 [Update] をクリックします。

この操作によって、機能が無効になります。

BAT ログファイル

BAT では、バルク トランザクションごとにログ ファイルが生成されます。このログ ファイルにはレコードのキー値が表示されるので、管理者は容易にレコードを再検討できます。電話機の MAC アドレスは、電話機の追加、更新、または変更時のキー値の役目を果たします。ユーザが追加されるときには、User ID がキー値の役目を果たします。BAT で作成した各ジョブのログ ファイルを表示するには、[P.63-5 の「ジョブの検索」](#)の手順に従って該当するジョブを表示し、[Log File Name] カラムのリンクをクリックします。ポップアップ ウィンドウに、そのジョブのログ ファイルの詳細が表示されます。

ログ ファイルの名前には、実行された操作の内容、およびその操作が終了した時刻が示されます。

- ログ ファイル名：ファイル名はジョブ ID を表します。ジョブ ID は、ジョブが送信されたときにシステムが作成する一意の識別子です。
- タイムスタンプ：ログ ファイル名に含まれるタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。
- ログ ファイル名の形式は、*jobid#timestamp.txt* です。

その他の項目

詳細については、[P.64-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT のトラブルシューティング

次のリストでは、発生する可能性があるシナリオやエラー メッセージについて説明し、解決するために必要な処置を記述しています。

症状 Bulk Administration menu does not display in Cisco Unified Communications Manager Administration.

説明 [一括管理]メニューは、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードからのみアクセスできます。

推奨処置 Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにログインしていることを確認してください。

症状 Cannot access complete Bulk Administration functionality.

説明 Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインした後、[一括管理]のすべてのウィンドウにアクセスできません。

推奨処置 この問題は、User ID に指定されたアプリケーションへのアクセス制限によるものです。必要な権限を付与されたシステム管理者にお問い合わせください。

症状 Export to BAT Format button does not work in BAT.xlt file.

説明 BAT.xlt ファイルで [Export to BAT Format] ボタンをクリックしても、何も実行されません。

推奨処置 ブランクのセルをクリックします。カーソルがセル内のテキスト上にあるか、テキストボックス内にあるときには、ボタンが使用不可になっているように見える場合があります。

症状 BAT Excel spreadsheet gives a compilation error while exporting data to the CSV format.

説明 使用している Microsoft Excel のバージョンを確認します。Excel 97 を使用している場合に、BAT.xlt で問題があったことが報告されています。

推奨処置 Microsoft Excel 2000 以降のバージョンを使用してください。

症状 BAT Excel spreadsheet does not respond to actions.

説明 BAT Excel スプレッドシートが、行の追加などの操作に応答しません。

推奨処置 BAT Excel スプレッドシートを開くときに、[マクロを有効にする]オプションが選択されていることを確認します。BAT.xlt のマクロを有効化する手順は、次のとおりです。

- a. BAT.xlt を開きます。
- b. [メニュー]>[ツール]>[マクロ]>[セキュリティ]へ移動します。
- c. [セキュリティ レベル]を [中]に設定します。
- d. BAT.xlt を閉じ、再び開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする]を選択します。

症状 Data files (CSV) format do not match Phone Template/Sample File.

説明 データ ファイル内の回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数以下である必要がありますが、そのようになっています。たとえば、電話機テンプレートに 3 回線があり、これらのうち Line 1、2、および 3 が設定されている場合です。最大 3 回線に設定された電話機データ ファイルを使用する必要があります。1111、2222、4444 は、Line1-1111、Line2-2222、Line3-none、Line4-4444 となります。

推奨処置 使用する予定の BAT 電話機テンプレートを調べてください。CSV データ ファイルに指定される回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。また、CSV データ ファイルで指定する短縮ダイヤル数は、使用する予定の BAT 電話機テンプレートの最大短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。

症状 Uploaded CSV file does not display in the File Name drop-down list box.

説明 [ファイルのアップロード (File Upload Configuration)] ウィンドウを使用して Cisco Unified Communications Manager Server にアップロードした CSV ファイルが、さまざまな操作の [ファイル名] ドロップダウン リストボックス フィールドに表示されません。たとえば、電話機を挿入するための CSV ファイルを、[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] メニュー オプションを使用してアップロードした場合、そのファイルが、[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスにオプションの 1 つとして表示されません。

推奨処置 このファイルが正しい機能用にアップロードされていることを確認してください。前の例では、Phones - Insert All details にファイルをアップロードしましたが、CSV ファイルは実際には Phones - Insert Specific details に属しています。[ファイルのアップロード / ダウンロード] メニュー オプションからファイルを削除し、正しい機能にアップロードしてください。

症状 Jobs remain in Pending state even after the scheduled time expires.

説明 ジョブは、特定のスケジュール済み実行時刻でスケジュールされています。しかし、スケジュールされている時刻を過ぎても、ジョブは Pending 状態のままです。

推奨処置 以下の詳細を確認してください。

- Cisco Bulk Provisioning Service (BPS) が起動していること。
- Processing 状態のジョブが他にないこと。BPS は、1 度に 1 つのジョブしか処理できません。
- BPS トランザクションで Stop Processing が要求されているかどうかを確認します。要求されている場合は、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、[**ジョブのアクティブ化**] をクリックします。

症状 Jobs remain in Hold state.

説明 ジョブと必要なすべてのデータを送信した後に、このジョブが [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに Hold の状態で表示されます。このようなジョブは実行されません。

推奨処置 Hold 状態のジョブをアクティブ化してから、BPS で実行する必要があります。[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動し、手順に従ってジョブをアクティブ化する必要があります。

症状 Job does not display in the Find and List Jobs window.

説明 ジョブと必要なすべてのデータを送信したら、[一括管理]>[ジョブスケジューラ]の順に選択します。スケジュールしたジョブの適切な検索条件を入力し、[検索]をクリックします。ジョブは検索結果に表示されません。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 領域の 3 番目のドロップダウン リストボックスで、[非表示] が選択されているかどうかを確認します。このオプションでは、完了したすべてのジョブが非表示になります。送信したジョブがすでに完了している場合、そのジョブは [検索結果 (Search Results)] 領域に表示されません。

推奨処置 [ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウで 3 番目のドロップダウン リストボックスから [表示] を選択し、もう一度 [検索] をクリックします。これで、完了したジョブが検索結果に表示されます。

症状 Port number not configured in the template.

説明 CSV ファイルにはポート番号が指定されていますが、対応するポートが BAT テンプレートに設定されていません。

推奨処置 BAT テンプレートで、CSV ファイルで指定したポートを設定してください。

症状 MAC address values are not allowed in the file if dummy MAC address values are desired.

説明 この CSV ファイルには、MAC アドレスが入っています。MAC アドレスが CSV ファイル内のいずれかの行に含まれている場合、ダミー MAC アドレスは指定できません。

推奨処置 ダミー MAC アドレスを使用する場合は、MAC アドレスを指定していないレコードだけが入っている、新しい CSV ファイルを作成してください。または別の方法として、CSV ファイルで MAC アドレスを指定し、Dummy MAC Address チェックボックスをオフにしてください。

症状 The BAT.xlt spreadsheet dose not work with Microsoft Excel XP (Office XP)

説明 Office XP に付属している Microsoft Excel では、マクロ セキュリティがデフォルトで高に設定されています。この設定のため、BAT.xlt 内のマクロを実行できず、BAT.xlt が使用不可になります。

推奨処置 BAT.xlt 内のマクロを使用できるようにするには、次のステップを実行します。

- a. BAT.xlt を開きます。
- b. [メニュー]>[ツール]>[マクロ]>[セキュリティ]へ移動します。
- c. [セキュリティ レベル] を [中] に設定します。
- d. BAT.xlt を閉じ、再び開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] を選択します。

症状 After the request to migrate an SCCP phone to SIP through the Migrate Phones - SCCP TO SIP window is submitted, Cisco Unified IP Phones model 7940 and 7960 continue to show up as SCCP phones.

推奨処置 この問題を解消するには、移行後、個々の電話機の電源を再投入 (電源を一度オフにしてからオンに) します。



(注) Cisco Unified IP Phone (7905、7911、7912、7941、7961、7970、および 7971 の各モデル) の場合、移行アクティビティが正常に機能したあと、電話機が SIP として登録されます。

BAT パフォーマンスのトラブルシューティング

バルク トランザクションは、トラフィックの少ない時間帯に送信することをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager が大量のコールを処理しているときに BAT ファイルを最初のノード データベースに挿入すると、BAT トランザクションが低速になることがあります。実際に、Cisco Unified Communications Manager によるコールの処理に悪影響を及ぼすことがあります。

ファイルあたりのレコード数が 12000 未満になるようにファイルのサイズを制限すると、BAT パフォーマンスが向上する場合があります。

また、BAT ファイルを最初のノード データベースに挿入する前に TFTP サービスを停止すると、BAT パフォーマンスを向上させることができます。挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバ上の TFTP サービスを停止する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウで、[Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。
 - ステップ 2** Unified CM Service リストから、対応するオプション ボタンをクリックして Cisco TFTP を選択します。
 - ステップ 3** [Stop] をクリックし、[OK] をクリックします。



(注) 挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。同じ手順によって、[Start] をクリックしてサービスを再起動します。

その他の項目

詳細については、[P.64-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング

Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager CRS サーバ コンソール上でインストールする必要があります。Windows Terminal Services を使用して Unified CM Auto-Register Phone Tool をインストールしようとする、Terminal Services では Unified CM Auto-Register Phone Tool のインストールがサポートされないことを通知するエラーメッセージが表示されます。

原則として、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用していない場合は、Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool サービスを停止することをお勧めします。サービスを停止すると Unified CM Auto-Register Phone Tool を不必要に使用することを防止でき、CPU 時間を多少節約することもできます。

その他の項目

詳細については、[P.64-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool ログ ファイルの表示

Unified CM Auto-Register Phone Tool は、1 件につき 1 行の情報を生成します。

Unified CM Auto-Register Phone Tool ログ ファイルを表示するには、[一括管理]>[TAPS]>[TAPS ログファイルの表示]の順に選択します。

Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のエラー メッセージ

Cisco CRS サーバで Unified CM Auto-Register Phone Tool の実行中に、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

症状 When dialing the Unified CM Auto-Register Phone Tool route point number, the caller receives a busy tone.

説明 ビジー トーンにより、Unified CM Auto-Register Phone Tool の最大同時セッション数に達したことが示されます。Unified CM Auto-Register Phone Tool の最大セッション数は、CRS 設定で Unified CM Auto-Register Phone Tool アプリケーションに割り当てられたポート数と同じです。

推奨処置 この状況を防止するには、CRS 設定で Unified CM Auto-Register Phone Tool アプリケーションに割り当てられたポート数を増やす必要があります。

症状 When the Cisco CRS server starts, the JTAPI subsystem shows partial service or out of service

説明 Cisco Unified Communications Manager または Cisco CRS サーバ内の設定に問題があるので、メッセージが表示されました。

推奨処置 問題が解決するまで、次のステップを実行してってください。

- Cisco Unified Communications Manager が起動されていることを確認する。
- Cisco CRS サーバ上に JTAPI がインストールされていることを確認する。
- CRS サーバ上の JTAPI バージョンが、Cisco Unified Communications Manager にインストールされている JTAPI と同じバージョンであることを確認する。バージョンが異なる場合は、CRS サーバ上の Cisco Unified Communications Manager プラグイン ウィンドウで JTAPI クライアントをインストールします。

- CRS エンジン設定に有効なアプリケーション エンジン ホスト名があることを確認する。IP アドレスを使用することによって、名前解決の問題を避けることができます。
- Cisco Unified Communications Manager 上でルート ポイントと CTI ポートが正しく設定されていることを確認する。
- JTAPI ユーザに対して [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] チェックボックスがオンになっていることを確認する。これは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのユーザ ウィンドウで確認できます。
- CTI Manager サービスが起動していることを確認する。
- ポートとルート ポイントが、Cisco Unified Communications Manager ユーザ設定でユーザに関連付けられていることを確認する。

さらにトラブルシューティングを行うには、Cisco CRS サーバの MIVR ログ ファイルを収集して調査します。これらのファイルは、CRS サーバ上の C:\program files\wfvavvid\log フォルダに存在します。

その他の項目

詳細については、P.64-10 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [BAT ログ ファイル \(P.64-4\)](#)
- [トレース設定ファイルの表示 \(P.64-2\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(P.64-5\)](#)
- [BAT パフォーマンスのトラブルシューティング \(P.64-8\)](#)
- [BAT および Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング \(P.64-9\)](#)



PART 18

付録



テキストベースの CSV ファイル

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、カンマ区切り値 (CSV) ファイル形式で入力されたデータを使用して、最初のノード サーバ上の Cisco Unified Communications Manager データベースへの挿入トランザクションの情報を提供します。CSV データ形式を使用すると、表形式のデータレコードを含むテキスト ファイルを作成できます。

CSV データ ファイルを作成するには、Microsoft Notepad などのテキスト エディタを使用します。各レコードのデータは、別個の行で入力する必要があります。各データ フィールドはカンマで区切り、ブランク フィールドにはカンマ区切り文字を指定します。CSV ファイルにブランク行があると挿入トランザクション中にエラーが発生するので、データ ファイル内のすべての行にデータを入力します。

Cisco Unified Communications Manager データベースにデータ レコードを挿入する場合、BAT は最初のノード データベースを実行するサーバに常駐した指定のフォルダ セットにアクセスします。BAT がトランザクションの該当する CSV データ ファイルにアクセスできるようにするために、CSV データ ファイルを、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードする必要があります。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

次のトピックで、各テキストベース CSV ファイルの情報およびファイル形式を説明します。

- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-2\)](#)
- [ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-7\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-10\)](#)
- [Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-13\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-15\)](#)
- [Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-17\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-18\)](#)
- [Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成 \(P.A-20\)](#)
- [コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-23\)](#)
- [リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-25\)](#)

電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成

電話機を追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

電話機、IP テレフォニー デバイス、およびユーザの組み合わせの CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 テキスト エディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager に追加する電話機、IP テレフォニー デバイス、またはユーザの組み合わせごとに、行を変えて値を入力します。デバイスのタイプごとに別の CSV ファイルを作成する必要があります。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。

- フィールドが空白であっても、必ず、カンマ区切り文字を入力する。
- 電話機をユーザに関連付ける場合は、ユーザ ID を指定する。
- 回線が設定されていない BAT テンプレートで使用するために CSV ファイルを作成する場合にだけ、Directory Number フィールドをオプションにする。BAT 電話機テンプレートで回線が設定されている場合は、デバイスごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
- ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意する。

さまざまな電話機タイプに使用する CSV データ ファイル形式の詳細については、[P.A-2 の「電話機用の CSV データ ファイル形式」](#)を参照してください。

ステップ 3 CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

その他の電話機タイプの CSV ファイル形式の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [電話機用の CSV データ ファイル形式 \(P.A-2\)](#)
- [All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド \(P.A-5\)](#)
- [電話機 CSV ファイルの例 \(P.A-6\)](#)

電話機用の CSV データ ファイル形式

電話機のタイプごとに特定のデータ形式が必要です。電話機のファイル形式でオプションのラベルが付いているフィールドであっても、所定の条件が満たされる場合は、必須となることに注意してください。

次のトピックで、各電話機タイプの形式およびサンプルについて説明します。

- [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-3\)](#)
- [CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式 \(P.A-3\)](#)
- [CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-4\)](#)

電話機とユーザの組み合わせのファイル形式

次の例は、電話機および固定ユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

First Name (必須、1 ~ 50 文字), **Last Name** (必須、1 ~ 50 文字), **User ID** (必須、1 ~ 30 文字), **Password** (オプション、20 文字以内), **Manager User ID** (オプション、30 文字以内、グローバルディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり), **Department** (オプション、50 文字以内), **PIN** (オプション、20 桁以内の数字), **Default Profile** (オプション、50 文字以内), **User Locale** (オプション、50 文字以内), **Telephone Number** (オプション、20 桁以内の数字), **Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字), **Associated PC** (オプション、50 文字以内), **ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字), **Mail ID** (オプション、30 文字以内), **Presence Group** (オプション、50 文字以内), **Subscribe Calling Search Space** (オプション、50 文字以内), **MAC Address** (必須、12 文字以内), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内), **Speed Dial** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,johnProfile,English United States,1,1231123245AB,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式

次の例は、CTI ポートおよび H.323 クライアントの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

Device Name (必須、CTI ポートの場合 15 文字以内、H.323 クライアントの場合 50 文字以内), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **User ID** (オプション、1 ~ 30 文字), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内)

例

```
Unified CM Auto-Register Phone Tool Port 1,CTI Unified CM Auto-Register Phone Tool Port 1,Dallas,johns,9728437154,9728437154, Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178, 9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式

次の例は、CTI ポートとユーザ、および H.323 クライアントとユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

First Name (必須、1 ~ 50 文字), Last Name (必須、1 ~ 50 文字), User ID (必須、30 文字以内), UserID (必須、1 ~ 30 文字), Password (オプション、20 文字以内), Manager User ID (オプション、30 文字以内、グローバル ディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり), Department (オプション、50 文字以内), PIN (オプション、20 桁以内の数字), Default Profile (オプション、50 文字以内), User Locale (オプション、50 文字以内), Telephone Number (オプション、20 桁以内の数字), Primary Extension (オプション、50 桁以内の数字), Associated PC (オプション、50 文字以内), ICD Extension (オプション、50 桁以内の数字), Mail ID (オプション、30 文字以内), Presence Group (オプション、50 文字以内), Subscribe Calling Search Space (オプション、50 文字以内), Device Name (必須、CTI ポートとユーザの組み合わせの場合 15 文字以内、H.323 クライアントとユーザの組み合わせの場合 50 文字以内), Description (オプション、50 文字以内), Location (オプション、50 文字以内), Directory Number (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), Display (オプション、30 文字以内), Line Text Label (オプション、30 文字以内), Forward Busy External (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Forward No Answer External (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Forward No Coverage External (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Forward Busy Internal (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Forward No Answer Internal (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Forward No Coverage Internal (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), Call Pickup Group (オプション、50 文字以内)

例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,JohnProfile,English United States,1,Unified CM
Auto-Register Phone Tool Port 1,CTI Unified CM Auto-Register Phone Tool Port
1,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,97
25557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注)

いずれかのフィールドの中で、カンマまたは二重引用符を値の一部として使用する場合は、テキスト値全体を二重引用符で囲んで、これを 1 つの値として指定する必要があります。

たとえば、John,Bill をテキスト値として入力する場合は、“John,Bill” と入力する必要があります。値に二重引用符を入力する場合は、二重引用符を 2 つの連続した二重引用符に置き換え、その値全体を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、John “Chief は、“John”“Chief” と入力します。

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド

エクスポート コーティリティを使用して電話機レコードのすべての詳細を含むファイルを生成する場合、エクスポート ファイルは次の形式でなければなりません。



注意

エクスポート コーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などのフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。login user ID フィールドと Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要があるため、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

Device Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension
Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio
Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in
Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module 1,Module
2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load
Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle Timer,MLPP
Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common Profile,Owner User ID,Allow
CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device Subscribe CSS,Unattended Port,Require
DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate Operation,Authentication String,Certification Operation
Completion Time,Device Protocol,Secure Shell User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS
Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF Capability,SIP
Profile,SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest User

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio Source,Line
Network Hold Audio Source ,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All Destination,Forward All
CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal Destination,Forward Busy Internal
CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External Destination,Forward Busy External
CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer Internal Destination,Forward No Answer
Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward No Answer External Destination,Forward No
Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice Mail,Forward No Coverage Internal
Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No Coverage External Voice Mail,Forward No
Coverage External Destination,Forward No Coverage External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call
Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone
Number Mask,Maximum Number of Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone
Idle),Ring Setting (Phone Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line
Description,Alerting Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward
All,Forward on CTI Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure
CSS,Display,ASCII Display

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service
Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field Destination,Busy
Lamp Field Directory Number,Busy Lamp Field Label,Busy Lamp Field Label ASCII

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機 CSV ファイルの例

次のリストは、一般的に使用される電話機 CSV データ ファイルの例です。

テンプレート アトリビュート : Forward Busy Destination の使用

電話機テンプレートで Forward Busy Destination が 3001 の場合、CSV ファイル内で Forward Busy Destination に値の指定がないすべてのレコードは、3001 を使用します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

電話機の説明を入力しない

電話機の説明が空白である場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

アクティブな回線またはロケーションを入力しない

アクティブの回線が必要ない場合で、ロケーションも空白の場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,,,1230000000,HelpDesk
```

2 回線のアクティブ回線

アクティブの回線が 2 回線必要な場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,9728437112,9728437145,9728437187,9728437198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注)

MAC Address に対しては、MAC アドレス値を入力するか、ダミー MAC アドレスの作成オプションのチェックボックスをオンにしてください。

必須の電話機入力

単一の回線が必要であるときに、必須値だけを組み込み、オプション値をまったく組み込まない場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,,,,,9725557154,,,,,
```

ダミー MAC アドレス オプションの使用

ダミー MAC アドレスのオプションがオンになっている場合、1 回線を使用するには、次の形式で指定します。

```
,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,johns,1230000000,Helpdesk
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

ユーザ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 テキスト エディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager に追加するユーザごとに、行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[ユーザのファイル形式 \(P.A-8\)](#) を参照してください。

すべてのデバイスのデバイス名をカンマで区切って、レコードの終わりに入力すると、任意の数の既存デバイスを新しいユーザに関連付けることができます。

デバイスを制御しないユーザに対しても、電話番号を関連付けることができます。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

ステップ 3 ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-3 の「ファイルのダウンロード」](#)を参照してください。

関連項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザのファイル形式



ヒント

PIN と Password の値は、CSV ファイル上に指定するか、BAT でファイルを挿入するときに指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN またはパスワードを適用する場合は、CSV ファイルで PIN とパスワードを指定してください。すべてのユーザが使用できるデフォルトの PIN とパスワードを使用する場合は、CSV で PIN またはパスワードの値を指定するのではなく、BAT を使用して CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager に挿入するときに指定してください。

次のサンプル形式と例は、ユーザ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

First Name (オプション、1 ~ 50 文字), Last Name (必須、1 ~ 50 文字), User ID (必須、30 文字以内), Manager User ID (オプション、30 文字以内、グローバルディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり), Department (オプション、50 文字以内), PIN (オプション、20 桁以内の数字), Default Profile (オプション、50 文字以内), User Locale (オプション、50 文字以内), Telephone Number (オプション、20 桁以内の数字), Primary Extension (オプション、50 桁以内の数字), Associated PC (オプション、50 文字以内), ICD Extension (オプション、50 桁以内の数字), Mail ID (オプション、30 文字以内), Presence Group (オプション、50 文字以内), Subscribe Calling Search Space (オプション、50 文字以内)

例

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
United States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

例 1

ユーザのマネージャが空白である場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,,0012055,9989,johns profile,English United
States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

例 2

必須フィールドだけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
Smith,johns,,,,,,,,,
```

例 3

必須フィールドだけを指定して、ユーザを電話機に関連付ける場合は、次の形式で指定します。

```
Smith,johns,,,,,,,,,SEP1231123245AB,
```

例 4

ユーザは、複数のデバイスを制御できます。追加デバイスのデバイス名を、レコードの終わりに追加できます。

- ユーザが 1 台のデバイスだけを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
United States,SEP1231123245AB,9725557154
```

- ユーザが 3 台のデバイスを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English
UnitedStates,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234,SEP0010EB432101
```

ユーザのファイル形式の更新

ユーザ更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。ファイルを最初のノード サーバにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

レコードを更新する場合は、ファイルのすべての必須フィールドを指定する必要があります。すでに値を格納しているにもかかわらず、オプション フィールドをブランクにしてレコードを更新すると、その値はブランクにリセットされます。すでに格納されている値を保持する方法については、[P.18-2 の「格納済みの値の保持」](#)を参照してください。

次のサンプル形式はユーザ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

UserID (必須、1 ~ 30 文字), **Password** (オプション、20 文字以内), **Manager** (オプション、30 文字以内、グローバル ディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり), **Department** (オプション、50 文字以内), **PIN** (オプション、20 桁以内の数字), **Default Profile** (オプション、50 文字以内), **User Locale** (オプション、50 文字以内), **Telephone Number** (オプション、20 桁以内の数字), **Primary Extension** (オプション、50 桁以内の数字), **Associated PC** (オプション、50 文字以内), **ICD Extension** (オプション、50 桁以内の数字), **Mail ID** (オプション、30 文字以内)

例

```
johns,Daviss,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

**(注)**

フィールドがブランクであっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

例 1

ユーザのマネージャがブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
johns,,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

例 3

必須フィールドには、次を含みます。

```
John,Daviss,123,johnProfile,,,
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。



(注) いずれかのフィールドの中で、カンマまたは二重引用符を文字列として使用する場合は、テキスト全体を二重引用符で囲む必要があります。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** CSV ファイルを作成するために、Microsoft Notepad を開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加するユーザ デバイス プロファイルごとに行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式 \(P.A-10\)](#) を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバにアップロードします。
-

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#) を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式はユーザ デバイス プロファイル用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

Device Profile Name (必須、1 ~ 50 文字), **Description** (オプション、1 ~ 50 文字), **Login UserID** (オプション、4 ~ 30 文字), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External Destination** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer External Destination** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward Busy Internal Destination** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer Internal Destination** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内), **Speed Dial Number** (オプション、50 桁以内の数字), **Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

例

```
John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,9
725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

例 1

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。次の例は、Display の設定値を指定しない場合の正しい形式を示しています。

```
John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,9725557178,
9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

例 2

プロファイルに回線を設定せず、必須フィールドだけを追加する場合は、次の例のように指定します。

```
John Profile,,,,,
```

例 3

必須フィールドだけを入力し、ユーザ デバイス プロファイルを電話番号 1 つだけに関連付ける場合は、次のようになります。

```
John Profile,,,9725557154,,,,,
```

2 回線と 2 短縮ダイヤルを持つユーザ デバイス プロファイル

次の形式例では、2 回線を持つユーザ デバイス プロファイル用の CSV ファイルのフィールド長と文字列タイプを示しています。

User Device Profile Name (必須、1 ~ 50 文字),Description (オプション、1 ~ 50 文字),Login UserID (オプション、4 ~ 30 文字),Directory Number1 (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字),Display1 (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内),Line Text Label1 (オプション、30 文字以内),Forward Busy External Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Answer External Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Coverage External Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Forward Busy Internal Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Answer Internal Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Coverage Internal Destination1 (オプション、50 桁以内の数字),Call Pickup Group1 (オプション、50/50 文字以内),Directory Number2 (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字),Display2 (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内),Line Text Label2 (オプション、30 文字以内),Forward Busy External Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Answer External Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Coverage External Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Forward Busy Internal Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Answer Internal Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Forward No Coverage Internal Destination2 (オプション、50 桁以内の数字),Call Pickup Group2 (オプション、50/50 文字以内),Speed Dial Number1 (オプション、50 桁以内の数字),Speed Dial Label1 (オプション、30 文字以内),Speed Dial Number2 (オプション、50 桁以内の数字),Speed Dial Label2 (オプション、30 文字以内)

例

```
John Profile,John's
Profile,John's,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,
9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,97
25557196,9725557113,9725557145,9725557187,9725557198,9725557112/TollByPass,1230000000,
Helpdesk,2149523460,Keith
```

All Details オプションを使用するユーザ デバイス プロファイルの エクスポート ファイルのフィールド

エクスポート ユーティリティを使用してユーザ デバイス プロファイルのすべての詳細を含むファイルを作成する場合、エクスポート ファイルは次の形式になります。次の例で、すべての詳細エクスポート ファイル内のフィールドの長さおよびタイプを示します。

エクスポート ユーティリティは、ユーザ デバイス プロファイルのモデル固有フィールドは生成しません。



注意

エクスポート ユーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などの一部のフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。login user ID フィールドと Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要があるため、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

Device Profile Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension
Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio
Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in
Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module 1,Module
2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load
Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle Timer,MLPP
Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common Profile,Owner User ID,Allow
CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device Subscribe CSS,Unattended Port,Require
DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate Operation,Authentication String,Certification Operation
Completion Time,Device Protocol,Secure Shell User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS
Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF Capability,SIP
Profile,SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest User

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio Source,Line
Network Hold Audio Source ,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All Destination,Forward All
CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal Destination,Forward Busy Internal
CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External Destination,Forward Busy External
CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer Internal Destination,Forward No Answer
Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward No Answer External Destination,Forward No
Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice Mail,Forward No Coverage Internal
Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No Coverage External Voice Mail,Forward No
Coverage External Destination,Forward No Coverage External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call
Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone
Number Mask,Maximum Number of Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone
Idle),Ring Setting (Phone Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line
Description,Alerting Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward
All,Forward on CTI Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure
CSS,Display,ASCII Display

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service
Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field Destination,Busy
Lamp Field Directory Number,Busy Lamp Field Label,Busy Lamp Field Label ASCII



(注) ブール値の設定には、True と False を使用します。

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成

Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタント用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加するマネージャとアシスタントのアソシエーションごとに、行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[マネージャおよびアシスタントのファイル形式 \(P.A-13\)](#)を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

マネージャとアシスタントのユーザ ID をカンマで区切ってレコードの末尾に入力すると、1 人のマネージャにアシスタントを複数割り当てることができます。

- ステップ 3** ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

マネージャおよびアシスタントのファイル形式

次のサンプル形式と例は、Unified Communications Manager Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のフィールド長と文字列タイプを示します。Manager ID にはマネージャのユーザ ID を、Assistant ID にはアシスタントのユーザ ID を指定します。Assistant ID を最初にセットしてその後 Manager ID のリストを続けると、1 人のアシスタントに複数のマネージャを関連付けることもできます。CSV ファイルを挿入するときに、アソシエーションのタイプを選択します。

デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエーション

マネージャとアシスタントのアソシエーションには、次のデフォルト形式を使用します。

ManagerID (必須、1 ~ 30 文字), **AssistantID 1** (必須、1 ~ 30 文字), **AssistantID 2** (オプション、1 ~ 30 文字) ... **AssistantID #** (オプション、1 ~ 30 文字)

例

Johns, Mikeh, Larryh

デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエーション

アシスタントとマネージャのアソシエーションには、次のデフォルト形式を使用します。

AssistantID (必須、1 ~ 30 文字), **ManagerID 1** (必須、1 ~ 30 文字), **ManagerID 2** (オプション、1 ~ 30 文字) ... **ManagerID #** (オプション、1 ~ 30 文字)

例

Larryh, Johns, Mikeb, Karend

カスタムのマネージャとアシスタントのアソシエーション

プロキシ回線設定の場合、アシスタント電話機にプロキシ回線を指定する CSV データファイルを次の形式で作成できます。

ManagerID (必須、1 ~ 30 文字), **Device Name** (オプション、15 文字), **Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字), **Assistant User ID** (必須、1 ~ 30 文字), **Device Name** (オプション、15 文字), **Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字), **Proxy Line DN** (必須、1 ~ 24 文字), **Manager Line DN** (必須、1 ~ 24 文字)

例

Johns, SEP1231123245AB, 90001, Mikeh, SEP2342342342AB, 20001, 20002, 90002

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

VG200 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに行を変えて、Cisco Unified Communications Manager に追加する各ゲートウェイとポートに、値を入力します。

説明および例については、FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式 (P.A-15) と T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式 (P.A-16) を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

- ステップ 3** ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、P.2-4 の「ファイルのアップロード」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.A-25 の「関連項目」を参照してください。

FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式

次のサンプル形式は Cisco VG200 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

MGCP Domain Name (必須、1 ~ 64 文字), Description (オプション、100 文字以内), Slot (必須、3 桁以内の数字), Subunit (必須、3 桁以内の数字), Port Number (必須、3 桁以内の数字), Port Description オプション、50 文字以内), Port Directory Number (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

例

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 0, Port 0, 97255576601
```

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 1, Port 1, 97255572001
```



(注) フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションは、Cisco VG200 Gateway テンプレート内のポートタイプが POTS の場合にだけ指定してください。

例 1

Cisco VG200 ゲートウェイの Description がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, ,0,1,0,Port 0,97255576601
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式

次のサンプル形式は Cisco VG200 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

T1 CAS トランク

MGCP Domain Name (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)、**CAS Port Number** (オプション、3 桁以内の数字)

例 1

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```

T1 PRI または E1 PRI

MGCP Domain Name (必須、1 ~ 64 文字)、**Description** (オプション、100 文字以内)、**Slot** (必須、3 桁以内の数字)、**Subunit** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Number** (必須、3 桁以内の数字)、**Port Description** (オプション、50 文字以内)

例 2

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```



(注) フィールドがブランクであっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。

両トランク オプションの例

必須値だけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , 001, 001, 001, , ,
```

T1 CAS の例

Cisco VG200 ゲートウェイの Description がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , 001001, 001, 001, MGCP Port, ,
```

ポート識別子の場合、最初の数字は 0 または 1 (Sub-Unit 0 か Sub-Unit 1 のいずれかを示す) とし、その後にはポート番号 01 ~ 24 を続けます。許容値は 001 ~ 024 または 101 ~ 124 です。Cisco VG200 Gateway テンプレートに 3 つのポート識別子がある場合は、このオプションを使用します。

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 002, 003
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG224 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

VG224 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに行を変えて、Cisco Unified Communications Manager に追加するゲートウェイとポートごとに、値を入力します。

説明および例については、[VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式 \(P.A-17\)](#)を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベースを実行しているサーバにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

VG224 用の FXS トランク CSV ファイル形式

次のサンプル形式は Cisco VG224 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後には CSV ファイルの例を示します。

MGCP Domain Name (必須、1 ~ 64 文字), **Description** (オプション、100 文字以内), **Slot** (必須、3 桁以内の数字), **Subunit** (必須、3 桁以内の数字), **Port Number** (必須、3 桁以内の数字), **Port Description** オプション、50 文字以内), **Port Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

例

```
MGCPTest, VG224 Lab Gateway, 2, 0, 0, Port 0, 97255576601  
MGCPTest, VG224 Lab Gateway, 2, 0, 1, Port 1, 97255572001
```



(注) フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションは、Cisco VG224 Gateway テンプレート内のポートタイプが POTS の場合にだけ指定してください。

例 1

Cisco VG224 ゲートウェイの Description が空白の場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, ,2,0,0,Port 0,97255576601
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ポートごとに行を変えて、Cisco Unified Communications Manager に追加するポートごとに、値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポートのファイル形式 \(P.A-19\)](#) を参照してください。



(注) CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4](#) の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.A-25](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートのファイル形式

CSV ファイルには、各ポートの情報がレコードとして含まれています。各レコードには、ポートの詳細を追加または更新する先のゲートウェイの MAC アドレス、およびそのゲートウェイ上のポート番号を指定します。



(注) BAT は、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイを追加しません。既存のゲートウェイにポートを追加するか、ポートを更新するだけです。

MAC アドレスには、既存の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイの MAC アドレス値を入力しないでください。この MAC アドレスは、Gateway Name の末尾の 12 文字分で構成されています。

CSV ファイル上のレコードで Partition に値を指定しない場合、これらのフィールドには BAT テンプレートからの値が使用されます。

次のサンプル形式は Catalyst 6000 (FXS) ポート用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

MAC Address (必須、12 文字)、Port Number (必須、2 桁の数字)、Directory Number (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字)

例

```
1231123245AB,23,9725557250
```



(注) フィールドが空白であっても、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号も指定している場合以外は、Partition を指定しないでください。

例

ポートの電話番号が空白である場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,
```

必須値だけを追加する場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。

ステップ 2 コードごとに個別の行を使用して、カスタムの Client Matter Code (CMC) 用 CSV ファイルまたは Forced Authorized Code (FAC) 用 CSV ファイルを作成します。手順は、次のとおりです。

- CMC の場合：[ステップ 3](#) および [ステップ 5](#)
- FAC の場合：[ステップ 4](#) および [ステップ 5](#)



ヒント 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

ステップ 3 CMC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y は次のフィールドを表します。

- x：Client Matter Code (すべての追加、更新、および削除の必須エントリ)
- y：Description (エントリの更新の場合はオプション)

たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は必須の Client Matter Code、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。

ステップ 4 FAC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y、z は次のフィールドを表します。

- x：Forced Authorization Code (すべての追加、更新、および削除の必須エントリ)
- y：Authorization Code Name (エントリの更新の場合はオプション)
- z：Authorization Level (エントリの更新の場合はオプション)

たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。



注意

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な FAC や CMC などは必ず含めなければなりません。情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

ステップ 5 CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4](#) の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

ステップ 6 次のタスクのいずれかを実行します。

- 追加または更新を行った場合は、P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」の説明に従って、ファイルを BAT に挿入します。
- コードの設定を削除する場合は、P.51-1 の「コードの設定の削除」を参照してください。



(注) 同じ CSV ファイルに対して、挿入と更新の操作を同時に実行することはできません。挿入用と更新用に別の CSV ファイルを作成する必要があります。

その他の項目

詳細については、P.A-25 の「関連項目」を参照してください。

CMC ファイル形式

次のサンプル形式と例は、Client Matter Code 用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

Client Matter Code (必須、1 ~ 16 桁の数字), **Description** (オプション、1 ~ 50 文字)

例

```
1234567890123456,Marketing
```

例

フィールドの値にカンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲んでください。カンマが含まれているフィールドは、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,"Marketing, team"
```

その他の項目

詳細については、P.A-25 の「関連項目」を参照してください。

CMC ファイル形式の更新

Client Matter Code 更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式は Client Matter Code 更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

Client Matter Code (必須、1 ~ 16 桁の数字), **Description** (オプション、1 ~ 50 文字)

例

```
1234567890123456,Marketing
```

例

説明が空の場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

FAC ファイル形式

次のサンプル形式と例は、Forced Authorization Code 用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

Forced Authorization Code (必須、1 ~ 16 桁の数字) ,**Authorization Code Name** (必須、1 ~ 50 文字) ,**Authorization Level** (必須、値の範囲は 0 ~ 255)

例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

FAC ファイル形式の更新

Client Matter Code 更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式は Forced Authorization Code 更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後 CSV ファイルの例を示します。

Forced Authorization Code (必須、1 ~ 16 桁の数字) ,**Authorization Code Name** (必須、1 ~ 50 文字) ,**Authorization Level** (必須、値の範囲は 0 ~ 255)

例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

例

更新しない値にも区切り文字を組み込む必要があります。Authorization Code Name だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,John FAC,
```

Authorization Level だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,John FAC,220
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など)、または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** コールピックアップグループ名ごとに個別の行を使用し、次のステップに従ってカスタム コールピックアップグループ CSV ファイルを作成します。
- ステップ 3** 次の値を入力します。Pickup Group Name, Pickup Group Number, Partition, Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10。

たとえば、Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training のように入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップグループ名、7815 は必須のピックアップグループ番号です。Part1 はパーティション、Marketing、Managers、および Training はピックアップグループ Marketing に関連するその他のピックアップグループ名です。



注意

情報を削除したり空白にしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、空白の値では上書きされませんが、前述の例にある値を Sales from Marketing などに更新すると上書きされます。

- ステップ 4** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- ステップ 5** 次のタスクのいずれかを実行します。
 - 追加または更新を行った場合は、[P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)の説明に従って、ファイルを BAT に挿入します。
 - コールピックアップグループの設定を削除する場合は、[P.51-1 の「コードの設定の削除」](#)を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

CPG ファイル形式

次のサンプル形式と例は、コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

Pickup Group Name(必須、1 ~ 50 文字),**Pickup Group Number**(必須、1 ~ 24 桁の数字),**Partition** (オプション、1 ~ 50 文字),**Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10** (オプション、1 ~ 50 文字)

■ コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成

例

```
Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
```

例

Other Pickup Group Member 以外は、この時点で指定しないオプション値にも区切り文字（カンマ）を付ける必要があります。

Pickup Group の Partition がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
Marketing,7815,
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

CPG ファイル形式の更新

コール ピックアップ グループ更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式はコール ピックアップ グループ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

Pickup Group Name(必須、1 ~ 50 文字),**Pickup Group Number**(必須、1 ~ 24 桁の数字),**Partition** (オプション、1 ~ 50 文字),**Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10** (オプション、1 ~ 50 文字)

例

```
Marketing,,Marketing,Managers,Training
```

例

Other Pickup Group Member を更新しない場合は、区切り文字（カンマ）を付けないでください。次の形式で指定します。

```
Marketing,,Managers,Marketing,Training
```

その他の項目

詳細については、[P.A-25 の「関連項目」](#)を参照してください。

リモート接続先プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

Remote Destination Profile (RDP; リモート接続先プロファイル) を追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をカンマで区切ったカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

RDP 用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** テキスト エディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する RDP ごとに、行を変えて値を入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドが空白であっても、必ず、カンマ区切り文字を入力する。
 - RDP をユーザに関連付ける場合は、ユーザ ID を指定する。
 - 回線が設定されていない BAT テンプレートで使用するために CSV ファイルを作成する場合にだけ、Directory Number フィールドをオプションと見なす。BAT RDP テンプレートで回線が設定されている場合は、RDP ごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
 - ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意する。
- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
-

関連項目

- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-2\)](#)
- [ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-7\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-10\)](#)
- [Cisco Unified CM Assistant マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-13\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-15\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-18\)](#)
- [Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成 \(P.A-20\)](#)
- [コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-23\)](#)



BAT のパフォーマンス

表 B-1 に、各種 BAT トランザクションのパフォーマンス値を示します。



(注)

次のパフォーマンス データは実験条件での値であり、Cisco Unified Communications Manager のアクティビティによって変化することがあります。オフピーク時の数値のみが、トランザクションの全体時間を判断するためのおおよその指針となります。

表 B-1 各種トランザクションの BAT パフォーマンス測定値

トランザクション	処理レコード数 / 分
FAC	
FAC の挿入	200
FAC の削除	500
CMC	
CMC の挿入	250
CMC の削除	500
コール ピックアップ グループ	
CPG の挿入	200
CPG の削除	500
電話機 / ユーザ	
電話機 / ユーザの検証	100
電話機 / ユーザの挿入	30
ユーザ	
ユーザの挿入	150
ユーザの更新	65
パスワード / PIN のリセット (クエリー)	500
パスワード / PIN のリセット (カスタム)	350
ユーザ レポートの生成	500
ユーザのエクスポート (特定)	250
ユーザのエクスポート (すべて)	200
ユーザの削除 (クエリー)	300
ユーザの削除 (カスタム)	300
マネージャ / アシスタント	
マネージャ / アシスタントの挿入	75

表 B-1 各種トランザクションの BAT パフォーマンス測定値 (続き)

トランザクション	処理レコード数 / 分
マネージャ / アシスタント (CSV ベース削除)	300
マネージャ / アシスタント (クエリー ベース削除)	300
マネージャ / アシスタント (カスタム ファイル ベース削除)	300
UDP トランザクション	
UDP の検証	300
UDP 固有の詳細の挿入	65
すべての詳細のエクスポート	50
回線 UDP の追加	75
UDP のレポート	125
UDP の削除	70
電話機トランザクション	
電話機の検証	250
特定の電話機の挿入	45
すべての詳細のエクスポート	75
電話機の更新	150
電話回線の追加	75
電話機のリセット / 再起動	500
電話機レポートの生成	300
電話機の削除 (クエリー)	75



INDEX

B

BAT

- アプリケーションの概要 1-1
 - インストール 1-2
 - エラー メッセージ 64-5
 - オンライン ヘルプ 1-13
 - ジョブのスケジュール 63-1
 - 設定プロセスの概要 1-4
 - データ入力ファイル 1-3
 - トラブルシューティング 64-5
 - トラブルシューティング、パフォーマンスの
64-8
 - バージョン 1-13
 - ブラウザの要件 1-13
 - ログファイルのロケーション 64-4
- BAT スプレッドシート
- Catalyst 6000 FXS ポート 48-4
 - FXS 用 VG224 ゲートウェイまたは VG224 ゲート
ウェイ
 - FXS 用 CSV データ ファイルの作成
 - 作成、VG224 ゲートウェイ用の CSV デー
タ ファイルの 48-5
 - IP テレフォニー デバイス 3-35
 - T1 CAS または T1/E1 PRI 用 VG200 ゲートウェイ
48-1
 - Unified CM Assistant カスタム マネージャ アシ
スタント、プロキシ モード用の 28-12
 - Unified CM Assistant デフォルト マネージャ アシ
スタント 28-10
- 概要 1-9
- 使用、CSV データ ファイルのための 1-9
 - 追加、既存の電話機への回線の 10-11, 43-3
 - 電話機 3-35
 - 電話機とユーザ 24-2
 - フィールドの説明
 - 回線の追加 10-12, 43-4
 - ユーザ デバイス プロファイル 34-5
 - ユーザの更新 18-3
 - マネージャとアシスタントのアソシエーション
28-10

- ユーザ 15-3
- ユーザ デバイス プロファイル 34-3
- BAT のパフォーマンス B-1
- BAT.xlt、「BAT スプレッドシート」を参照
- Bulk Provisioning Service
- BPS のアクティブ化 63-2
- BPS の非アクティブ化 63-4

C

- Catalyst 6000 FXS ポート
- 作成、CSV データ ファイルの 48-4
 - テキストベースの CSV ファイル、作成 A-18
 - テキストベースの CSV ファイル形式 A-19
- Cisco CRS
- Unified CM Auto-Register Phone Tool に必要
61-2
 - 設定、Unified CM Auto-Register Phone Tool の
61-6
 - トラブルシューティング、Unified CM
Auto-Register Phone Tool 64-9
- Cisco Customer Response Solution、「Cisco CRS」を参照
- Cisco IPMA 設定ウィザード 28-2
- Cisco Unified CallManager
- 概要、レコードの挿入の 1-12
 - 自動登録の有効化、Unified CM Auto-Register
Phone Tool での 61-3
- 挿入
- CTI ポート 6-1, 17-1, 39-1, 48-1
 - H.323 クライアント 6-1, 17-1, 39-1, 48-1
 - Unified CM Assistant マネージャとアシスタ
ントのアソシエーション 29-2
 - VG200 ゲートウェイ (FXS または FXO)
48-7
 - VG200 ゲートウェイ (T1 CAS または T1/E
PRI) 48-7
 - 電話機 6-1, 17-1, 39-1, 48-1
 - 電話機とユーザ 27-1
 - ユーザ 17-1
- Cisco Unified CallManager Assistant、
「Unified CM Assistant」を参照

- Cisco Unified IP-IVR
- Unified CM Auto-Register Phone Tool に必要
61-2
- Client Matter Code
- BAT の考慮事項 50-3
 - CSV ファイルの設定値 (表) 50-7
 - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表)
50-9
 - 更新、既存の CSV ファイルの 50-6
 - 削除、コードの設定 (BAT) の 51-1
 - 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 50-4
 - 作成、カスタムの CSV ファイル (テキストベ
ース) の A-20
 - 設定チェックリスト (表) 50-2
 - 挿入、BAT への CSV ファイルの 50-8
- CMC
- テキストベースの CSV ファイル、更新 A-21
- CPG
- テキストベースの CSV ファイル、更新 A-24
- CSV、カンマ区切り値テキスト ファイル 1-3, A-1
- CSV データ ファイル
- 概要 1-6
 - 更新、既存のデバイスの 1-7
 - 使用、BAT スプレッドシート (BAT.xlt) の 1-9
 - 追加、新しいデバイスの 1-6
- CSV、テキストベース
- Catalyst 6000 FXS ポート、作成 A-18
 - Catalyst 6000 FXS ポート形式 A-19
- CMC
- オプション 50-5
 - 更新 A-21
- CPG
- オプション 52-4
 - 更新 A-24
- CTI ポート形式 A-3
- CTI ポートとユーザ形式 A-4
- FAC
- オプション 50-5
 - 更新 A-22
- FXO または FXS ポート形式 A-15
- H.323 クライアント形式 A-3
- H.323 クライアントとユーザ形式 A-4
- T1 CAS、T1/E1 PRI 形式 A-16
- VG200 ゲートウェイ、作成 A-15
- VG224 ゲートウェイ、作成 A-17
- 概要 A-1
- 電話機
- エクスポート ファイル、詳細 A-5
 - オプション 4-1
 - 作成 A-2
 - 作成する場合のヒント A-2
 - ユーザ形式での A-3
 - マネージャとアシスタントのアソシエーション
カスタム形式 A-14
 - 作成 A-13
 - マネージャとアシスタントのデフォルト形式
A-13
- ユーザ
- 形式 A-8
 - 更新 A-9
 - 作成 A-7
- ユーザ デバイス プロファイル
- 2 回線形式 A-11
 - エクスポート ファイル A-12
 - 作成 A-10
- ユーザ デバイス プロファイル形式 A-10
- ユーザ デバイス プロファイルのオプション
36-2
- CTI ポート
- 削除 8-1, 13-1, 40-1
 - ダミーの MAC アドレス、使用 6-2, 27-1, 39-2
 - テキストベースの CSV 形式 A-3
- CTI ポートとユーザ
- テキストベースの CSV 形式 A-4
- E
- E1 PRI
- 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの
48-1
 - テキストベースの CSV ファイル形式 A-16
 - フィールドの説明、VG200 Gateway テンプレートの
45-26
- E1 PRI ポート 45-10
- F
- FAC
- テキストベースの CSV ファイル、更新 A-22
- Forced Authorization Code
- BAT の考慮事項 50-3
 - CSV ファイルの設定値 (表) 50-7

- CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) 50-9
- 更新、既存の CSV ファイルの 50-6
- 削除、コードの設定 (BAT) の 51-1
- 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 50-4
- 作成、カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の A-20
- 設定チェックリスト (表) 50-2
- 挿入、BAT への CSV ファイルの 50-8
- FXO
- 挿入、Cisco Unified CallManager への VG200 ゲートウェイの 48-7
- テキストベースの CSV ファイル形式、VG200 ゲートウェイ用 A-15
- FXO ポート 45-9
- FXS
- Catalyst 6000 ポート
- 作成、CSV データ ファイルの 48-4
- テキストベースの CSV 形式 A-19
- VG200 ゲートウェイ
- 挿入、Cisco Unified CallManager への 48-7
- テキストベースの CSV ファイル形式 A-15
- 作成、Catalyst 6000 ポート用テンプレートの 45-11
- H
- H.323 クライアント
- 削除 8-1, 13-1, 40-1
- テキストベースの CSV 形式 A-3
- H.323 クライアントとユーザ
- テキストベースの CSV 形式 A-4
- I
- IP テレフォニー デバイス
- サポート、BAT による 16-1
- IP テレフォニー デバイス、「電話機」を参照
- IPMA 設定ウィザード 28-2
- M
- MGCP
- T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポート、追加 45-10
- T1-CAS ポート 45-10
- N
- NM-1V 45-16
- NM-2V 45-16
- NM-HDV 45-16
- P
- PIN
- リセット 21-1
- S
- sub-unit 45-7, 45-12
- T
- T1 CAS
- 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの 48-1
- テキストベースの CSV ファイル形式 A-16
- フィールドの説明、VG200 テンプレートの 45-23
- T1 PRI
- 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの 48-1
- テキストベースの CSV ファイル形式 A-16
- フィールドの説明、VG200 Gateway テンプレートの 45-26
- T1 PRI ポート 45-10
- T1-CAS ポート、追加 45-10
- U
- UDP、「ユーザ デバイス プロファイル」を参照
- Unified CM Assistant
- アシスタント テンプレート、プロキシ モードのための 28-3
- 概要 28-1
- 削除、アシスタントの
- カスタム ファイルの使用 32-3
- 説明 32-1
- 削除、マネージャとアシスタントのアソシエーションの 30-1
- 削除、マネージャの
- カスタム ファイルの使用 31-3
- クエリーの使用 31-1, 32-1

- 説明 31-1
- 作成、CSV データ ファイルの 28-10
- 生成、レポートの 33-1
- 設定、電話機と回線の 28-2
- 挿入、マネージャとアシスタントのアソシエーションの 29-2
- テキストベースの CSV ファイル、作成 A-13
- テキストベースの CSV ファイルのカスタム形式 A-14
- 電話機
 - アシスタントの設定オプション 28-5
 - シェアライン モード 28-8
 - シェアラインの例 28-9
 - プロキシ モード 28-2
 - プロキシ回線、新しい電話機の 28-6
 - プロキシ回線、既存の電話機の 28-7
 - プロキシ回線の例 28-6
 - マネージャの設定オプション 28-5
- マネージャ テンプレート、プロキシ モードのための 28-3
- マネージャとアシスタントの回線設定、プロキシ モード 28-4
- マネージャとアシスタントのシェアライン設定 28-9
- Unified CM Auto-Register Phone Tool
 - Cisco CRS を必要とする 61-2
 - Cisco Unified IP-IVR を必要とする 61-2
 - アクティブ化、Unified CM Auto-Register Phone Tool サービスの 61-8
 - アンインストール 61-7
 - インストールの概要 61-5
 - 解除、電話番号に対する制限の 61-13
 - 概要 61-1
 - 起動、サービスの 61-9
 - 言語プロンプト 61-4
 - 削除 62-3
 - 検索、電話番号の保護 61-12
 - 再起動、サービスの 61-9
 - 制限、電話番号の 61-12
 - 設定、Cisco CRS サーバ上の 61-6
 - 設定、自動登録機能のオプションの 61-10
 - 設定、使用のためのオプションの 61-10
 - 停止、サービスの 61-9
 - 手順、エンドユーザ用の 62-4
 - トラブルシューティング 64-9
 - 必要条件 61-2
 - 保護、電話番号の 61-4, 61-12
- リロード、設定の 61-3
- ログ ファイルのロケーション 64-9
- V
- VG200 ゲートウェイ
 - 削除、ゲートウェイの 47-1
 - 作成、T1 CAS または T1/E1 PRI 用の CSV データ ファイルの 48-1
 - 作成、テキストベースの CSV ファイル A-15
 - 作成、テンプレートの 45-6, 45-12
 - 生成、レポートの 49-1
 - 挿入、Cisco Unified CallManager (FXS または FXO) への 48-7
 - 挿入、Cisco Unified CallManager (T1 CAS または T1/E1 PRI) への 48-7
 - フィールドの説明
 - T1 CAS テンプレート 45-23
 - T1/E1 PRI テンプレート 45-26
- VG200 ゲートウェイ テンプレート
 - FXO ポート、追加 45-9
- VG224 ゲートウェイ
 - 作成、テキストベースの CSV ファイル A-17
- VIC-2FXO 45-7
- VIC-2FXS 45-7, 45-12
- VWIC-1MFT-E1 45-7
- VWIC-1MFT-T1 45-7
- VWIC-2MFT-E1 45-7
- VWIC-2MFT-T1 45-7
- あ
- アンインストール
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 61-7
- い
- インストール
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 前提条件 61-5
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool の概要 61-5
- う
- 上書き、テンプレート値の 1-6

- え
- エクスポート
- 移動、Cisco Unified CallManager 間のレコードの 9-1
 - 使用、エクスポート ファイルの 1-7
 - 手順、電話機レコードのエクスポートの 9-4
 - 電話機と 1 人以上のユーザ 9-5
 - 電話機レコードのオプション 9-1
 - フィールド
 - All Phone Details 9-3
 - All User Device Profile Details 41-2
 - Default Phone 9-2
 - Default Remote Destination Profile ファイル形式の詳細 56-28
 - Default User Device Profile 41-3
 - ユーザ デバイス プロファイルのオプション 41-4
 - ユーザ デバイス プロファイルのレコード形式 41-1
 - ユーザ レコードのオプション 20-1
 - ユーザのレコード形式 20-1
 - ライン アピアランス 23-2
 - リモート接続先プロファイル レコードのオプション 56-26
- エクスポートされるフィールド 56-28
- All Phone Details 9-3
 - All User Device Profile Details 41-2
 - Default Phone 9-2
 - Default User Device Profile 41-3
- エラー メッセージ、BAT の 64-5
- か
- 回線
- 更新、ユーザ デバイス プロファイルへの 42-1
 - 最大数 3-5
 - 追加と更新、テンプレート上での 3-5
 - フィールドの説明、追加または更新用のテンプレートの 3-26
 - マスター電話機テンプレート 1-5
- 回線の追加
- 既存の電話機への 10-10, 43-1, 43-2
 - 既存の電話機への、BAT スプレッドシートを使用した 10-11, 43-3
 - 既存のユーザ デバイス プロファイルへの 10-10, 43-1, 43-2
 - 電話機テンプレートへの 3-5
- フィールドの説明、BAT スプレッドシートの 10-12, 43-4
- フィールドの説明、テンプレートの 3-26
- 概要
- BAT アプリケーション 1-1
 - BAT スプレッドシート 1-9
 - Cisco Unified CM Assistant 28-1
 - CSV データ ファイル 1-6
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool ツール 61-1
 - インストール 1-2
 - 検証 1-11
 - 挿入、Cisco Unified CallManager へのレコードの 1-12
 - データ入力ファイル 1-3
 - テキストベースの CSV ファイル A-1
 - テンプレート 1-5
 - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 1-7
 - ユーザ 15-1
 - ユーザ デバイス プロファイル 34-2
 - レポート 12-1, 22-1, 44-1
- カスタム ファイル
- 更新、電話機の 7-3
 - 削除、Unified CM Assistant マネージャの 31-3, 32-3
 - 削除、電話機の 8-3, 40-3
 - 削除、ユーザの 19-3
 - 使用 1-7
 - 使用、パスワードと PIN のリセットのための 21-3
- 関連付け、ファイル形式の、テキストベースの CSV ファイルについての 4-7, 25-2, 37-1, 56-21
- く
- クエリー
- カスタマイズ、フィルタの 1-7
 - 更新、回線の 42-1
 - 更新、電話機の 7-1
 - 削除、Unified CM Assistant マネージャの 31-1, 32-1
 - 削除、コール ピックアップ グループの 53-1
 - 削除、電話機の 8-1, 13-1
 - 削除、ユーザの 19-1
 - 使用、パスワードと PIN のリセットのための 21-1
 - リモート接続先プロファイルの削除 56-24

- け
- ゲートウェイ
 - 関連付け、ファイル形式の、テキストベースの CSV ファイルについての 46-6
 - ゲートウェイ テンプレート
 - Catalyst 6000 FXS ポート
 - 作成、テンプレートの 45-11
 - POTS ポートの設定 (表) 45-36
 - VG200 ゲートウェイ テンプレート
 - FXO ポート、追加 45-9
 - T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポート、追加 45-10
 - T1-CAS ポート、追加 45-10
 - 作成、テンプレートの 45-6, 45-12
 - 検索 45-4
 - 設定 45-15
 - 追加または更新 45-6
 - ポートの設定 (表) 45-36
 - ゲートウェイ ファイル形式
 - 検索 46-1
 - 設定 46-3
 - ゲートウェイ ファイル形式の設定 46-3
 - 言語プロンプト、Unified CM Auto-Register Phone Tool の 61-4
 - 検索
 - UDP テンプレート 35-1
 - UDP ファイル形式、テキストベースの CSV の 36-2
 - ゲートウェイ テンプレート 45-4
 - ゲートウェイ ファイル形式 46-1
 - ジョブ 63-5
 - 電話機テンプレート 3-3
 - 電話機のファイル形式 4-2
 - ファイル 2-1
 - 保護、Unified CM Auto-Register Phone Tool からの電話番号の 61-12
 - ユーザ テンプレート 16-2
 - リモート接続先のファイル形式 56-16
 - 検証
 - オプション 1-11
 - 概要 1-11
 - 電話機とユーザのレコード 26-2
 - 電話機のレコード 5-1, 38-1
 - ユーザ デバイス プロファイルのレコード 38-2
- こ
- 更新
 - 回線、ユーザ デバイス プロファイルへの 42-1
 - 電話機設定の、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用した 62-4
 - ライン アピアランス 23-4
 - 更新、回線の
 - フィールドの説明 10-4, 42-4
 - コール ピックアップ グループ
 - BAT の考慮事項 52-2
 - CSV ファイルの設定値 (表) 52-5
 - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) 52-7
 - クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除 53-1
 - 更新、既存の CSV ファイルの 52-4
 - 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 52-3
 - 作成、カスタムの CSV ファイル(テキストベース) の A-23
 - 挿入、BAT への CSV ファイルの 52-6
 - コピー
 - テンプレート 35-5
 - 電話機テンプレート 3-9
 - ファイル形式、テキストベースの CSV の 36-4
 - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 4-4, 46-4, 56-18
 - ユーザ テンプレート 16-4
- さ
- サービスのアクティブ化
 - BPS 63-2
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 61-8
 - サービスの追加または更新 3-6
 - 再起動、電話機の
 - カスタム ファイルの使用 11-3
 - クエリーの使用 11-1
 - 更新後 11-1
 - 削除
 - Unified CM Assistant アシスタント 32-1
 - Unified CM Assistant マネージャ 31-1
 - VG200 ゲートウェイ 47-1
 - コール ピックアップ グループ 53-1
 - テンプレート 35-6
 - 電話機テンプレート 3-10

- 電話機の、カスタム ファイルを使用した 8-3, 40-3
 - 電話機の、クエリーを使用した 8-1, 13-1
 - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 4-6, 36-6, 46-5
 - マネージャとアシスタントのアソシエーション 30-1
 - ユーザ 19-1
 - ユーザ デバイス プロファイル 40-1
 - ユーザ テンプレート 16-5
 - リモート接続先のファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 56-20
 - リモート接続先プロファイル、クエリーを使用 56-24
- し
- 自動登録、Cisco Unified CallManager での有効化
 - 自動登録の有効化、Unified CM Auto-Register Phone Tool での 61-3
 - 自動登録機能のオプション、設定 61-10
 - ジョブ
 - BPS のアクティブ化 63-2
 - BPS の非アクティブ化 63-4
 - 検索 63-5
 - スケジュール 63-7
 - 表示、ログ ファイルの 63-8
- せ
- 設定、Cisco Unified CallManager レコードの、プロセス 1-4
 - 前提条件
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 61-5
- そ
- 挿入、Cisco Unified CallManager へのレコードの、概要 1-12
- た
- ダウンロード、電話機設定の、Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用した 62-4
 - ダミーの MAC アドレス 3-37, 6-2, 27-1, 39-2
 - リストの生成 12-6
 - 短縮ダイヤル設定の追加または更新 3-7, 3-8
- ち
- 着信番号アナライザ
 - トレース設定ファイル 64-2
- て
- 手順、Unified CM Auto-Register Phone Tool エンド ユーザ用の 62-4
 - テンプレート
 - BAT テンプレートの概要 1-5
 - 上書き、値の 1-6
 - 検索 35-1
 - コピー 35-5
 - コピー、電話機の 3-9
 - コピー、ユーザの 16-4
 - 削除 35-6
 - 削除、電話機の 3-10
 - 削除、ユーザの 16-5
 - 追加または更新、IP サービスの 3-6
 - 追加または更新、回線の 3-5
 - 追加または更新、短縮ダイヤルの 3-7, 3-8
 - フィールドの説明
 - VG200 ゲートウェイ - T1 CAS ゲートウェイ 45-23
 - 追加または更新、回線の 3-26
 - 電話機 3-11
 - ユーザ 16-6
 - ユーザ デバイス プロファイル 35-3
 - 変更 35-5
 - 変更、電話機の 3-9
 - 変更、ユーザの 16-4
 - マスター電話機 1-5
 - テンプレート タイプ
 - Catalyst 6000 FXS ポート 45-11
 - IP テレフォニー デバイス 3-4
 - Unified CM Assistant アシスタント、プロキシ モード用の 28-3
 - Unified CM Assistant マネージャ、プロキシ モード用の 28-3
 - VG200 ゲートウェイ テンプレート 45-6, 45-12
 - 電話機 3-4
 - ユーザ 16-3
 - ユーザ デバイス プロファイル 35-3
 - 電話機
 - CAPF の設定 3-51, 16-8
 - Unified CM Assistant アシスタント 28-5

- Unified CM Assistant マネージャの設定 28-5
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して設定 61-3
 - 有効化、自動登録機能の 61-3
 - エクスポート ファイル、すべての詳細を含む A-5
 - エクスポートのオプション、レコードの 9-1
 - エクスポートの手順、レコードの 9-4
 - 検証、レコードの 5-1, 38-1
 - 更新 7-1, 18-1, 19-1
 - 更新、カスタム ファイルを使用した 7-3
 - 更新、クエリーを使用した 7-1
 - 削除 8-1, 13-1, 40-1
 - 作成、テキストベースの CSV ファイル A-2
 - 生成、レポートの 12-2
 - 挿入、Cisco Unified CallManager への 6-1, 17-1, 39-1, 48-1
 - ダミーの MAC アドレス、使用 3-37, 6-2, 27-1, 39-2
 - ダミーの MAC アドレス リスト 12-6
 - 追加
 - IP サービス 3-6
 - 回線 3-5
 - 既存の電話機への回線の 10-10, 43-1, 43-2
 - 短縮ダイヤルの設定 3-7, 3-8
 - ユーザと ~ 24-1
 - テンプレート
 - IP テレフォニー サービス用 3-4
 - コピー 3-9
 - 削除 3-10
 - 作成、新規に 3-4
 - テンプレートの検索 3-3
 - フィールドの説明 3-11
 - 変更 3-9
 - プロキシ モード、Unified CM Assistant の 28-2
 - リロード、設定の 61-3
 - レポートのオプション 12-3
 - 電話機とユーザ
 - 検証、レコードの 26-2
 - 使用、BAT スプレッドシートの 24-2
 - 挿入、Cisco Unified CallManager への 27-1
 - テキストベースの CSV 形式 A-3
 - 電話番号
 - 解除、制限の 61-13
 - 検索、Unified CM Auto-Register Phone Tool からの電話番号の保護 61-12
 - 制限、Unified CM Auto-Register Phone Tool からの 61-12
 - 保護、Unified CM Auto-Register Phone Tool からの 61-12
- と
- トラブルシューティング
 - BAT 64-5
 - BAT のパフォーマンス 64-8
 - BAT ログ ファイル 64-4
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 64-9
 - トラブルシューティング用メッセージ
 - BAT excel sheet does not respond to actions 64-5
 - BAT menu does not display in Cisco Unified CallManager 64-5
 - BAT spreadsheet gives a compilation error while exporting data 64-5
 - BAT.xlt spreadsheet dose not work with Excel XP (Office XP) 64-7
 - cannot access complete BAT functionality 64-5
 - CSV data files do not match phone template/sample file 64-6
 - export to BAT does not work in BAT.xlt file 64-5
 - job does not display in find and list job window 64-7
 - jobs remain in hold state 64-6
 - jobs remain in pending state 64-6
 - MAC address values are not allowed in CSV file if dummy MAC address option selected 64-7
 - port number not configured in template 64-7
 - Unified CM Auto-Register Phone Tool 番号へのダイヤル時、ビジー トーンが聞こえる 64-9
 - uploaded csv file does not display 64-6
 - when Cisco CRS starts, JTAPI shows partial service or out of service 64-9
 - トレース設定ファイル
 - 表示 64-2
- は
- バージョン、表示 1-13
 - パスワード
 - リセット 21-1

- ひ
- 表示、トレース設定ファイル 64-2
- ふ
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイル ゲートウェイの
 関連付け 46-6
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの
 概要 1-7
 関連付け 4-7, 25-2, 37-1, 56-21
 検索 4-2, 36-2, 56-16
 コピー 4-4, 36-4, 46-4, 56-18
 削除 4-6, 36-6, 46-5
 電話機の作成 4-3, 46-3
 変更 4-5, 36-5, 46-5
 ユーザ デバイス プロファイル 36-3
 リモート接続先プロファイルの作成 56-17
- ファイルのアップロードとダウンロード
 アップロード 2-4
 検索 2-1
 削除 2-5
 ダウンロード 2-3
- フィールドの説明
 BAT スプレッドシート
 回線の追加 10-12, 43-4
 ユーザ デバイス プロファイル 34-5
 ユーザの更新 18-3
- VG200 ゲートウェイ - T1 CAS テンプレート
 45-23
- VG200 ゲートウェイ - T1/E1 PRI テンプレート
 45-26
- 更新、BAT スプレッドシートを使用したユーザの
 18-3
- 更新、回線の 10-4, 42-4
 追加または更新、回線の 3-26
 電話機テンプレート 3-11
 ユーザ デバイス プロファイル テンプレート
 35-3
 ユーザ テンプレート 16-6
- ブラウザの要件 1-13
- へ
- ヘルプ、オンライン 1-13
- 変更
- 電話機テンプレート 3-9
 ファイル形式、テキストベースの CSV の 36-5
 ファイル形式、テキストベースの CSV ファイル
 の 4-5, 46-5
 ユーザ テンプレート 16-4
 リモート接続先のファイル形式、テキストベース
 の CSV ファイルの 56-19
- ほ
- 保護、Unified CM Auto-Register Phone Tool からの電話
 番号の 61-4, 61-12
 保持、更新時のユーザ レコードの 18-2
- ま
- マスター電話機テンプレート 1-5
- ゆ
- ユーザ
- エクスポート、レコードの 20-1
 エクスポートされるレコード形式 20-1
 更新 18-1
 削除 19-1
 カスタム ファイルの使用 19-3
 クエリーの使用 19-1
 作成、CSV データ ファイルの 15-3
 生成、レポートの 22-1
 挿入、Cisco Unified CallManager への 17-1
 追加の概要 15-1
 テキストベースの CSV 形式 A-8
 テキストベースの CSV ファイル、更新 A-9
 テキストベースの CSV ファイル、作成 A-7
 テンプレート
 検索 16-2
 コピー 16-4
 削除 16-5
 作成、新規に 16-3
 フィールドの説明 16-6
 変更 16-4
 ユーザ 16-3
 ~と電話機の追加 24-1
 フィールドの説明、BAT スプレッドシートを使用
 した更新についての 18-3

- 保持、格納されている値の 18-2
 - ユーザの更新に使用するフィールドの説明 18-3
 - リセット、パスワードと PIN の 21-1
 - ユーザ デバイス プロファイル
 - BAT スプレッドシート
 - 使用 34-3
 - フィールドの説明 34-5
 - エクスポート ファイル、すべての詳細を含む A-12
 - エクスポート ファイルの形式 41-1
 - エクスポートのオプション、レコードの 41-4
 - 概要 34-2
 - 検証、レコードの 38-2
 - 更新、回線の 42-1
 - 削除 40-1
 - 作成、CSV データ ファイルの 34-3
 - 追加、既存の ~ への回線の 10-10, 43-1, 43-2
 - テキストベースの CSV ファイル、作成 A-10
 - テキストベースの CSV ファイル形式 A-10
 - 手順、追加の 34-2
 - テンプレート
 - 検索 35-1
 - コピー 35-5
 - 削除 35-6
 - 作成 35-3
 - 変更 35-5
 - レポート、生成 44-2
 - ユーザと電話機
 - 検証、レコードの 26-2
 - 使用、BAT スプレッドシートの 24-2
 - 挿入、Cisco Unified CallManager への 27-1
- ら
- ライン アピアランス
 - エクスポート 23-2
 - 更新 23-4
- り
- リセット、電話機の
 - カスタム ファイルの使用 11-3
 - クエリーの使用 11-1
 - 更新後 11-1
 - リセット、パスワードと PIN の
 - カスタム ファイルの使用 21-3
 - クエリーの使用 21-1
 - リモート接続先のファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの
 - 削除 56-20
 - 変更 56-19
 - リモート接続先プロファイル
 - エクスポートのオプション、レコードの 56-26
 - リモート接続先プロファイル テンプレート 56-1
- れ
- レポート
 - Unified CM Assistant マネージャ アシスタント 33-1
 - VG200 ゲートウェイ 49-1
 - 概要 12-1, 22-1, 44-1
 - ダミーの MAC アドレス 12-6
 - 電話機 12-2
 - 電話機のオプション 12-3
 - ユーザ 22-1
 - ユーザ デバイス プロファイル 44-2
- ろ
- ログ ファイル
 - BAT 64-4
 - 表示、ジョブのログ ファイルの 63-8
 - ファイル名の表記法 64-4
 - レポート ログ ファイル 12-7, 22-3, 33-3, 49-3